

平成 30 年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金
社会福祉推進事業

生活保護世帯の保護者・子どもの生活状況等の実態や
支援のあり方等に関する調査研究事業

報告書

株式会社浜銀総合研究所

平成 31 年（2019 年）3 月

目 次

第 1 章 事業の概要	1
1-1 事業の目的、調査の種類・方法等	2
(1) 事業実施の背景、目的.....	2
(2) 事業の内容・調査の種類、各調査の実施方法.....	3
(3) 検討委員会の開催.....	6
1-2 報告書の構成、分析の方法	7
(1) 本報告書の構成、集計・分析方法.....	7
(2) アンケート集計結果表示方法に関する留意点.....	8
第 2 章 生活保護受給世帯の生活状況等の実態	9
2-1 保護者(世帯)の状況	10
2-1-1 回答者の属性、世帯の状況.....	11
(1) アンケート回答者の属性.....	11
(2) 家族の人数・子どもの人数.....	11
(3) 世帯構成、同居している家族の状況.....	12
2-1-2 就労の状況、剥奪の状況.....	13
(1) 就労の状況.....	13
(2) 必要とする食料が買えなかった経験.....	15
(3) 子どものもので世帯にないもの.....	16
2-1-3 健康状態、医療の必要性.....	17
(1) 保護者の健康状態.....	17
(2) 保護者の健診等の受診状況.....	18
(3) 保護者のこころの状態.....	20
(4) 医療機関の未受診.....	22
(5) 子どもの病気.....	23
2-1-4 養育・子育ての状況.....	24
(1) 養育困難の状況.....	24
(2) 子どもの将来のことについて.....	26
(3) 子どもの教育について、重視すること.....	27
2-1-5 支援制度の利用状況、制度に対する認識.....	28
(1) 学習支援事業の利用状況.....	28
(2) これまでに受けたことがある(参加したことがある)支援等の内容.....	33
(3) 近年の支援制度の変更についての認識.....	34
2-1-6 周囲の人との関わり、相談相手.....	35
(1) 周囲の人との関わり.....	35
(2) 困っていることや悩んでいることがあったときの相談相手.....	36
2-1-7 困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等.....	37

2-2 子どもの状況	39
2-2-1 回答者の属性.....	40
(1) 性別、年齢.....	40
(2) 学校の在籍状況.....	41
(3) 就労・アルバイトによる収入.....	42
2-2-2 子どもが置かれている生活環境.....	43
(1) 一緒に住んでいる人.....	43
(2) 家族以外の大人との関係.....	43
(3) 自分が使うことができるものの保有の状況.....	44
(4) 保護者の人との関係.....	46
(5) 最もほっとできる場所.....	47
(6) 夕食の状況.....	48
2-2-3 子どもの生活習慣・健康.....	49
(1) 毎日の習慣.....	49
(2) ふだん起きる時間・寝る時間.....	50
(3) 給食以外の食事の内容.....	54
(4) 痩身・肥満の傾向.....	56
(5) 虫歯の状況.....	57
(6) 健康状態の自己認識.....	58
2-2-4 学習の状況、学校生活.....	59
(1) 勉強が好きであるか.....	59
(2) 学校生活や友だちとの関係.....	60
(3) 学習時間.....	63
(4) 不登校の経験.....	64
(5) クラブ活動・部活動の状況.....	66
2-2-5 意欲、対人関係、自己肯定感等.....	67
(1) 得意と思うこと.....	67
(2) 意欲・自己肯定感等.....	68
(3) 将来の進学に対する意識.....	69
2-2-6 支援制度の利用状況、制度に対する認識.....	70
(1) 学習支援の利用状況.....	70
(2) これまでに受けたことがある支援等の内容.....	75
(3) 進学にかかる費用に関する認識.....	76
2-2-7 望んでいること、相談相手.....	77
(1) いまの生活のことや学校・勉強のこと、仕事のことなどについて、望んでいること.....	77
(2) 困っていることや悩んでいることを相談できる人.....	78
2-2-8 困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等.....	79

第3章 自治体(福祉事務所)における課題認識・取組の状況	81
3-1 取組の現状	82
3-1-1 取組の内容.....	82
(1) 生活保護世帯の子どもに対する支援等の取組の実施状況.....	82
(2) 特に工夫していることや独自の取組などで行っているもの.....	84
3-1-2 支援体制.....	85
(1) 福祉事務所としての子どもに対する支援体制.....	85
(2) 子どもの支援にかかる専門的な役割を行う職員等の配置.....	86
(3) 他の組織・機関等との連携状況.....	87
(4) 保健所・保健センターとの関係性.....	88
3-2 課題認識	89
3-2-1 ヒアリング調査で聞かれた保護者・子どもの状況等に関する課題認識.....	89
(1) 保護者の状況に関する課題認識.....	89
(2) 子どもの状況に関する課題認識.....	90
3-2-2 アンケート調査で把握された支援体制等に関する課題認識.....	91
(1) 生活保護世帯の子どもに対する支援を行う上での課題認識.....	91
(2) 職員に対する研修の必要性.....	92
(3) 今後特に重要と考えられること.....	93
3-3 取組の事例	98
第4章 支援のあり方等に関する考察	105
4-1 保護者(世帯)の状況と子どもの状況との関連性について	106
4-1-1 生活習慣・健康.....	107
(1) 保護者の健康状態と子どもの健康状態との関連性.....	107
(2) 保護者の健康状態と子どもの生活習慣との関連性.....	108
4-1-2 学習時間・学習態度.....	110
(1) 家庭の学習環境と子どもの学習時間との関連性.....	110
(2) 保護者の教育に対する考え方と子どもの学習態度との関連性.....	111
4-1-3 自己肯定感・将来展望等.....	113
(1) 保護者の養育困難の状況と子どもの自己肯定感、対人関係等との関連性.....	113
(2) 保護者の養育困難の状況と対人関係との関連性.....	114
(3) 保護者の関わりと子どもの将来展望との関連性.....	115
4-2 自治体(福祉事務所)の取組と保護者・子どもの生活状況等との関連性について	117
4-2-1 自治体(福祉事務所)の取組の実施と保護者との関係性.....	118
(1) 個別のプログラムの実施状況と保護者の相談相手との関連性.....	118
(2) 支援体制と保護者の相談相手との関連性.....	122
(3) 支援体制と保護者の健康状態との関連性.....	124
(4) 入学・進学に関する説明の状況と保護者の認識や子どもとの関わり方との関連性.....	126
4-2-2 受けたことがある支援制度の内容と子どもの学習・意識等.....	128
(1) 学習支援の利用経験と学習時間との関連性.....	128
(2) 相談できる場所・人との関わりと自己肯定感との関連性.....	129
(3) 本やパンフレットなどで情報に触れることと将来に対する意識等との関連性.....	130
4-3 子どもの自立を助長するための支援のあり方について(まとめ)	132

参考資料	133
(1) 調査票	134
(2) 集計表	158
(3) ヒアリングノート	190

第 1 章

事業の概要

1-1 事業の目的、調査の種類・方法等

(1) 事業実施の背景、目的

「子どもの貧困」が社会問題となっている。貧困率の値もさることながら、貧困の状態が世代間で連鎖することも大きな問題であり、例えば、被保護母子世帯の生活保護受給の世代間の連鎖が約3割で見られるという調査研究もある¹。

このような状況を改善するには、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための方策・支援が必要である。例えば、生活保護世帯に属する子どもの高等学校等進学率や高等学校等中退率等は、「子どもの貧困に関する指標」のひとつとして設定され、状況の改善のために対策が必要であるとされている²。

ただ、必要であるのは、単に進学費用に関する支援をしたり、進路相談の機会を多くしたりするということに限らないであろう。「貧困の連鎖」は、様々な経路により³、保護者から子どもに重層的に「不利」が受け継がれる⁴ことで起きていると考えられ、支援のあり方も、子どもの生活状況に即して総合的な視点からの検討が必要である。特に生活保護世帯に関しては、金銭面もさることながら、それ以外の面での課題も大きいことが予想される。

総合的な視点からの支援を行っていくにあたっては、「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」⁵等をふまえ、子どもの成長や教育段階の各段階において、何が不足し、何が剥奪された状況にあるのかという観点からの検討も重要であろう。また、「連鎖」が起きているということから、子ども自身の状況だけでなく、保護者の状況等もふまえて検討することが求められる。

このような課題認識を背景として、本調査研究事業では、生活保護世帯の子どもの生活状況に関して、小学生・中学生・高校生の各段階にある子どもを対象にし、学習面・生活面・健康面等、様々な観点からの実態を把握するための調査を行った。また、保護者の生活状況とあわせて調査を実施し、子どもが置かれている状況についてより深く理解できるよう実態把握を行った。

さらに、各自治体の福祉事務所での課題認識や取組状況等についても調査を行い、世代間の貧困の連鎖が起こらないようにするために必要・有効な支援のあり方等について検討を行うための基礎資料として取りまとめを行った。

¹ 駒村・道中・丸山「被保護母子世帯における貧困の世代間連鎖と生活上の問題」、『三田学会雑誌』103巻4号、2011年1月。

² 内閣府『子どもの貧困対策に関する大綱』、2014年8月29日。

³ 阿部彩『「貧困の連鎖」の経路：『公正』な格差と『不公正』な格差はあるか』、『CIS Discussion paper series』No. 565、2012年7月。

⁴ 松本伊智朗(2012)「子どもの貧困と『重なり合う不利』—子ども虐待問題と自立援助ホームの調査結果を通して—」、『季刊・社会保障研究』Vol.48 No.1、2012年。

⁵ 文部科学省 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286156.htm)

(2) 事業の内容・調査の種類、各調査の実施方法

本調査研究事業では、主に以下の3種類の調査を実施した。

- ①自治体（福祉事務所）を対象にしたアンケート調査
- ②自治体（福祉事務所）を対象にしたヒアリング調査
- ③生活保護世帯の保護者・子どもを対象にしたアンケート調査

①自治体（福祉事務所）を対象にしたアンケート調査

<調査対象・目的、実施方法>

全国の福祉事務所（厚生労働省ホームページ掲載の福祉事務所一覧⁶、及び、各自治体のホームページ掲載の情報を基に整理した、計1,334）を対象にし、各福祉事務所における支援体制、取組の内容、課題認識等を把握するためのアンケート調査票を1部ずつ配付した（郵送配付、郵送回収）。

なお、「生活保護世帯の保護者・子どもを対象にしたアンケート調査」の実施にも協力いただけるかについてもあわせて調査を行った。

<調査時期・期間>

北海道を除く自治体（福祉事務所）については2018年9月14日（発送）～10月3日（期限）、北海道の自治体（福祉事務所）は11月13日（発送）～11月28日（期限）の期間で実施した⁷。

<実施・回収状況>

1,009の自治体（福祉事務所）から回答が得られた（配付数に対する割合は75.6%。ただし、調査票配付先のうち、一部生活保護行政を行っていないと連絡があった先や、複数管轄しているものを1枚の調査票にまとめて回答する旨連絡を受けた先もあり、調査対象数に対しての厳密な回収率は不明）。

②自治体（福祉事務所）を対象にしたヒアリング調査

<調査対象・目的、実施方法>

上記「自治体（福祉事務所）を対象にしたアンケート調査」に回答いただいた自治体（福祉事務所）のうち、「生活保護世帯の子どもの自立を助長するための支援として、特に工夫していることや独自の取組などで行っているもの」として具体的な回答があり、かつ、記載内容に特色があると考えられた先に対して、ヒアリング調査を実施した。

ヒアリング調査では、「自治体（福祉事務所）を対象にしたアンケート調査」で回答いただいた内容についてより具体的に話をうかがうこととあわせて、特に「生活保護世帯の子どもの生活課題は何か、自立を阻害している要因は何か」、「子どもの生活課題をどのように解消しようとしているか」、「未解決の課題として残ることはどんなことか」といったことについて聞き取りを行った。

⁶ 厚生労働省ホームページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/fukusijimusyo/fukusijimusyo-ichiran.html

⁷ 2018年9月6日に発生した平成30年北海道胆振東部地震による被害を考慮して、北海道の自治体については期間を変更して調査を実施した。

<調査時期・期間>

ヒアリング対象先及び実施日時は以下のとおりである。なお、各自治体（福祉事務所）に浜銀総合研究所研究員が2名で訪問し、対面式で、1時間半～2時間程度の時間で聞き取りをした。

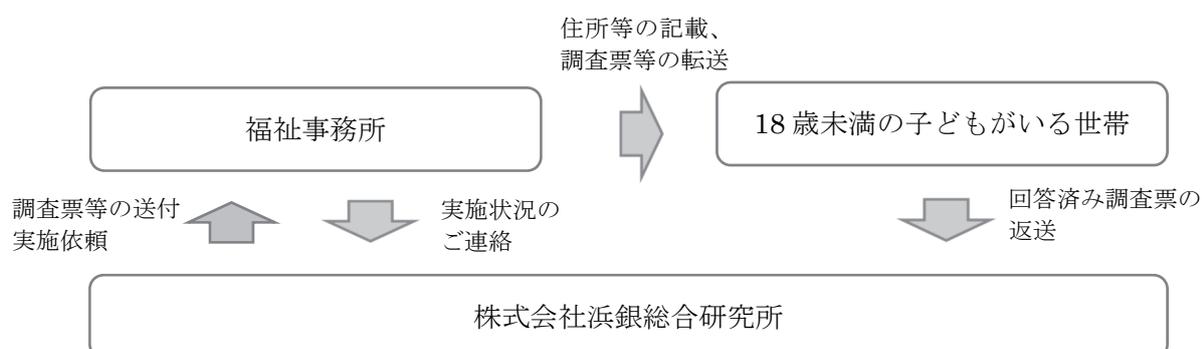
訪問先	特に工夫していることや独自の取組などの概要	ヒアリング実施日
埼玉県	学習支援だけでなく、生活支援、体験活動、食育などを行う「ジュニア・アスポート」事業	2018年11月21日
東京都足立区	年度始めの家庭訪問、夏季休業期間の訪問の徹底や関係機関との情報共有	2018年11月28日
沖縄県那覇市	生活保護世帯の子どもの支援を専門的に行う子ども・児童自立支援員の配置	2018年11月29日
茨城県ひたちなか市	教育委員会が運営主体で開始した放課後の学校の空き教室を利用した学習支援	2018年12月4日
神奈川県横浜市 (保土ケ谷区)	区の独自の取組として2007年から開始された学習支援	2018年12月12日
東京都墨田区	中学生の高校進学に向けての継続的な関与・情報提供、高校生に対する就学定着・中退予防支援	2018年12月14日
宮崎県宮崎市	アウトリーチ・関係機関との連携機能の強化を意図した子ども支援員の配置	2018年12月18日

③生活保護世帯の保護者・子どもを対象にしたアンケート調査

<調査対象・目的、実施方法>

「自治体（福祉事務所）を対象にしたアンケート調査」において、各自治体（福祉事務所）の管内の生活保護世帯に対して調査を実施することに協力いただけると回答があった先に対して、18歳未満の子どもがいる世帯に対するアンケート調査の実施依頼を行った。

調査依頼の流れは以下のイメージ図のとおりであり、当社は対象世帯の住所や名前等に関する情報は得ない方法で調査を実施した。



調査対象とした自治体（福祉事務所）数⁸、対象世帯数の概要は、以下のとおりである。なお、対象世帯数は、「自治体（福祉事務所）を対象にしたアンケート調査」で各自治体（福祉事務所）に回答いただいた、「18歳未満の子どもがいる世帯数」（北海道以外は2018年9月末時点、北海道は10月末時点）を基にした数であり、調査依頼を行った自治体（福祉事務所）管内の生活保護受給世帯の18歳未満の子どもがいる世帯全数を意味する⁹。

地域		調査依頼自治体 （福祉事務所）数	対象世帯数
北海道・東北	北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県	25	1,289
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県	26	4,083
中部	山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、岐阜県	32	1,394
近畿	三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	14	1,939
中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県	19	553
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	24	1,659
合計		140	10,917

<調査時期・期間>

2019年1月4日に浜銀総合研究所から自治体（福祉事務所）に対して依頼（発送）を行い、対象者からの回答期限は2019年2月4日として調査を実施した。

<実施・回収状況>

調査票は、対象世帯につき、「保護者向け調査票」を1部、10歳から18歳の子どもを対象とした「子ども向け調査票」を2部、封筒に封入した状態で各自治体（福祉事務所）から送付（転送）していただいた。対象年齢の子どもがいない場合は保護者票のみ、対象年齢の子どもが3人以上いる場合にはいずれか2人に回答いただくよう依頼をした。なお、保護者票のみ、子ども票のみでも返送可能なように、返送用封筒は対象世帯につき3部封入した。

各調査の回答状況は以下のとおりである。

調査種類	有効回答件数	(参考) 対象世帯数に 対する割合
保護者向け調査票	2,015 件	18.5%
子ども向け調査票	1,972 件	—

⁸ 「自治体（福祉事務所）を対象にしたアンケート調査」で調査に協力いただける旨回答があったのは283件あったが、全体としての調査対象世帯数の規模を勘案し、調査に協力いただけると回答があった先から無作為抽出を行い、調査依頼を行う自治体（福祉事務所）を定めた。なお、調査依頼を行った後に、やはり調査に協力は難しい旨連絡があった先は除いて記載をしている。

⁹ ただし、調査票発送後、追加で送付してほしい旨依頼があった数を追加して記載している。

(3) 検討委員会の開催

調査研究事業の客観性等を確保するため、検討委員会を設置し、定期的に事業の成果を報告し、評価・助言を受けた。検討委員会は、以下の4名（五十音順、敬称略）で構成し、計3回開催した。

氏名	所属
阿部 彩（委員長）	首都大学東京 人文社会学部 教授
堀口 康太	筑波大学 人間系 特任助教
湯澤 直美	立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科 教授
渡辺 由美子	特定非営利活動法人キッズドア 理事長

開催回	開催日	検討・報告内容
第1回	2018年 7月24日	<ul style="list-style-type: none">・調査実施方法について・自治体（福祉事務所）対象のアンケート調査票案について・自治体（福祉事務所）を対象にしたヒアリング調査について・保護者・子ども対象のアンケート調査票検討にあたっての考え方について
第2回	2018年 10月30日	<ul style="list-style-type: none">・自治体（福祉事務所）対象のアンケート調査実施状況報告・生活保護受給世帯向けのアンケート調査実施方法について・生活保護受給世帯向けのアンケート調査票案について・ヒアリング調査の対象・方法について
第3回	2019年 3月14日	<ul style="list-style-type: none">・報告書案について

1-2 報告書の構成、分析の方法

(1) 本報告書の構成、集計・分析方法

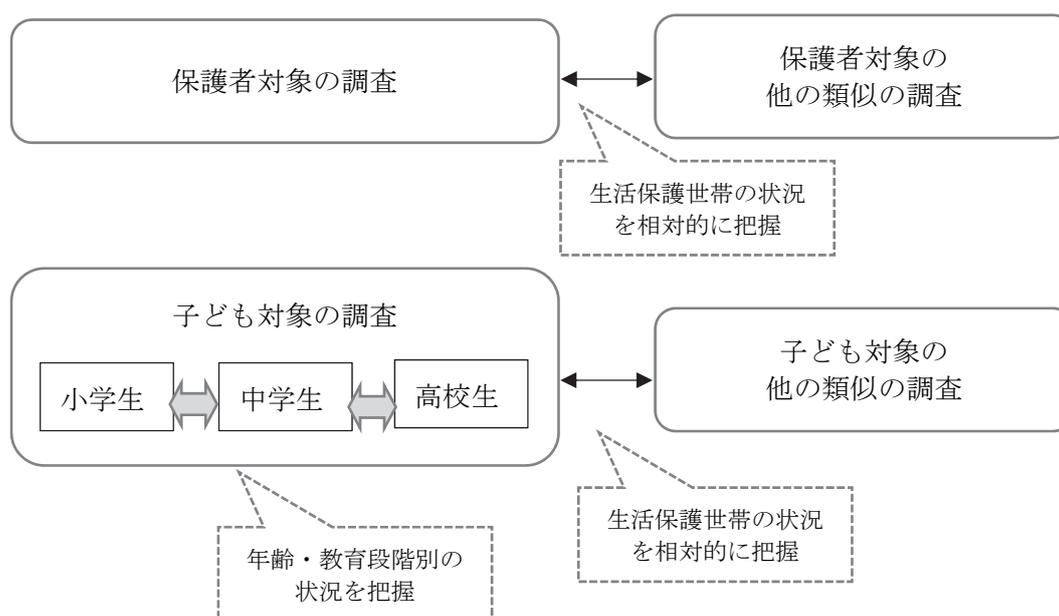
本報告書は全4章で構成し、第2章に生活保護世帯の保護者・子どもを対象にしたアンケート調査結果、第3章に自治体(福祉事務所)を対象にしたアンケート調査及びヒアリング調査の結果を掲載した。第4章は「支援のあり方等に関する考察」として、保護者(世帯)の状況と子どもの状況との関連性や、自治体(福祉事務所)の取組と保護者・子どもの生活状況等との関連性についての分析結果を示しつつ、本調査研究事業により明らかになったことをあらためて整理した。また、最後に参考資料として、実施した各調査の調査票、単純集計結果、ヒアリング調査対象別のヒアリングノートに掲載した。

第2章では、保護者向け調査と子ども向け調査について、全体としての回答結果と、子どもの教育段階別の結果を示しながら生活保護世帯の生活実態の把握を行った。また、一部の項目については、本調査研究事業以外で既に行われている、生活保護世帯以外も対象とした他の類似の調査結果と対比し、相対的な状況把握を行った¹⁰。

第3章では、主にアンケート調査での自由記述回答の内容を参照しながら、自治体(福祉事務所)での取組の実施状況や課題認識等について把握した。また、ヒアリング調査により得られた情報に関しては、「取組の事例」として、自治体(福祉事務所)における取組の概要・ポイントを紹介した。(ヒアリング結果の詳細については参考資料のヒアリングノートに掲載した。)

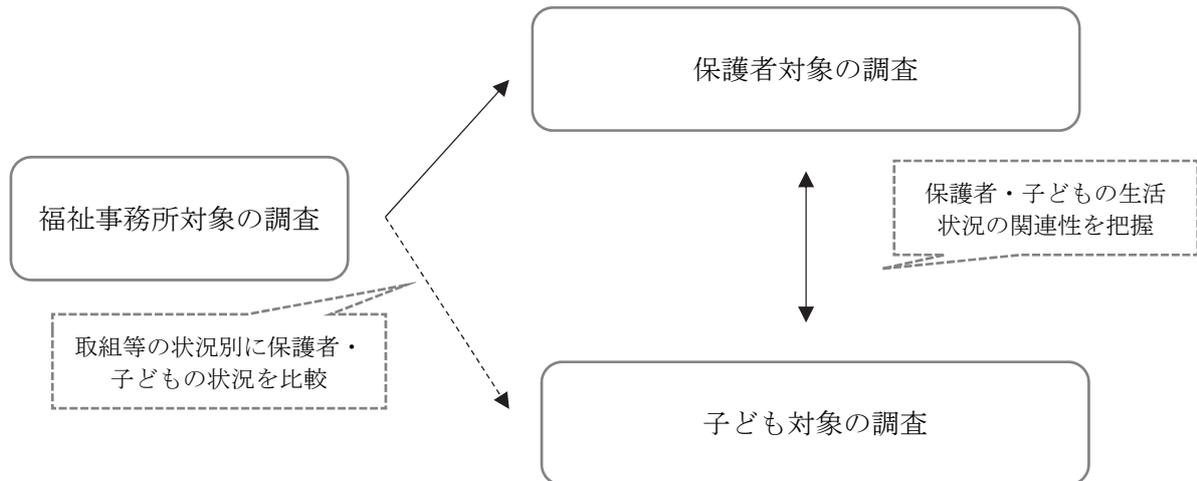
第4章では、自治体(福祉事務所)を対象にしたアンケート調査と、保護者向け調査、子ども向け調査それぞれのデータのマッチングを行い、相互の回答の関連性について把握を試みた集計・分析の結果を示した。

<第2章掲載の集計・分析結果のイメージ>



¹⁰ 本報告書では数値の大小を単に比較しコメントをしているが、調査対象や調査実施方法が異なることや抽出調査に伴う標本誤差があることなどから、厳密な比較を行えるものではない点には留意が必要である。

<第4章掲載の集計・分析結果のイメージ>



(2) アンケート集計結果表示方法に関する留意点

- 調査結果の掲載順は、調査票の項目順とは異なっている。ただし、各調査のどの設問結果を参照したものであるかについて、保護者向け調査票は「保」、子ども向け調査は「子」、自治体（福祉事務所）対象の調査は「福」の記号を付して示した。
- 原則として回答者全体に関する集計結果を示す際には各設問に無回答であったものも含めて集計結果を示しているが、クロス集計を行う際には、無回答であったものは除いた形で集計を行っている。なお、他の類似の調査結果を参照している部分では、参照元のデータが無回答のものも集計に含めている場合と、無回答を除いた形でのデータになっている場合との両方がある点には留意が必要である。
- 集計結果は原則として割合で表示しているが、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100.0%にならない場合がある。なお、各設問の集計対象件数は、グラフ等に「n=〇〇」と表記した。
- 回答の割合（%）は、複数回答の設問はすべての値を合計すると、100.0%を超える場合がある。なお、複数回答の設問は、図表タイトルに【複数回答】と表記した。

第 2 章

生活保護受給世帯の生活状況等の実態

2-1 保護者(世帯)の状況

【保護者（世帯）の状況に関する概要】

<生活状況>

- 18歳未満の子どもがいる生活保護世帯の約8割がひとり親世帯（p.12 図表 2-1-1-5）である。
- 現在就労しているのは約4割（p.13 図表 2-1-2-1）で、就労形態として正社員・正職員の割合は約5%（p.14 図表 2-1-2-4）である。
- 食料（p.15 図表 2-1-2-6）や子どもものもの（p.16 図表 2-1-2-8）など、一般的に必要とされるものが得られていないことが多いのではないかと考えられる。
- 周囲の人と関わりを持つことが一般的な世帯の人よりも少ない（p.35 図表 2-1-6-1～図表 2-1-6-2）と考えられ、困っていることや悩んでいることを誰にも相談できないという状況にある人も見られる（p.36 図表 2-1-6-3）。

<健康状態、医療の必要性>

- 保護者の健康状態はよくない人の割合が一般的な世帯の人よりも高く（p.17 図表 2-1-3-1～図表 2-1-3-3）、こころの状態に課題を抱えている人の割合も高い（p.20 図表 2-1-3-9～p.21 図表 2-1-3-11）。他方で、健診等を受けたことがある人の割合は比較的低くなっている（p.18 図表 2-1-3-4～図表 2-1-3-5）。
- 約2割が子どもに発達障がいがあると回答しており（p.23 図表 2-1-3-15）、約3割が家族に定期的に通院等が必要な方がいると回答している（p.12 図表 2-1-1-6）。

<子どもとの関わり、学習のこと>

- 体罰・育児放棄・虐待等の傾向は一般的な世帯の人よりも高く見られ（p.24 図表 2-1-4-1～p.25 図表 2-1-4-3）、養育・子育てに課題を抱えている人が比較的多いことがうかがえる。
- 子どもの将来のことに対しては、小学生以降一緒に考えたり話をするが増えると考えられ（p.26 図表 2-1-4-5）、約8割が学校などに毎日行くことについて重視していると回答しているが、勉強してよい成績をとることにに対してはそれほど重視をしていない人が半数以上となっている（p.27 図表 2-1-4-6）。
- これまでに学習支援制度を利用したことがあるのは約2割（p.28 図表 2-1-5-1）で、現在利用している場合には勉強がわかるようになったなど肯定的な評価が得られている（p.29 図表 2-1-5-4）。他方、送り迎えなど通わせることが困難と考える回答も比較的高く見られている（p.32 図表 2-1-5-9）。

<支援ニーズ等>

- 子どもの就職のことや学校等の入学・進学に関する支援や情報提供を受けたいと考える割合が比較的高い（p.33 図表 2-1-5-10）。なお、家計のやりくりやお金の管理のことに関しては、受けたいが抵抗感があるという回答が約3割見られる（p.33 図表 2-1-5-10）。
- 生活保護制度に関する近年の制度変更に関しては知らない人のほうが多く（p.34 図表 2-1-5-11～図表 2-1-5-12）、学習支援制度に関しても、事業があることを知らないことで利用していない（利用できていない）人もいることがうかがえる（p.32 図表 2-1-5-8）。

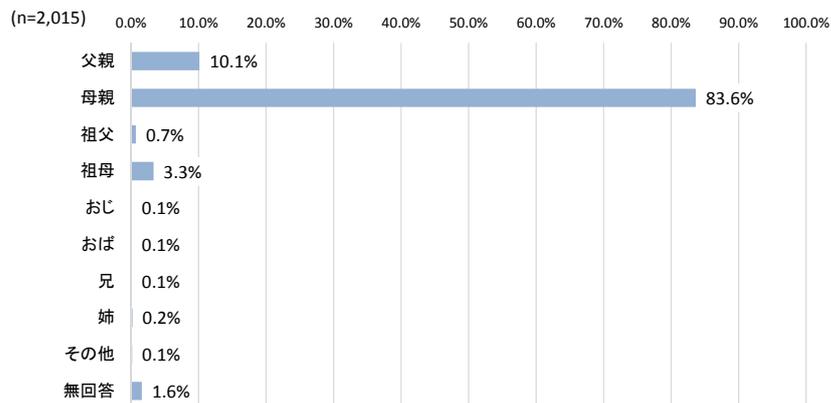
2-1-1 回答者の属性、世帯の状況

(1) アンケート回答者の属性

調査の回答者は、「母親」が83.6%、「父親」が10.1%、「祖母」が3.3%であった。

保(1) あなたは、一緒に住んでいるお子さん（18歳未満）からみてどのようなお立場ですか。

図表 2-1-1-1 回答者の属性



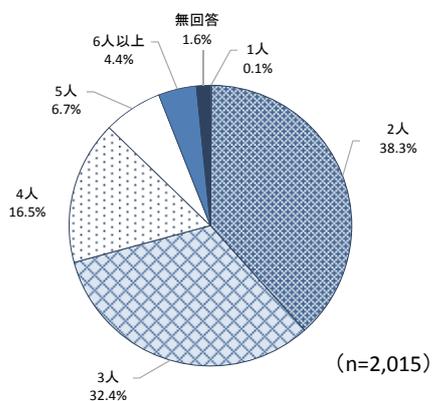
(2) 家族の人数・子どもの人数

一緒に住んでいる家族の人数は、「2人」が38.3%、「3人」が32.4%、「4人」が16.5%であった。また、一緒に住んでいる子どもの人数は、「1人」が45.3%、「2人」が27.6%、「3人」が13.8%であった。

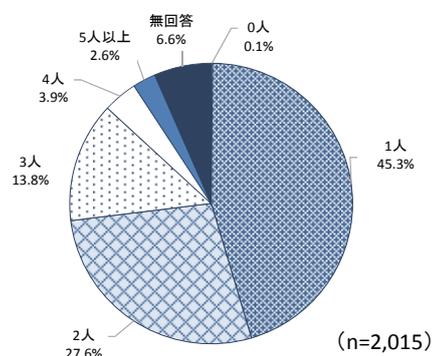
保(4) ふだん一緒に住んでいる方は、あなたを含めて何人ですか。

保(5) あなたとふだん一緒に住んでいる方全員について、それぞれ人数を教えてください。

図表 2-1-1-2 家族の人数



図表 2-1-1-3 子どもの人数



(3) 世帯構成、同居している家族の状況

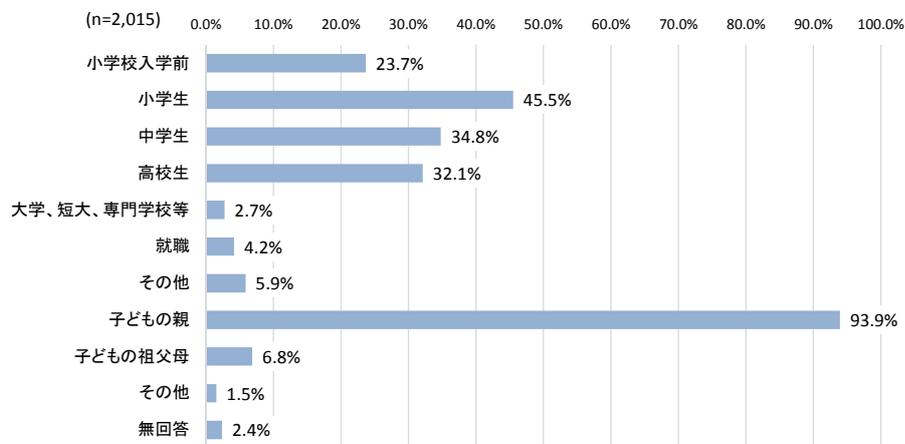
世帯構成について、子どもについては「小学校入学前」が23.7%、「小学生」が45.5%、「中学生」が34.8%、「高校生」が32.1%であった。保護者に関しては、「親がふたり」の世帯¹¹は12.2%であり、他方、「親がひとりで祖父母や他の人と同居なし」の世帯が74.7%であった。

また、同居している家族の状況については、「病気等で定期的に通院等が必要な方」が29.5%、「学校を休んでいる（不登校）のお子さん」が9.6%、「障害があり介護が必要な方」が6.6%となっている。

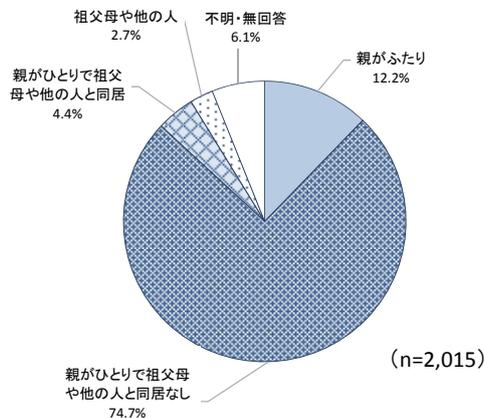
保(5) あなたとふだん一緒に住んでいる方全員について、それぞれ人数を教えてください。

保(6) あなたとふだん一緒に住んでいる方の中に、次のような方はいますか。

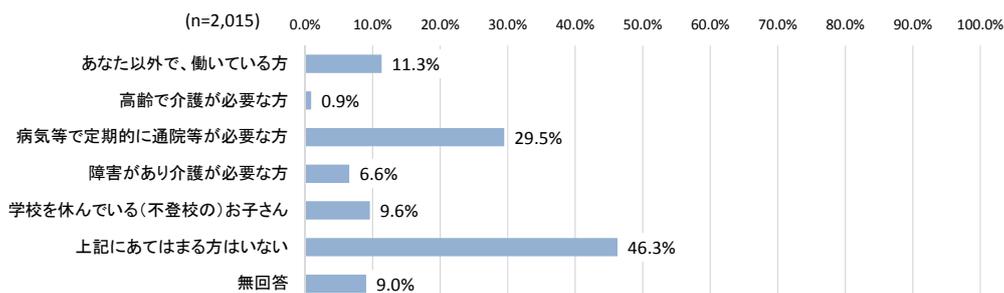
図表 2-1-1-4 世帯構成【複数回答】



図表 2-1-1-5 世帯における保護者の状況



図表 2-1-1-6 同居している家族の状況【複数回答】



¹¹ 親がふたりで祖父母や他の人と同居している世帯を含む。

2-1-2 就労の状況、剥奪の状況

(1) 就労の状況

① 就労の有無

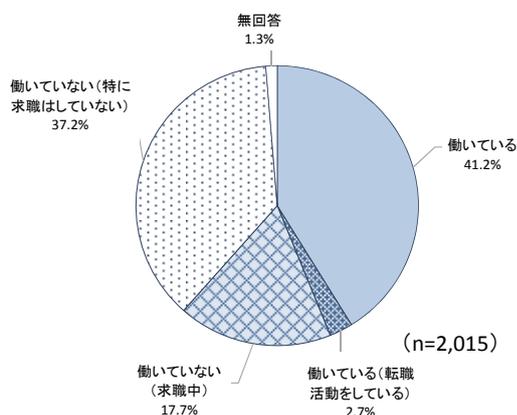
回答者の就労の有無については、「働いている」が 41.2%で、「転職活動をしている」を含めると 43.9%であった。なお、回答者以外の方の状況もふまえると、世帯として「働いている人がいない」状況にあるのは 48.2%となっている。

就労の有無について回答者の属性別では、転職活動をしている場合を含め「働いている」と回答した割合は、回答者が「父親」の場合で 36.7%、「母親」の場合で 46.7%、「祖父・祖母」の場合で 19.0%となっている¹²。

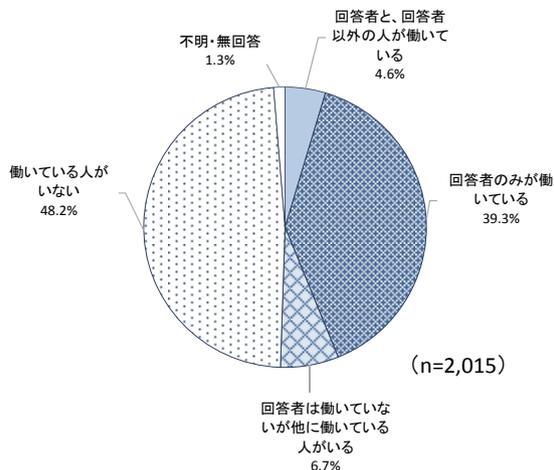
保(2) あなたは現在、働いていますか。

保(6) あなたとふだん一緒に住んでいる方の中に、次のような方はいますか。

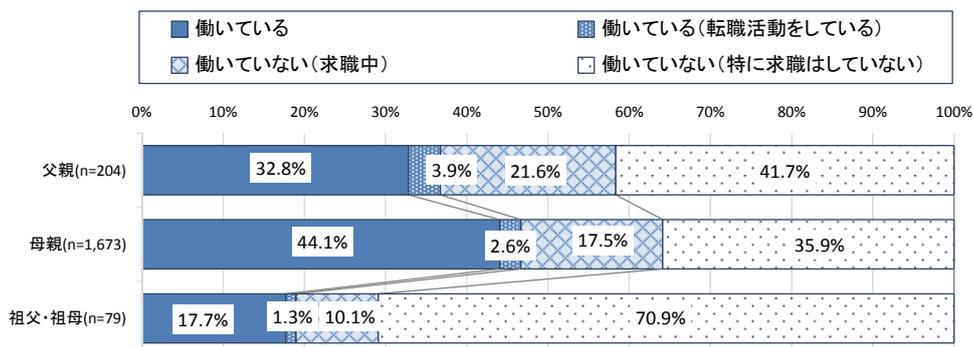
図表 2-1-2-1 回答者の就労の有無



図表 2-1-2-2 世帯としての就労の有無



図表 2-1-2-3 回答者の属性別、就労の状況



¹² 回答者の属性別の集計について、回答者が「おじ」、「おば」、「兄」、「姉」、「その他」の場合はそれぞれ該当者の件数が少ないため、集計の対象外とし、「祖父」と「祖母」はまとめて集計を行った。また、就労の有無に関し無回答の場合は除いて集計をした。

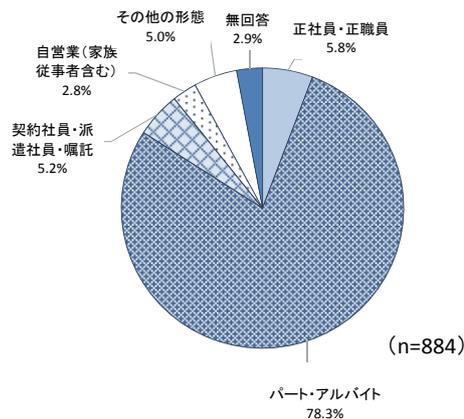
②就労の形態

働いている場合に仕事の形態としては、「パート・アルバイト」が78.3%で、「正社員・正職員」は5.8%あった。

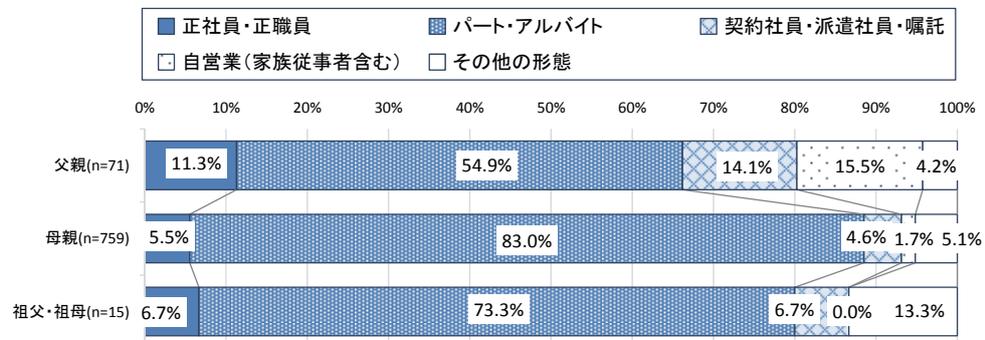
回答者の属性別では、「父親」の場合は「パート・アルバイト」が54.9%、「自営業（家族従事者含む）」が15.5%となっている。「母親」の場合は「パート・アルバイト」が83.0%、「祖父・祖母」の場合も「パート・アルバイト」が73.3%となっている¹³。

〔保(3)〕 現在の仕事の形態を教えてください。

図表 2-1-2-4 回答者の就労形態



図表 2-1-2-5 回答者の属性別、就労形態



¹³ 回答者の属性別の集計について、回答者が「おじ」、「おば」、「兄」、「姉」、「その他」の場合はそれぞれ該当者の件数が少ないため、集計の対象外とし、「祖父」と「祖母」はまとめて集計を行った。また、就労形態に関し無回答の場合は除いて集計をした。

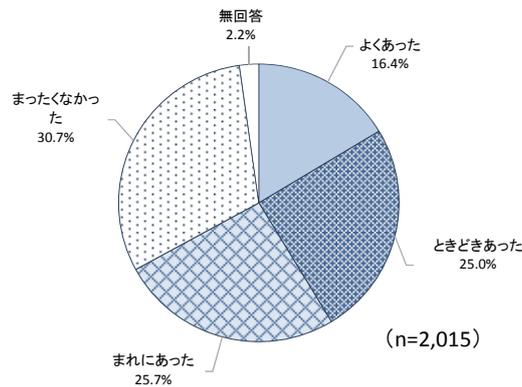
(2) 必要とする食料が買えなかった経験

過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えなかったことがあったかについて、「よくあった」または「ときどきあった」と回答した割合は、41.4%であった。

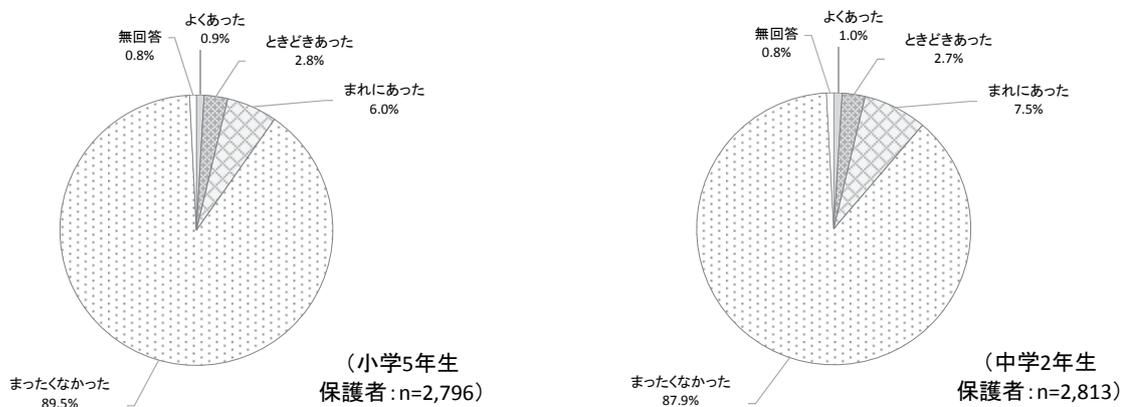
他の調査¹⁴での小学生・中学生の子どもがいる一般的な世帯と比較すると、「よくあった」または「ときどきあった」の回答割合は生活保護世帯のほうが約40ポイント高くなっている。

保(17) あなたの家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。

図表 2-1-2-6 必要とする食料が買えなかった経験



図表 2-1-2-7 (参考：東京都調査) 必要とする食料が買えなかった経験



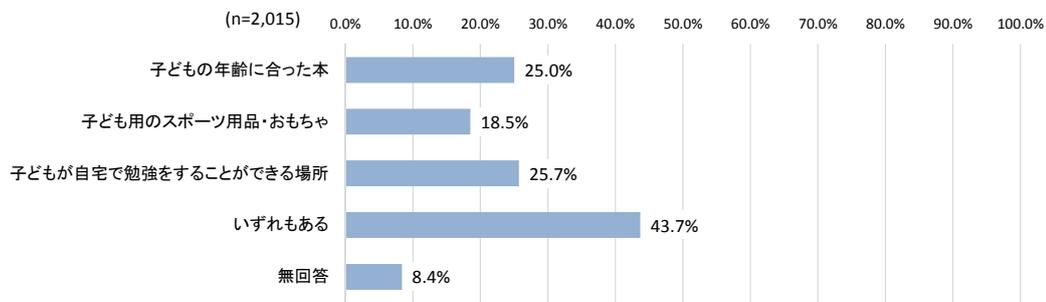
¹⁴ 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター「東京都子供の生活実態調査報告書」(平成29年3月)。

(3) 子どものもので世帯にないもの

世帯にないものとして、「子どもの年齢に合った本」の回答割合は25.0%、「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」は18.5%、「子どもが自宅で勉強をすることができる場所」は25.7%であった。

保(7) 次のもののうち、あなたの世帯にないものはありますか。

図表 2-1-2-8 子どものもので世帯にないもの【複数回答】



2-1-3 健康状態、医療の必要性

(1) 保護者の健康状態

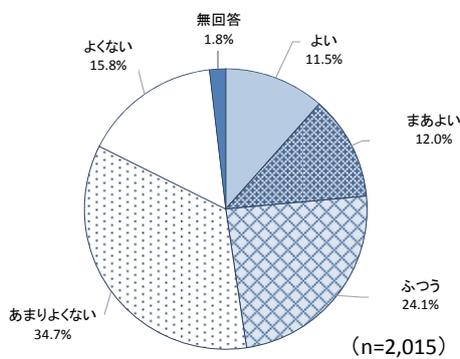
回答者の健康状態について、「よくない」または「あまりよくない」と回答した割合は、50.5%であった。

回答者の属性別では、「よくない」または「あまりよくない」の回答割合は、「父親」の場合で62.3%、「母親」の場合で50.1%、「祖父・祖母」の場合で60.2%となっている¹⁵。

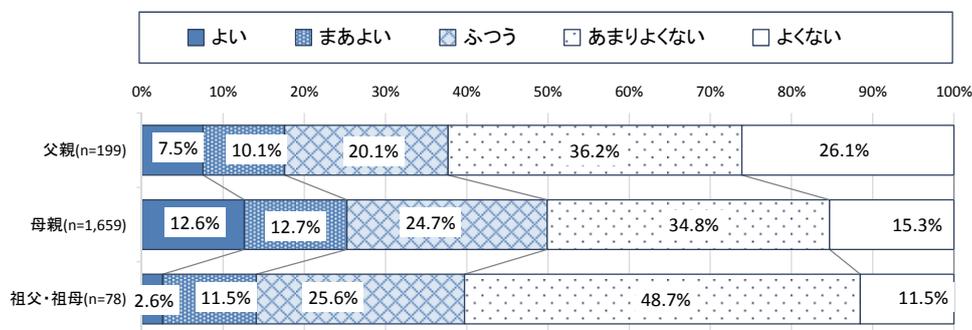
他の調査¹⁶での小学生・中学生の子どもがいる一般的な世帯と比較すると、「よくない」または「あまりよくない」の回答割合は生活保護世帯のほうが約40ポイント高くなっている。

保(9) あなたの現在の健康状態はいかがですか。

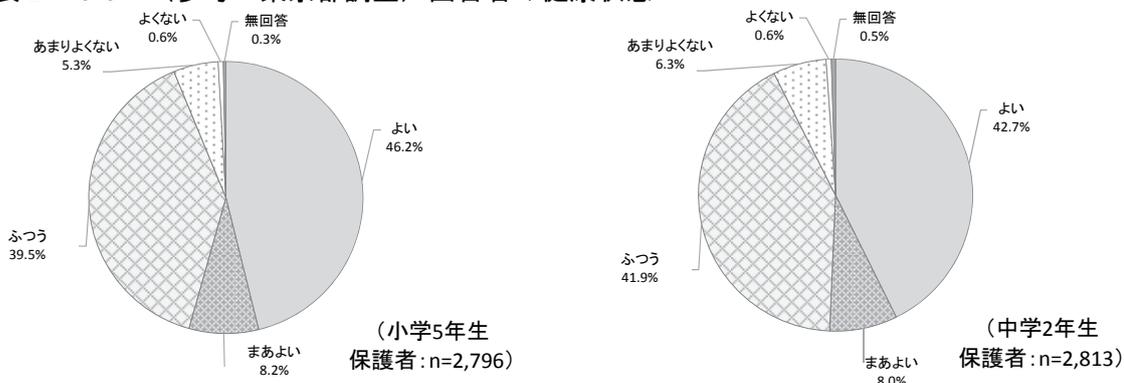
図表 2-1-3-1 回答者の健康状態



図表 2-1-3-2 回答者の属性別、健康状態



図表 2-1-3-3 (参考：東京都調査) 回答者の健康状態



¹⁵ 回答者の属性別の集計について、回答者が「おじ」、「おば」、「兄」、「姉」、「その他」の場合はそれぞれ該当者の件数が少ないため、集計の対象外とし、「祖父」と「祖母」はまとめて集計を行った。また、就労形態に関し無回答の場合は除いて集計をした。

¹⁶ 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター「東京都子供の生活実態調査報告書」(平成29年3月)。

(2) 保護者の健診等の受診状況

① 健診等の受診の有無

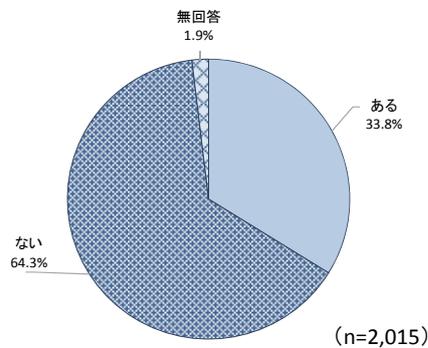
過去1年間に、健診等（健康診断、健康診査及び人間ドック）を受けたことがあるかについて、「ある」と回答した割合は、33.8%であった。

他の調査¹⁷と比較すると、受けたことがある者の割合は生活保護世帯のほうが30～40ポイント程度低くなっている。

なお、健康状態別では、健康状態が相対的によくない人のほうが健診等を受けていない割合が比較的高くなっている¹⁸。

保(10) あなたは過去1年間に、健診等を受けたことがありますか。

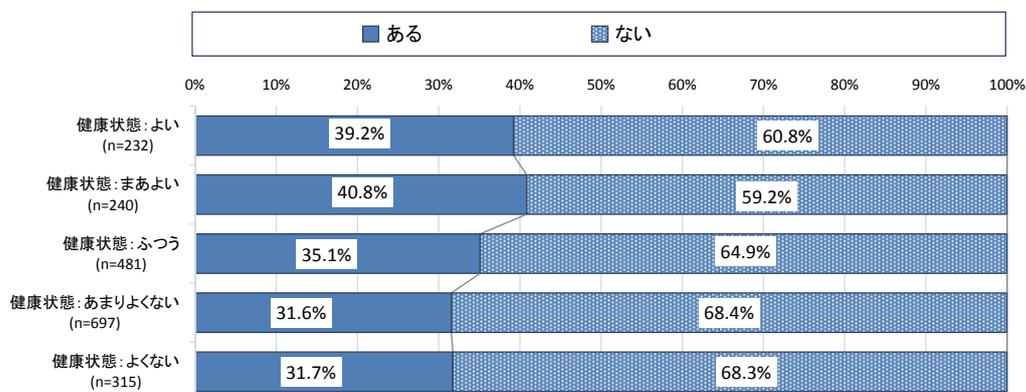
図表 2-1-3-4 回答者の健診等の受診の有無



図表 2-1-3-5 (参考：厚生労働省調査) 過去1年間に健診等を受けたことがある者の割合

	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳
総数	64.1%	65.4%	73.5%	75.3%
男	66.8%	74.9%	79.6%	79.9%
女	61.5%	56.2%	67.7%	71.0%

図表 2-1-3-6 回答者の健康状態別、健診等の受診の有無



¹⁷ 厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査の概況」(平成29年6月27日)。なお、図表2-1-3-5に掲載した調査・集計結果は、子どもがいる世帯に限らない。

¹⁸ 健康状態別の集計について、健康状態ならびに健診等の受診の有無に関し無回答の場合は除いて集計をした。

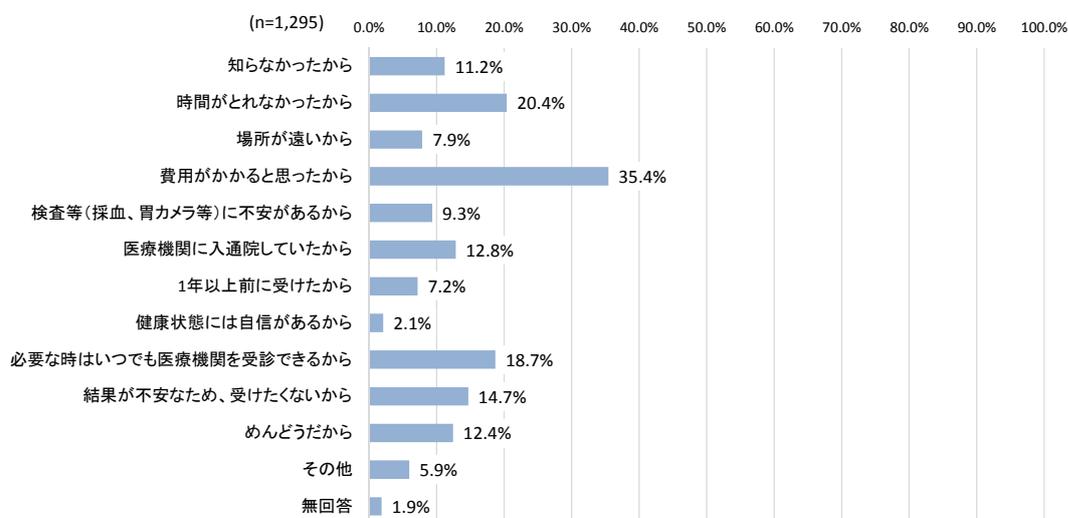
②健診等を受けなかった理由

過去1年間に健診等を受けなかった理由としては、「費用がかかると思ったから」が35.4%、「時間がとれなかったから」が20.4%、「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」が18.7%となっている。

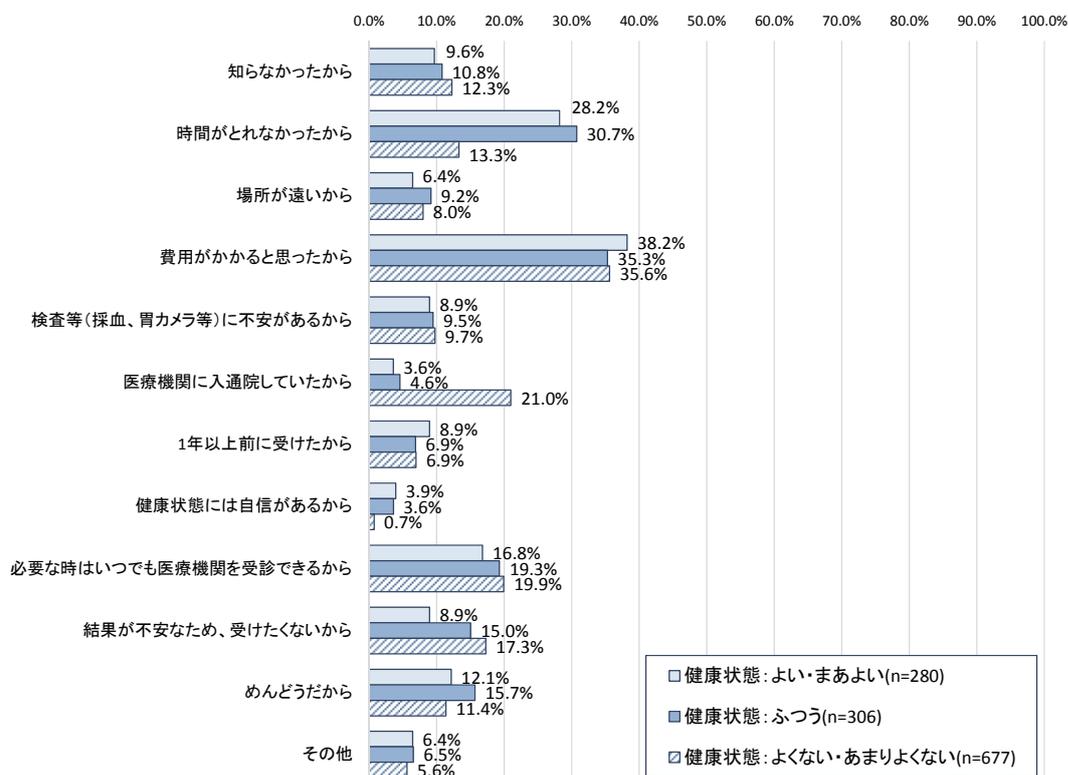
健康状態別¹⁹では、いずれの場合も「費用がかかると思ったから」の回答割合が最も高いが、健康状態が相対的によい場合には「時間がとれなかったから」、相対的に悪い場合には「医療機関に入通院していたから」や「結果が不安なため、受けたくないから」の回答割合が比較的高くなっている。

保(11) (過去1年間に健診等)を受けなかった理由を教えてください。

図表 2-1-3-7 健診等を受けなかった理由【複数回答】



図表 2-1-3-8 回答者の健康状態別、健診等を受けなかった理由【複数回答】



¹⁹ 健康状態別の集計について、健康状態ならびに健診等を受けなかった理由に関し無回答の場合は除いて集計をした。

(3) 保護者のこころの状態

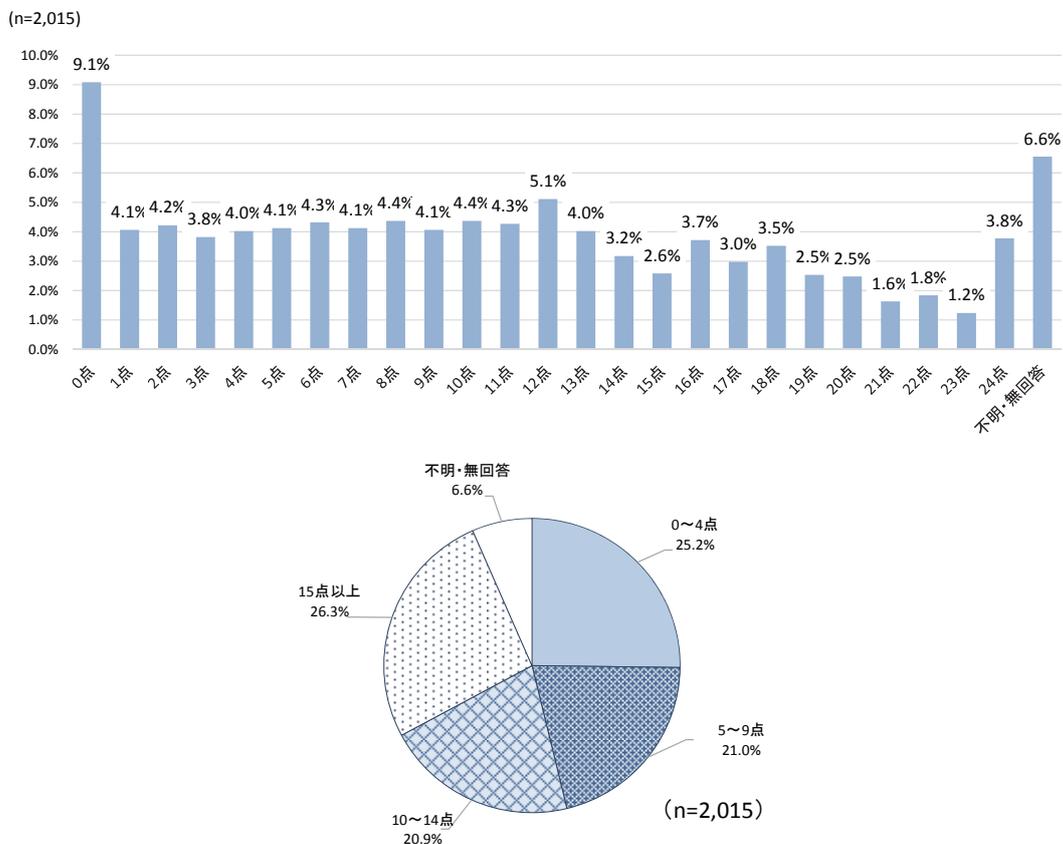
回答者のこころの状態について、過去1か月間の状況を6つの質問により5段階にて把握し得点化した(K6²⁰による得点)。その結果、「気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者」とされる10点以上に該当する者の割合²¹は、47.2%であった。

回答者の属性別では、得点が10点以上に該当する者の割合は、「父親」の場合で45.3%、「母親」の場合で51.5%、「祖父・祖母」の場合で44.1%となっている²²。

他の調査²³と比較すると、得点が10点以上に該当する者の割合は、生活保護世帯のほうが約30ポイント高くなっている。

保(14) 次のそれぞれの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。

図表 2-1-3-9 保護者のこころの状態 (K6 による得点)



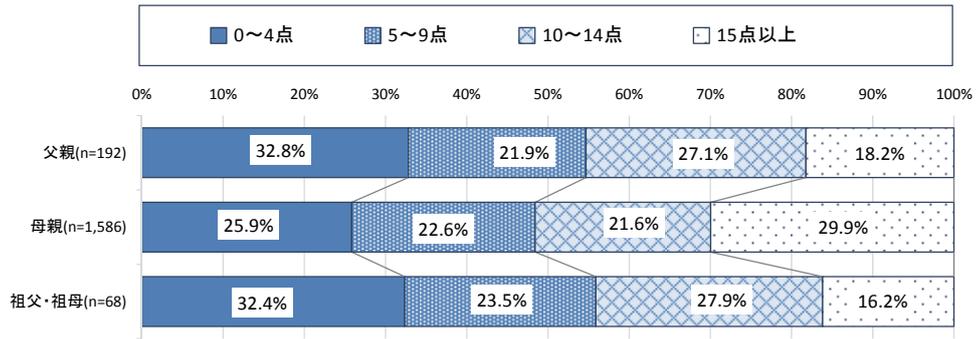
²⁰ K6 は米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」「気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか」「何をやるのも骨折りだと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」の6つの質問について5段階（「まったくない」(0点)、「少しだけ」(1点)、「ときどき」(2点)、「たいてい」(3点)、「いつも」(4点)）で点数化する。合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があるとしてされている。（厚生労働省国民生活基礎調査 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/yougo.html>）

²¹ 国の「健康日本21（第2次）」においては、K6の得点が10点以上の者の割合を減らしていくことがひとつの目標として設定されている（厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会・次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会「健康日本21（第2次）」の推進に関する参考資料（平成24年7月））。

²² 回答者の属性別の集計について、回答者が「おじ」、「おば」、「兄」、「姉」、「その他」の場合はそれぞれ該当者の件数が少ないため、集計の対象外とし、「祖父」と「祖母」はまとめて集計を行った。また、こころの状態（K6による得点）に関し不明・無回答の場合は除いて集計をした。

²³ 厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査の概況」（平成29年6月27日）。なお、図表2-1-3-11に掲載した調査・集計は、子どもがいる世帯に限らない。

図表 2-1-3-10 回答者の属性別、保護者のこころの状態（K6 による得点）



図表 2-1-3-11 （参考：厚生労働省調査）こころの状態（K6 による得点）

	0～4点	5～9点	10～14点	15点以上	不詳	10点以上
20～29歳	65.6%	18.3%	9.4%	4.3%	2.4%	13.7%
30～39歳	66.1%	18.8%	9.2%	3.5%	2.3%	12.7%
40～49歳	66.1%	19.4%	8.6%	3.1%	2.7%	11.7%
50～59歳	66.9%	20.1%	7.6%	2.4%	2.9%	10.0%

(4) 医療機関の未受診

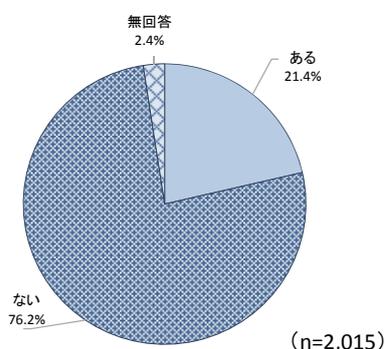
①子どもが医療機関を受診しなかった経験の有無

過去1年間に、子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが実際には受診させなかったことが「ある」と回答した割合は21.4%であった。

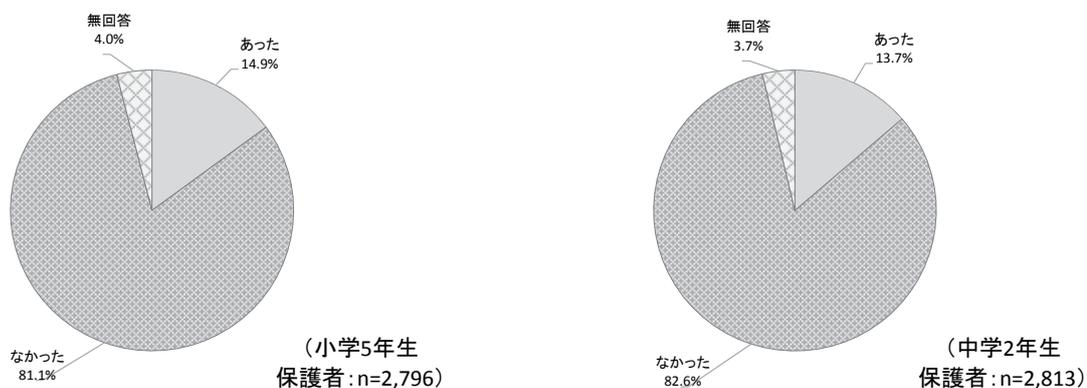
他の調査²⁴での小学生・中学生の子どもがいる一般的な世帯と比較すると、「ある」の回答割合は生活保護世帯のほうが5～10ポイント程度高くなっている。

保(12) 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。

図表 2-1-3-12 子どもが医療機関を受診しなかった経験の有無



図表 2-1-3-13 (参考：東京都調査) 子どもが医療機関を受診しなかった経験の有無



²⁴ 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター「東京都子供の生活実態調査報告書」(平成29年3月)。

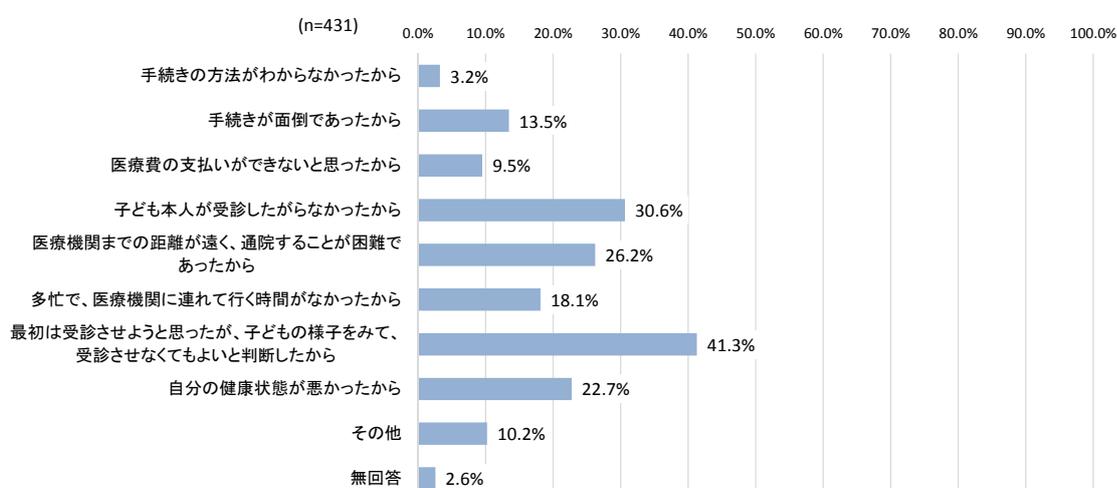
②子どもが医療機関を受診しなかった理由

必要と感じたときに子どもが医療機関を受診しなかったことがあった場合、その理由としては、「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したから」が41.3%、「子ども本人が受診しなかったから」が30.6%、「医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったから」が26.2%であった。

なお、「手続きの方法がわからなかったから」は3.2%、「手続きが面倒であったから」は13.5%、「医療費の支払いができないと思ったから」は9.5%となっている。

保(13) (医療機関を受診させなかったことが「あった」と回答した場合) 受診しなかった理由を教えてください。

図表 2-1-3-14 子どもが医療機関を受診しなかった理由【複数回答】

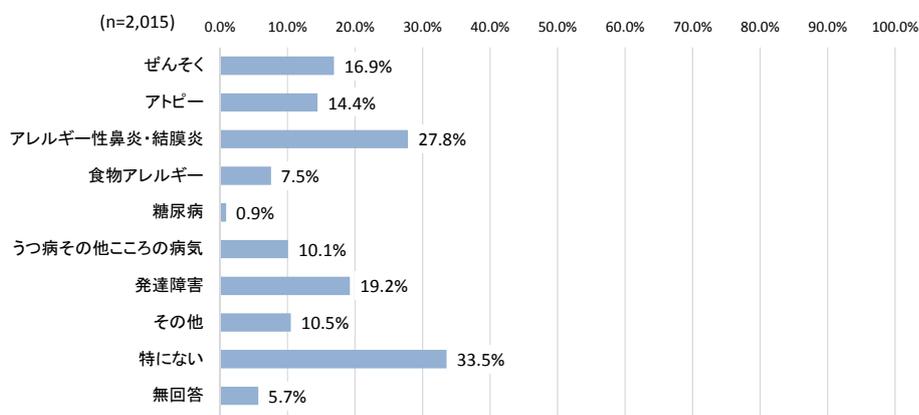


(5) 子どもの病気

子どもが現在かかっている病気については、「特にない」が33.5%、「アレルギー性鼻炎・結膜炎」が27.8%であり、「発達障害」が19.2%、「うつ病その他こころの病気」が10.1%となっている。

保(8) あなたの子どもが現在かかっている病気について教えてください。

図表 2-1-3-15 子どもの病気【複数回答】



2-1-4 養育・子育ての状況

(1) 養育困難の状況

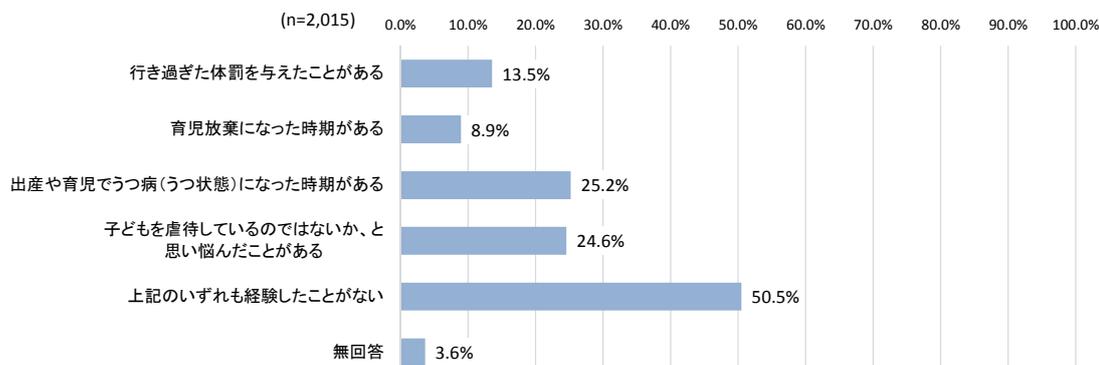
子育てのなかで経験したことについて、「行き過ぎた体罰を与えたことがある」が13.5%、「育児放棄になった時期がある」が8.9%、「出産や育児でうつ病（うつ状態）になった時期がある」が25.2%、「子どもを虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」が24.6%で、「いずれも経験したことがない」は50.5%であった。

回答者の属性別では、「いずれも経験したことがない」の回答割合は、「父親」の場合で72.1%、「母親」の場合で48.8%、「祖父・祖母」の場合で74.3%となっている²⁵。

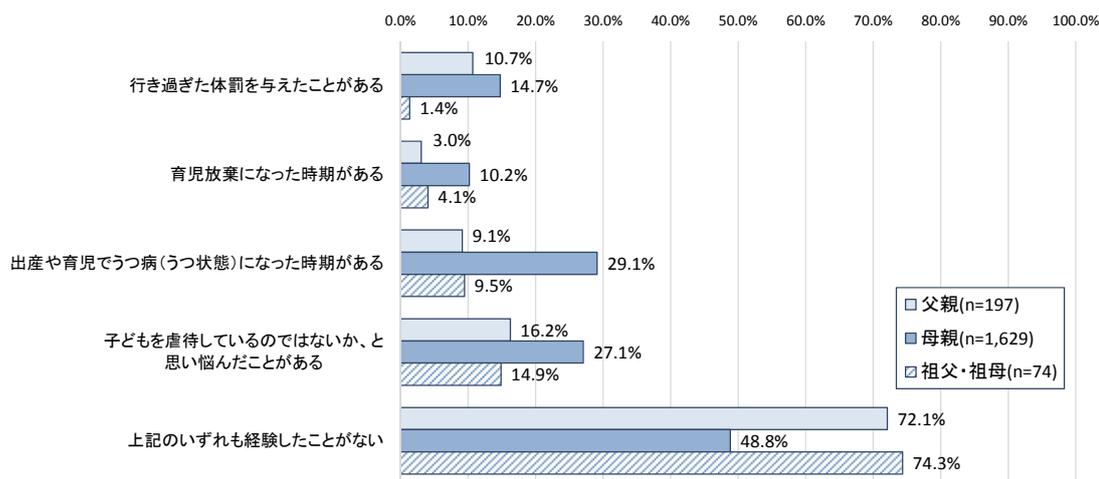
他の調査²⁶での小学生・中学生の子どもがいる一般的な世帯と比較すると、各項目について、回答割合は生活保護世帯のほうが5～15ポイント程度高くなっている。

保(19) あなたはお子さんのことについて、これまでに以下のような経験をしたことがありますか。

図表 2-1-4-1 子育てのなかで経験したこと【複数回答】



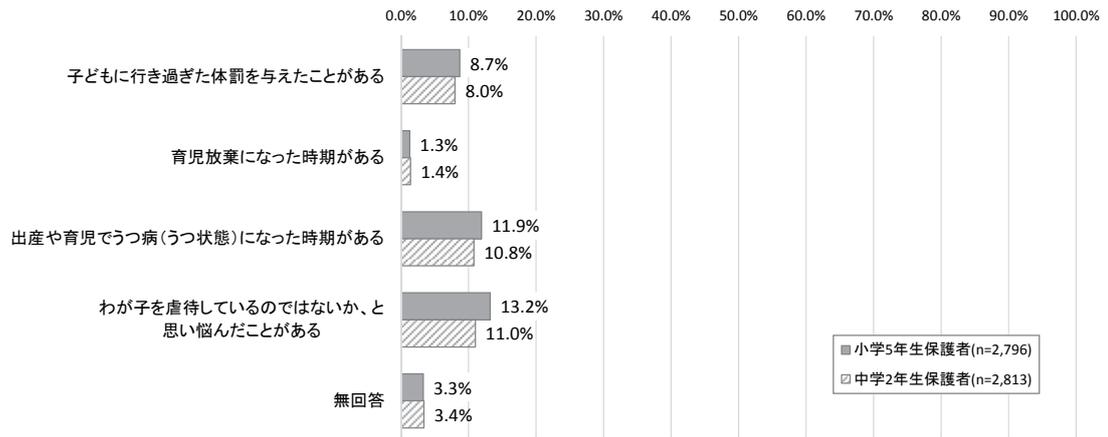
図表 2-1-4-2 回答者の属性別、子育てのなかで経験したこと【複数回答】



²⁵ 回答者の属性別の集計について、回答者が「おじ」、「おば」、「兄」、「姉」、「その他」の場合はそれぞれ該当者の件数が少ないため、集計の対象外とし、「祖父」と「祖母」はまとめて集計を行った。また、子育ての中で経験したことに関し不明・無回答の場合は除いて集計をした。

²⁶ 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター「東京都子供の生活実態調査報告書」（平成29年3月）。

図表 2-1-4-3 (参考：東京都調査) 子育てのなかで経験したこと【複数回答】



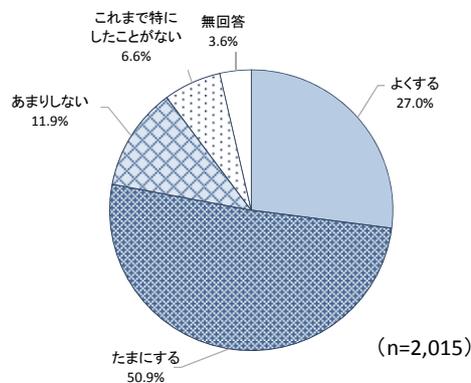
(2) 子どもの将来のことについて

子どもの将来のことについて一緒に考えたり話すことがどの程度あるかについて、「あまりしない」または「これまで特にしたことがない」と回答した割合は、18.5%であった。

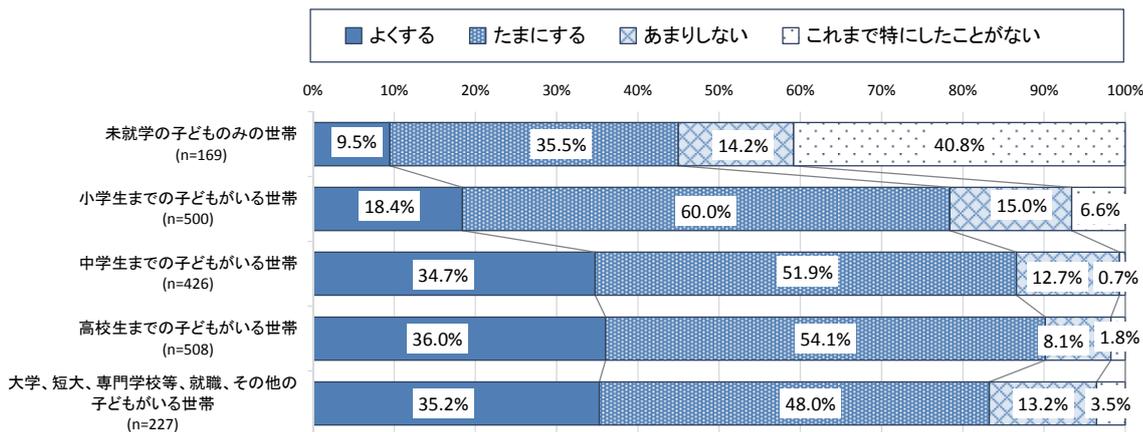
子どもの教育段階別²⁷では、「あまりしない」または「これまで特にしたことがない」の回答割合は、「未就学の子どものみの世帯」では55.0%、「小学生までの子どもがいる世帯」では21.6%、「中学生までの子どもがいる世帯」では13.4%、「高校生までの子どもがいる世帯」では9.9%、「大学、短大、専門学校等、就職、その他の子どもがいる世帯」では16.7%となっている²⁸。

保(21) あなたは、お子さんの将来（夢・進路・職業等）について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。

図表 2-1-4-4 子どもの将来のことについて一緒に考えたり話すことがどの程度あるか



図表 2-1-4-5 子どもの教育段階別、子どもの将来のことについて一緒に考えたり話すことがどの程度あるか



²⁷ 世帯構成に関する回答により、より年長者の子どもの状況に基づき分類をした。概ね子どもの教育段階別の状況を把握することができると考えられるが、場合によっては年齢が大きく離れたきょうだいがいる点には留意が必要である。

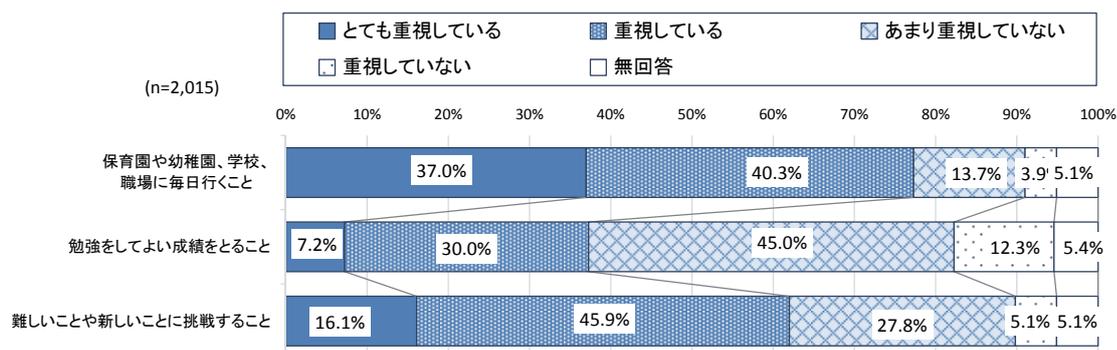
²⁸ 子どもの教育段階別の集計について、子どもの将来のことについて一緒に考えたり話すことがどの程度あるかに関し無回答のものは集計の対象外とした。

(3) 子どもの教育について、重視すること

子どもの教育に対する考え方として、「とても重視している」または「重視している」と回答した割合は、「保育園や幼稚園、学校、職場に毎日行くこと」については77.3%、「勉強をしてよい成績をとること」については37.2%、「難しいことや新しいことに挑戦すること」については62.0%であった。

保(20) あなたのご家庭では、お子さんの教育について、次のことをどれくらい重視していますか。

図表 2-1-4-6 子どもの教育について、重視すること



2-1-5 支援制度の利用状況、制度に対する認識

(1) 学習支援事業の利用状況

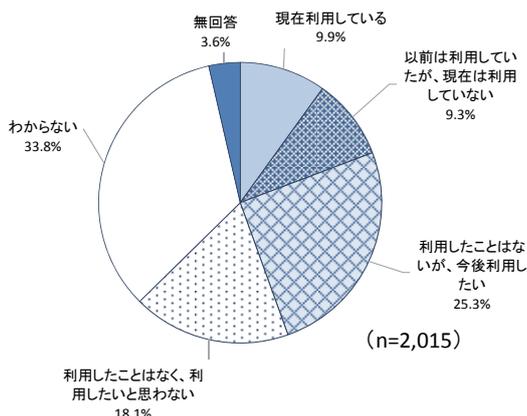
①学習支援制度の利用の有無・利用意向

学習支援事業の利用の有無・利用意向に関して、「現在利用している」または「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した割合は、19.2%であった。また、「利用したことはないが、今後利用したい」と回答した割合は、25.3%であった。

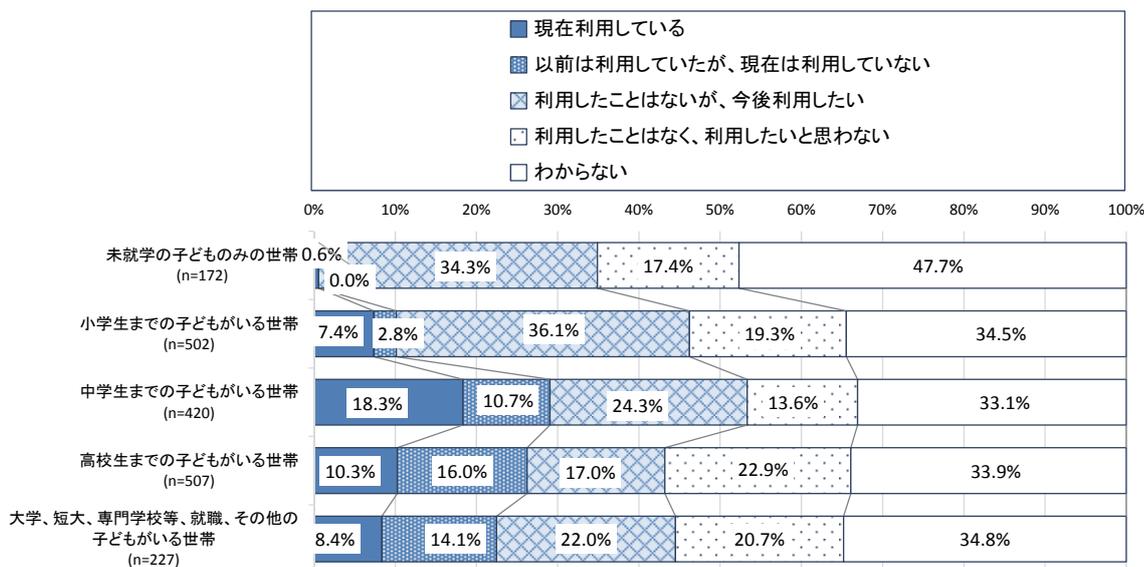
子どもの教育段階別では、「現在利用している」または「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した割合は、小学生までの子どもがいる世帯で10.2%、中学生までの子どもがいる世帯で29.0%、高校生までの子どもがいる世帯で26.3%、「大学、短大、専門学校等、就職、その他の子どもがいる世帯」で22.5%であった²⁹。

保(23) あなたのご家庭のお子さんは、自治体やNPO団体、学生ボランティア等が実施する「学習支援事業」（学習の手助けなど）を利用したことがありますか。利用したことがない場合は、今後利用したいと思いますか。

図表 2-1-5-1 学習支援制度の利用の有無・利用意向



図表 2-1-5-2 子どもの教育段階別、学習支援制度の利用の有無・利用意向



²⁹ 子どもの教育段階別の集計について、学習支援制度の利用の有無・利用意向に関し無回答のものは集計の対象外とした。

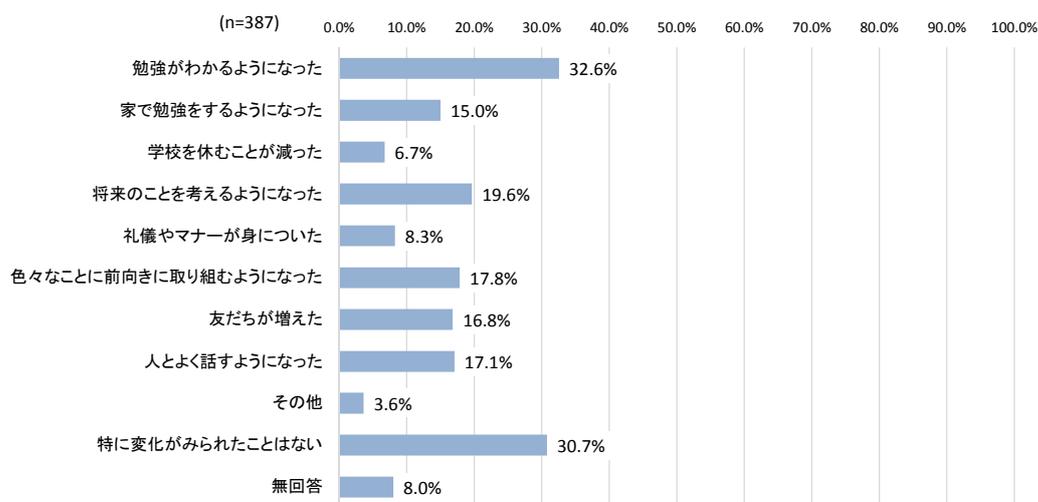
②学習支援制度を利用した子どもに見られた変化

学習支援事業を「現在利用している」または「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した場合に、子どもにみられた変化としては、「勉強がわかるようになった」が32.6%、「特に変化がみられたことはない」が30.7%、「将来のことを考えるようになった」が19.6%となっている。

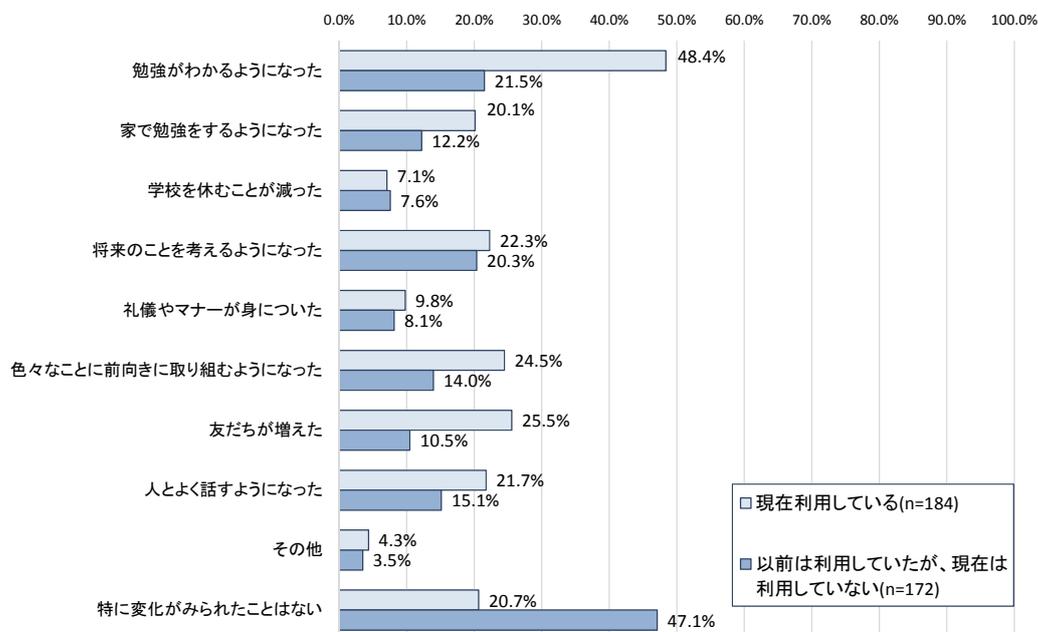
なお、現在の利用状況別では、「現在利用している」場合には、「勉強がわかるようになった」が48.4%となっている³⁰。

〔保(25)〕 学習支援事業を利用したお子さんにみられた変化として、あてはまるものはありますか。

図表 2-1-5-3 学習支援制度の利用によって子どもに見られた変化【複数回答】



図表 2-1-5-4 現在の利用状況別、学習支援制度の利用によって子どもに見られた変化【複数回答】



³⁰ 利用状況別の集計について、学習支援制度の利用によって子どもに見られた変化に関し無回答のものは集計の対象外とした。

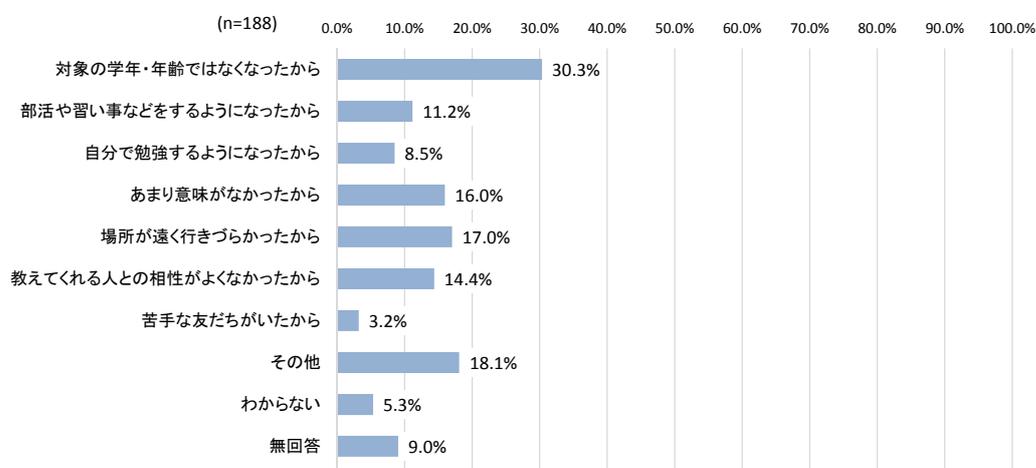
③学習支援事業を以前は利用していたが、現在は利用していない理由

学習支援事業を「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した場合に、現在利用していない理由としては、「対象の学年・年齢ではなくなったから」が30.3%、「その他」が18.1%、「場所が遠く行きづらかったから」が17.0%となっている。

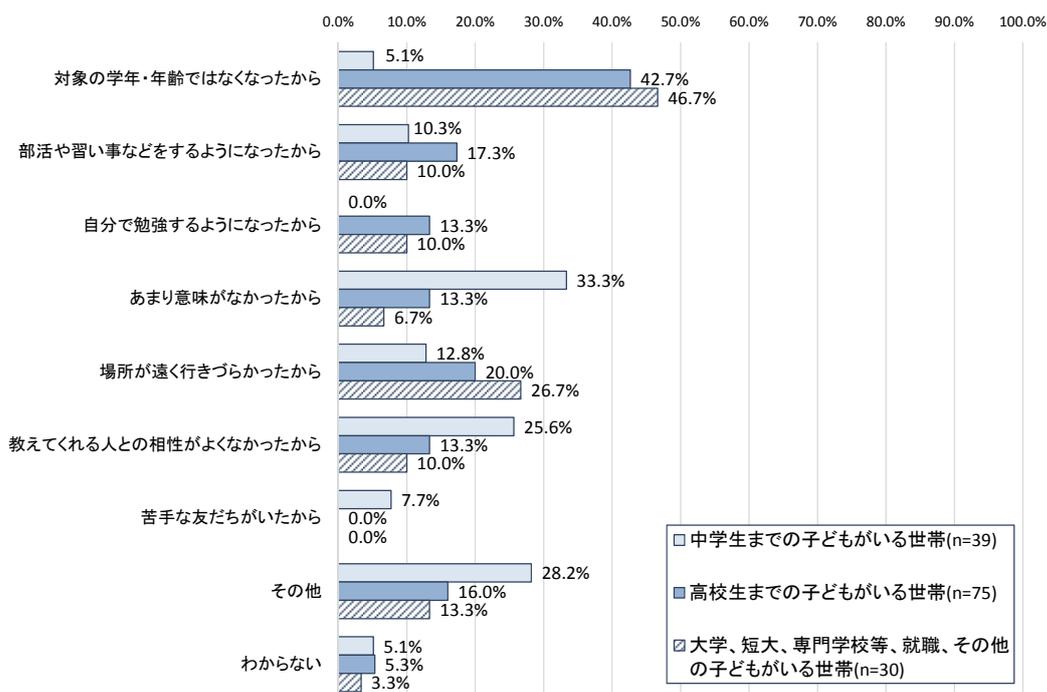
子どもの教育段階別では、中学生までの子どもがいる世帯の場合には、「あまり意味がなかったから」が33.3%、「その他」が28.2%、「教えてくれる人との相性がよくなかったから」が25.6%となっている³¹。

保(26) 「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した場合) 学習支援事業を利用していない理由を教えてください。

図表 2-1-5-5 学習支援事業を以前は利用していたが現在は利用していない理由【複数回答】



図表 2-1-5-6 子どもの教育段階別、学習支援事業を以前は利用していたが現在は利用していない理由【複数回答】



³¹ 子どもの教育段階別の集計について、学習支援事業を以前は利用していたが現在は利用していない理由に関し無回答のものは集計の対象外とした。

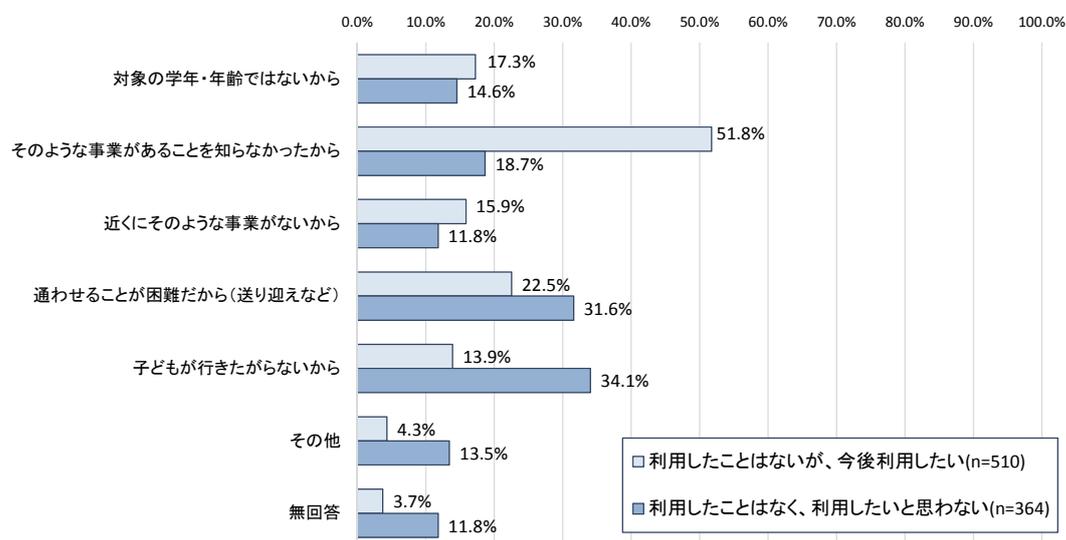
④学習支援事業を利用したことがない理由

学習支援事業を利用していない場合の理由について、今後の利用意向がある場合は「そのような事業があることを知らなかったから」が 51.8%、「通わせることが困難だから（送り迎えなど）」が 22.5% となっている。今後の利用意向がない場合は、「子どもが行きたがらないから」が 34.1%、「通わせることが困難だから（送り迎えなど）」が 31.6%であった。

子どもの教育段階別では、今後の利用意向がある場合には未就学の子どものみの世帯以外では「そのような事業があることを知らなかったから」の回答割合が最も高くなっている。利用意向がない場合は、小学生までの子どもがいる世帯や中学生までの子どもがいる世帯では、「通わせることが困難だから（送り迎えなど）」の回答割合が比較的高くなっている³²。

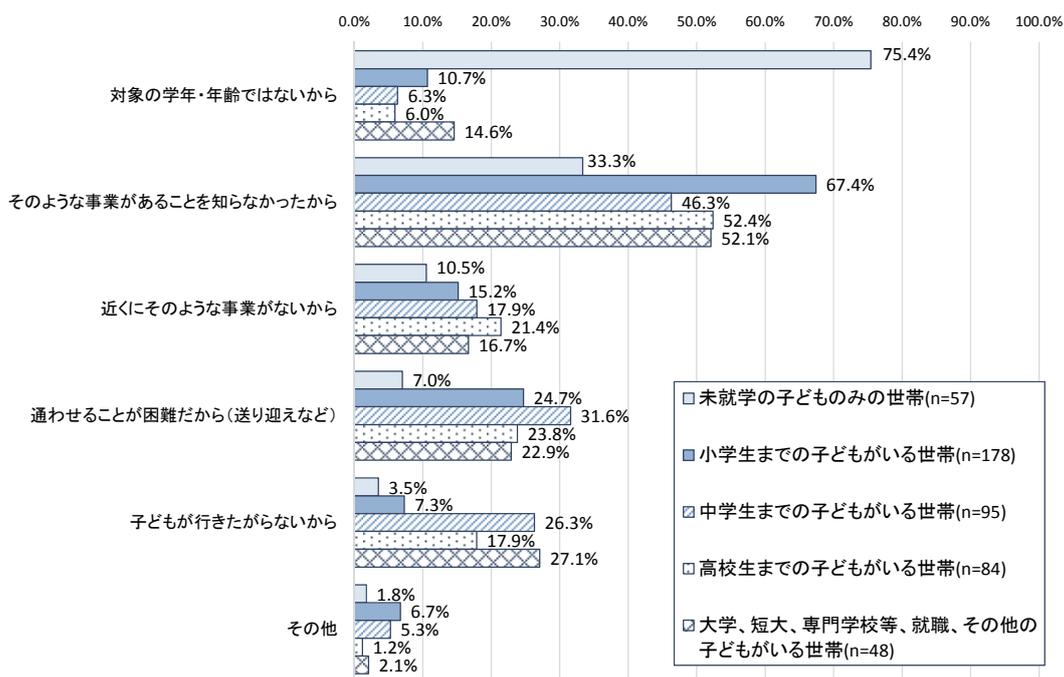
【保(24)】（「利用したことはないが、今後利用したい」または「利用したことはなく、利用したいとは思わない」と回答した場合）学習支援事業を利用していない理由は何ですか。

図表 2-1-5-7 今後の利用意向別、学習支援事業を利用したことがない理由【複数回答】

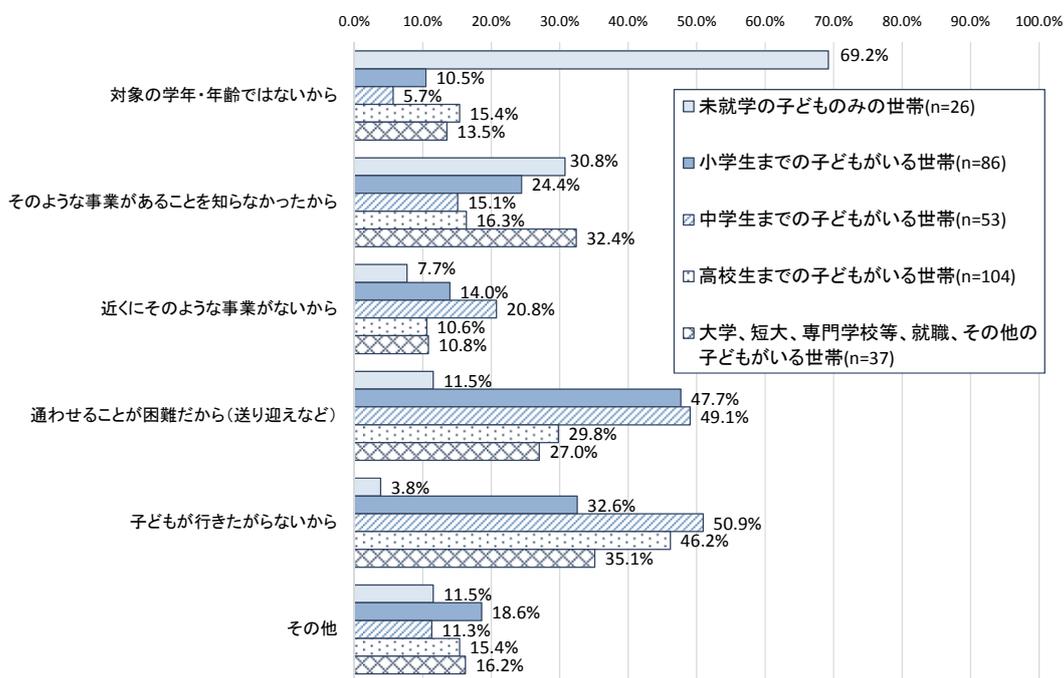


³² 今後の利用意向別の集計について、利用意向がある場合・利用意向がない場合ともに、学習支援事業を利用したことがない理由に関し無回答のものは集計の対象外とした。

図表 2-1-5-8 子どもの教育段階別、学習支援事業を利用したことがない理由
 (今後利用したいと考えている場合)【複数回答】



図表 2-1-5-9 子どもの教育段階別、学習支援事業を利用したことがない理由
 (今後利用したいとは思わない場合)【複数回答】



(2) これまでに受けたことがある（参加したことがある）支援等の内容

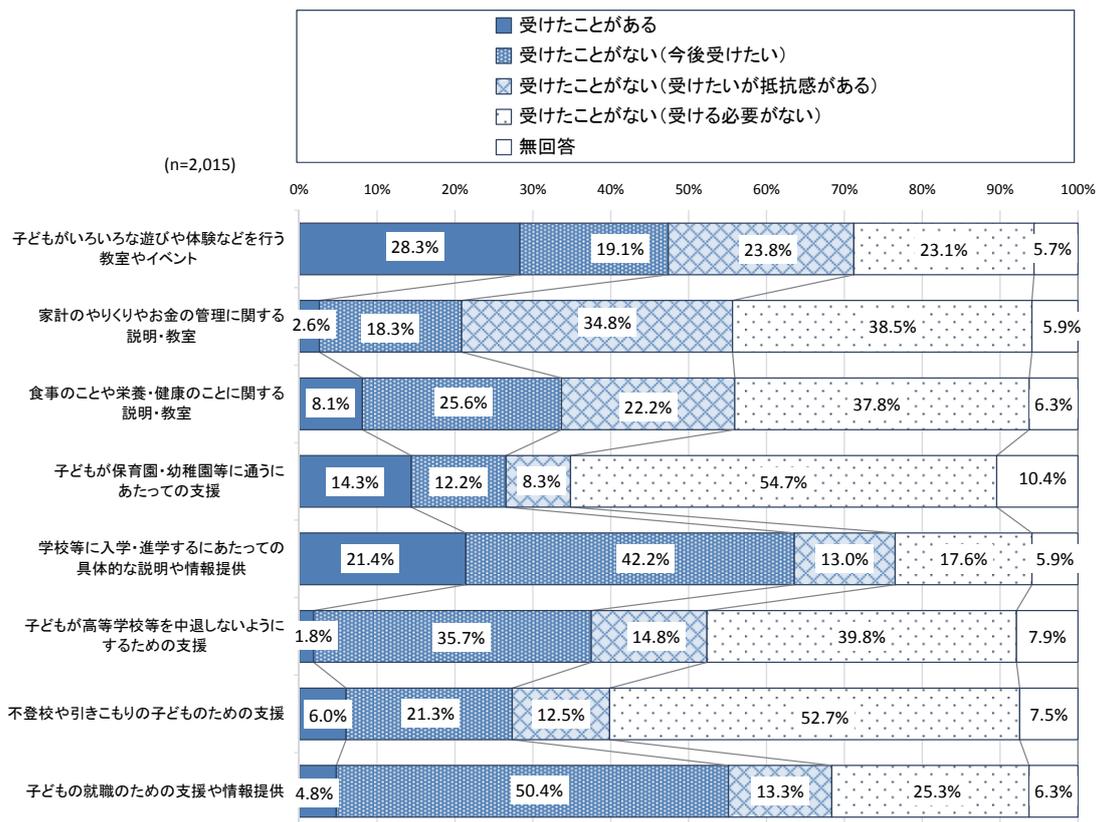
これまでに受けたことがある（参加したことがある）支援等の内容について、「受けたことがある」と回答した割合は、「子どもがいろいろな遊びや体験などを行う教室やイベント」が28.3%、「学校等に入学・進学するにあたっての具体的な説明や情報提供」が21.4%となっている。

「今後受けたい」と回答した割合は、「子どもの就職のための支援や情報提供」が50.4%、「学校等に入学・進学するにあたっての具体的な説明や情報提供」が42.2%、「子どもが高等学校等を中退しないようにするための支援」が35.7%となっている。

また、「受けたいが抵抗感がある」の回答は、「家計のやりくりやお金の管理に関する説明・教室」が34.8%、「子どもがいろいろな遊びや体験などを行う教室やイベント」が23.8%、「食事のことや栄養・健康のことにに関する説明・教室」が22.2%となっている。

保(28) あなたがこれまでに受けたことがある（参加したことがある）支援等の内容を教えてください。受けたことがない場合には、その理由に最も近いものを教えてください。

図表 2-1-5-10 これまでに受けたことがある（参加したことがある）支援等の内容



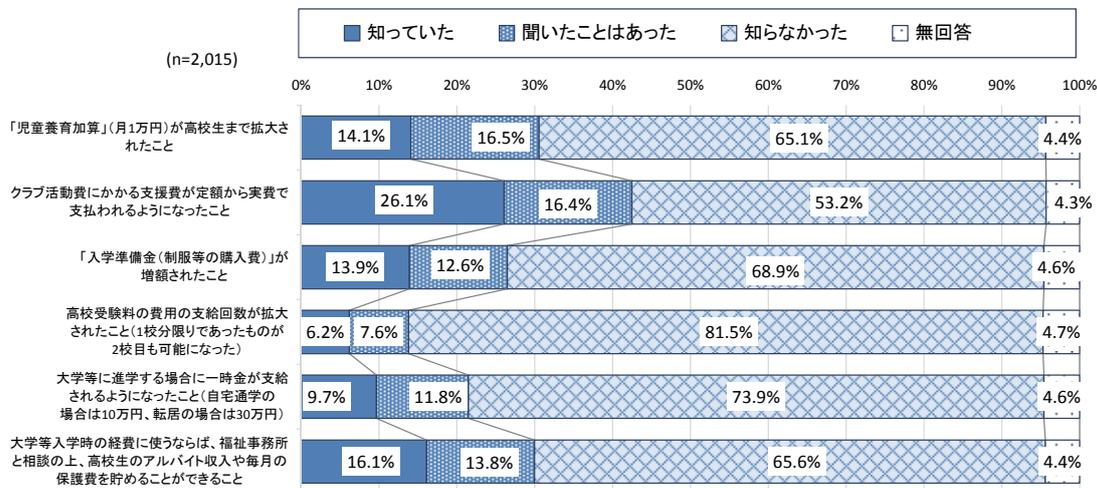
(3) 近年の支援制度の変更についての認識

生活保護制度に関する近年の制度変更に関して、「知っていた」または「聞いたことはあった」と回答した割合は、「クラブ活動費にかかる支援費が定額から実費で支払われるようになったこと」に関しては42.5%、「高校受験料の費用の支給回数が拡大されたこと（1校分限りであったものが2校目も可能になった）」に関しては13.8%であった。

子どもの教育段階別では、子どもの教育段階が高いほど「知っていた」または「聞いたことがある」と回答する割合が高い傾向が見られるが、比較的高い場合であってもその割合は5割程度となっている³³。

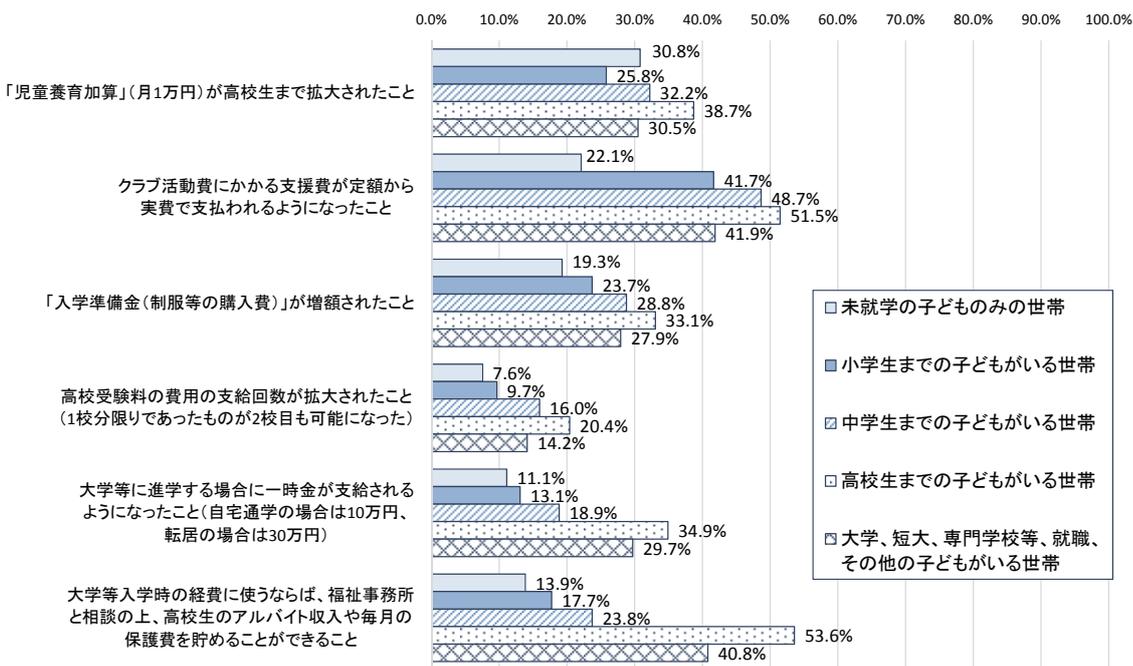
保(22) 生活保護制度においては、お子さんの教育にかかる費用や支援制度等が近年変更になりました。あなたは、次の変更について知っていますか。

図表 2-1-5-11 近年の支援制度の変更についての認識



図表 2-1-5-12 子どもの教育段階別、近年の支援制度の変更についての認識

(「知っていた」または「聞いたことはあった」の回答割合)



³³ 子どもの教育段階別の集計について、近年の支援制度の変更についての認識に関し無回答のものは集計の対象外とした。なお、項目により子どもの教育段階別の集計対象件数が異なるが、ここでは表記を省略した。

2-1-6 周囲の人との関わり、相談相手

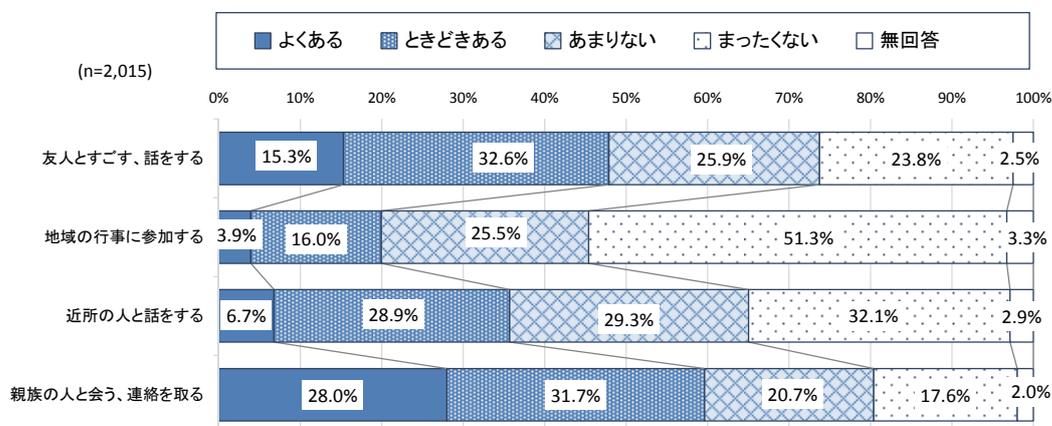
(1) 周囲の人との関わり

ふだん周りの人とどの程度関わりを持っているかについて、「よくある」または「ときどきある」と回答した割合は、「友人とすごす、話をする」が47.9%、「地域の行事に参加する」が19.9%、「近所の人と話をする」が35.6%、「親族の人と会う、連絡を取る」が59.7%となっている。

他の調査³⁴での子どもがいる一般的な世帯と比較すると、「よくある」または「ときどきある」の回答割合は、それぞれ生活保護世帯のほうが20～50ポイント程度低くなっている。

保(16) あなたはふだん、次のようなことがどれくらいありますか。

図表 2-1-6-1 周囲の人との関わり



図表 2-1-6-2 (参考：民間調査) 周囲の人との関わり
(「よくある」または「ときどきある」の割合)

	小学1～3年生の保護者	小学4～6年生の保護者	中学生の保護者	高校生の保護者
友人とすごす・話をする	75.6%	72.8%	72.1%	71.7%
地域の行事に参加する	69.3%	64.5%	53.2%	43.6%
近所の人と話をする	63.2%	57.7%	53.3%	49.7%

³⁴ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査 2015 速報版」。

(2) 困っていることや悩んでいることがあったときの相談相手

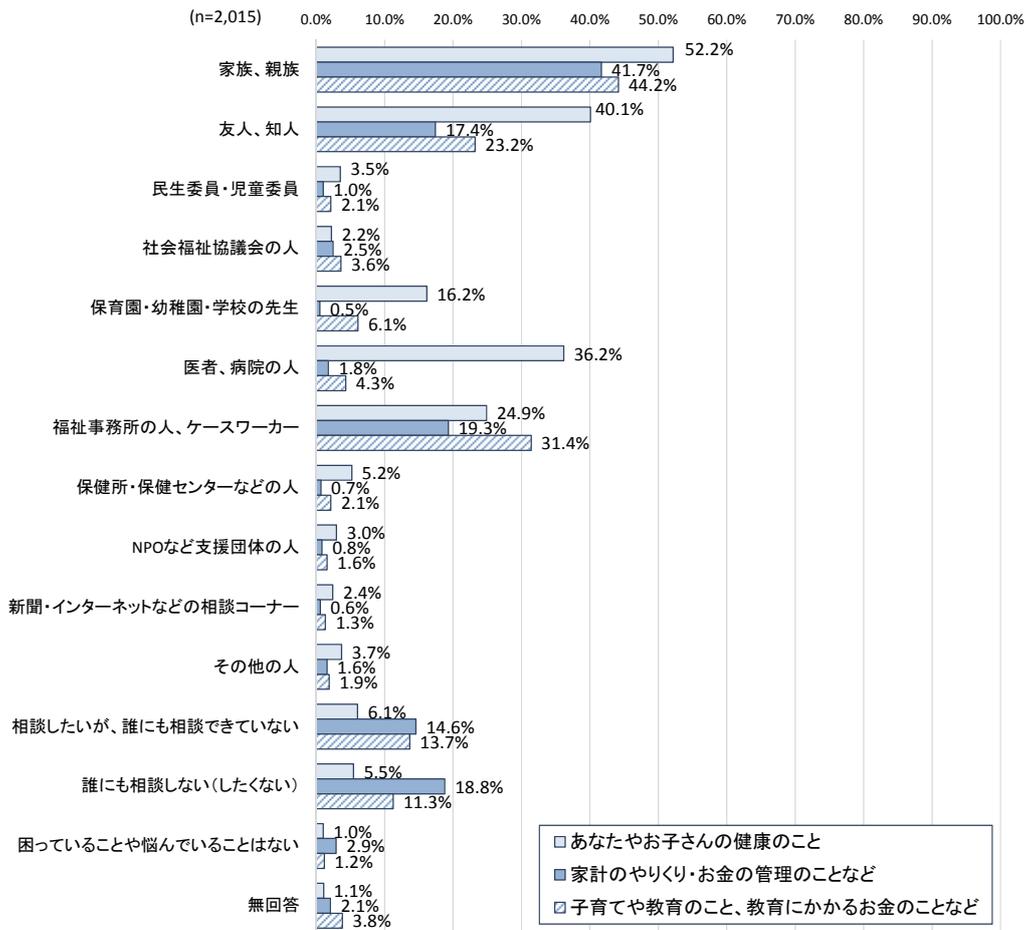
困っていることや悩んでいることがあったときに相談する相手については、いずれの観点も「家族、親族」の回答割合が最も高くなっている。「健康のこと」に関しては、次いで「友人、知人」が40.1%、「医者、病院の人」が36.2%、「福祉事務所の人、ケースワーカー」が24.9%となっている。

「家計のやりくり・お金の管理のことなど」に関しては、「福祉事務所の人、ケースワーカー」が19.3%で、「誰にも相談しない（したくない）」が18.8%となっている。

「子育てや教育のこと、教育にかかるお金のことなど」に関しては、「福祉事務所の人、ケースワーカー」が31.4%、「友人、知人」が23.2%、「相談したいが、誰にも相談できていない」が13.7%となっている。

- 保(15) あなたやお子さんの健康のこと困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。
- 保(18) 家計のやりくり・お金の管理のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。
- 保(27) 子育てや教育のこと、教育にかかるお金のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

図表 2-1-6-3 困っていることや悩んでいることがあったときの相談相手【複数回答】



2-1-7 困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等

保護者が困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等について、自由記述により、557人から回答があった。

分類別³⁵に最も件数が多かったのは、「生活費、生活の苦しさ」に関する内容で、生活費が足りていない状況や、その状況からなかなか抜け出せないことなどについて回答があった。

このほか、「子どもの将来、進学・進路」、「保護者や家族の健康・障がい」、「所有物（車、家電製品など）、住居」、「子どもの健康・障がい」に関する回答が比較的多くみられた。

保(29) あなたが今、困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

図表 2-1-7-1 保護者が困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等【自由記述】

回答内容の分類	件数	回答内容の要約・例
生活費、生活の苦しさ	142	<p>○思うように収入を得られない。また、習い事や学校での必要経費にお金がかかり、自分のために使えるお金がまったくない。</p> <p>○毎日の生活は苦しい。子どものものは何かと高額なため、支給額以上のお金がかかります。貧困な生活からなかなか抜け出すことはできません。</p> <p>○毎月の保護のお金は助かりますが、光熱費を払うとほとんど残りません。毎日毎日、一か月どうやって過ごすか悩んでいます。</p> <p>○もう少し母子家庭に手厚くなるといいです。パートで働いていますが、食べる量も増えてきたし、部活もしたいと言われても、先にお金のことがあるのでなかなか難しいです。</p> <p>○急な出費で予定通りの手取り額にならず、買物（食料品）ができなくなることもある。毎月ギリギリの生活費で、子どもたちと出かけたり、思い出に残るようなことをしたことがない。</p>
子どもの将来、進学・進路	107	<p>○子どもが大きくなるにつれて学校費用などお金がかかるようになり、大学に行きたいという子にダメと言いたくないし、過ごしていけるか不安になる。</p> <p>○病気の子ども2人との生活の中で、上の子は専門学校へ行きたいと言っていますが、入学金とかいろいろかかるため、行かせることができない。</p> <p>○高等学校などに入る費用がいくらかかるのかわからないので不安です。</p> <p>○まだ小学生ですが、将来についてどのような道があるのか相談させていただきたいです。</p>

(次ページに続く)

³⁵ ひとりの人が複数の分類にまたがる内容の回答をしている場合には、それぞれの分類に件数をカウントした。なお、比較的件数が多く見られた分類の内容について、回答の一部を例示した。

図表 2-1-7-2 保護者が困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等

(前ページの続き)【自由記述】

回答内容の分類	件数	回答内容の要約・例
保護者や家族の健康・障がい	90	<p>○日によって体調が変動するので、相談会などの予約ができない（行かれる自信がない）。</p> <p>○高齢になってきているのと、膝を悪くしているので、仕事がなかなかみつからない。</p> <p>○仕事をしたいのですが、体調が不安定。自宅でする仕事がしたいのですが、情報が少ない。</p> <p>○常にギリギリの生活。健康なら仕事もたくさんして稼げるが、身体にケガなどあると、短時間のパートしか行けない。生活できない。</p>
所有物（車、家電製品など）、住居	64	<p>○車がないので、子どもがクラブ（スポーツ）に入れない（送迎ができない）。</p> <p>○子どもたちに自宅で勉強する場所がないと言われます。洋服や靴も買ってあげられない。お小遣いもあげられない。携帯や一人一人の自転車などをほしがる。</p> <p>○必要な物を揃えられない。寒さや暑さの時期に費用が足りなくて困る。</p>
子どもの健康・障がい	61	<p>○母子家庭で子どもは発達障がい。小学校で学習支援学級に通っているが、中学、高校卒業、就職、自立できるか心配です。</p> <p>○発達障がい（ADHD）のせいで落ち着きがなく、突発的な動きに私がついていけません。親の心のケアが必要な時もあります。</p> <p>○子どもが2人いますが、2人とも知的遅れのない発達障がい、主に人間関係やコミュニケーションに問題を抱え、ひきこもりになっています。小・中学校において、不登校の子に対するケアが不足していると思います。</p>

2-2 子どもの状況

【子どもの状況に関する概要】

<家庭での生活状況>

- 保護者との関係性について、「やりたいことを応援してくれる」や「失敗した時には励ましてくれる」ということについては8割以上が「とてもあてはまる」または「まああてはまる」と回答しており、一般的な世帯よりも若干高くなっている (p.46 図表 2-2-2-6~p.47 図表 2-2-2-8)。
- 夕食を食べないことがある (p.48 図表 2-2-2-11~2-2-2-12)、毎日入浴しない (p.49 図表 2-2-3-1~図表 2-2-3-2) と回答した子どもは約1割見られる。また、食事の内容として、「野菜」を食べる頻度が一般的な世帯と比べて低い傾向が見られる (p.54 図表 2-2-3-19~p.55 図表 2-2-3-21)。

<健康状態>

- 健康状態の自己認識については一般的な世帯の子どもと大きな違いは見られない (p.58 図表 2-2-3-27~図表 2-2-3-29) が、肥満傾向にある子どもの割合は比較的高い (p.56 図表 2-2-3-22~図表 2-2-3-23) と考えられ、虫歯がある子どもの割合も比較的高くなっている (p.57 図表 2-2-3-24~図表 2-2-3-26)。

<学習の状況、学校生活>

- 自宅に勉強をすることができる場所や勉強机がない割合が一般的な世帯の子どもと比べて高くなっている (p.44 図表 2-2-2-3~p.45 図表 2-2-2-5)。小学生・中学生で勉強が好きと回答する割合は一般的な世帯の子どもと比べ低く (p.59 図表 2-2-4-1~図表 2-2-4-2)、学校の授業がわかるという回答割合も比較的低い (p.60 図表 2-2-4-3~図表 2-2-4-4)。また、1日あたりの学習時間が比較的短い子どもの割合が高く (p.63 図表 2-2-4-9~図表 2-2-4-10)、学習の面で課題を抱えている子どもが比較的多いことがうかがえる。
- 先生との関係 (p.61 図表 2-2-4-5~図表 2-2-4-6) や友だちとの関係 (p.62 図表 2-2-4-7~図表 2-2-4-8) についてうまくいっていると回答する割合が一般的な世帯の子どもと比べて低く、約3割の子どもが中学生までの段階で不登校を経験している (p.64 図表 2-2-4-11~図表 2-2-4-12)。
- 将来の進学に対する意識として、大学まで進学したいと考える割合が一般的な世帯の子どもと比較して低くなっている (p.69 図表 2-2-5-7~図表 2-2-5-9)。
- 学習支援については、現在利用している場合には小学生・中学生・高校生ともに勉強がわかるようになったなど肯定的な評価が得られている (p.71 図表 2-2-6-3~図表 2-2-6-4)。他方、特に中学生では、対象学年ではあるがあまり意味がなかったからという理由で利用しなくなった子どもも見られる (p.73 図表 2-2-6-7~図表 2-2-6-8)。

<支援ニーズ等>

- 小学生・中学生・高校生ともに、「学校のことでお金がかからないようにしてほしい」の回答割合が高く、小学生・中学生では「勉強をもっとわかりやすく教えてほしい」などについても回答割合が比較的高くなっている (p.77 図表 2-2-7-1~図表 2-2-7-2)。
- 自由記述による回答では、進学・進路の希望と現実についてお金の面での心配があること、学校でいじめなどの問題があることなどが比較的多く挙げられている (p.79 図表 2-2-8-1~p.80 図表 2-2-8-2)。

2-2-1 回答者の属性

(1) 性別、年齢

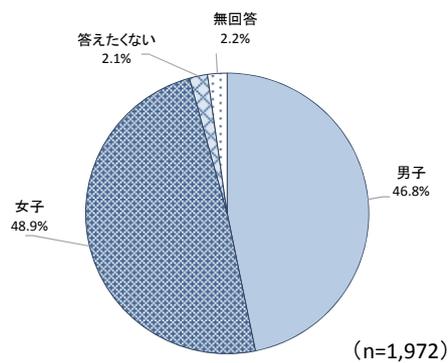
子どもの性別について、男子・女子それぞれ同程度の回答が得られている。

年齢についても、本調査は10～18歳の子どもを対象としたが、大きな偏りなく各年齢から回答が得られている。

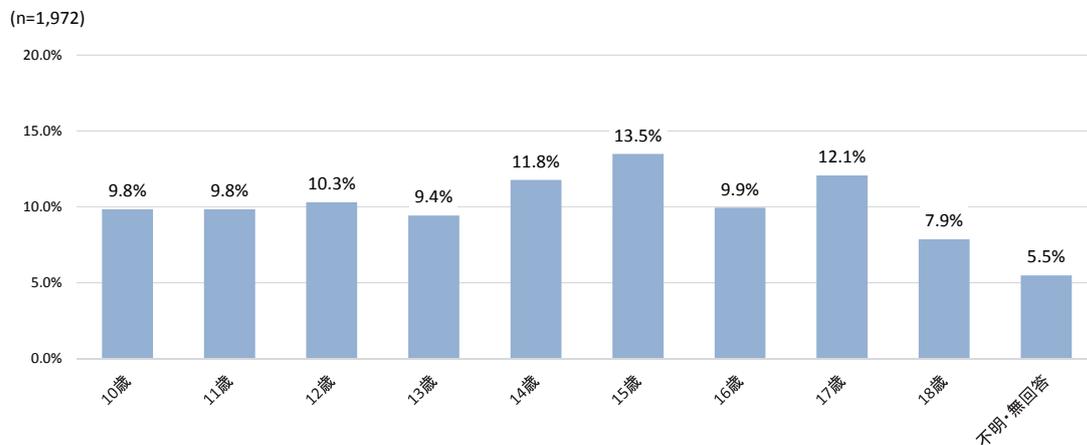
子(1) あなたの性別を教えてください。

子(2) あなたのいまの年齢、身長、体重を教えてください。

図表 2-2-1-1 子どもの性別



図表 2-2-1-2 子どもの年齢



(2) 学校の在籍状況

①現在の在籍状況

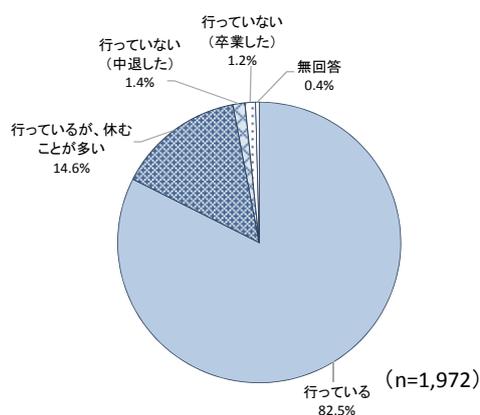
現在学校に行っているかについては、「行っている」が 82.5%、「行っているが、休むことが多い」が 14.6%であった。

行っている学校の種類としては、「小学校」が 29.3%、中学校が 35.9%、高等学校が 30.3%となっている。

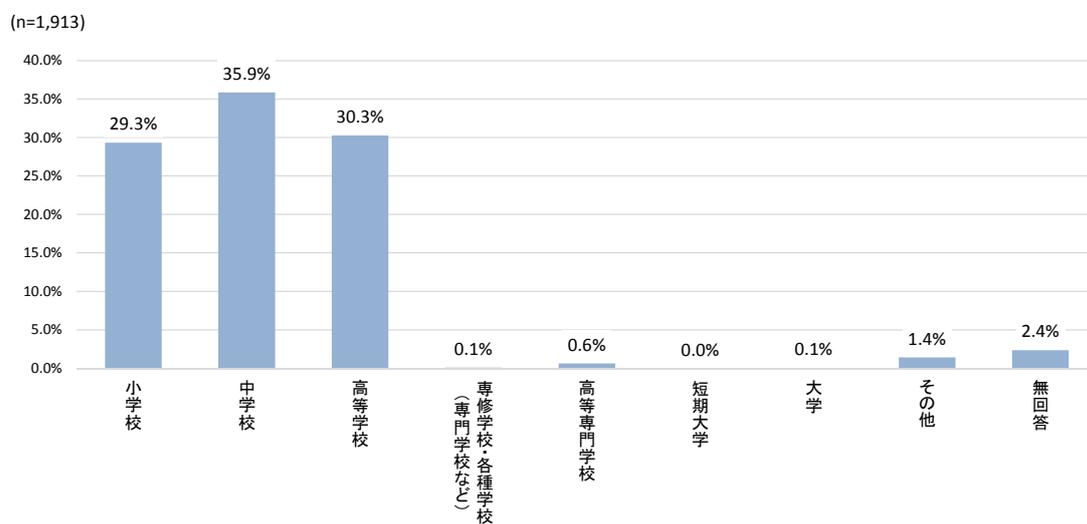
子(4) あなたは、学校に行っていますか。

子(5) 行っている学校の種類と学年を教えてください。

図表 2-2-1-3 現在学校に行っているか



図表 2-2-1-4 行っている学校の種類



②中退・卒業者の状況

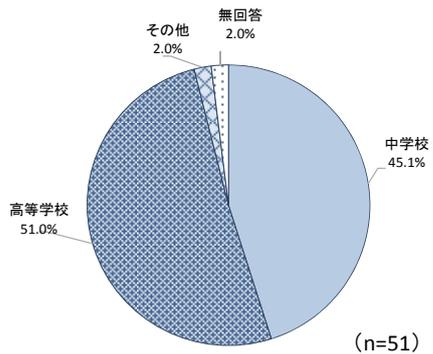
現在学校に「行っていない（中退した）」または「行っていない（卒業した）」と回答した場合に、最後に通った学校の種類としては、「高等学校」が51.0%、「中学校」が45.1%であった。

また、現在の状況としては、「働いていない（特に求職はしていない）」が47.1%であった。

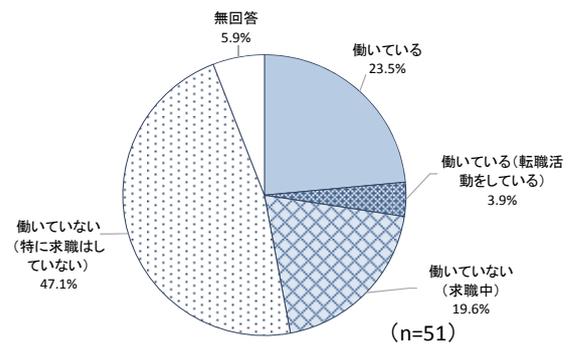
子(6) 最後に通った学校の種類を教えてください。

子(7) 現在、働いていますか。

図表 2-2-1-5 最後に通った学校



図表 2-2-1-6 現在働いているか

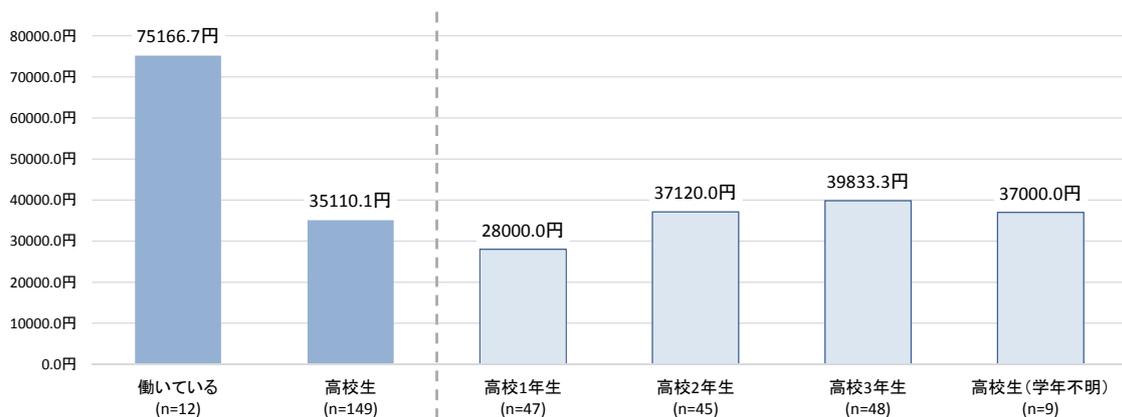


(3) 就労・アルバイトによる収入

現在働いている場合、または学校に通いながらアルバイトをしている場合に1か月あたりの収入額（平均値）は、働いている場合で約7.5万円、高校生のアルバイトで約3.5万円であった。高校生のアルバイトでは高学年のほうが収入額の平均値が高くなっている。

子(8) 現在の就労による1か月あたりの収入額をお答えください。

図表 2-2-1-7 就労・アルバイトによる収入（1か月あたりの平均値）



	働いている	高校生	1年生	2年生	3年生	学年不明
平均値	75,167円	35,110円	28,000円	37,120円	39,833円	37,000円
中央値	67,500円	30,000円	25,000円	36,000円	35,000円	45,000円
最小値	5,000円	1,000円	6,000円	10,000円	10,000円	1,000円
最大値	190,000円	100,000円	80,000円	90,000円	100,000円	60,000円

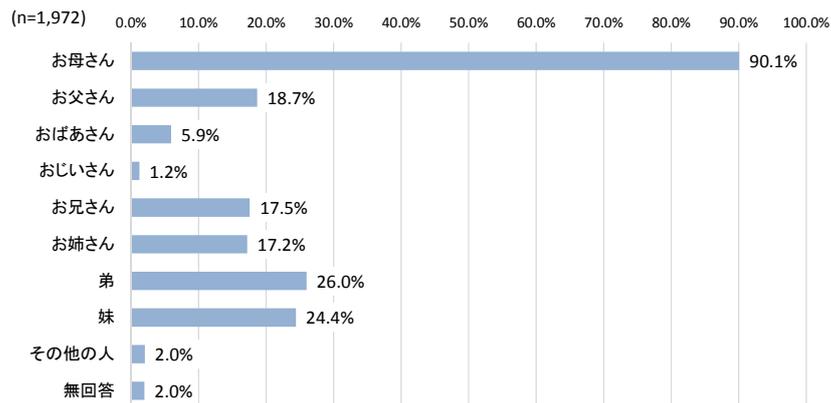
2-2-2 子どもが置かれている生活環境

(1) 一緒に住んでいる人

一緒に住んでいる人は、「お母さん」が90.1%、「お父さん」が18.7%、「おばあさん」が5.9%であった。

子(3) あなたと一緒に住んでいる人を教えてください。

図表 2-2-2-1 一緒に住んでいる人【複数回答】

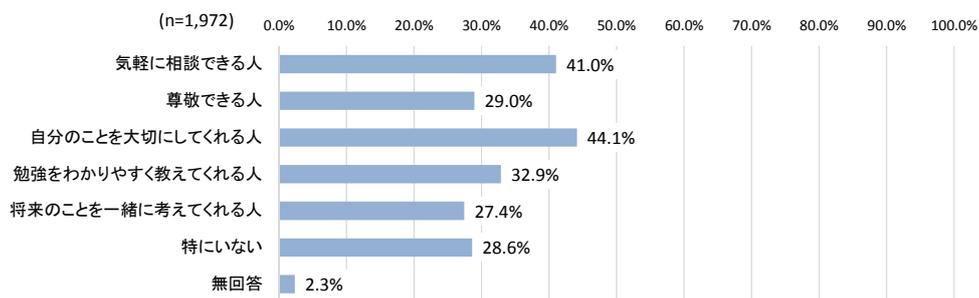


(2) 家族以外の大人との関係

家族以外の大人との関係について、周囲にいると回答したのは、「自分のことを大切にしてくれる人」が44.1%、「気軽に相談できる人」が41.0%で、「特にない」と回答したのは28.6%であった。

子(19) あなたのまわりには、家族以外で、次のような大人はいますか。

図表 2-2-2-2 家族以外で周囲にいる大人【複数回答】



(3) 自分が使うことができるものの保有の状況

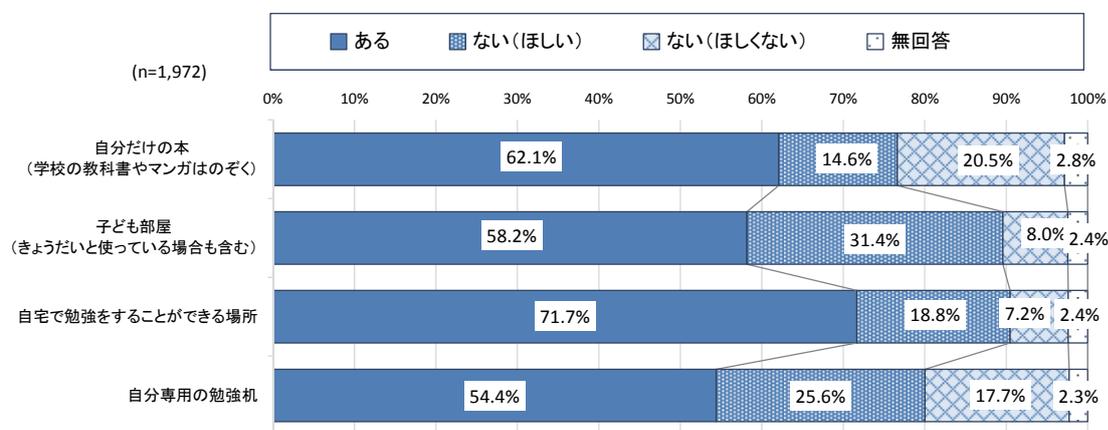
自分が使うことができるものとして、現在持っておらず「ほしい」と回答した割合は、「自分だけの本」については14.6%、「子ども部屋」については31.4%、「自宅で勉強をすることができる場所」については18.8%、「自分専用の勉強机」については25.6%であった。

教育段階別では、小学生では「子ども部屋」や「自分専用の勉強机」について「ほしい」と回答した割合が比較的高くなっている³⁶。

また、他の調査³⁷での一般的な世帯の小・中学生と比較すると、「自分だけの本」などについて現在持っておらず「ほしい」と回答した割合は、生活保護世帯のほうが10~20ポイント程度高くなっている。

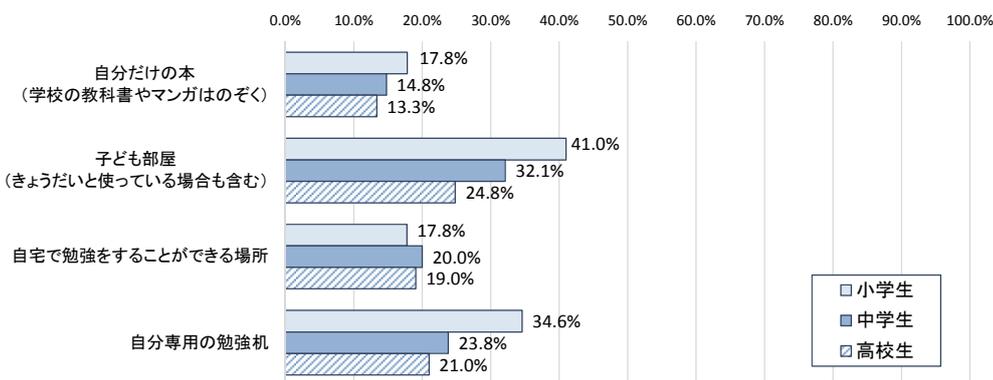
子(17) あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。

図表 2-2-2-3 自分が使うことができるものの保有の状況



図表 2-2-2-4 教育段階別、自分が使うことができるものの保有の状況

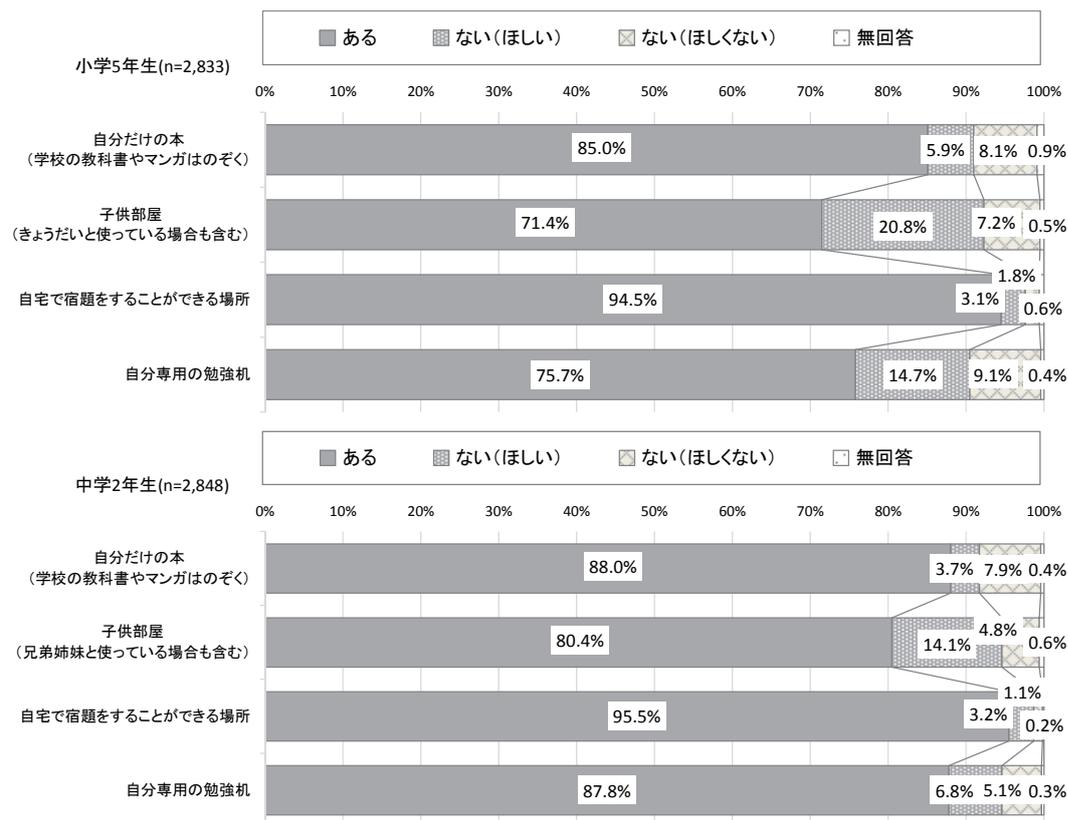
(現在持っておらず「ほしい」と回答した割合)



³⁶ 教育段階別の集計について、自分が使うことができるものの保有の状況に関し無回答のものは集計の対象外とした。なお、項目により教育段階別の集計対象件数が異なるが、ここでは表記を省略した。

³⁷ 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター「東京都子供の生活実態調査報告書」(平成29年3月)。

表 2-2-2-5 (参考：東京都調査) 教育段階別、自分が使うことができるものの保有の状況



(4) 保護者の人との関係

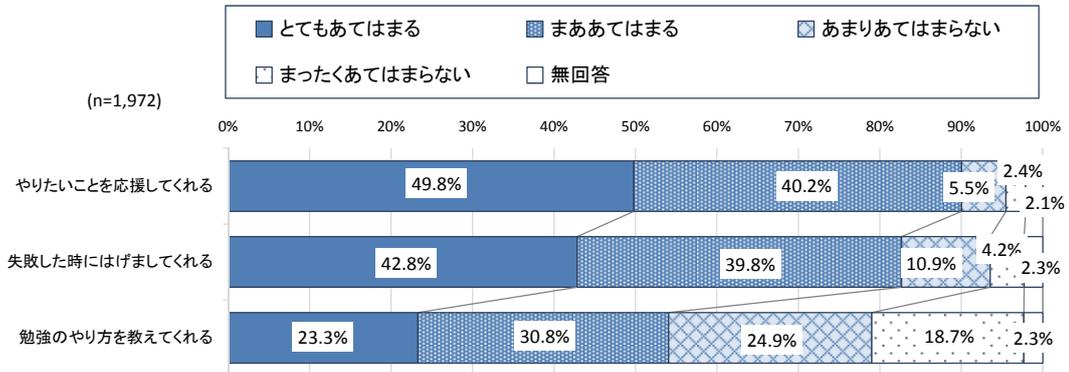
保護者の人との関係について、「とてもあてはまる」または「まああてはまる」と回答したのは、「やりたいことを応援してくれる」に関しては 90.0%、「失敗した時にはげましてくれる」に関しては 82.6%、「勉強のやり方を教えてくれる」に関しては 54.1%であった。

教育段階別では、「勉強のやり方を教えてくれる」については中学生では 50.1%、高校生では 44.4%と小学生と比較して低くなっている³⁸。

他の調査³⁹での一般的な世帯の子どもとの比較をすると、「やりたいことを応援してくれる」や「失敗したときにはげましてくれる」に関しては、生活保護世帯のほうが「とてもあてはまる」または「まああてはまる」の回答割合が高くなっている。また、「勉強のやり方を教えてくれる」についても、高校生に関しては生活保護世帯のほうが回答割合が高くなっている。

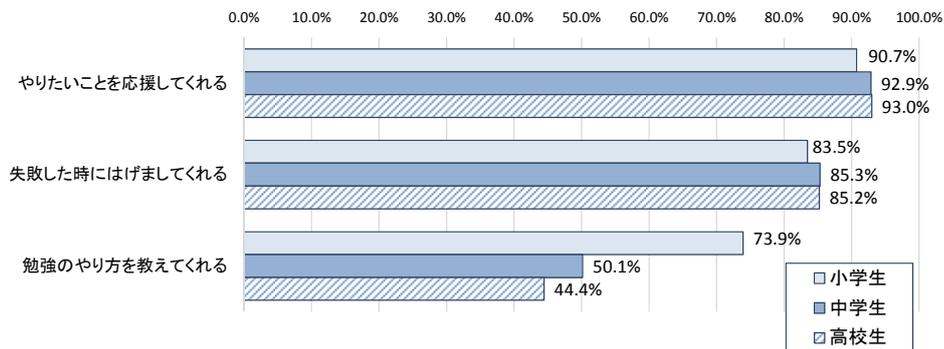
子(18) 保護者の方（お母さんやお父さん、おばあさんやおじいさんなど）について、下に書いてあることはどれくらいあてはまりますか。

図表 2-2-2-6 保護者の人との関係



図表 2-2-2-7 教育段階別、保護者の人との関係

（「とてもあてはまる」または「まああてはまる」の割合）



³⁸ 教育段階別の集計について、保護者の人との関係に関しそれぞれ無回答のものは集計の対象外とした。なお、項目により教育段階別の集計対象件数が異なるが、ここでは表記を省略した。

³⁹ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査 2015 速報版」。

図表 2-2-2-8 (参考：民間調査) 保護者の人との関係

(「とてもあてはまる」または「まああてはまる」の割合)

	小学 4～6 年生	中学生	高校生
やりたいことを応援してくれる	85.5%	85.3%	87.8%
失敗したときにはげましてくれる	81.0%	78.1%	76.9%
勉強のやり方を教えてくれる	79.6%	56.3%	30.2%

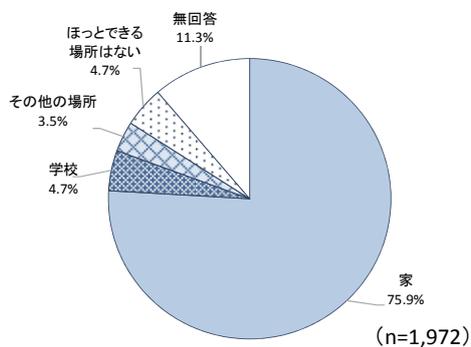
(5) 最もほっとできる場所

最もほっとできる場所については、「家」が 75.9%で、「ほっとできる場所はない」と回答した割合は 4.7%であった。

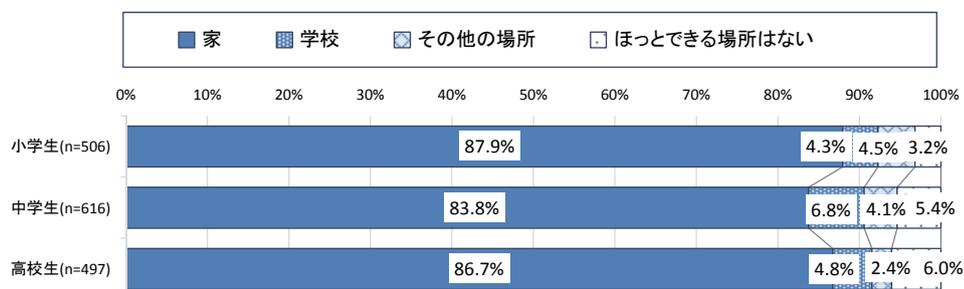
教育段階別では、「ほっとできる場所はない」の回答割合は、小学生で 3.2%、中学生で 5.4%、高校生で 6.0%となっている⁴⁰。

子(20) あなたが最もほっとできる場所は次の中のどこですか。

図表 2-2-2-9 最もほっとできる場所



図表 2-2-2-10 教育段階別、最もほっとできる場所



⁴⁰ 教育段階別の集計について、最もほっとできる場所に関し無回答のものは集計の対象外とした。

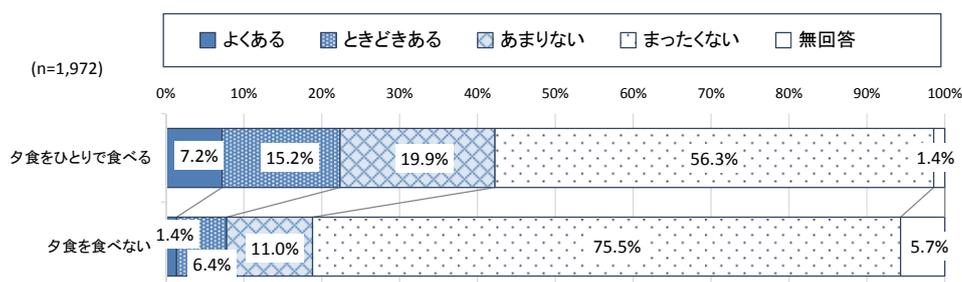
(6) 夕食の状況

「夕食をひとりで食べる」ことがどの程度あるかについて、「よくある」または「ときどきある」と回答したのは、22.4%であった。また、「夕食を食べない」ことについて「よくある」または「ときどきある」と回答したのは7.8%であった。

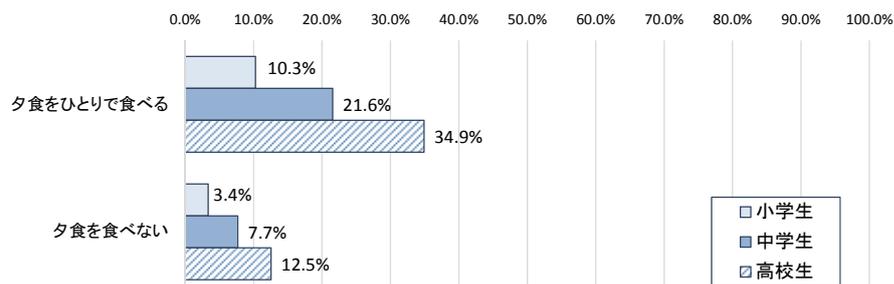
教育段階別では、「夕食をひとりで食べる」と「夕食を食べない」ともに、教育段階が高いほうが「よくある」または「ときどきある」の回答割合が高くなっている⁴¹。

子(13) あなたは、毎日の生活のなかで、下を書いてあることがどれくらいありますか。

図表 2-2-2-11 夕食の状況



図表 2-2-2-12 教育段階別、夕食の状況（「よくある」または「ときどきある」の割合）



⁴¹ 教育段階別の集計について、夕食の状況に関しそれぞれ無回答のものは集計の対象外とした。なお、項目により教育段階別の集計対象件数が異なるが、ここでは表記を省略した。

2-2-3 子どもの生活習慣・健康

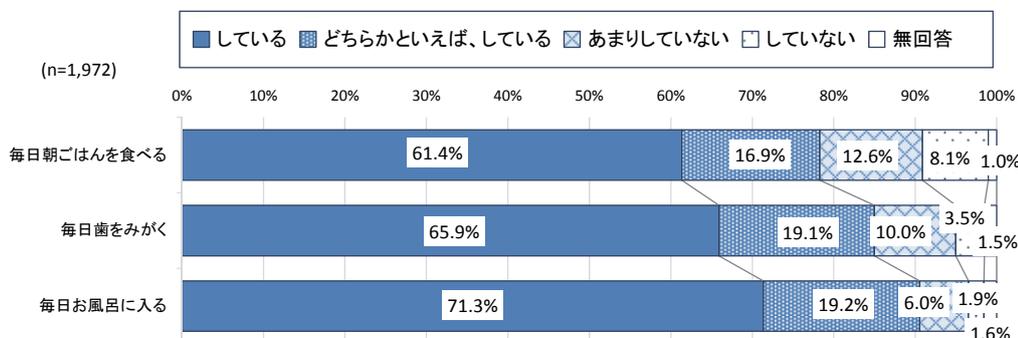
(1) 毎日の習慣

毎日の朝食、歯磨き、入浴の習慣について、「している」または「どちらかといえばしている」と回答した割合は、「毎日朝ごはんを食べる」については78.3%、「毎日歯をみがく」については85.0%、「毎日お風呂に入る」については90.5%であった。

教育段階別では、「している」または「どちらかといえばしている」の回答割合について、「毎日朝ごはんを食べる」については小学生のほうが比較的割合が高く、「毎日歯をみがく」については高校生のほうが比較的割合が高くなっている⁴²。

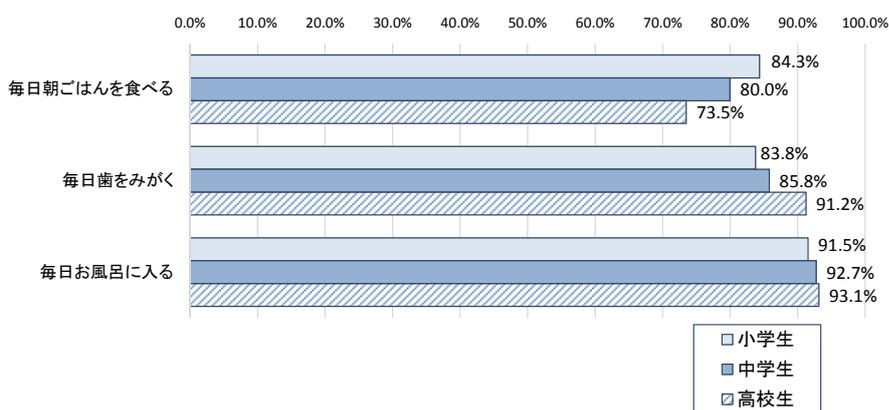
子(12) あなたは、次のことをどれくらいしていますか。

図表 2-2-3-1 毎日の朝食、歯磨き、入浴の習慣



図表 2-2-3-2 教育段階別、毎日の朝食、歯磨き、入浴の習慣

(「している」または「どちらかといえばしている」の割合)



⁴² 教育段階別の集計について、毎日の朝食、歯磨き、入浴の習慣に関しそれぞれ無回答のものは集計の対象外とした。なお、項目により教育段階別の集計対象件数が異なるが、ここでは表記を省略した。

(2) ふだん起きる時間・寝る時間

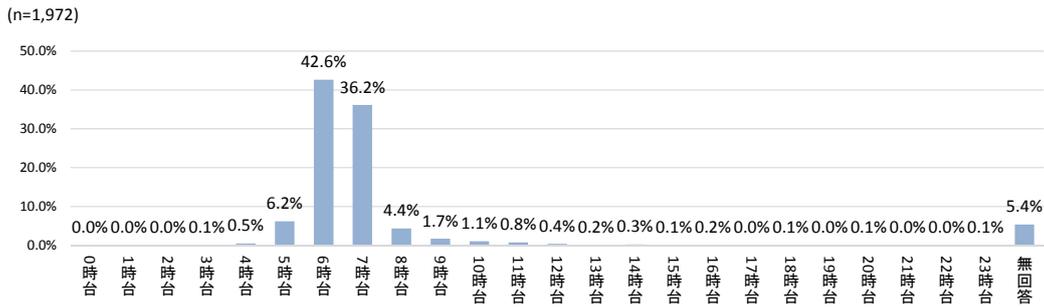
①回答者全体

ふだん起きる時間は、平日については「6時台」が42.6%、「7時台」が36.2%であった。休日については、「8時台」が22.6%、「9時台」が19.2%となっている。

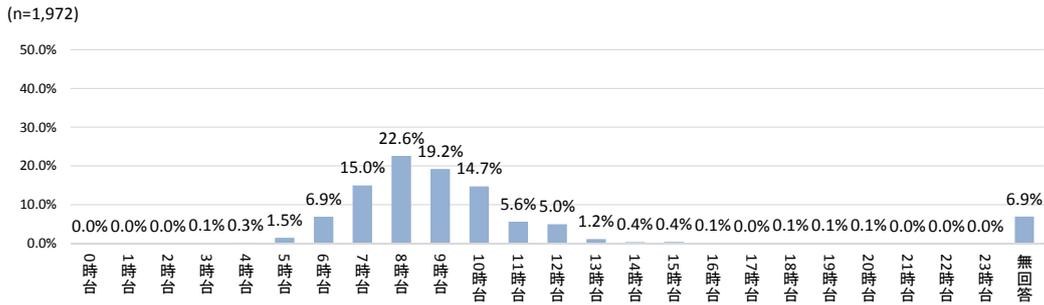
また、ふだん寝る時間は、平日については「23時台」が25.5%、「22時台」が24.9%であった。休日については、「23時台」が25.8%、「0時台」が23.0%となっている。

子(21) あなたが普段起きる時間と寝る時間を教えてください。

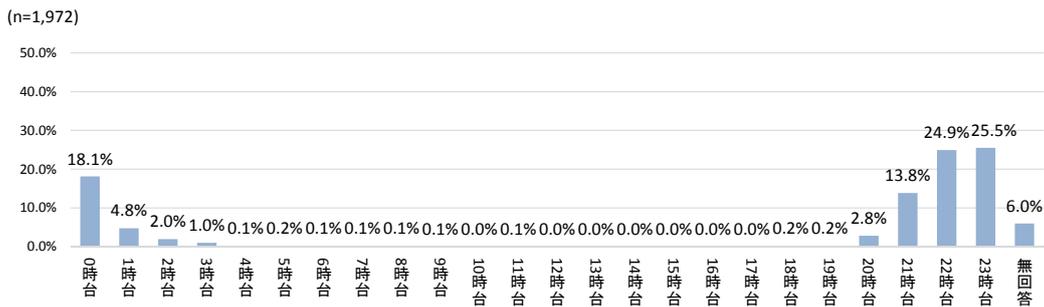
図表 2-2-3-3 起きる時間（平日）



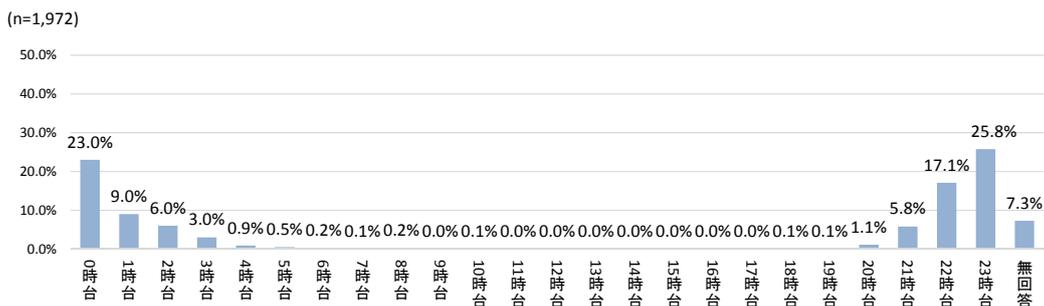
図表 2-2-3-4 起きる時間（休日）



図表 2-2-3-5 寝る時間（平日）



図表 2-2-3-6 寝る時間（休日）



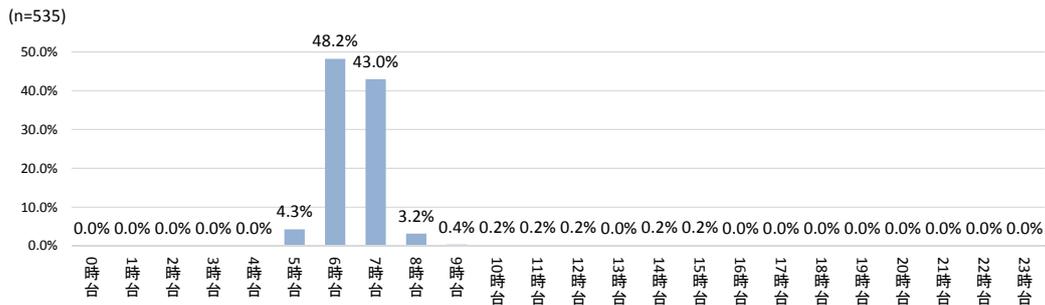
②小学生

小学生がふだん起きる時間は、平日については「6時台」が48.2%、「7時台」が43.0%であった。休日については、「8時台」が32.9%、「7時台」が21.6%となっている。

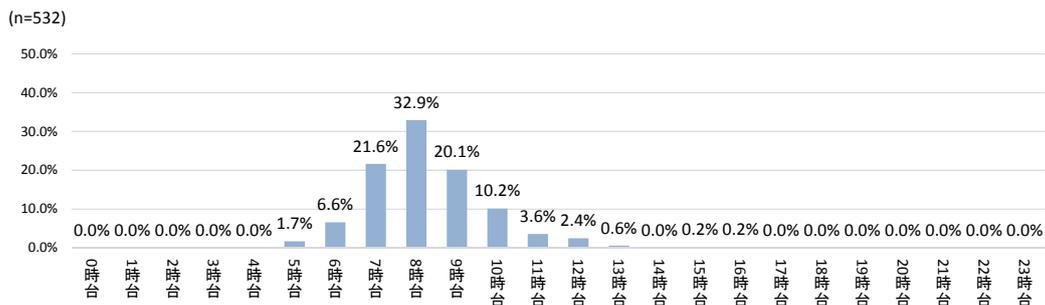
また、ふだん寝る時間は、平日については「22時台」が39.7%、「21時台」が33.0%であった。休日については、「22時台」が33.5%、「23時台」が31.2%となっている⁴³。

子(21) あなたが普段起きる時間と寝る時間を教えてください。

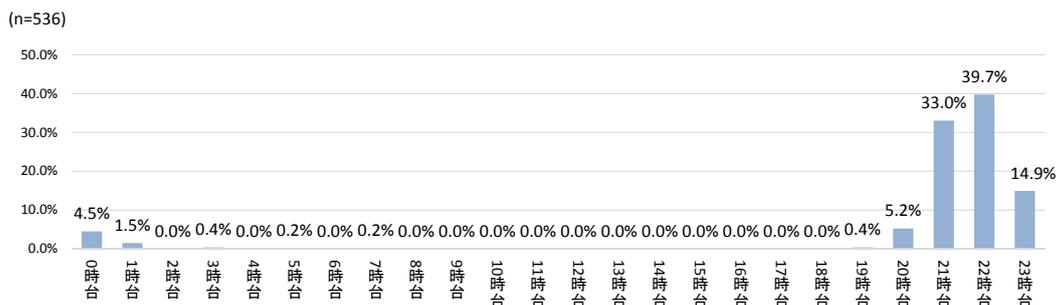
図表 2-2-3-7 起きる時間（平日）



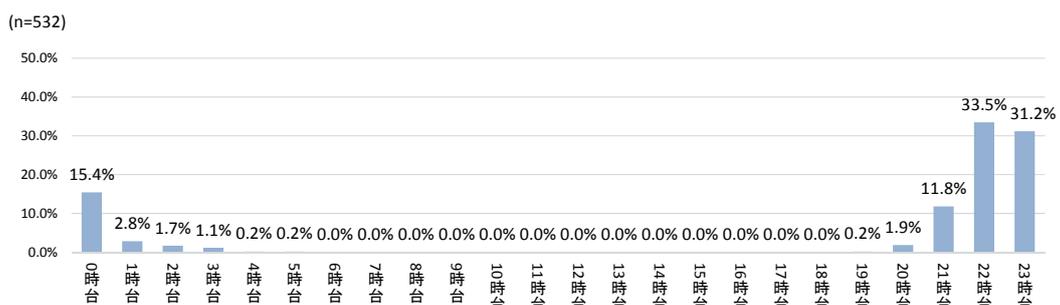
図表 2-2-3-8 起きる時間（休日）



図表 2-2-3-9 寝る時間（平日）



図表 2-2-3-10 寝る時間（休日）



⁴³ 起きる時間・寝る時間ともに、無回答のものは集計の対象外とした。

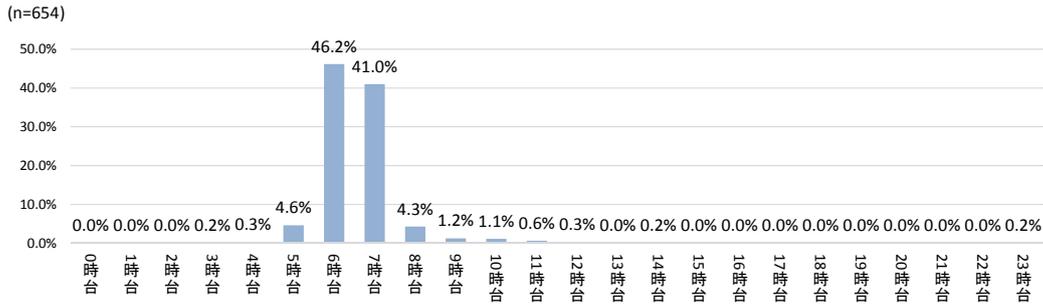
③中学生

中学生がふだん起きる時間は、平日については「6時台」が46.2%、「7時台」が41.0%であった。休日については、「9時台」が25.4%、「8時台」が21.2%となっている。

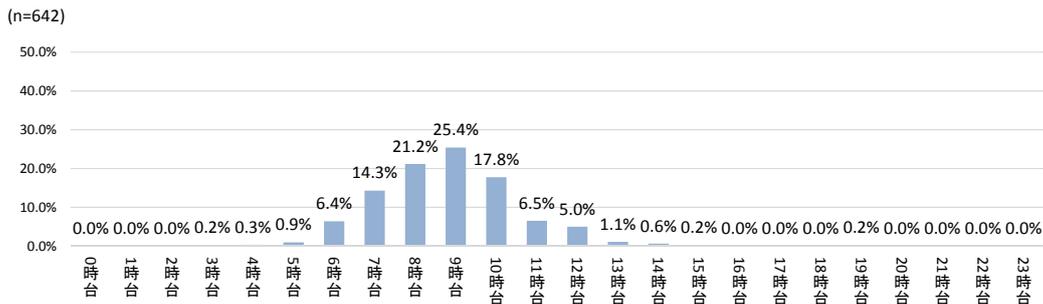
また、ふだん寝る時間は、平日については「23時台」が31.8%、「22時台」が27.2%であった。休日については、「23時台」が29.7%、「0時台」が26.3%となっている⁴⁴。

子(21) あなたが普段起きる時間と寝る時間を教えてください。

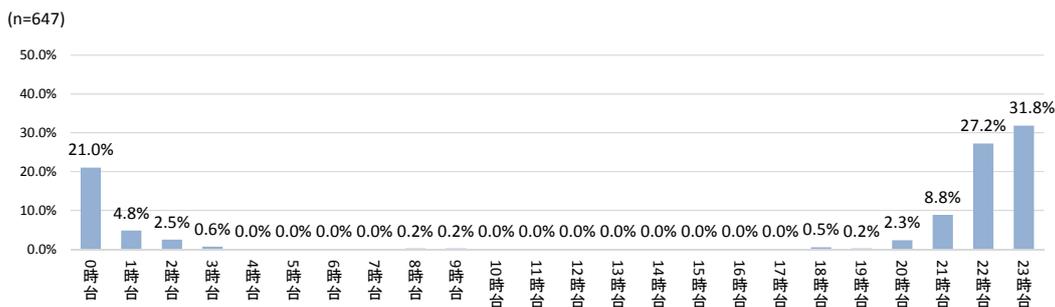
図表 2-2-3-11 起きる時間（平日）



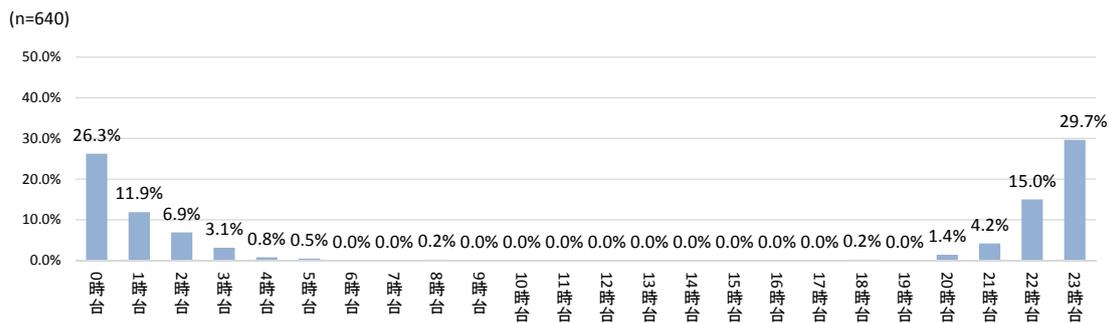
図表 2-2-3-12 起きる時間（休日）



図表 2-2-3-13 寝る時間（平日）



図表 2-2-3-14 寝る時間（休日）



⁴⁴ 起きる時間・寝る時間ともに、無回答のものは集計の対象外とした。

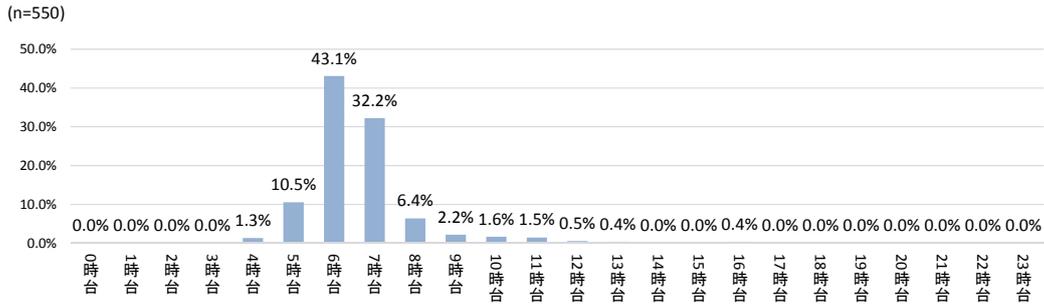
④高校生

高校生がふだん起きる時間は、平日については「6時台」が43.1%、「7時台」が32.2%であった。休日については、「8時台」が20.8%、「10時台」が19.2%となっている。

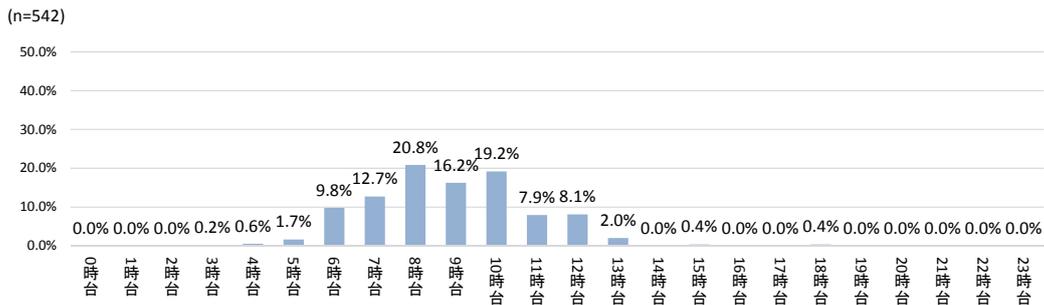
また、ふだん寝る時間は、平日については「23時台」が34.5%、「0時台」が32.7%であった。休日については、「0時台」が33.6%、「23時台」が23.2%となっている⁴⁵。

子(21) あなたが普段起きる時間と寝る時間を教えてください。

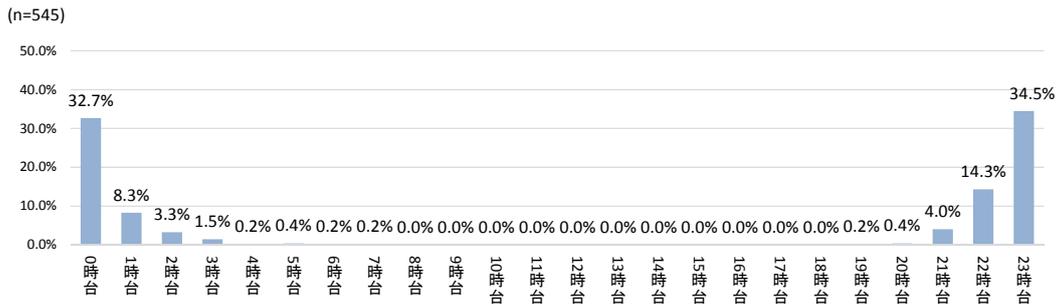
図表 2-2-3-15 起きる時間（平日）



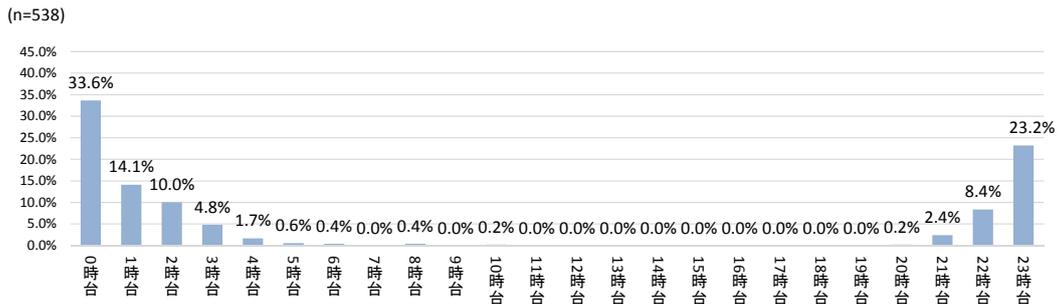
図表 2-2-3-16 起きる時間（休日）



図表 2-2-3-17 寝る時間（平日）



図表 2-2-3-18 寝る時間（休日）



⁴⁵ 起きる時間・寝る時間ともに、無回答のものは集計の対象外とした。

(3) 給食以外の食事の内容

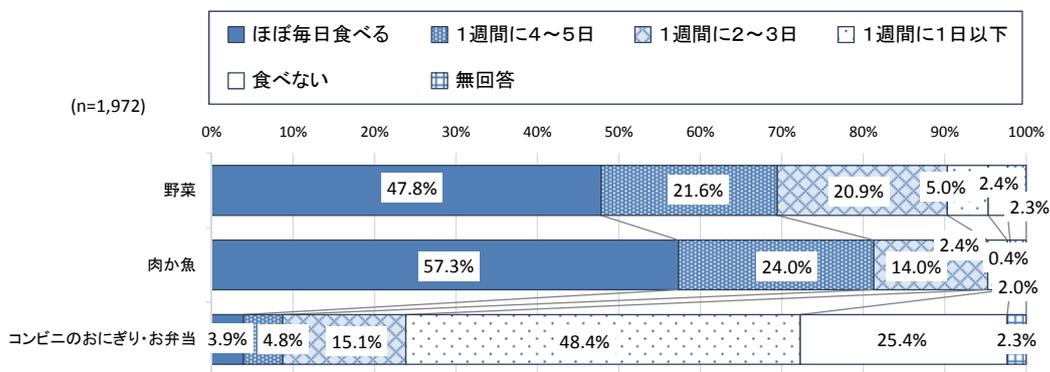
給食以外に食べる物として、「野菜」は「ほぼ毎日食べる」が47.8%、「肉か魚」は「ほぼ毎日食べる」が57.3%、「コンビニのおにぎり・お弁当」は「1週間に1日以下」が48.4%となっている。

教育段階別では、「野菜」や「肉か魚」については小学生のほうが食べる頻度が比較的高く、「コンビニのおにぎり・お弁当」については高校生のほうが食べる頻度が比較的高くなっている⁴⁶。

他の調査⁴⁷での一般的な世帯の小・中学生と比較すると、「野菜」を「ほぼ毎日食べる」の回答割合は、生活保護世帯のほうが20～30ポイント程度低くなっている。

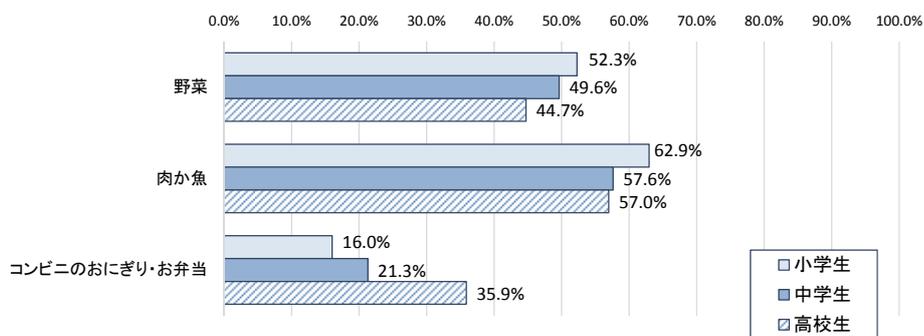
子(14) あなたは、給食以外で、次の食べ物をふだんどれくらい食べますか。

図表 2-2-3-19 給食以外の食事の内容



図表 2-2-3-20 教育段階別、給食以外の食事の内容

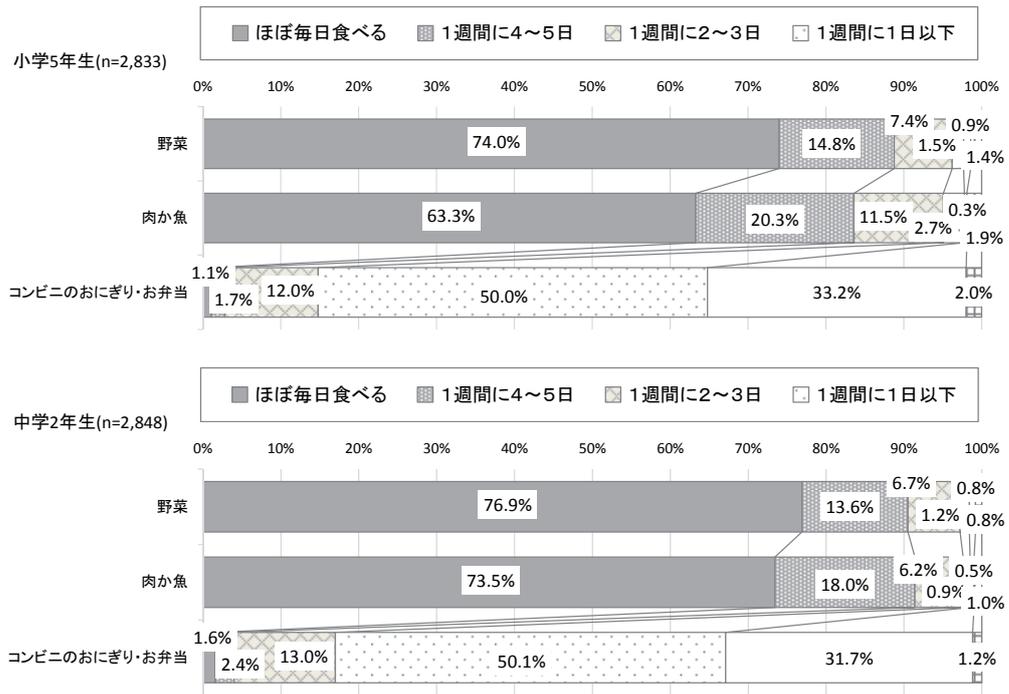
(「野菜」と「肉か魚」については「ほぼ毎日食べる」、「コンビニのおにぎり・お弁当」については「ほぼ毎日食べる」、「1週間に4~5日」、「1週間に2~3日」の割合)



⁴⁶ 教育段階別の集計について、給食以外の食事の内容に関しそれぞれ無回答のものは集計の対象外とした。なお、項目により教育段階別の集計対象件数が異なるが、ここでは表記を省略した。

⁴⁷ 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター「東京都子供の生活実態調査報告書」(平成29年3月)。

図表 2-2-3-21 (参考：東京都調査) 給食以外の食事の内容



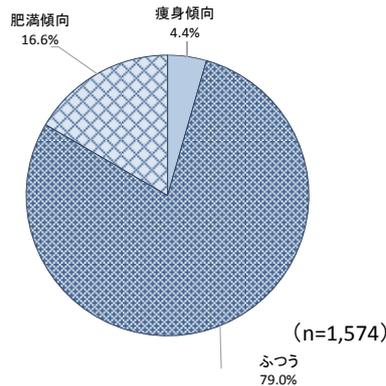
(4) 痩身・肥満の傾向

身長と体重、年齢、性別の関係性から把握される痩身・肥満の傾向⁴⁸について、「痩身傾向」に該当するのは4.4%、「肥満傾向」に該当するのは16.6%であった。

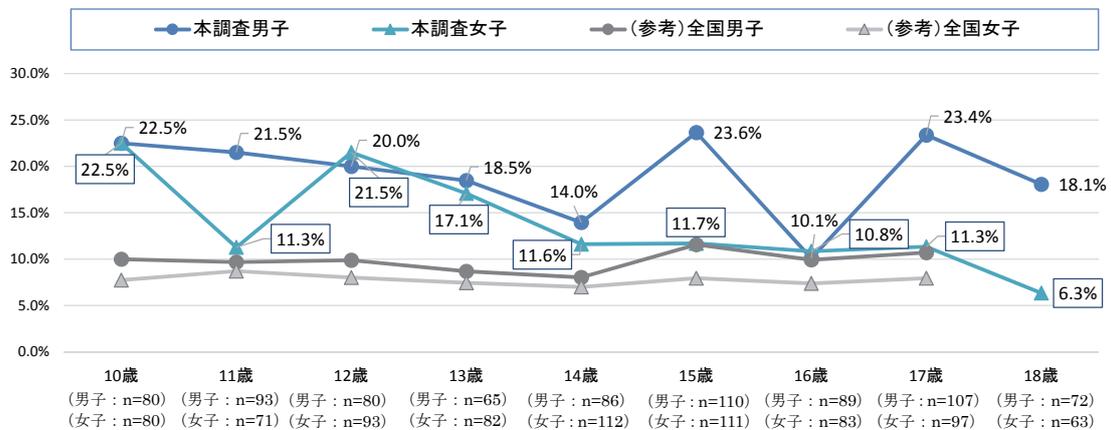
年齢・性別の肥満傾向に該当する割合について全国の子どもと比較⁴⁹すると、男子・女子ともに、生活保護世帯のほうが値が高い傾向が見られる。

子(2) あなたのいまの年齢、身長、体重を教えてください。

図表 2-2-3-22 痩身・肥満の傾向



図表 2-2-3-23 年齢・性別の肥満の傾向（参考：文部科学省調査）



⁴⁸ 文部科学省「学校保健統計」にならい、「肥満度=(実測体重(kg)-身長別標準体重(kg))/身長別標準体重(kg)×100(%)」とし、肥満度が-20%以下を痩身傾向、肥満度が20%以上を肥満傾向、いずれでもない場合は「ふつう」とし、該当する子どもの割合を算出した。身長別標準体重については、「a×実測身長(cm)-b」の式により算出し、a・bの値は年齢と性別により規定されている値を用いた(例えば10歳男子の場合はa=0.752、b=70.461)。なお、今回18歳の回答者については、17歳の場合のa・bの値を適用した。

⁴⁹ 文部科学省「平成29年度学校保健統計(学校保健統計調査報告書)の公表について」(平成30年3月26日)。

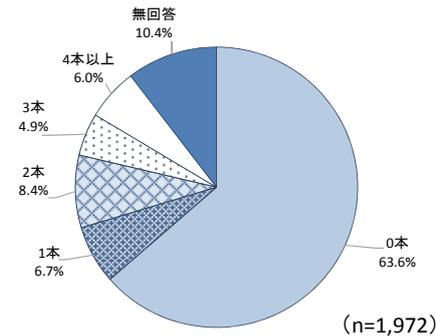
(5) 虫歯の状況

現在虫歯が何本くらいあるかについて、1本以上あるとの回答は26.0%であった。なお、虫歯が1本以上ある割合は、教育段階別では大きな違いは見られなかった⁵⁰。

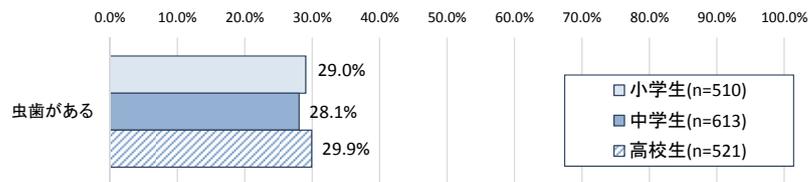
他の調査⁵¹での一般的な世帯の小・中学生と比較すると、虫歯が1本以上ある割合は生活保護世帯のほうが10~20ポイント程度高くなっている。

子(16) あなたはいま、虫歯がおおよそ何本くらいありますか。

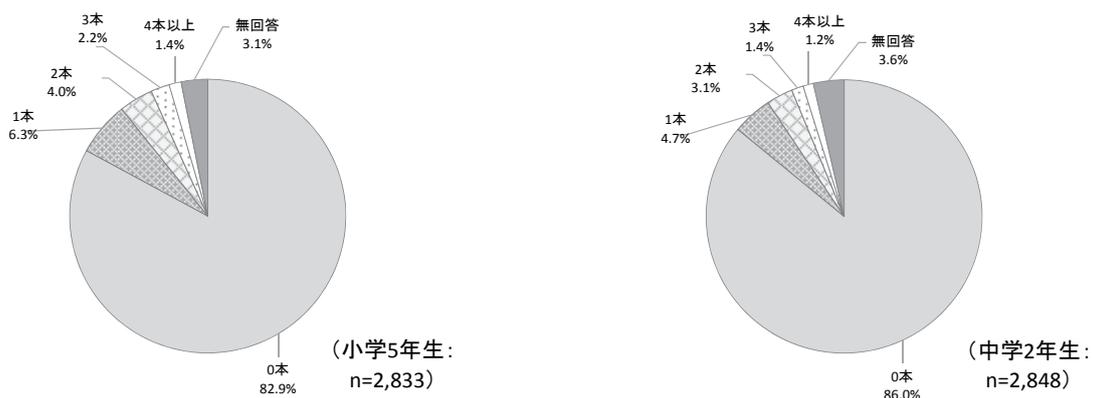
図表 2-2-3-24 虫歯の本数



図表 2-2-3-25 教育段階別、虫歯の本数（虫歯が1本以上ある割合）



図表 2-2-3-26 (参考：東京都調査) 虫歯の本数



⁵⁰ 教育段階別の集計について、虫歯の本数に関し無回答のものは集計の対象外とした。

⁵¹ 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター「東京都子供の生活実態調査報告書」(平成29年3月)。

(6) 健康状態の自己認識

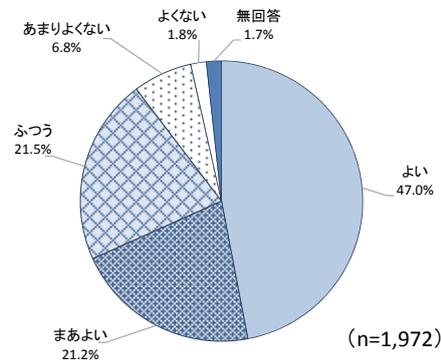
自分の健康状態の認識について、「よくない」または「あまりよくない」と回答した割合は、8.6%であった。

教育段階別では、「よくない」または「あまりよくない」の回答割合は小学生で5.8%、中学生で9.3%、高校生で9.4%となっており、「よい」の回答割合は小学生において比較的高くなっている⁵²。

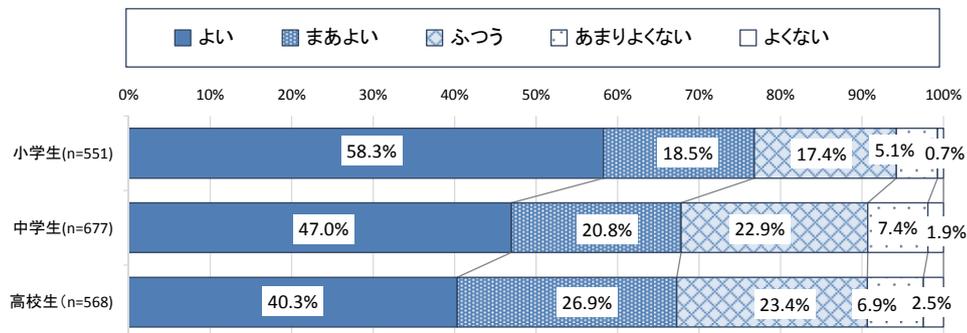
他の調査⁵³での小学生・中学生の子どもがいる一般的な世帯と比較すると、「よくない」または「あまりよくない」の回答割合について、5ポイント以上の差異は見られなかった。

子(15) あなたのいまの健康状態はいかがですか。

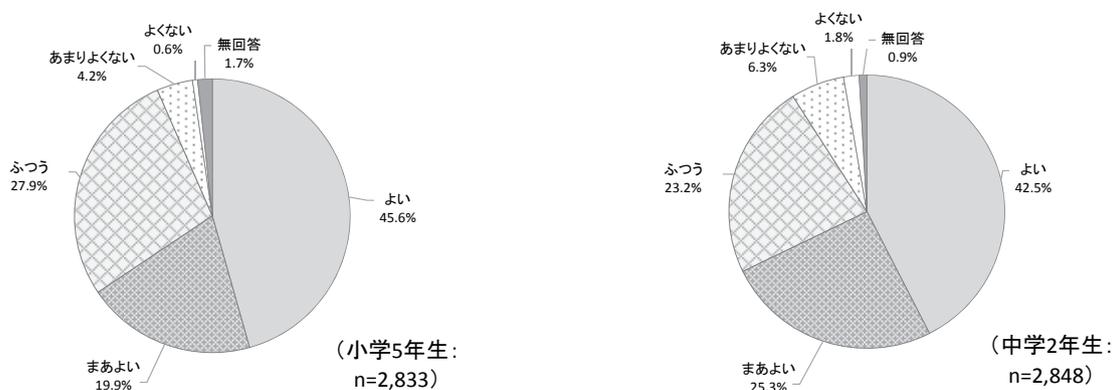
図表 2-2-3-27 健康状態の自己認識



図表 2-2-3-28 教育段階別、健康状態の自己認識



図表 2-2-3-29 (参考：東京都調査) 健康状態の自己認識



⁵² 教育段階別の集計について、健康状態の自己認識に関し無回答のものは集計の対象外とした。

⁵³ 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター「東京都子供の生活実態調査報告書」(平成29年3月)。

2-2-4 学習の状況、学校生活

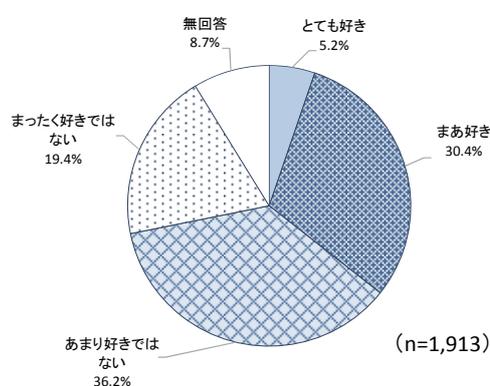
(1) 勉強が好きであるか

勉強がどのくらい好きかについて、「とても好き」または「まあ好き」と回答した割合は、35.6%であった。

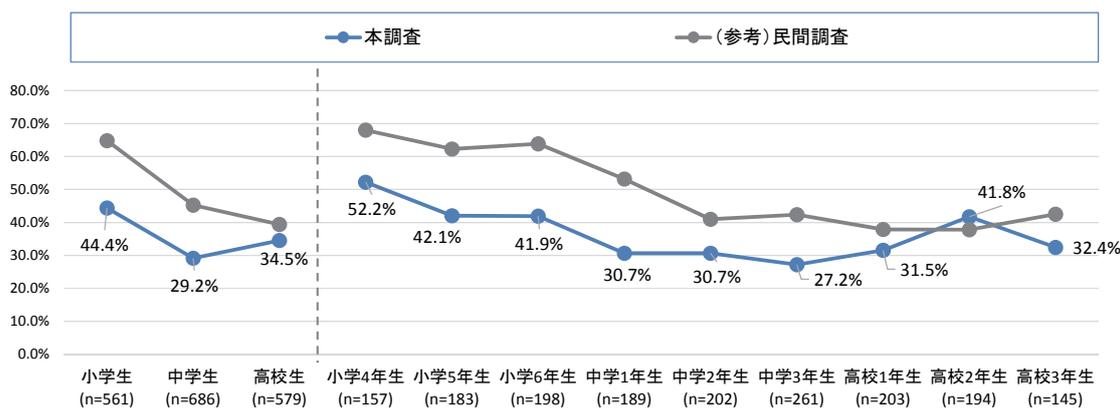
教育段階・学年別に、他の調査⁵⁴における一般的な子どもの回答と比較すると、「とても好き」または「まあ好き」の回答割合は、小学生では約 20 ポイント、中学生では約 15 ポイント生活保護世帯の子どものほうが低くなっている。

子(22) あなたは勉強がどのくらい好きですか。

図表 2-2-4-1 勉強が好きであるか



図表 2-2-4-2 教育段階・学年別、勉強が好きであるか（参考：民間調査）
（「とても好き」または「まあ好き」の回答割合）



⁵⁴ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査 2015-2016 速報版」。なお、図表 2-2-4-2 に掲載した調査・集計結果は、無回答の場合も集計の対象に含めた形で割合の算出を行ったものである。また、ここでは、本調査の結果についても、無回答の場合も集計の対象に含めて割合を算出した。

(2) 学校生活や友だちとの関係

①学校の授業の理解度

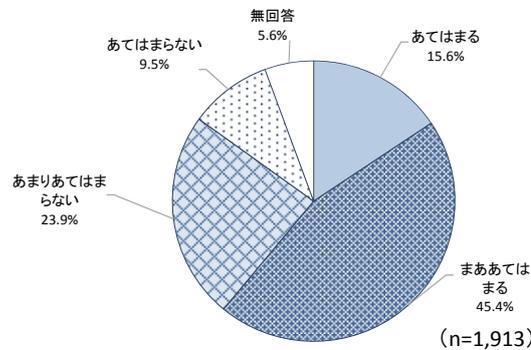
「学校の授業がよくわかっている」ということについて、「あてはまる」または「まああてはまる」と回答した割合は、61.0%であった。

教育段階・学年別では、「あてはまる」または「まああてはまる」の回答割合は中学2年生の段階で特に低くなっている。

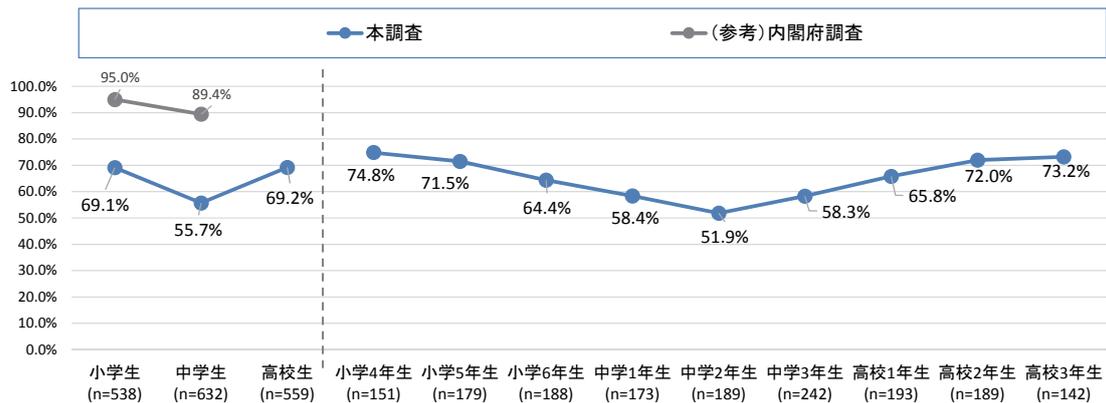
また、他の調査⁵⁵での一般的な世帯の小・中学生と比較すると、「あてはまる」または「まああてはまる」の回答割合は、生活保護世帯の子どもでは約30ポイント低くなっている。

子(23) あなたは、下書いてあることがどれくらいあてはまりますか。

図表 2-2-4-3 学校の授業がよくわかっている



図表 2-2-4-4 教育段階・学年別、学校の授業がよくわかっている（参考：内閣府調査）
（「あてはまる」または「まああてはまる」の回答割合）



⁵⁵ 内閣府「平成25年度小学生・中学生の意識に関する調査」（平成26年7月）。なお、図表2-2-4-4に掲載した調査・集計結果は、本調査の結果とともに、無回答の場合は集計の対象外として算出を行ったものである。

②先生との関係がうまくいっている

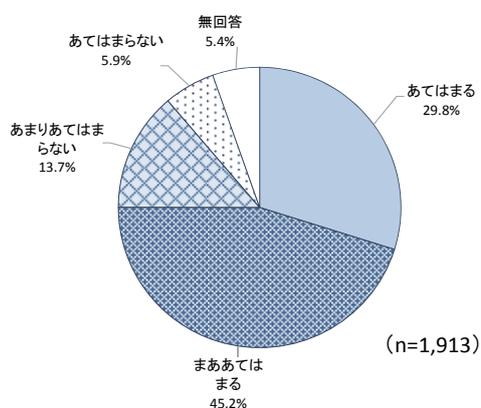
「先生との関係がうまくいっている」ということについて、「あてはまる」または「まああてはまる」と回答した割合は、75.0%であった。

教育段階・学年別では、「あてはまる」または「まああてはまる」の回答割合は中学2年生の段階で特に低くなっている。

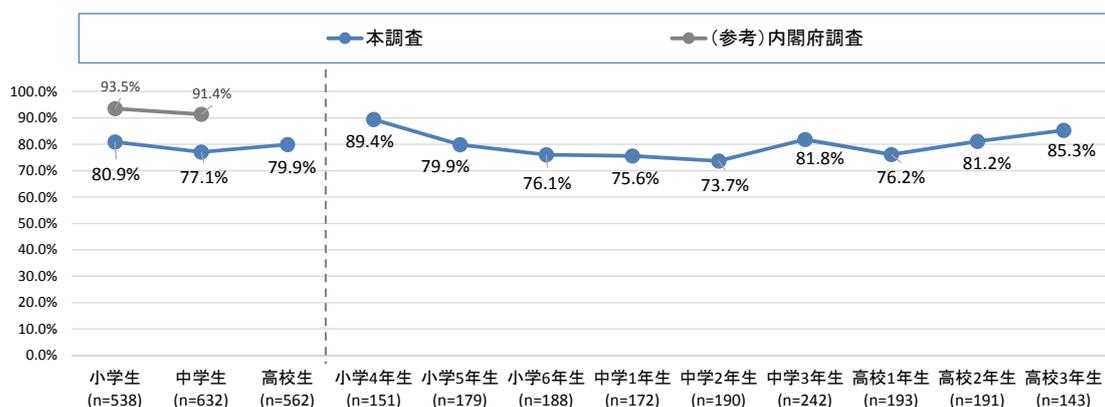
また、他の調査⁵⁶での一般的な世帯の小・中学生と比較すると、「あてはまる」または「まああてはまる」の回答割合は、生活保護世帯の子どもでは約15ポイント低くなっている。

子(23) あなたは、下を書いてあることがどれくらいあてはまりますか。

図表 2-2-4-5 先生との関係がうまくいっている



図表 2-2-4-6 教育段階・学年別、先生との関係がうまくいっている（参考：内閣府調査）
（「あてはまる」または「まああてはまる」の回答割合）



⁵⁶ 内閣府「平成25年度小学生・中学生の意識に関する調査」（平成26年7月）。なお、図表2-2-4-6に掲載した調査・集計結果は、本調査の結果ともに、無回答の場合は集計の対象外として算出を行ったものである。

③ 友だちとの関係がうまくいっている

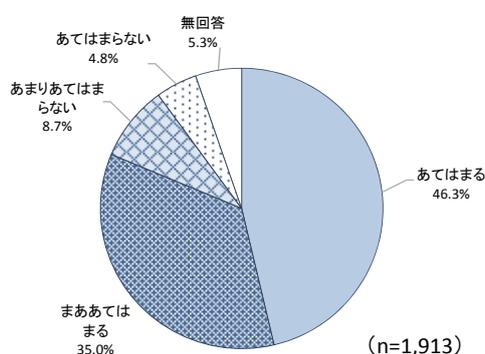
「友だちとの関係がうまくいっている」ということについて、「あてはまる」または「まああてはまる」と回答した割合は、81.3%であった。

教育段階・学年別では、「あてはまる」または「まああてはまる」の回答割合は中学1年生の段階で特に低くなっている。

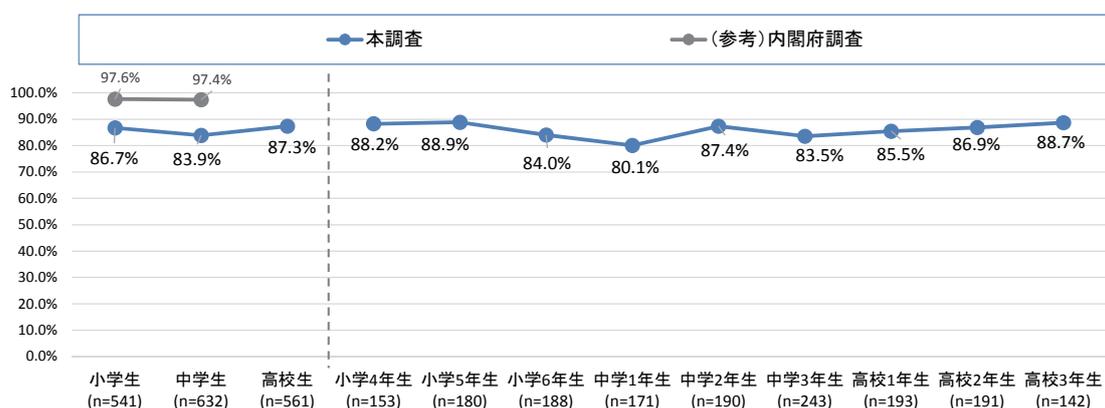
また、他の調査⁵⁷での一般的な世帯の小・中学生と比較すると、「あてはまる」または「まああてはまる」の回答割合は、生活保護世帯の子どもでは10～15ポイント程度低くなっている。

子(23) あなたは、下書いてあることがどれくらいあてはまりますか。

図表 2-2-4-7 友だちとの関係がうまくいっている



図表 2-2-4-8 教育段階・学年別、友だちとの関係がうまくいっている（参考：内閣府調査）
（「あてはまる」または「まああてはまる」の回答割合）



⁵⁷ 内閣府「平成25年度小学生・中学生の意識に関する調査」（平成26年7月）。なお、図表2-2-4-8に掲載した調査・集計結果は、本調査の結果ともに、無回答の場合は集計の対象外として算出を行ったものである。

(3) 学習時間

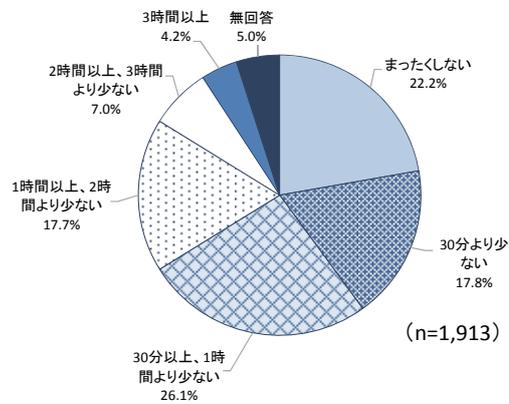
学校の授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間勉強をするかについて、「まったくしない」または「30分より少ない」と回答した割合は、40.0%であった。

教育段階・学年別では、「まったくしない」または「30分より少ない」の回答割合は高校生段階では約6割となっており、小学生・中学生に関しては、中学3年生では比較的低くなっている。

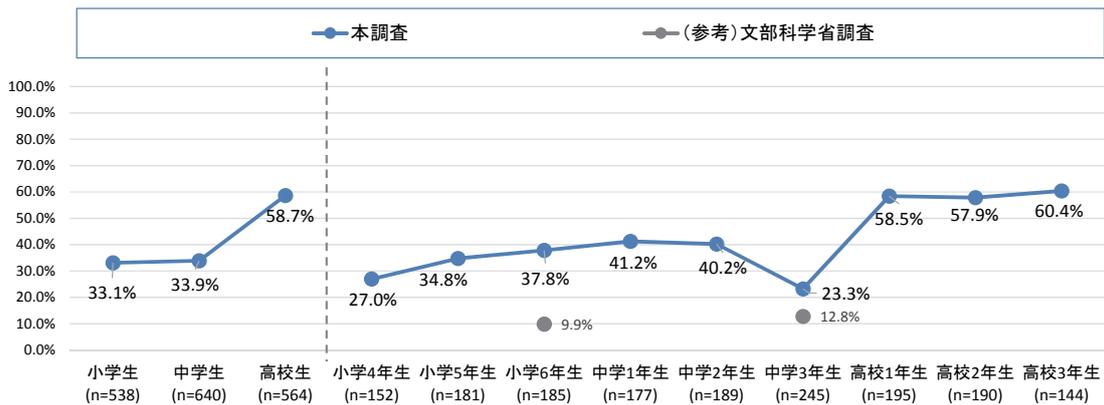
また、他の調査⁵⁸での一般的な世帯の小・中学生と比較すると、「まったくしない」または「30分より少ない」の回答割合は、生活保護世帯の子どもでは小学6年生の段階では約30ポイント、中学2年生の段階では約10ポイント高くなっている。

子(24) 学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。

図表 2-2-4-9 1日あたりの学習時間



図表 2-2-4-10 教育段階・学年別、1日あたりの学習時間（参考：文部科学省調査）
（「まったくしない」または「30分より少ない」の回答割合）



⁵⁸ 文部科学省「平成30年度全国学力・学習状況調査」。なお、図表2-2-4-10に掲載した調査・集計結果は、本調査の結果とともに、無回答の場合は集計の対象外として算出を行ったものである。

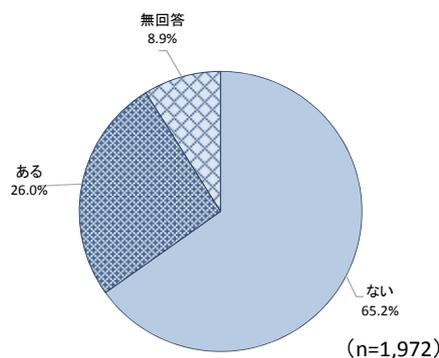
(4) 不登校の経験

これまでに不登校であったことがあるかについて、「ない」と回答した割合は 65.2%で、いずれかの教育段階・学年で不登校であったと回答したのは 26.0%であった。

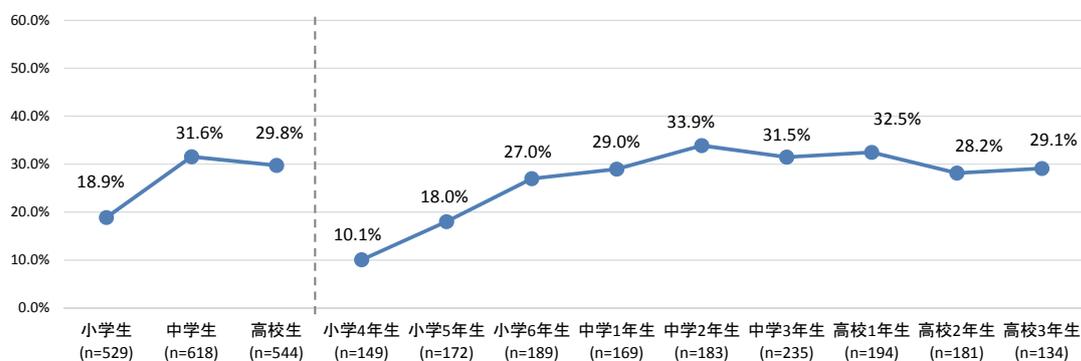
不登校を経験したことが「ある」と回答した割合は学年が上がるにつれて徐々に高くなり、中学 1 年生の時点で約 3 割の子どもが不登校を経験したことがあると回答している⁵⁹。また、どの段階で経験していたかについては、中学 2 年生の段階が最も回答割合が高くなっている⁶⁰。

子(11) あなたは、これまでに、病気やケガ以外の理由で、学校を 1 年の間に 30 日以上休んだこと（不登校であったこと）はありますか。ある場合には、どの学校・学年の時にそうであったかについても教えてください。

図表 2-2-4-11 不登校の経験



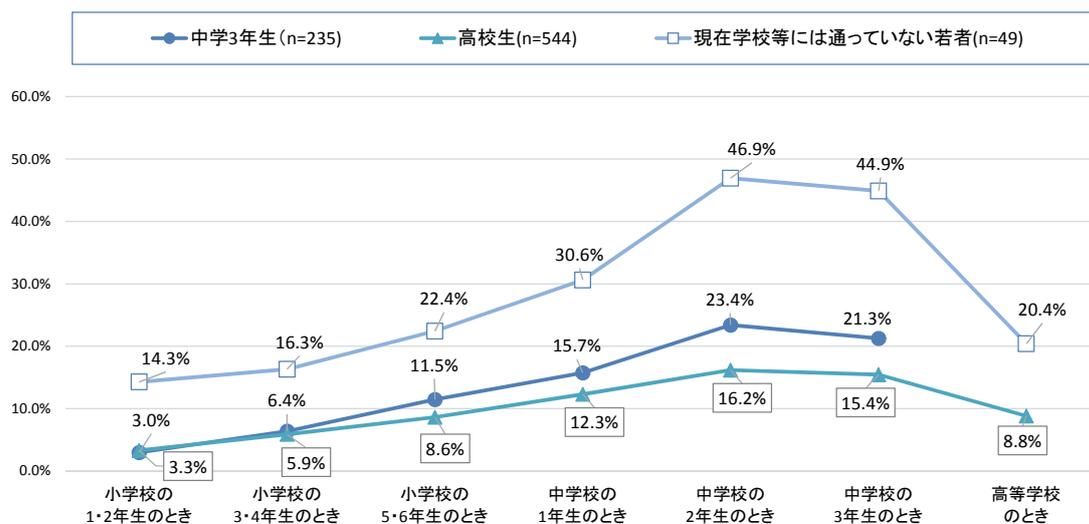
図表 2-2-4-12 学校段階・学年別、不登校の経験（「ある」の割合）



⁵⁹ 学校段階別・学年別の集計について、不登校の経験に関し無回答のものは集計の対象外とした。

⁶⁰ 中学 3 年生までの状況を把握するため、「中学 3 年生」、「高校生」についての集計結果を示した。さらに、関連性が高いと考えられたことから、「現在学校等には通っていない若者」に関する集計結果を示した。なお、いずれも、不登校経験が「ない」の回答は集計の対象としたうえでの複数回答の結果に関する集計であり、不登校の経験について無回答のものは集計の対象外とした。

図表 2-2-4-13 学校段階・学年別、不登校の経験【複数回答】



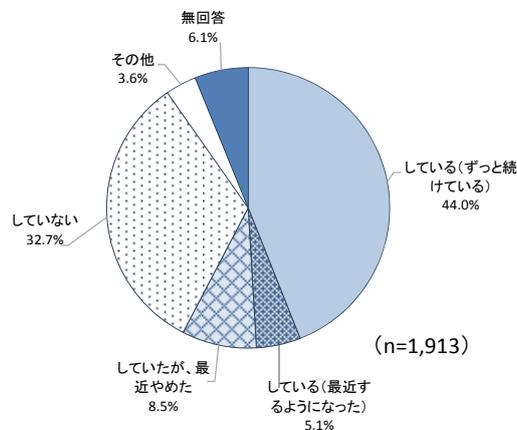
(5) クラブ活動・部活動の状況

クラブ活動・部活動に参加しているかについて、「している（ずっと続けている）」または「している（最近するようになった）」と回答した割合は、49.1%であった。

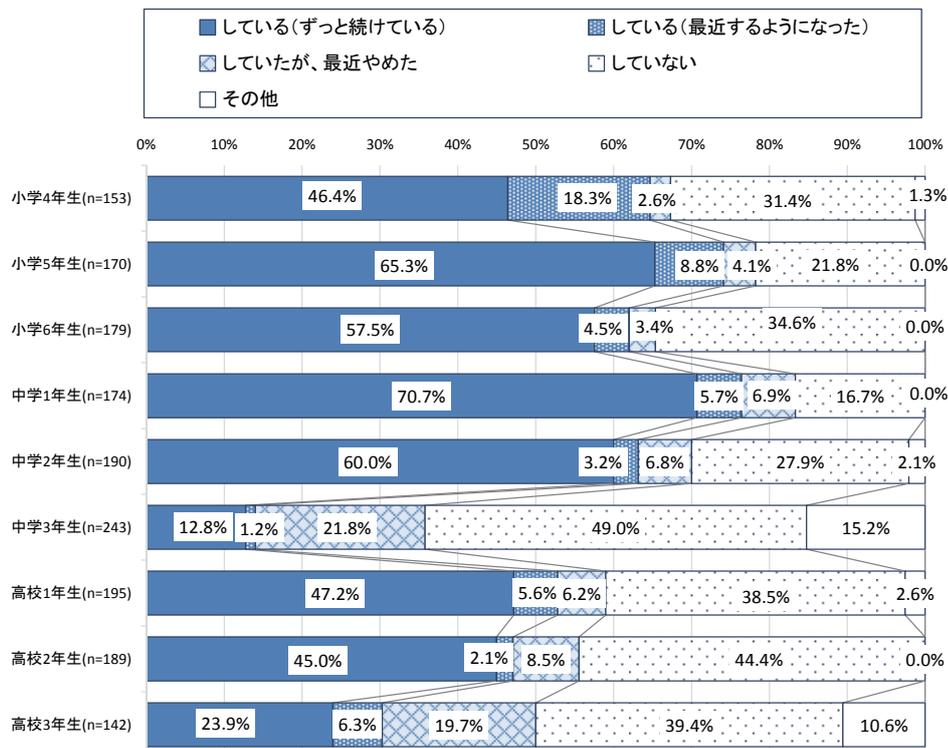
教育段階・学年別では、「している（ずっと続けている）」または「している（最近するようになった）」の回答割合は、中学1年生では76.4%、高校1年生では52.8%となっている。中学生・高校生ともに、2年生では活動をしている者の割合は1年生に比べて低く、している（ずっと続けている）」または「している（最近するようになった）」の回答割合は、中学2年生で63.2%、高校2年生では47.1%となっている⁶¹。

子(25) あなたは、クラブ活動・部活動等をしていきますか。

図表 2-2-4-14 クラブ活動・部活動の状況



図表 2-2-4-15 教育段階・学年別、クラブ活動・部活動の状況



⁶¹ 教育段階・学年別の集計について、クラブ活動・部活動の状況に関し無回答のものは集計の対象外とした。

2-2-5 意欲、対人関係、自己肯定感等

(1) 得意と思うこと

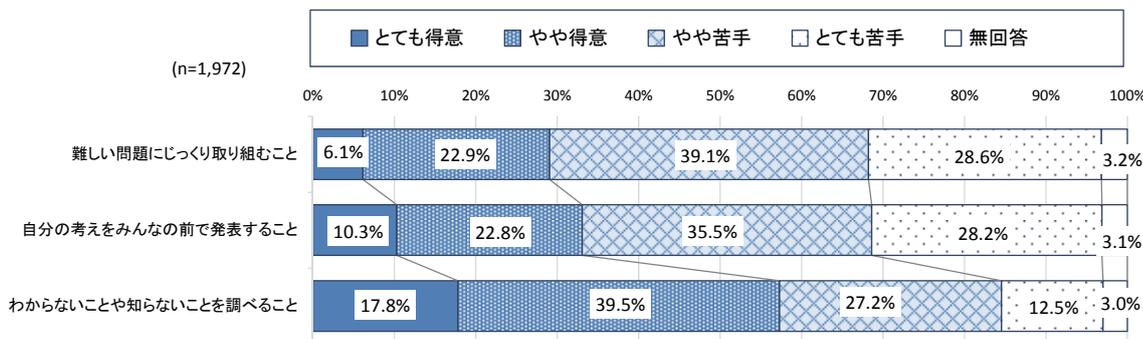
「難しい問題にじっくり取り組むこと」について「とても得意」または「やや得意」と回答した割合は、29.0%であった。また、「自分の考えをみんなの前で発表すること」については33.1%、「わからないことや知らないことを調べること」については57.3%であった。

教育段階別では、「とても得意」または「やや得意」の回答割合は、「難しい問題にじっくり取り組むこと」や「わからないことや知らないことを調べること」については高校生のほうが比較的高くなっている⁶²。

他の調査⁶³での一般的な世帯の子どもと比較をすると、「とても得意」または「やや得意」の回答割合は、小学生・中学生では生活保護世帯の子どものほうが10～20ポイント程度低くなっている。

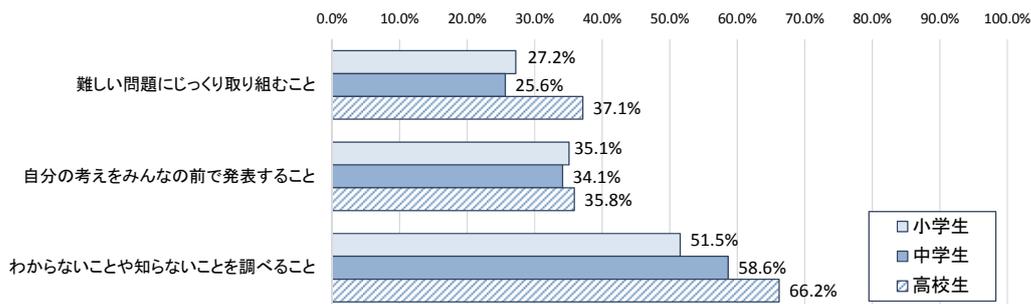
子(9) あなたは、下を書いてあるようなことは得意ですか。

図表 2-2-5-1 得意と思うこと



図表 2-2-5-2 教育段階別、得意と思うこと

(「とても得意」または「やや得意」の回答割合)



図表 2-2-5-3 (参考：民間調査) 得意と思うこと

(「とても得意」または「やや得意」の回答割合)

	小学4～6年生	中学生	高校生
難しい問題にじっくり取り組むこと	44.0%	37.7%	33.5%
自分の考えをみんなの前で発表すること	54.0%	45.6%	38.8%

⁶² 教育段階別の集計について、得意と思うことに関しそれぞれ無回答のものは集計の対象外とした。なお、項目により教育段階別の集計対象件数が異なるが、ここでは表記を省略した。

⁶³ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2015 速報版」。

(2) 意欲・自己肯定感等

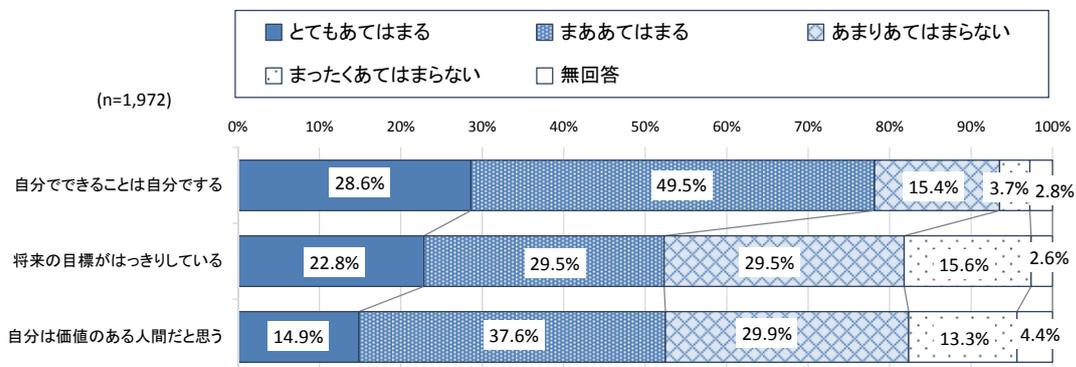
「自分でできることは自分でする」について「とてもあてはまる」または「まああてはまる」と回答した割合は、78.1%であった。また、「将来の目標がはっきりしている」については52.3%、「自分は価値のある人間だと思う」については52.5%であった。

教育段階別では、「とてもあてはまる」または「まああてはまる」の回答割合は、「将来の目標がはっきりしている」や「自分は価値のある人間だと思う」については中学生で比較的低くなっている⁶⁴。

他の調査⁶⁵での一般的な世帯の子どもと比較をすると、「自分でできることは自分でする」について「とてもあてはまる」または「まああてはまる」の回答割合は、小学生では生活保護世帯の子どものほうが約10ポイント低くなっている。

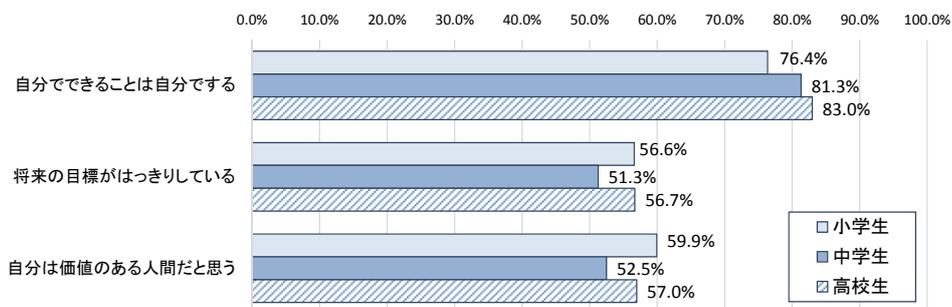
子(10) あなたのことについて、下に書いてあるようなことがどれくらいあてはまりますか。

図表 2-2-5-4 意欲・自己肯定感等



図表 2-2-5-5 教育段階別、意欲・自己肯定感等

(「とてもあてはまる」または「まああてはまる」の回答割合)



図表 2-2-5-6 (参考：民間事業者調査) 意欲・自己肯定感等

(「とてもあてはまる」または「まああてはまる」の回答割合)

	小学 4～6 年生	中学生	高校生
自分でできることは自分でする	85.6%	83.9%	82.2%
将来の目標がはっきりしている	53.3%	44.8%	52.4%

⁶⁴ 教育段階別の集計について、意欲・自己肯定感等に関しそれぞれ無回答のものは集計の対象外とした。なお、項目により教育段階別の集計対象件数が異なるが、ここでは表記を省略した。

⁶⁵ 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査 2015 速報版」。

(3) 将来の進学に対する意識

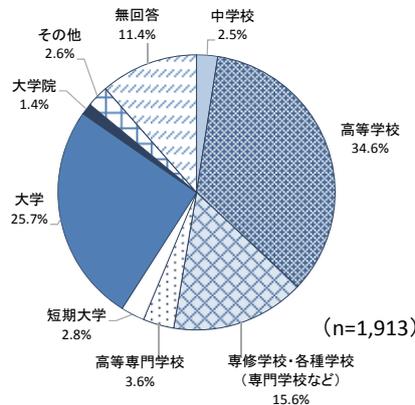
将来どの学校まで行きたいと思うかについては、「高等学校」が 34.6%、「大学」が 25.7%、「専修学校・各種学校（専門学校など）」が 15.6%であった。

教育段階別では、「大学」または「大学院」の回答割合は、現在小学生の場合で 32.0%、中学生の場合で 26.6%、高校生の場合で 34.3%となっている⁶⁶。

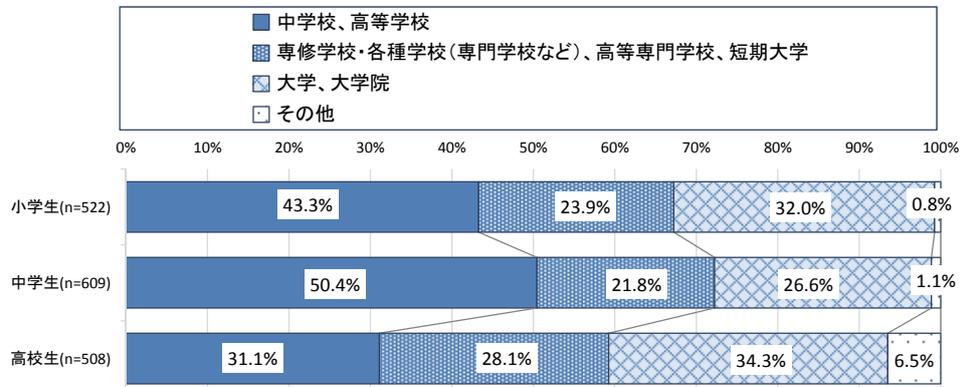
他の調査⁶⁷での一般的な世帯の小・中学生と比較すると、生活保護世帯の子どものほうが「高等学校」（高校まで）の回答割合が高く、「大学」の回答割合は低くなっている。

子(26) あなたは、将来、どの学校まで行きたいと思いますか。

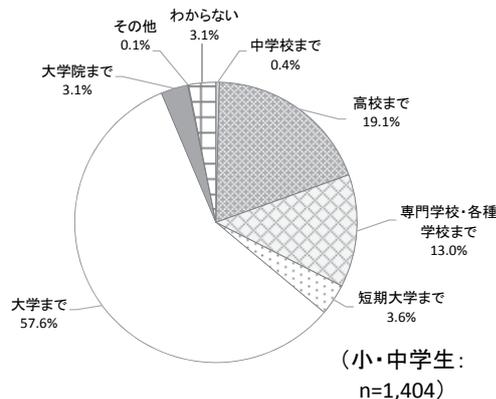
図表 2-2-5-7 将来どの学校まで行きたいと思うか



図表 2-2-5-8 教育段階別、将来どの学校まで行きたいと思うか



図表 2-2-5-9 (参考：内閣府調査) 将来どの学校まで行きたいと思うか



⁶⁶ 教育段階別の集計について、将来どの学校まで行きたいと思うかに関し無回答のものは集計の対象外とした。

⁶⁷ 内閣府「平成 25 年度小学生・中学生の意識に関する調査」(平成 26 年 7 月)。

2-2-6 支援制度の利用状況、制度に対する認識

(1) 学習支援の利用状況

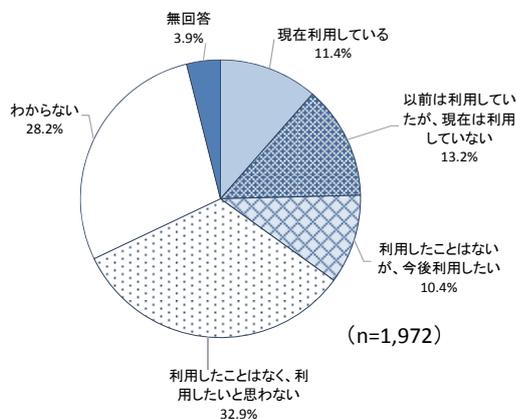
①学習支援の利用の有無・利用意向

学習支援の利用の有無・利用意向に関して、「現在利用している」または「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した割合は、24.6%であった。また、「利用したことはないが、今後利用したい」と回答した割合は、10.4%であった。

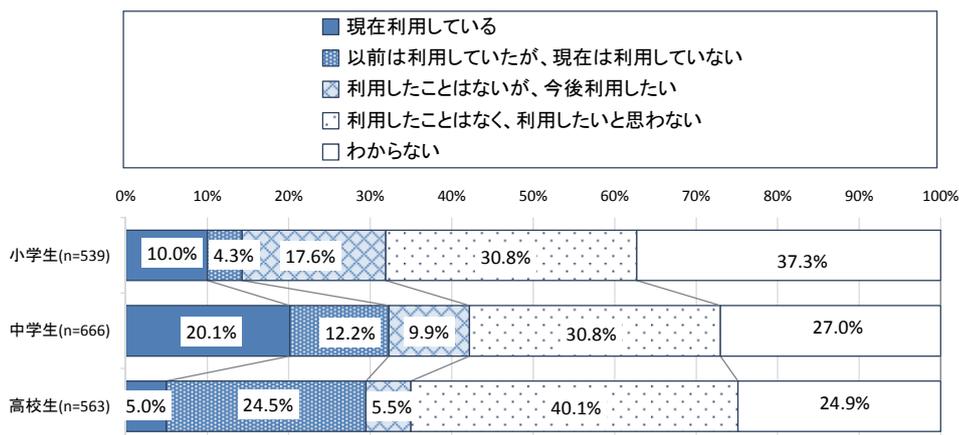
教育段階別では、「現在利用している」または「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した割合は、小学生で14.3%、中学生で32.3%、高校生で29.5%となっている⁶⁸。

子(27) あなたは、学習塾以外で、大学生や大人の人が勉強のことなどを教えてくれる場所（学習支援）を利用したことがありますか。利用したことがない場合は、今後利用したいと思いますか。

図表 2-2-6-1 学習支援の利用の有無・利用意向



図表 2-2-6-2 教育段階別、学習支援の利用の有無・利用意向



⁶⁸ 教育段階別の集計について、学習支援の利用の有無・利用意向に関し無回答のものは集計の対象外とした。

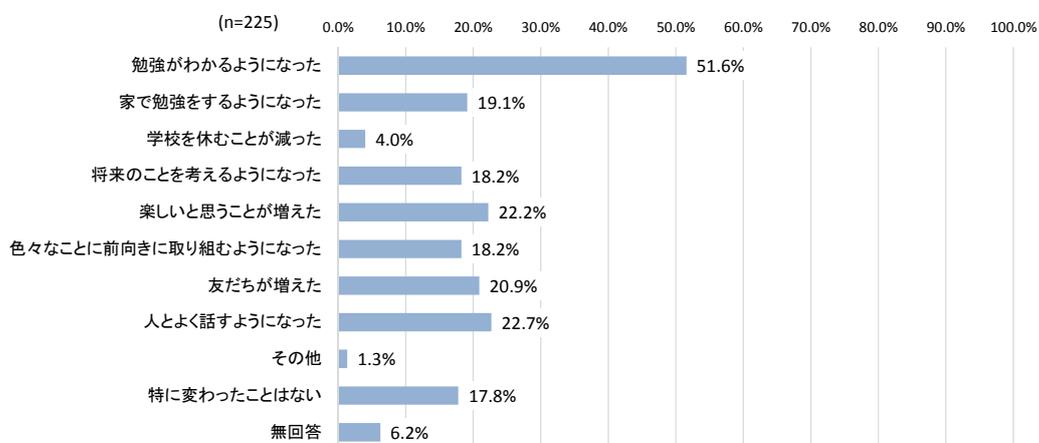
②学習支援を利用して見られた変化（学習支援を現在利用している場合）

学習支援を「現在利用している」と回答した場合に、子どもに見られた変化としては、「勉強がわかるようになった」が51.6%で、「特に変わったことはない」は17.8%であった。

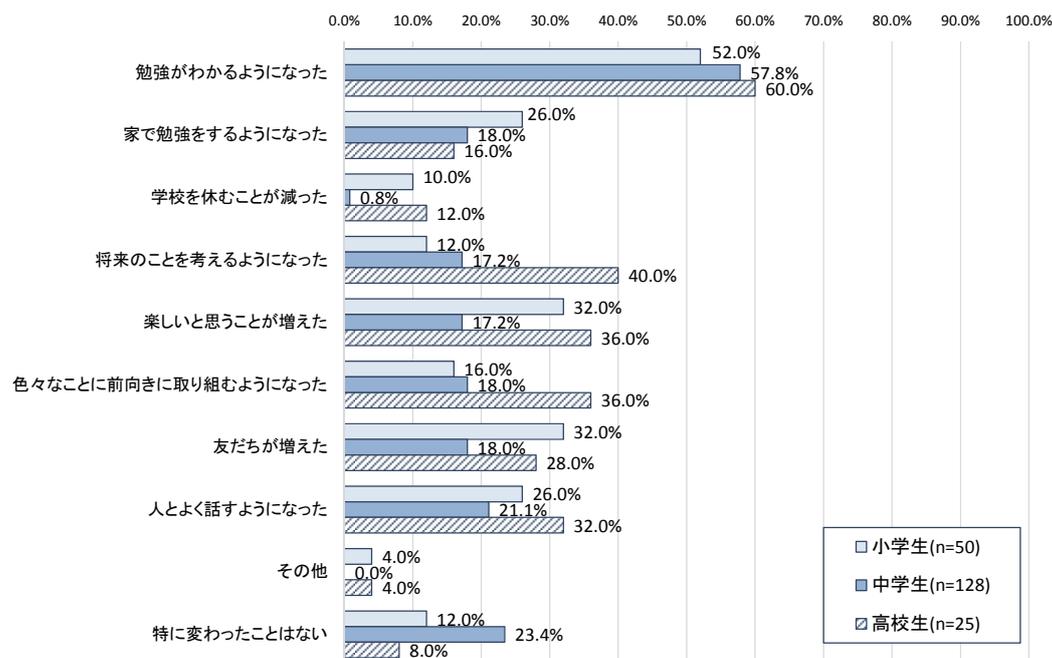
教育段階別では、小学生・中学生・高校生のいずれも「勉強がわかるようになった」の回答割合が最も高く、小学生では「家で勉強をするようになった」、「友だちが増えた」、高校生では「将来のことを考えるようになった」、「楽しいと思うことが増えた」、「色々なことに前向きに取り組むようになった」などの回答割合が比較的高くなっている⁶⁹。

【子(29)】 その場所（学習支援）を利用し始めたことで、何か変わったことはありますか。

図表 2-2-6-3 学習支援制度の利用によって見られた変化
（学習支援を「現在利用している」場合）【複数回答】



図表 2-2-6-4 教育段階別、学習支援制度の利用によって見られた変化
（学習支援を「現在利用している」場合）【複数回答】



⁶⁹ 教育段階別の集計について、学習支援制度の利用によって見られた変化に関し無回答のものは集計の対象外とした。

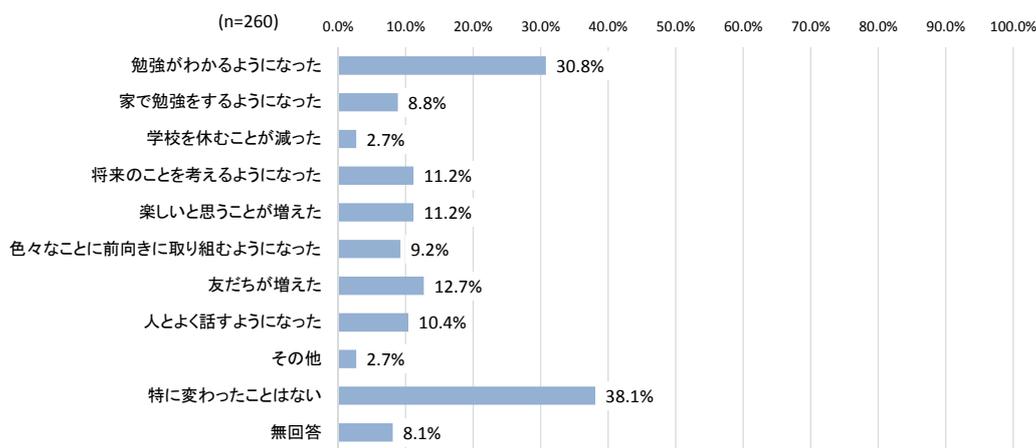
③学習支援を利用して見られた変化（以前は利用していたが、現在は利用していない場合）

学習支援を「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した場合に、子どもに見られた変化としては、「特に変わったことはない」が38.1%、「勉強がわかるようになった」が30.8%となっている。

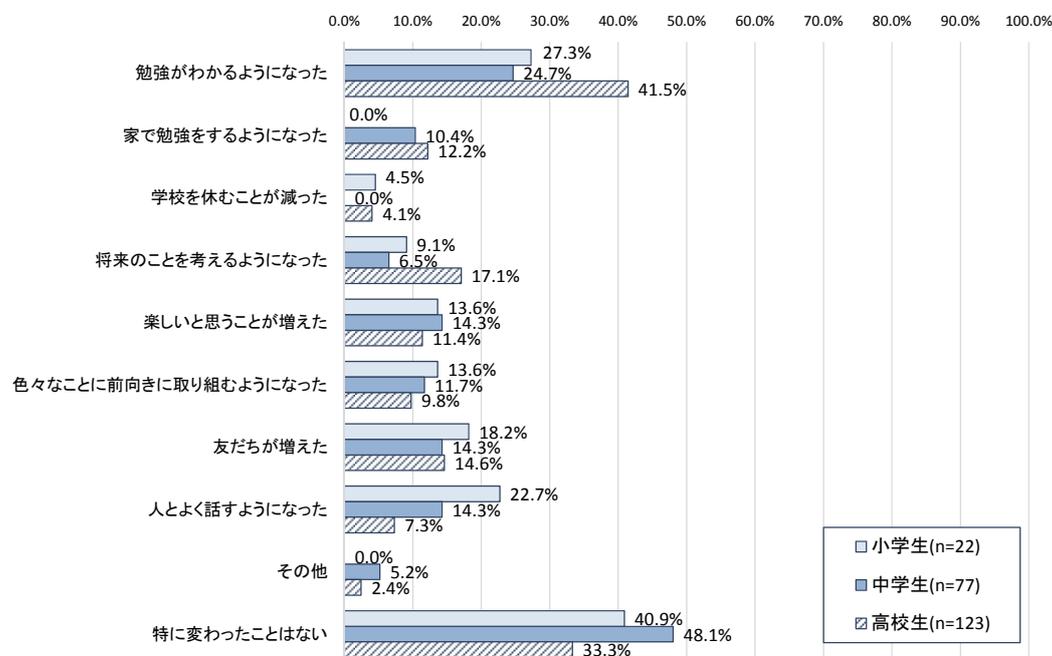
教育段階別では、高校生で「勉強がわかるようになった」の回答割合が41.5%となっている⁷⁰。

子(29) その場所（学習支援）を利用し始めたことで、何か変わったことはありますか。

図表 2-2-6-5 学習支援制度の利用によって見られた変化
（学習支援を「以前は利用していたが、現在は利用していない」場合）【複数回答】



図表 2-2-6-6 教育段階別、学習支援制度の利用によって見られた変化
（学習支援を「以前は利用していたが、現在は利用していない」場合）【複数回答】



⁷⁰ 教育段階別の集計について、学習支援制度の利用によって見られた変化に関し無回答のものは集計の対象外とした。

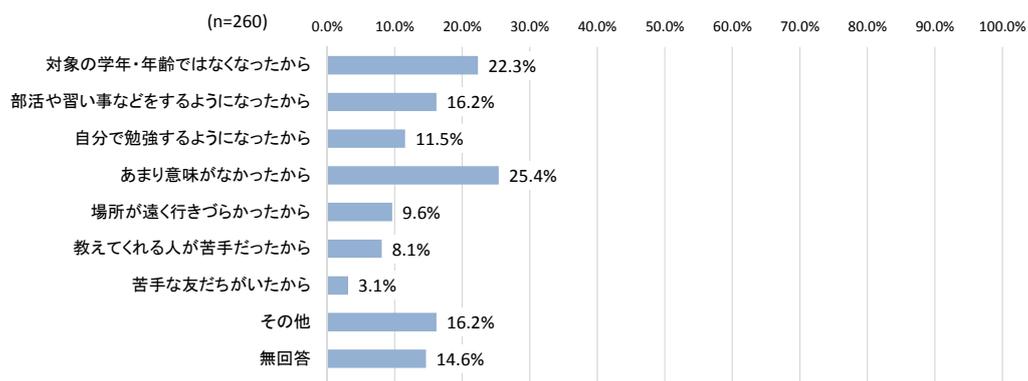
④学習支援を以前は利用していたが、現在は利用していない理由

学習支援を「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した場合に、現在利用していない理由としては、「あまり意味がなかったから」が25.4%、「対象の学年・年齢ではなくなったから」が22.3%であった。

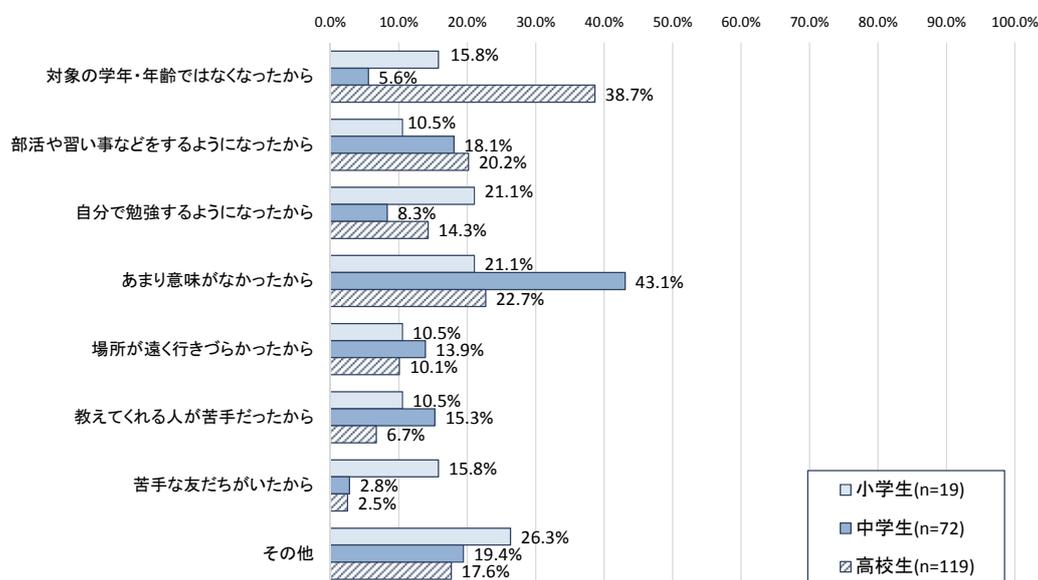
教育段階別では、中学生で「あまり意味がなかったから」が43.1%、高校生で「対象の学年・年齢ではなくなったから」が38.7%となっている⁷¹。

子(30) 現在利用していない理由を教えてください。

図表 2-2-6-7 学習支援を以前は利用していたが現在は利用していない理由【複数回答】



図表 2-2-6-8 教育段階別、学習支援を以前は利用していたが現在は利用していない理由【複数回答】



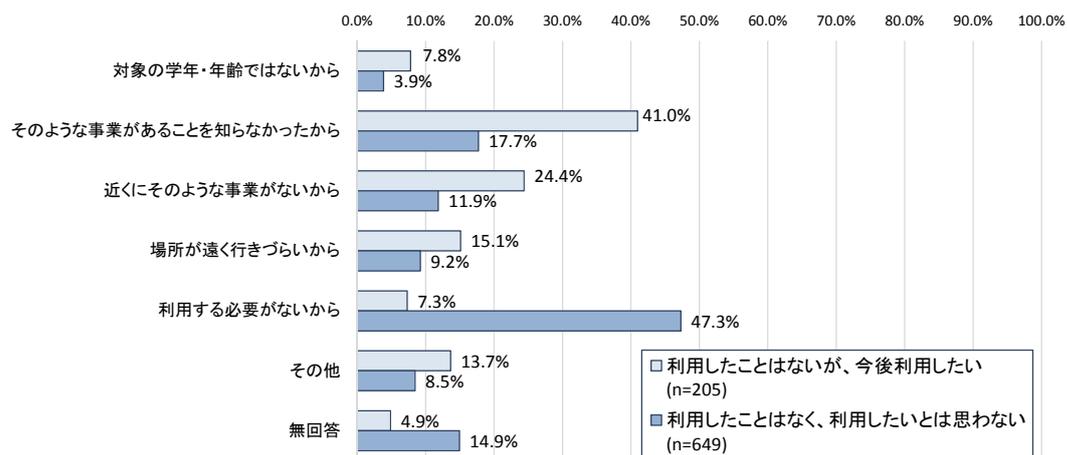
⁷¹ 教育段階別の集計について、学習支援を以前は利用していたが現在は利用していない理由に関し無回答のものは集計の対象外とした。

⑤学習支援を利用したことがない理由

学習支援を利用していない場合の理由について、今後の利用意向がある場合は「そのような事業があることを知らなかったから」が41.0%、「近くにそのような事業がないから」が24.4%となっている。今後の利用意向がない場合は、「利用する必要がないから」が47.3%であった。

子(28) 学習支援を利用していない理由は何ですか。

図表 2-2-6-9 今後の利用意向別、学習支援を利用したことがない理由【複数回答】



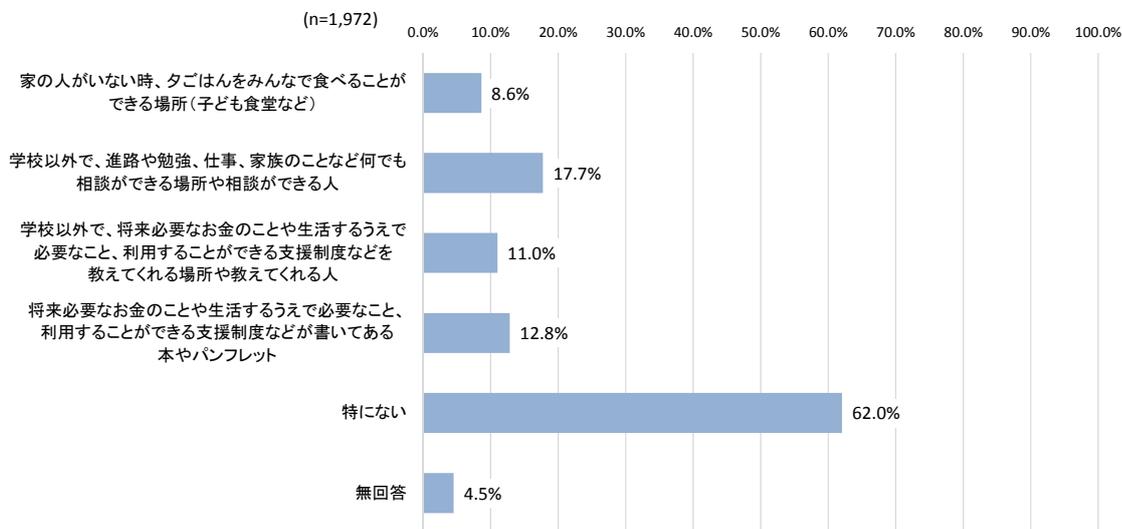
(2) これまでに受けたことがある支援等の内容

子ども食堂等の利用の状況について、それぞれの項目の回答割合は約 1 割～2 割であり、「特にな
い」と回答した割合は 62.0%であった。

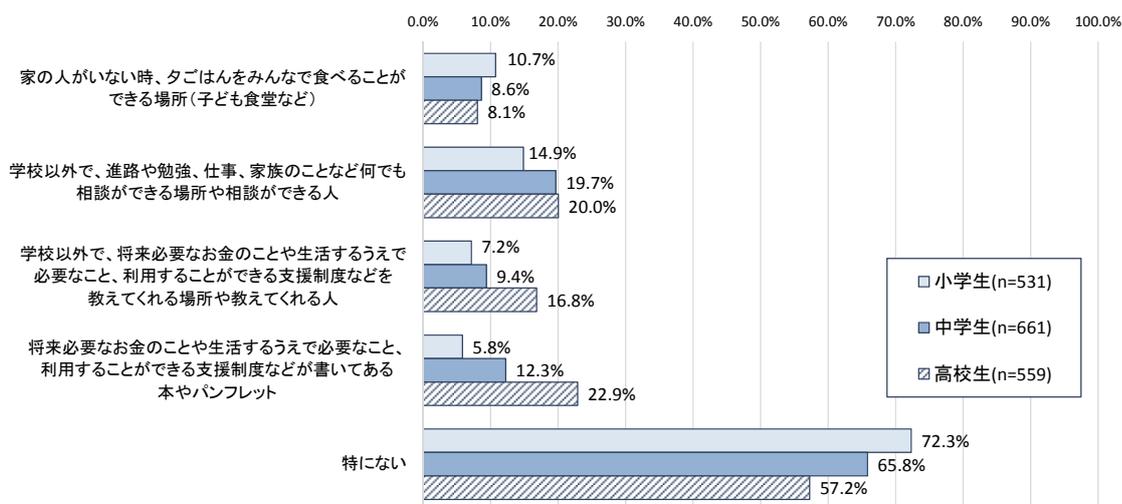
教育段階別では、「学校以外で、将来必要なお金のことや生活するうえで必要なこと、利用するこ
とができる支援制度などを教えてくれる場所や教えてくれる人」や「将来必要なお金のことや生活する
うえで必要なこと、利用することができる支援制度などが書いてある本やパンフレット」については
高校生のほうが回答割合が比較的高く、「特にない」と回答した割合は高校生では 57.2%であった⁷²。

子(32) 次のうち、あなたがこれまでに行ったことがある場所や会ったことがある人、見たことがあるものなどは
ありますか。

図表 2-2-6-10 これまでに受けたことがある支援等の内容【複数回答】



図表 2-2-6-11 教育段階別、これまでに受けたことがある支援等の内容【複数回答】



⁷² 教育段階別の集計について、これまでに受けたことがある支援等の内容に関し無回答のものは集計の対象外とした。

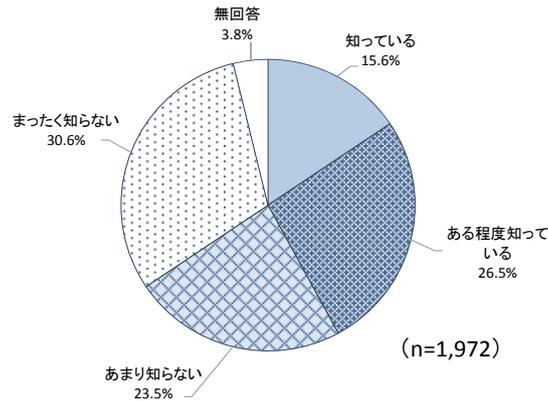
(3) 進学にかかる費用に関する認識

高校や大学などに進学するのにかかる費用に関する認識について、「知っている」または「ある程度知っている」と回答した割合は、42.1%であった。

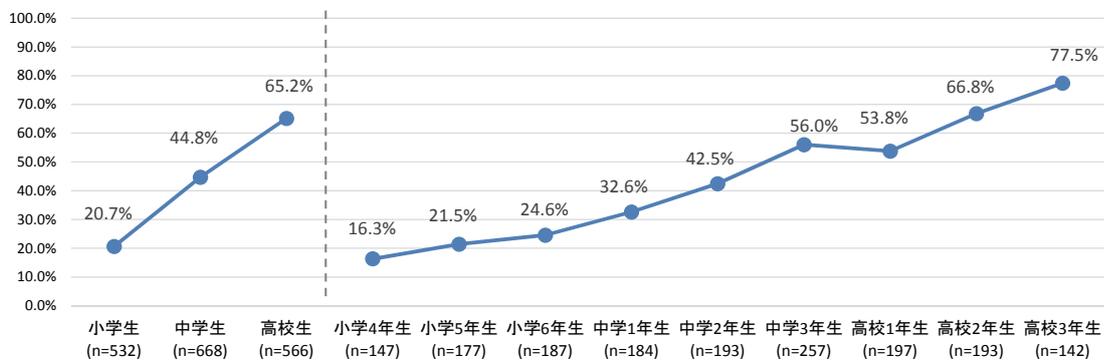
教育段階・学年別では、「知っている」または「ある程度知っている」の回答割合は、学年が上がるにつれて高くなっている。高校3年生では77.5%であった⁷³。

子(31) あなたは、高校や大学などに進学するのにどれくらいお金が必要か知っていますか。

図表 2-2-6-12 進学にかかる費用に関する認識



図表 2-2-6-13 教育段階・学年別、進学にかかる費用に関する認識
 (「知っている」または「ある程度知っている」の回答割合)



⁷³ 教育段階・学年別の集計について、進学にかかる費用に関する認識に関し無回答のものは集計の対象外とした。

2-2-7 望んでいること、相談相手

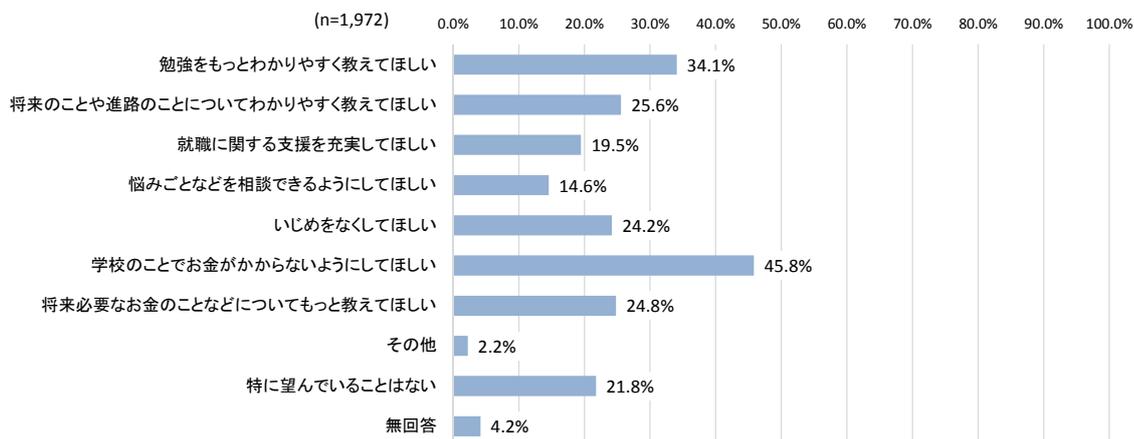
(1) いまの生活のことや学校・勉強のこと、仕事のことなどについて、望んでいること

いまの生活のことや学校・勉強のこと、仕事のことなどについて望んでいることとしては、「学校のことでお金がかからないようにしてほしい」が 45.8%、「勉強をもっとわかりやすく教えてほしい」が 34.1%、「将来のことや進路のことについてわかりやすく教えてほしい」が 25.6%、「将来必要なお金のことなどについてもっと教えてほしい」が 24.8%、「いじめをなくしてほしい」が 24.2%となっている。

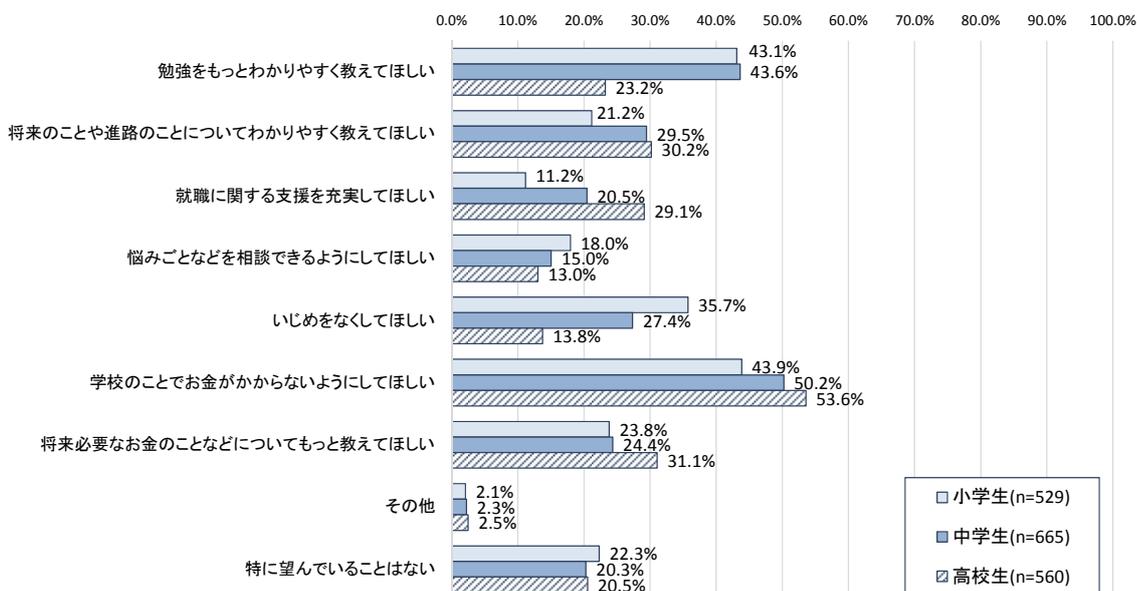
教育段階別では、「勉強をもっとわかりやすく教えてほしい」は小学生・中学生で比較的高く、「いじめをなくしてほしい」については小学生で比較的高くなっている。「就職に関する支援を充実してほしい」は高校生で比較的高くなっている⁷⁴。

子(33) あなたは、いまの生活のことや学校・勉強のこと、仕事のことなどについて、何か望んでいることはありますか。

図表 2-2-7-1 いまの生活のことなどについて、望んでいること【複数回答】



図表 2-2-7-2 教育段階別、いまの生活のことなどについて、望んでいること【複数回答】



⁷⁴ 教育段階別の集計について、いまの生活のことなどについて望んでいることに関し無回答のものは集計の対象外とした。

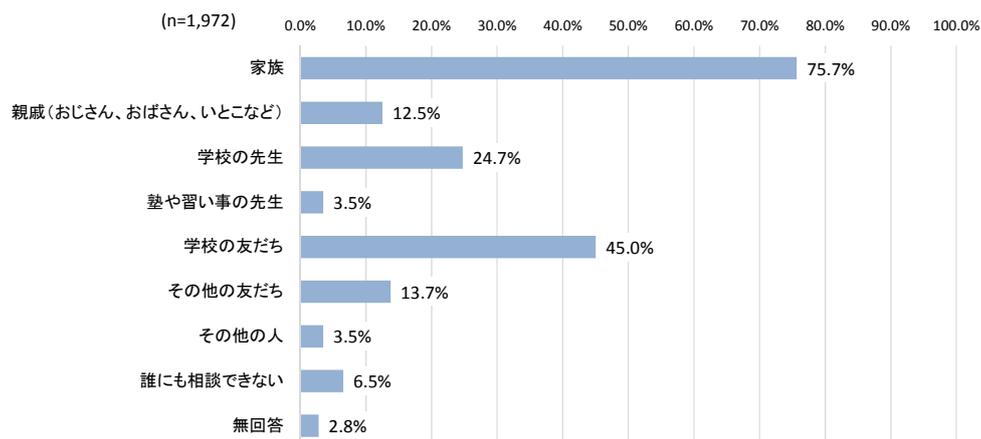
(2) 困っていることや悩んでいることを相談できる人

困っていることや悩んでいることを相談できる人については、「家族」が75.7%、「学校の友だち」が45.0%、「学校の先生」が24.7%で、「誰にも相談できない」と回答した割合は6.5%であった。

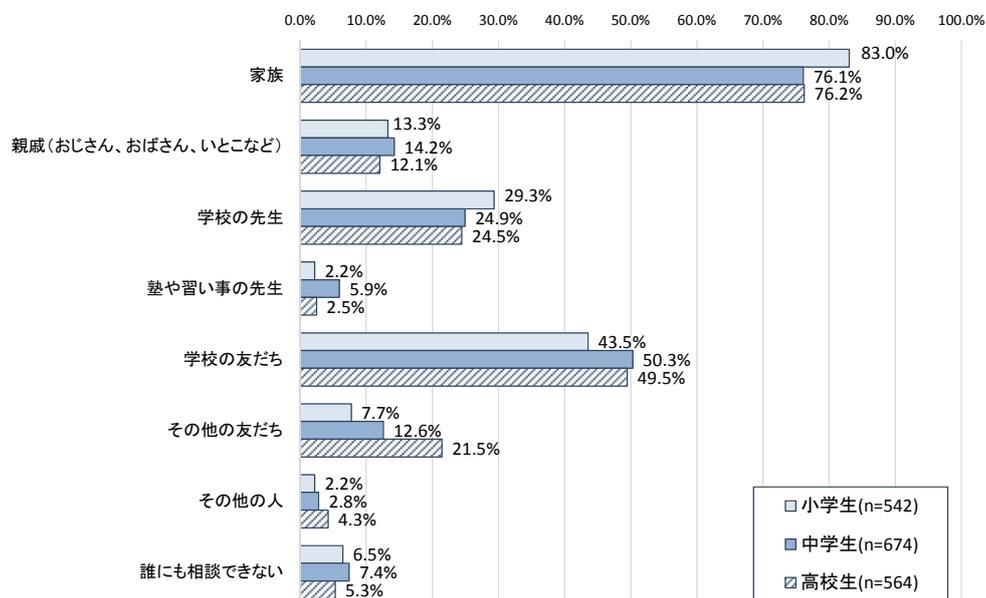
教育段階別では、小学生では「家族」や「学校の先生」について、高校生では「その他の友だち」について回答割合が比較的高くなっている⁷⁵。

子(34) あなたが困っていることや悩んでいることがあるときに、相談できる人は誰ですか。

図表 2-2-7-3 困っていることや悩んでいることを相談できる人【複数回答】



図表 2-2-7-4 教育段階別、困っていることや悩んでいることを相談できる人【複数回答】



⁷⁵ 教育段階別の集計について、困っていることや悩んでいることを相談できる人に関し無回答のものは集計の対象外とした。

2-2-8 困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等

子どもが困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等について、自由記述により、227人から回答があった。

分類別⁷⁶に最も件数が多かったのは、「進学・進路の希望と現実について」に関する内容で、中学校卒業後・高校卒業後ともに進学したいという希望がある一方で、学費等の負担が不安である、就職と迷っている、学力に不安があるといった悩みが挙げられていた。

このほか、「周囲との関係について・いじめ」、「通っている学校や学校生活について」、「生活費等のお金について」、「教育費・学費について」、「家族について」などに関する回答が比較的多くみられた。

子(35) あなたが今、困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

図表 2-2-8-1 子どもが困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等【自由記述】

回答内容の分類	件数	回答内容の要約・例
進学・進路の希望と現実について	46	<ul style="list-style-type: none"> ○お金がないから公立の高校に受からないと、高校へは行けないこと（私立は受かっても入れない）。 ○大学に行きたいけど、家にお金がない。 ○高校卒業後、就職か進学か迷っている。お金の面での心配がある。 ○大学への進学が決まり、奨学金を借りて学費を払うのですが、それでも足りません。また、大学を卒業してからの生活が不安です。 ○不登校です。病気で学校を休んでいますが、勉強も少しずつがんばっています。ですが、不登校ゆえに理解できないところも多いことが悩みです。このままだと受験はどうなるのかとても心配です。
周囲との関係について・いじめ	41	<ul style="list-style-type: none"> ○学校でいじめにあい、人間不信になって今は不登校です。外出することすらできません。いじめがなくなるような支援をしてほしいです。 ○もっと周りの人達との人間関係を良好にしたい。 ○嫌がらせ（いじめっぽいもの）を受けている。友達と上手くいかない。 ○学校の友達と同じレベルのことを行うことができない。アルバイトだけでは、付き合いで遊ぶこともできず、自分の状態をいうことが恥ずかしい。服もいつも同じ物を着ていて、少しはおしゃれがしたい。

(次ページに続く)

⁷⁶ ひとりの人が複数の分類にまたがる内容の回答をしている場合には、それぞれの分類に件数をカウントした。なお、比較的件数が多く見られた内容について、回答の一部を例示した。

図表 2-2-8-2 子どもが困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等

(前ページの続き)【自由記述】

回答内容の分類	件数	回答内容の要約・例
通っている学校や学校生活について	35	<p>○学校の先生とぜんぜん合わなくて、すごく困っています。もっと学校に行きたいです。</p> <p>○卒業後の進路が全く見えない。担任との懇談でも頼りない答えしか返ってこなく、とても不安だ。</p> <p>○生徒と向き合ってくれて、話をちゃんと聞いてくれて、いい方向に進むように考えてくれて、他の先生や生徒からの評判とか関係なしに向き合ってくれる、生徒思いの先生がいてほしい。</p>
生活費等のお金について	24	<p>○家賃で家計が逼迫している。</p> <p>○就職が決まり運転免許がほしい。しかしお金がない。</p> <p>○生活が苦しい。</p>
教育費・学費について	21	<p>○お金がないので塾に通えません。</p> <p>○高校や大学等の授業料も無償化にしてほしい。</p> <p>○進学時の費用を支援してほしい。塾に行くお金がないから、塾みたいにしっかりとした人に勉強を教えてほしい。</p>
家族について	21	<p>○お父さんがいないからお母さんが大変。お金がない。きょうだい3人いるから大変。</p> <p>○私自身、知的、持病等があり、人に伝えることが難しかったりします。母も難病ですが、他に身内がないため、母から色々と気をつけることを教えてもらっていますが、将来が不安です。</p> <p>○勉強をして働いて、お母さんを休ませたいです。</p>

第 3 章

自治体(福祉事務所)における 課題認識・取組の状況

3-1 取組の現状

3-1-1 取組の内容

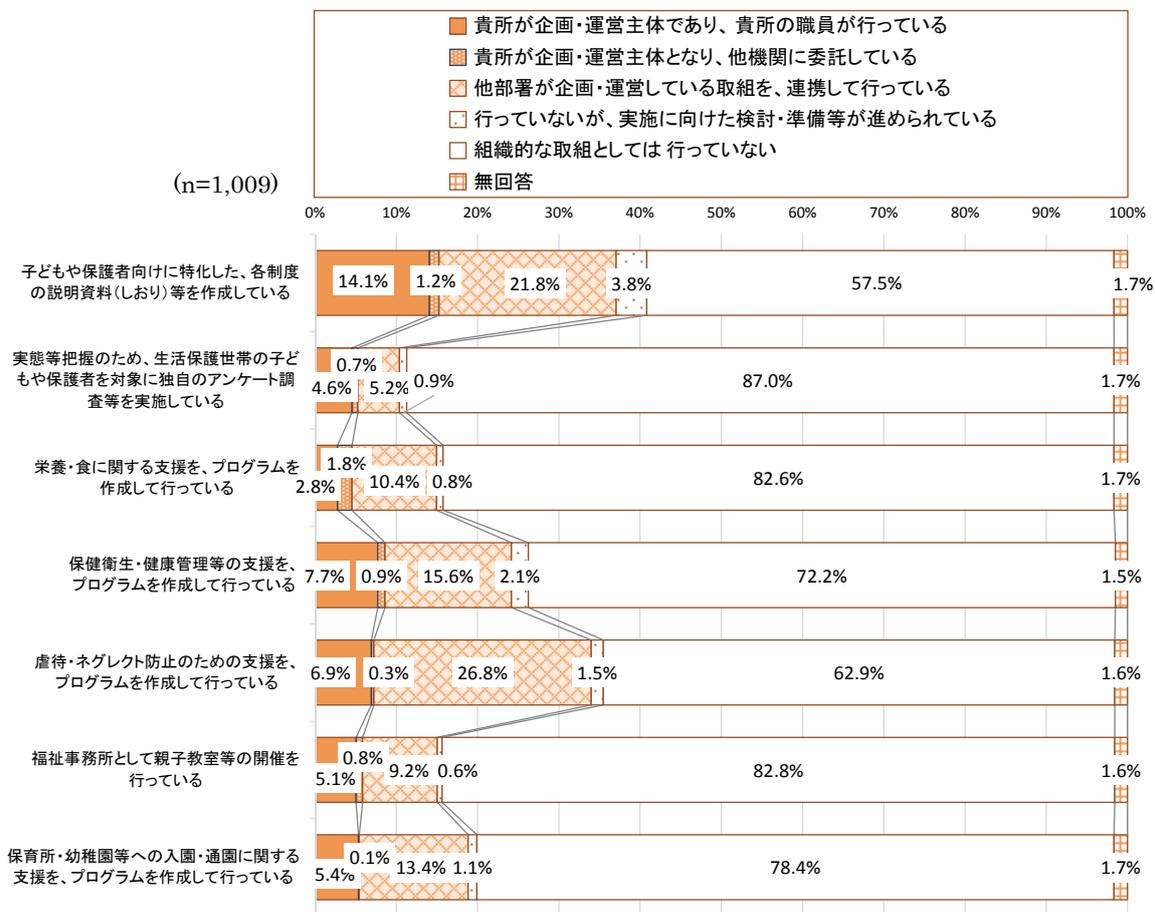
(1) 生活保護世帯の子どもに対する支援等の取組の実施状況

生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、福祉事務所において実施していることとしては、「学習支援・居場所づくりの事業」が約6割、「各制度の説明資料（しおり）等」が約4割、「高等学校進学のための支援」、「虐待・ネグレクト防止のための支援」、「不登校の子どもに対する支援」、「引きこもりの状態にあるものに対する支援」、「金銭管理等の支援」がそれぞれ約3割となっている。

特に「福祉事務所が企画・運営主体であり、福祉事務所の職員が行っている」との回答割合が高かったのは、「高等学校進学のための支援を、プログラムを作成して行っている」（17.5%）、「子どもや保護者向けに特化した、各制度の説明資料（しおり）等を作成している」（14.1%）、「福祉事務所として学習支援・居場所づくりの事業を行っている」（13.7%）であった。

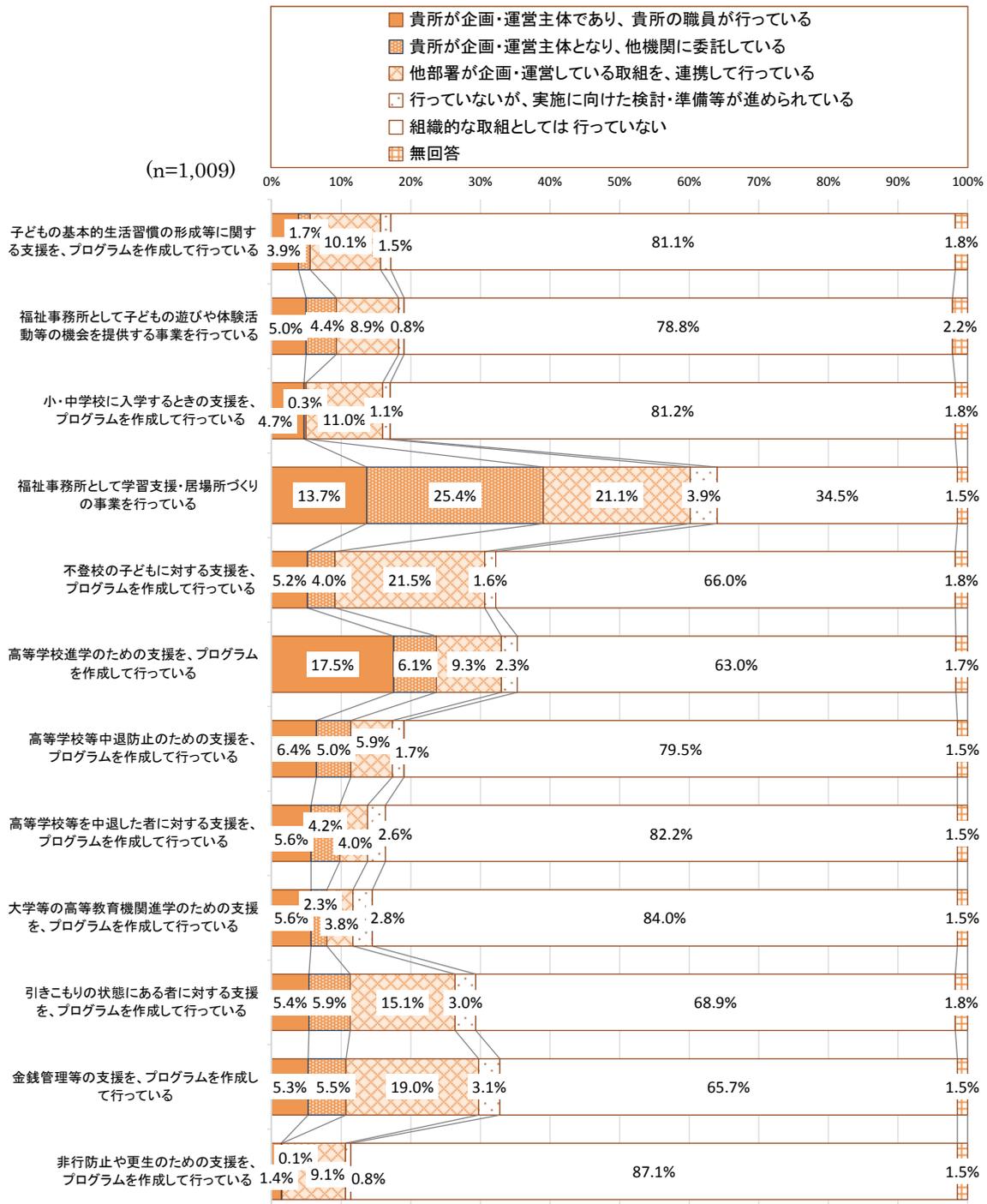
福岡7 貴所では、生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、以下のような取組を行っていますか。

図表 3-1-1-1 生活保護世帯の子どもに対する支援等の取組の実施状況



(次ページに続く)

図表 3-1-1-2 生活保護世帯の子どもに対する支援等の取組の実施状況（前ページからの続き）



(2) 特に工夫していることや独自の取組などで行っているもの

「生活保護世帯の子どもの自立を助長するための支援として、特に工夫していることや独自の取組などで行っているもの」について、自由記述欄に回答があったのは167件であった。

167件の回答を内容別に分類すると、「学習支援」に関する取組を実施・工夫していると回答した福祉事務所が47.9%で半数近くあった。続いて、「関係者との連携」を工夫しているとした福祉事務所が34.1%で、このほか、「家庭訪問や現認、アウトリーチ」、「制度情報の提供」、「居場所づくり」、「専門員の配置」などに関する内容の回答があった。

なお、「学習支援」については、高校進学や高校進学後の中退防止を目的とするものが多かったが、大学進学支援を目的としたものや、早期からの支援を目的とし小学生を対象としたものも見られた。また、不登校児の居場所提供を目的としているものや、自己肯定感の醸成や保護者との交流を目的としたものも見られた。学習支援に関する実施方法の工夫としては、学校の放課後に空き教室を利用しているものや、家庭訪問型で実施しているものなどが見られた。家庭訪問型では、家庭の生活状況の把握や保護者の相談支援・啓発などにつなげることも意図されている。

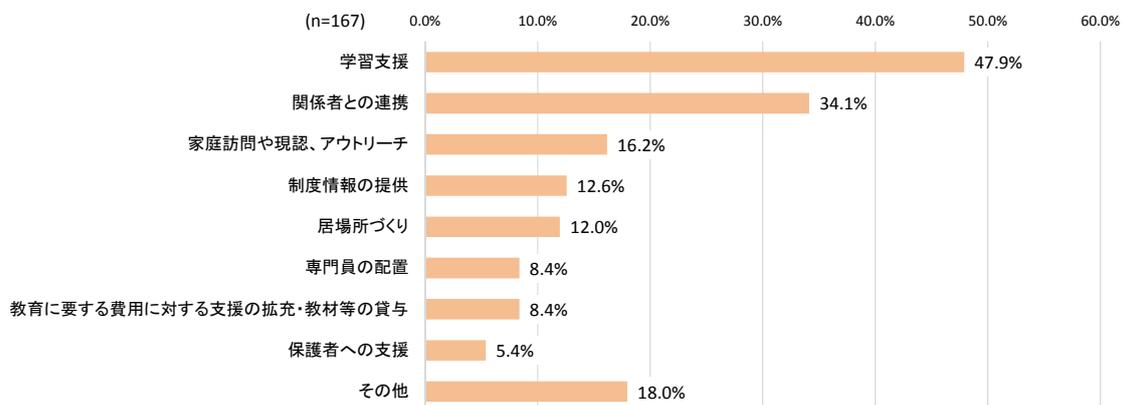
「家庭訪問や現認、アウトリーチ」については、家庭訪問の年間スケジュールが計画的に構築されている、訪問担当職員に元学校教員を配置している、各種のアセスメントシートを作成し評価の標準化を図っている、中高生向けの冊子などの共通コミュニケーションツールを作成している、などの回答が見られた。

「制度情報の提供」については、提供する情報の内容として、高校生のアルバイト収入に関する収入認定除外等の制度の情報、高校進学をはじめとした進学費用やその支援制度・奨学金に関する情報、自治体が発行している学習支援・居場所づくり事業の情報、などが見られた。

「専門員の配置」については、不登校児やひきこもりをはじめとした困難なケースに対して、積極的に個別訪問・アウトリーチを行い、就学支援、自立支援、他関係機関へのつなぎを行うことなどを目的としているとの回答が見られた。

福問 8 問7のA～Sの取組について、またはそれ以外で、貴所において、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための支援として、特に工夫していることや独自の取組などで行っているものがあれば、その内容をお教えてください。（自由記述）

図表 3-1-1-3 特に工夫していることや独自の取組などで行っているもの（自由記述の回答整理）



3-1-2 支援体制

(1) 福祉事務所としての子どもに対する支援体制

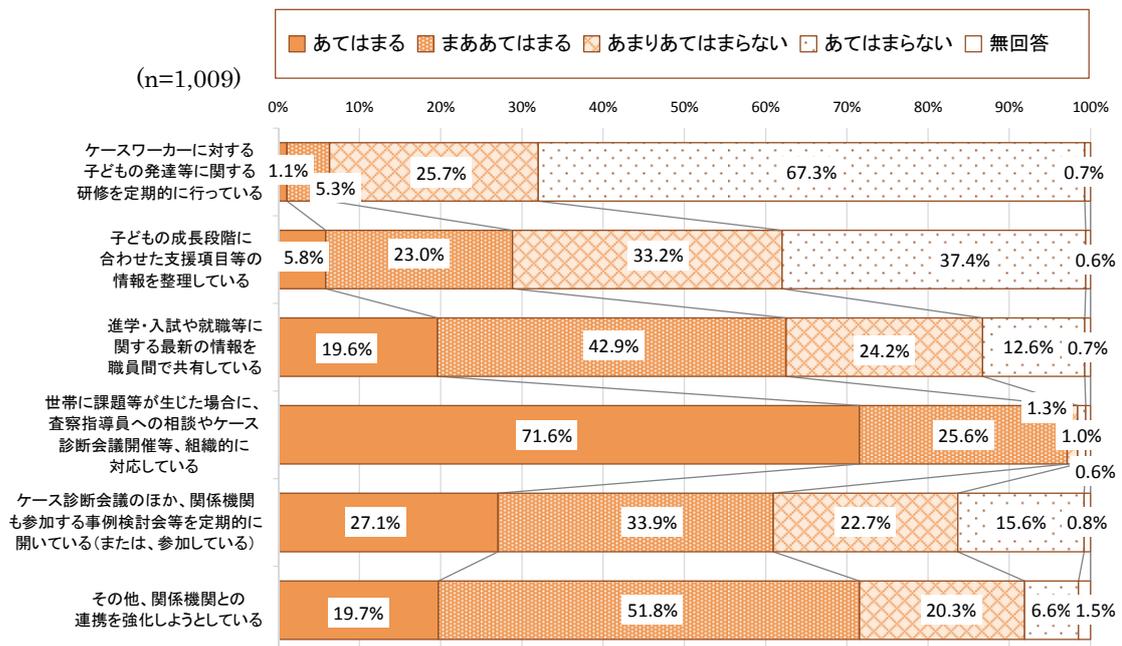
福祉事務所の支援体制として、「世帯に課題等が生じた場合に、査察指導員への相談やケース診断会議開催等、組織的に対応している」については、「あてはまる」が7割以上で、「まああてはまる」を含めると9割以上となっている。

他方、「ケースワーカーに対する子どもの発達等に関する研修を定期的に行っている」については、「あてはまる」または「まああてはまる」の割合は1割未満であった。

その他の点について「あてはまる」または「まああてはまる」の割合は、「子どもの成長段階に合わせた支援項目等の情報を整理している」は約3割、「進学・入試や就職等に関する最新の情報を職員間で共有している」と「ケース診断会議のほか、関係機関も参加する事例検討会等を定期的に行っている（または、参加している）」は約6割、「その他、関係機関との連携を強化しようとしている」は約7割であった。

福岡 6 貴所における生活保護世帯の子どもに対する支援体制等について、以下のようなことがどの程度当てはまりますか。

図表 3-1-2-1 福祉事務所としての子どもに対する支援体制



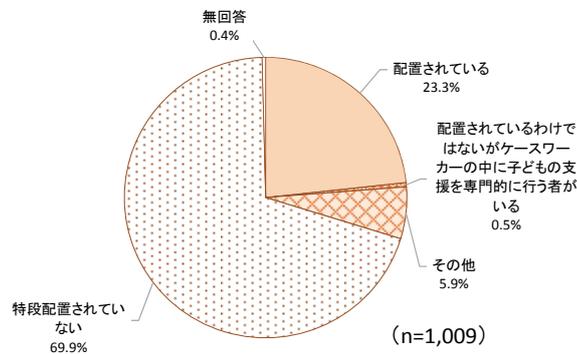
(2) 子どもの支援にかかる専門的な役割を行う職員等の配置

ケースワーカーのほかに、生活保護世帯の子どもの支援にかかる専門的な役割を担う職員などが配置されているかについては、「配置されている」が23.3%、「配置されているわけではないがケースワーカーの中に子どもの支援を専門的に行う者がいる」が0.5%、「その他」が5.9%であった。

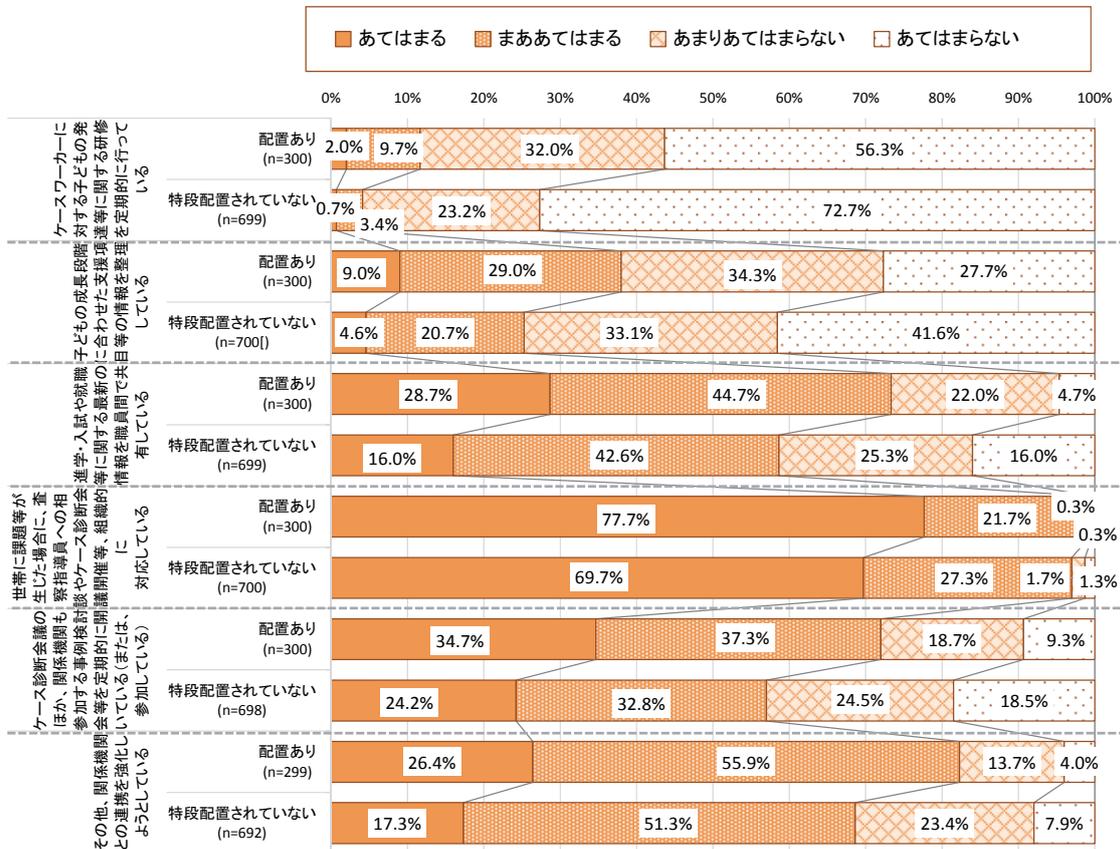
配置の状況別⁷⁷に、支援体制に関する状況について集計すると、いずれの点も、「特段配置されていない」福祉事務所に比べ、「配置あり」の福祉事務所では、「あてはまる」または「まああてはまる」の回答割合が高くなっている。

福岡4 貴所には、現業を行う所員（ケースワーカー）のほかに、生活保護世帯の子どもの支援にかかる専門的な役割を担う職員などが配置されていますか。

図表 3-1-2-2 子どもの支援にかかる専門的な役割を担う職員等の配置



図表 3-1-2-3 専門的な役割を担う職員等の配置の状況別、福祉事務所としての支援体制



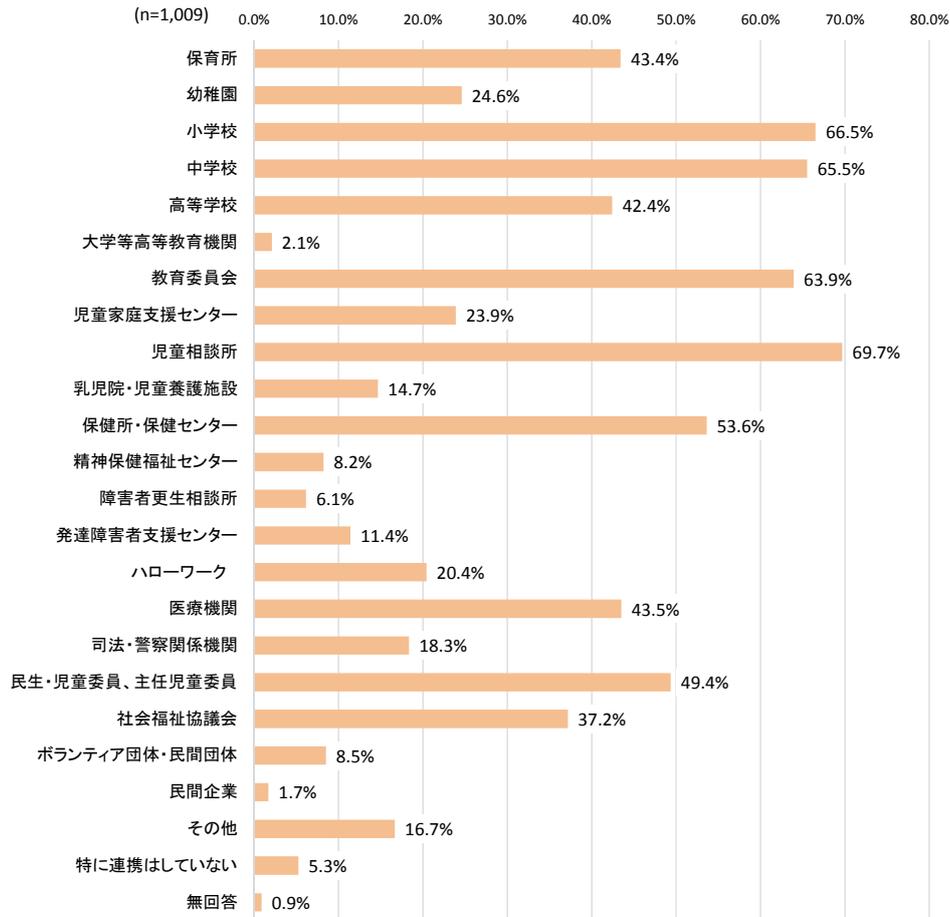
⁷⁷ 「配置されている」、「配置されているわけではないがケースワーカーの中に子どもの支援を専門的に行う者がいる」、「その他」を「配置あり」とした。なお、無回答の場合は除いて集計をした。

(3) 他の組織・機関等との連携状況

子どもに対する支援を行うにあたり他のどのような組織・機関等と連携しているかについては、「児童相談所」(69.7%)の回答割合が最も高く、「小学校」、「中学校」、「教育委員会」がそれぞれ6割以上、「保健所・保健センター」、「民生・児童委員、主任児童委員」が約5割で、「特に連携はしていない」は5.3%であった。

福岡5 生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、どのような組織・機関等と連携をしていますか。

図表 3-1-2-4 他の組織・機関等との連携状況【複数回答】



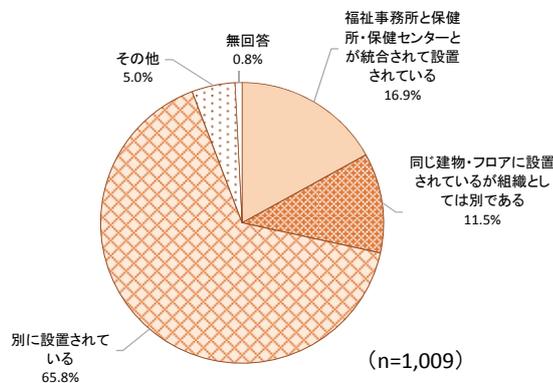
(4) 保健所・保健センターとの関係性

福祉事務所と保健所・保健センターとの関係性については、「福祉事務所と保健所・保健センターとが統合されて設置されている」が 16.9%、「同じ建物・フロアに設置されているが組織としては別である」が 11.5%、「別に設置されている」が 65.8%であった。

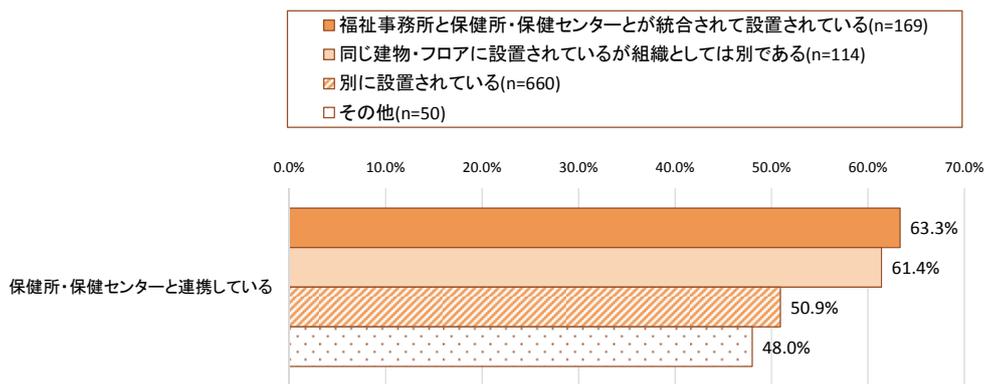
保健所・保健センターとの関係性別に、連携の状況について集計すると、「福祉事務所と保健所・保健センターとが統合されて設置されている」、「同じ建物・フロアに設置されているが組織としては別である」のほうが、「別に設置されている」、「その他」に比べて、連携しているとの回答割合が若干高くなっている。

福問3 貴所と保健所・保健センターとの関係性について教えてください。

図表 3-1-2-5 保健所・保健センターとの関係性



図表 3-1-2-6 保健所・保健センターとの関係性別、保健所・保健センターとの連携の有無



3-2 課題認識

3-2-1 ヒアリング調査で聞かれた保護者・子どもの状況等に関する課題認識

(1) 保護者の状況に関する課題認識

ヒアリング調査の中で聞かれた、保護者の状況に関する課題としては、「ひとり親世帯（母子世帯）であることによる困難」、「疾患や障がいを持つことによる困難」、「教育・進学のことに関する理解・認識の不足」などが挙げられた。

これらの課題があることは保護者を対象にしたアンケート調査の結果からも把握されているが、支援に関わる場面でも課題として認識されていることがうかがえる。

図表 3-2-1-1 ヒアリング調査で聞かれた保護者の状況に関する課題認識

ひとり親世帯 （母子世帯） であることによる困難	○母子世帯で、母親が疾患や就労など自分のことで精一杯になり、子どものことまで手が回らないことがある。
	○ひとり親世帯の保護者は自分自身のことだけでも生きづらさを抱えていることが多い。祖父母などが近くにいる場合は頼りにできるが、そういう家庭ばかりではない。
	○ひとり親世帯では、たとえ経済的には問題がなくとも、保護者の帰宅が遅くなる場合はそれまで子どもだけで家にいることになり、家に帰っても勉強するという習慣がつきにくい。
疾患や障がいを持つことによる困難	○保護者が疾患を持っており、仕事をしてもなかなか続かないなど、保護者自身が困難さを抱えている家庭が非常に多い。精神疾患の場合は病識がないこともある。
	○保護者自身が精神疾患など何らかの病気を抱えていて、さらに子どもも課題を抱えているなど、頑張っているものの保護者だけでは手に負えない状況になっているケースがある。その状況が理解されないときに、他者への不信感が生じ、子どもの不登校などにつながっていくようなことがある。
教育・進学のことに関する理解・認識の不足	○保護者自身が生活保護世帯の出身であったり、不登校を経験したりしている。また、保護者自身が過去にいじめを受けていたりするので、学校に対して肯定的な評価をしていないことがある。子どもの学校の準備を手伝えない、子どもが学校へ行かなくとも違和感がない、教育に対する意識が低い、という保護者もいる。
	○例えば子どもが小学校に入った時点でひらがなが書けない、2年生になったときに掛け算九九でつまずくということに対して、保護者がそれを課題と認識していないというようなケースがある。
	○高校受験の制度について説明をしてもうまく伝わらないことがある。一生懸命説明しても全然伝わっておらず、年度末の受験の時期に進学先が決まっていなくて焦り始めることがある。

(2) 子どもの状況に関する課題認識

子どもの状況に関する課題としては、「生活リズムの乱れ」、「不登校・高校中退に関する課題」、「心理面等における課題」、「ロールモデルの不在」、「友人や先輩等からの影響」などが挙げられた。

生活保護世帯の子どもでは生活リズムの乱れなどに起因して不登校傾向が強まることや、家庭内外での人間関係に課題が生じることが多いことがうかがえる。

図表 3-2-1-2 ヒアリング調査で聞かれた子どもの状況に関する課題認識

生活リズムの乱れ	○学習の状況に限らず、基本的な生活習慣や生活のリズム自体が整っていない子どもが多い。
	○家庭の生活リズムが乱れており朝起きられず毎回遅刻、または学校に行けないことになる。 その状況に保護者が慣れているため、学校へ行く習慣が身につかない。
不登校・高校中退に関する課題	○不登校気味になると、勉強についていけなくなり、友達もできず、より一層学校が行きにくい場所になっていく。
	○中学校時代に不登校を経験していたり、発達障がいやうつなどの精神疾患を有していたりして、高校に進学をしても、学校に適応できず、中退してしまう子どもが一定数おり、結果として生活保護世帯の中退率が高くなっている。
心理面等における課題	○DV や、離婚などといったことを背景に、子どもたちも閉じこもり気味になってしまう。
	○保護者が社会的に孤立しており、子どもに依存していることがある。また、子どもも学校へ行けずに孤立し、保護者に依存しているという関係性にあることがある。
	○「どうせ意味ないよ」「どうせ言っても無駄だよ」など、行動を諦めやすい子どももいる。「助けて」と言えるためには、他者への信頼感が必要である。
ロールモデルの不在	○保護者自身に課題も多く（精神疾患、幼少期の経験、DV、虐待等）、子どもにうまくかかわれない事もあり、子ども自身が大人に対して不信感やあきらめをいだきやすい。
	○周りの大人で働いている人がいないため、働くということがどういうことかをあまり実感できなかったり、周りに大学生がいないため大学生はドラマの中の人だと思っていたという話も聞く。身近にそのような人がいないと具体的なイメージがわからず、自分の将来像につながらない。
	○岐路にたったときの選択肢が少なかったり、経験が乏しかったり、関わる大人たちがそうした生活をしてきた人しかいないような環境で育つと、課題にぶつかったときに乗り越えることができなくなってしまう。
友人や先輩等からの影響	○友人・先輩からの影響を強く受けることがある。例えば、友人や先輩が風俗店で働いているから将来はそこで働けばいいと安易に考えてしまうことがある。SNS を介しての仕事の斡旋などの問題も生じている。
	○子どもは所属する集団に影響を受ける。中学生くらいになると家庭の影響よりも、学校の友人の評価の方が価値基準として上になってくる。進学時の選択にも周囲の友人の影響を受けることがある。

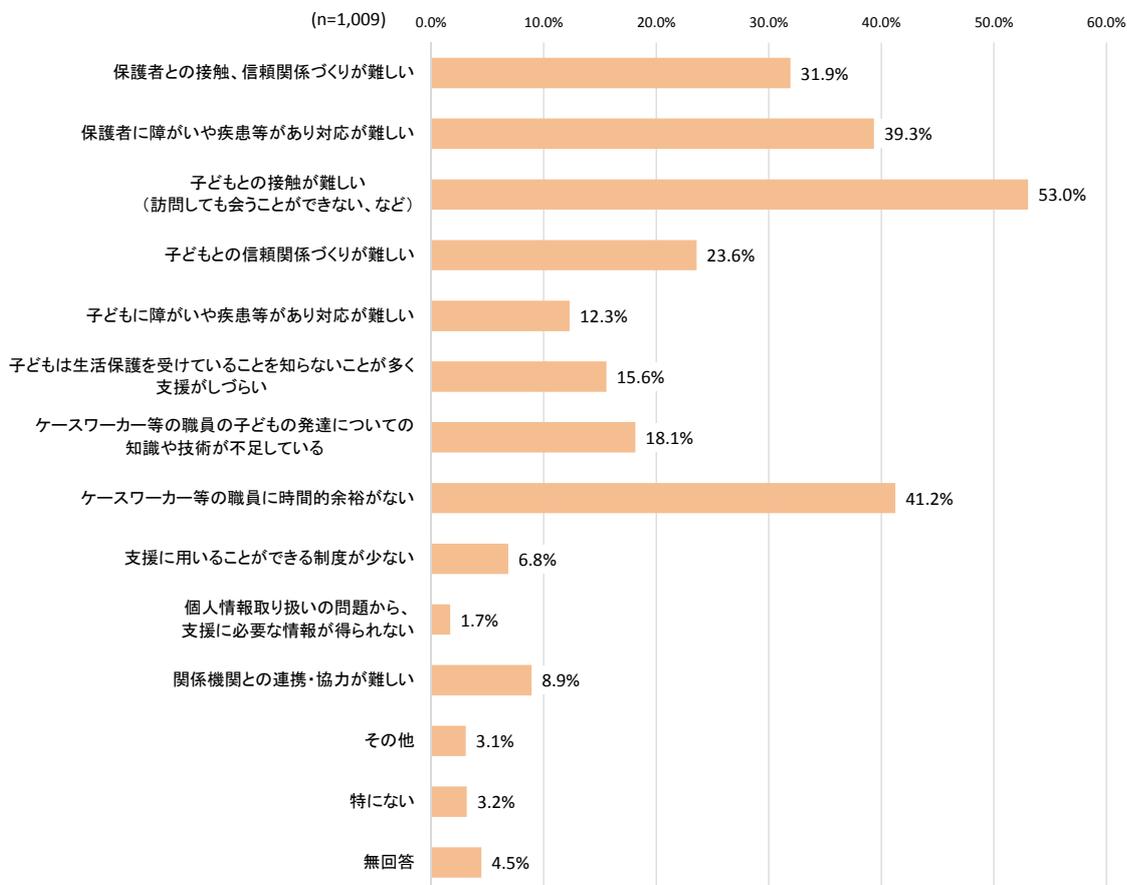
3-2-2 アンケート調査で把握された支援体制等に関する課題認識

(1) 生活保護世帯の子どもに対する支援を行う上での課題認識

生活保護世帯の子どもに対する支援を行う上で課題になっていることについては、「子どもとの接触が難しい（訪問しても会うことができない、など）」（53.0%）の回答割合が最も高く、次いで「ケースワーカー等の職員に時間的余裕がない」（41.2%）、「保護者に障がいや疾患等があり対応が難しい」（39.3%）、「保護者との接触、信頼関係づくりが難しい」（31.9%）となっている。

福問9 生活保護世帯の子どもに対する支援を行う上で、特に課題になっていることはありますか。

図表 3-2-2-1 支援を行う上で特に課題になっていること【3つまでの複数回答】



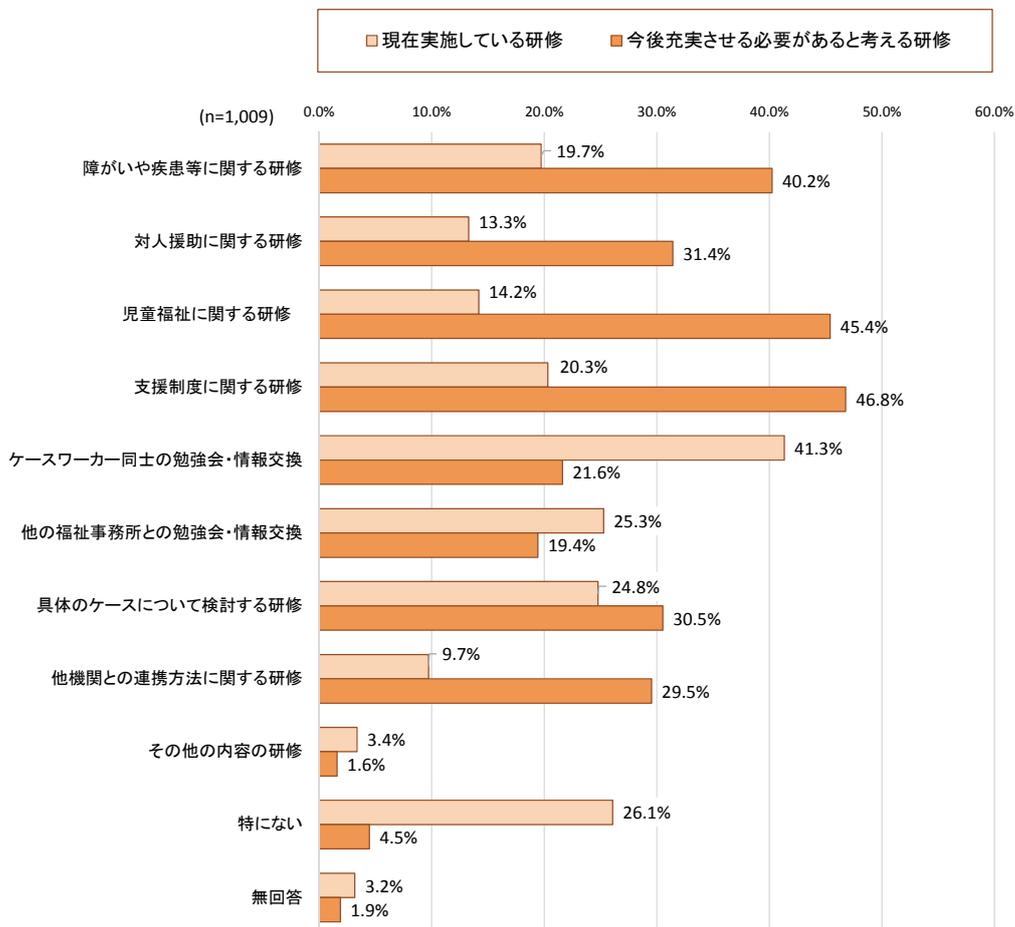
(2) 職員に対する研修の必要性

福祉事務所においてケースワーカー等の職員に対して現在実施されている研修としては、「ケースワーカー同士の勉強会・情報交換」(41.3%)の回答割合が最も高くなっている。「特にない」の回答も26.1%あった。

今後より充実させる必要があると考えられている研修内容としては、「支援制度に関する研修」(46.8%)の回答割合が最も高く、次いで「児童福祉に関する研修」(45.4%)、「障がいや疾患等に関する研修」(40.2%)となっている。

福問10 生活保護世帯の子どもや保護者に対する支援を行うにあたり、今後ケースワーカー等の職員に対する研修の内容として、より充実させる必要があると考えることはありますか。現在の実施状況とあわせて教えてください。

図表 3-2-2-2 職員に対して現在実施している研修の内容、今後より充実させる必要があると考えられる研修の内容【複数回答】



(3) 今後特に重要と考えられること

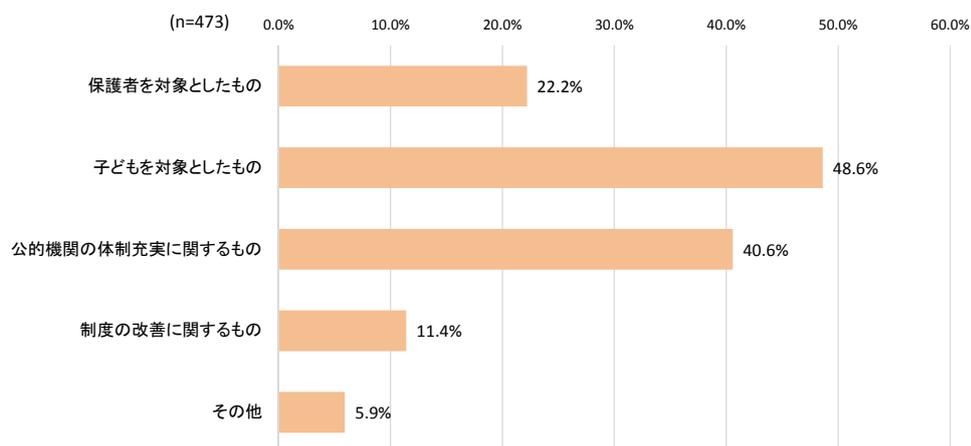
①全体としての回答傾向

「貧困の連鎖を断ち切り、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための総合的な支援を推進していくにあたり、今後特に重要と考えられること」として、自由記述欄に回答があったのは 473 件であった。

473 件の回答について内容別に分類すると、子どもを対象にした支援等に関するもの（学習支援の充実、自立へ向けた意識付け、中退防止支援など）が 230 件（48.6%）、公的機関の体制充実に関するもの（ケースワーカーの質・量の充実、専門員の配置など）が 192 件（40.6%）、保護者を対象にした支援等に関するもの（保護者の意識改革、生活習慣の改善など）が 105 件（22.2%）、制度の改善に関するもの（生活保護法の改正、市町村の権限強化、予算措置の拡充など）が 54 件（11.4%）であった。

福問 11 貧困の連鎖を断ち切り、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための総合的な支援を推進していくにあたり、今後特に重要と考えられることはどのようなことですか。お考えがあればお教えてください。

図表 3-2-2-3 今後特に重要と考えられること（自由記述の回答整理）



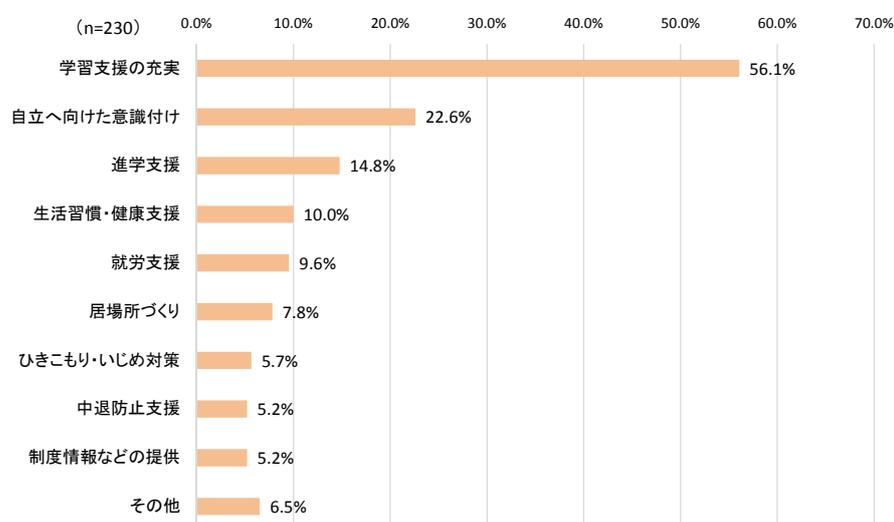
②子どもを対象とした支援等に関する回答の詳細

子どもを対象とした支援等に関する内容として分類した回答 230 件のうち、学習支援の充実を重視していたものが 129 件 (56.1%) 見られた。続いて、自立へ向けた動機付けなどの意識改革を重視していたものが 52 件 (22.6%)、高校進学等の進学支援を重視する回答が 34 件 (14.8%)、生活習慣の見直しや健康支援を重視しているものが 23 件 (10.0%) あった。

なお、学習支援の充実を重視している回答が多く見られたが、実施にあたっての留意点（保護者の姿勢、移動手段、周囲の目や評判などの負のレッテル、など）を挙げた回答もあった。

福問 11 貧困の連鎖を断ち切り、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための総合的な支援を推進していくにあたり、今後特に重要と考えられることはどのようなことですか。お考えがあれば教えてください。

図表 3-2-2-4 今後特に重要と考えられること
(子どもを対象とした支援等に関する自由記述の回答整理)



図表 3-2-2-5 子どもを対象とした支援（学習支援）実施の留意点等についての回答内容（一例）

①	貧困の連鎖を断ち切るためには、子どもへの学習支援を行うことは重要であるが、保護受給世帯においては、保護者が教育の重要性を理解していない場合が多く、それが子どもの不登校や非行に繋がる場合が多い。そのため、子どもへの学習支援と同時に、保護者に教育の重要性を理解してもらうための取組が必要であると考える。
②	「子どもの学習支援事業」で開催している学習会は、町ごとに1～2カ所での開催であり、時間帯も夕方から夜間となるが多いため、遠方からの参加が困難である。生活保護世帯は自動車の使用が認められていない世帯が多く、送迎ができないため参加できない世帯も多い。そうでなくても希望者の参加としているため、学習についての親の意識が低いことから、参加しない世帯もある。小学校就学前など年齢の低い時期からの親の意識に働きかけるような支援や、親の意識等とは関係なく参加できるような支援が望ましいのではないかと。
③	貧困世帯のみを対象とした学習支援、居場所づくりとなると、個別指導であれば予算が追いつかず、集合型であれば参加しづらくなるため、貧困世帯に限定しない学習支援、居場所づくりの取組が必要だと思う。

③公的機関の体制充実に関する回答の詳細

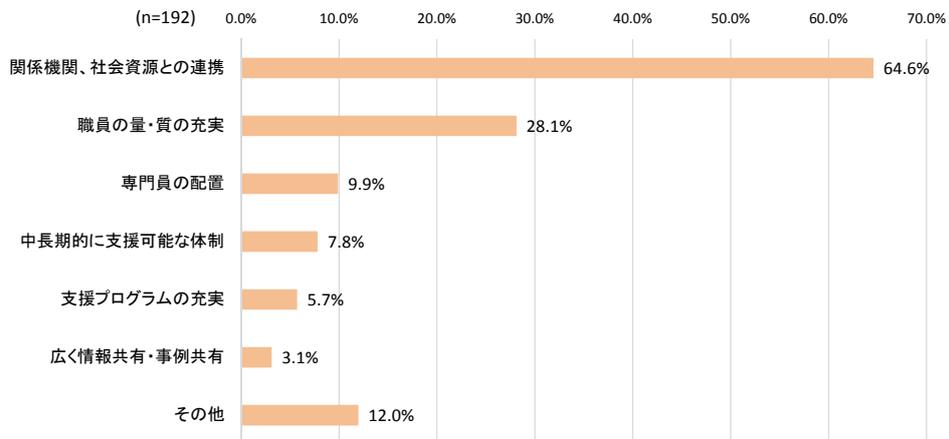
公的機関の体制充実に関する内容として分類した回答 192 件のうち、関係機関や地域の社会資源との連携を重視した回答が 124 件（64.6%）であった。続いて、職員の量・質の充実を重視する回答が 54 件（28.1%）、専門員の配置を重視する回答が 19 件（9.9%）となっている。

関係機関・社会資源との連携について、連携の目的としては、学習支援、高校中退の防止、発達障がいへの対応、虐待やネグレクトへの対応、障がい者への対応、ひきこもりへの対応など、多様な目的が挙げられた。また、目的に応じて連携機関も多様であり、中退防止を目的とするのであれば学校や教育委員会が連携先として挙げられ、学習支援を目的とする場合は学校・教育委員会のほか、NPO などの地域活動団体も連携先として挙げられた。また、中長期的に支援を継続するために、役所内の他部署との連携を強化するべきとする回答も見られた。

なお、連携の推進にあたり、互いが持つ情報の共有を進めていくことや、情報の活用方策について検討することが必要であるとの回答もあった。

福問 11 貧困の連鎖を断ち切り、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための総合的な支援を推進していくにあたり、今後特に重要と考えられることはどのようなことですか。お考えがあればお教えてください。

図表 3-2-2-6 今後特に重要と考えられること
（公的機関の体制充実に関する自由記述の回答整理）



図表 3-2-2-7 関係機関・社会資源との連携にあたっての留意点等についての回答内容（一例）

①	総合的な支援を推進するには、情報を管理する事務局または連携室等を設置し、問題点の把握や改善に取り組めるような組織化が必要ではないでしょうか。現在は問題が発生した時点でケース会議等が開かれています。個人情報の管理の点からも、速やかな連携が図れない場合があります。
②	貧困の連鎖を断ち切り、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための総合的な支援の推進にあたり、特に重要と考えられることは、エビデンスに基づく効果的な支援手法の確立および実施です。そのためには、データ収集や支援内容の精査に向け、生活保護担当課以外にも児童福祉担当課や教育委員会等の関係部署との連携が必須と考えられます。

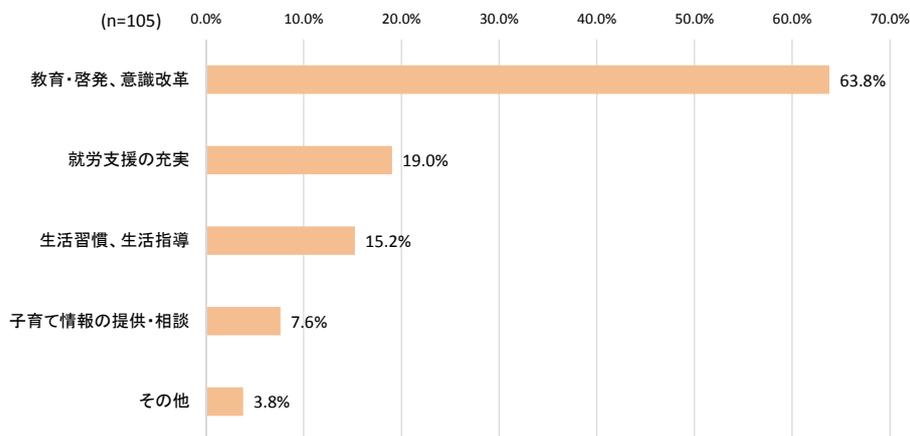
④保護者を対象とした支援等に関する回答の詳細

保護者を対象とした支援等に関する内容として分類した回答 105 件のうち、67 件 (63.8%) が保護者の教育・啓発、意識改革に言及したものであった。続いて、保護者の就労支援の充実を重視する回答が 20 件 (19.0%)、生活習慣や生活指導に関することを重視する回答が 16 件 (15.2%)、子育て情報の提供・相談に関する回答が 8 件 (7.6%) となっていた。

保護者を対象とした支援等については、子どもは保護者の姿を見て育つことから、保護者自身が就労や社会参加等をできるようにすることが重要であるとの回答が多く見られた。また、保護者自身が十分な育ちを経験していない可能性があることから、より早い段階から、知識豊かな支援者が寄り添いながら支援を行っていく必要があるという回答があった。

福問 11 貧困の連鎖を断ち切り、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための総合的な支援を推進していくにあたり、今後特に重要と考えられることはどのようなことですか。お考えがあればお教えてください。

図表 3-2-2-8 今後特に重要と考えられること
(保護者に対する支援等に関する自由記述の回答整理)



図表 3-2-2-9 保護者を対象とした支援にあたっての留意点等についての回答内容 (一例)

①	親に対して：親がきちんと社会参加している姿を、子どもたちに見せることが必要であるため、親に対する就労指導と支援、生活指導を行うことが重要である。また、子ども（の将来）に関心を持つことを促すような支援が必要と考える。
②	産褥期～乳幼児期・学童期の関わりが重要だと考える。母親自身が自分の十分な育ちを経験しないまま育児を行うことになれば、自身の経験の範囲内でしか対応ができない恐れがある。そこに知識豊かな養育のプロが関わり、乳幼児期からの育ちや声かけ対応の仕方など、細やかに母親に寄り添い、伝えることにより、自己肯定感や自己効力感の高い子どもを育てる一助となると考える。幼少期の心の育成に目を向けることで、自らの力で生きていくことができる子どもが育つと考える。

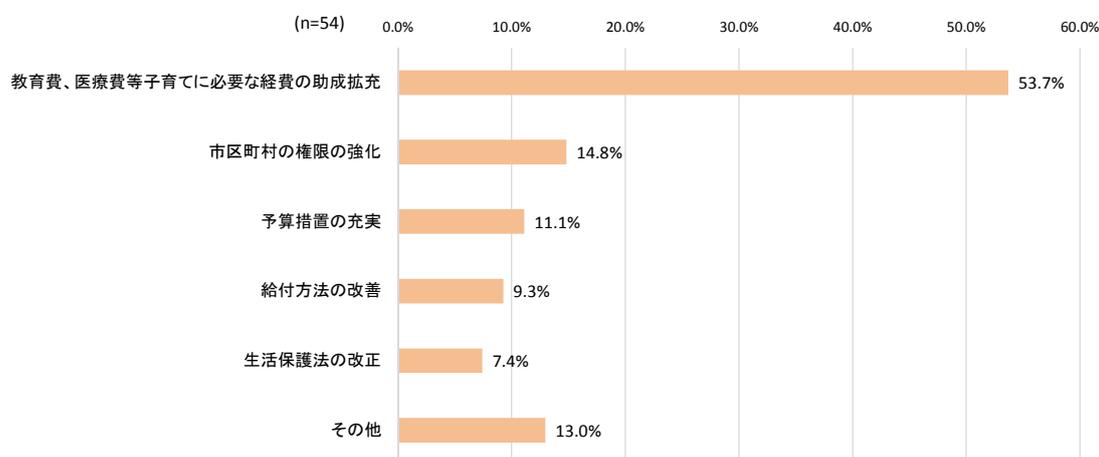
⑤制度の改善に関する回答の詳細

制度の改善に関する内容として分類した回答 54 件のうち、教育費・医療費等子育てに必要な経費の助成拡充に言及した回答が 29 件（53.7%）あった。続いて、市町村の権限強化に言及した回答が 8 件（14.8%）、予算措置の充実に関する回答が 6 件（11.1%）、給付方法の改善に言及した回答が 5 件（9.3%）、生活保護法の改正に関する内容が 4 件（7.4%）となっていた。

回答の中には、課題のある世帯の保護者と子どもを離れて生活させるなどの介入に関する権限を強化する必要があるといったものや、本来子どもへ給付されているはずの経費が別の用途に使われるなどにより、子どものために使われていないことに対する危惧を示す回答もあった。

福岡 11 貧困の連鎖を断ち切り、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための総合的な支援を推進していくにあたり、今後特に重要と考えられることはどのようなことですか。お考えがあればお教えてください。

図表 3-2-2-10 今後特に重要と考えられること
(制度の改善に関する自由記述の回答整理)



図表 3-2-2-11 制度の改善にあたっての留意点等についての回答内容（一例）

①	子どもにとって親と一緒に暮らしていただける状態が本来の姿であるが、親の育児放棄や DV 等で、一緒に暮らしていることがかえって不適切な状況となっている事例も数多く挙がっている。生活保護世帯においても同様の事例が確認されている。担当ケースワーカーを中心として、様々な福祉の支援をもって手助けを試みても、親自身がそれを受け入れずに、子どもの自立のためにならない考えを貫いてしまう。親と子の関係に対して、行政等の外部からの立ち入りがすごく難しい現状である。福祉による支援のあり方として、子どもの健全な育成と自立の助長を促すための福祉の権限を見直すことが必要と強く感じている。
②	少数の世帯が対象となるが、子どもに係る費用（学級費など）について、親が受け取っても学校等へ支払っていないケースがある。学校等からの請求による代理納付が必要と考える。

3-3 取組の事例

①埼玉県：

小学生対象の学習・生活支援事業

- 平成22年度から中学生を対象とした学習支援事業を実施しているが、より早い段階からの支援が必要なのではないかという課題認識を基に、小学生を対象として週3回、学習に加え、体験活動や食育などを含む教室を開始した。
- 子どもの表情が変わった、リーダーシップを発揮するようになったなどの変化が見られていることに加え、送迎の際に学習支援員とコミュニケーションをとることで保護者にも変化が見られるようになった。

背景・課題認識

- 子どもは生まれてくる場所を選ぶことができず、生活習慣の乱れなど、保護者の影響を強く受けてしまうという課題認識があった。
- 中学生・高校生対象の学習支援は実施が進んできていたが、より早い段階から、学習に加え、生活等の支援が必要であるという認識があった。

取組・アプローチ

- 学習の支援だけでなく、生活支援、体験活動、食育等もセットにした学習・生活支援事業として、小学生を対象に週3回開催の「ジュニア・アスポート事業」を実施。
- 「非認知能力」を伸ばすことを意識し、社会で生き抜く力や頑張る力、協調性を高めることを重視。

取組実施による変化や、実施にあたっての工夫・留意事項、今後の課題等

- プログラム実施にあたり、民生委員、農家、農協、子ども食堂、フードバンク、大学生ボランティアなどの多様な関係者と連携。
- 自信をつけてもらえるように、子ども一人ひとりの得手不得手を考慮して対応。
- 小学生対象のため、送迎は支援員が実施。送迎の際に保護者と顔を合わせることで、生活状況等を把握する機会にもなっている。
- 子どもの表情が変わった、不登校であったが学校に行けるようになった、子どもがリーダーシップを発揮するようになった、野菜が好きになった、お金の使い方や切符の買い方を覚えたなど、様々な変化が見られるようになってきている。
- 学力面や非認知能力の変化など、効果検証を今後行っていく予定。

②東京都足立区：

計画的な家庭訪問、学校との連携・情報共有の推進

- 年間スケジュールを定めて計画的に家庭に訪問し、「現認」を組織的な対応として行う。
- 学習支援や高校生の収入認定除外、子どもの支援に関する内容を記載したカラーチラシや、36項目からなるチェックシートなどを活用して、子どもとの直接的なコミュニケーションや生活状況等の把握に努めている。

背景・課題認識

- 虐待死事件の発生や「子どもの貧困対策実施計画」の策定等を契機に、「現認」の重要性に対する認識が高まった。
- 社会的なつながりが少ない保護者が多い中で、福祉事務所だけでなく、様々な人たちが関わっていけるように取り組んでいかなければならないという課題認識が高まるようになった。

取組・アプローチ

- 年間スケジュールを定めて計画的に家庭訪問を実施しており、年度始めの4～6月には全世帯を対象に第1回の家庭訪問を実施。
- 夏季休業期間中にはカラーチラシを配付し子どもに制度の内容等を直接説明しながら現認を実施。
- 学校・教育委員会と連携をし、双方が把握している課題等の情報を共有しながら対応。

取組実施による変化や、実施にあたっての工夫・留意事項、今後の課題等

- 数年前は50%程度であった現認率が、90%前後まで向上。
- チラシには学習支援や高校生の収入認定除外、子どもの支援に関する内容を記載し、ケースワーカーの名前と係、直通番号を書いたカードも渡している。チラシが、職員と子どもの共通のコミュニケーションツールとなっている。
- チラシ掲載の内容に基づいて、高校生が自ら福祉事務所に支援の制度等に関し問い合わせをしていくということもあった。
- チェックシートは、生活状況の状況把握だけでなく、職員間の引継や情報共有を円滑に行えるようにすることも目的。
- 学校・教育委員会との連携により、学校では見えない課題、福祉側が知らなかった保護者に関する情報など、共有をしながら、課題がある子どもを漏れなく把握できるように取り組んでいる。

③沖縄県那覇市⁷⁸:

支援員による実態把握と支援

- 様々なバックグラウンドや技術を持つ自立支援員を 13 名配置。学校と連携しながら子どもたちの状況を多面的に把握。学校・親・子どもの関係を円滑化し、支援につなげている。
- 学校・家庭からの情報を基に支援策を策定。主体を子どもたちとし、状況に合わせて適切な居場所等につなぐ。

背景・課題認識

- 沖縄県は貧困率が高く、生活保護世帯の高校進学率が低かった。
- 家族の社会的孤立や自己肯定感の低下、その結果の人間不信や諦観の考え、情報の不足等があると考えられた。
- 支援の検討のためにも、家族の状況の実態把握をしていく必要があった。

取組・アプローチ

- 元教員や認定心理士、社会福祉士など多様なバックグラウンドを持つ自立支援員を 13 名配置。
- 対象者リストを作成したうえで、学校と連携しながら家庭訪問を実施し、チェックリストに基づき支援方針を検討。
- 学習支援事業や居場所づくり事業など、多様な社会資源とつないでいる。

取組実施による変化や、実施にあたっての工夫・留意事項、今後の課題等

- 平成 22 年度時点で生活保護世帯の高校進学率が男子 65%、女子 91%であったところ、平成 29 年度時点では男子 91.4%、女子 94.1%にまで向上。
- 学校や様々な関係機関と連携することにより、それぞれの立場から異なる情報を収集することが可能になり、子どもの状況を立体的に把握することが可能になった。
- 支援員の多様性を確保することで、子どもたちの様々な個性に対応できるようにしている。
- 個々の支援員の業務・心理負担を緩和するため、定期的に支援員同士の定例会議を行い情報共有をする体制を構築している。
- 発達障がいの子供も、不登校の子供もなど、子どものニーズに対応できるようにすることが今後の課題の一つとなっている。

⁷⁸ ヒアリング調査を実施した保護管理課における取組を整理したものである。

④茨城県ひたちなか市：

教育委員会と連携した学校での学習支援事業

- 支援を必要とする子どもが学習支援の場に適切に参加できるよう、教育委員会との連携により、放課後の学校での空き教室を利用した学習支援を実施。
- 学習支援の場で家庭に福祉的な課題があることが把握された場合には生活支援等につなげられるよう、方策について検討を進めている。

背景・課題認識

- 学習支援の必要性に対する認識が高まり検討を始めたが、公民館等の場所に集めて開催する方法では、支援を必要とする子どもが来ないのではないかと考えられた。
- 生活困窮世帯について保護者が相談に来ない限り、状況の把握・対応が難しい中で、アウトリーチの方法についても検討する必要があった。

取組・アプローチ

- 生活困窮世帯だけでなく学力・学習に課題がある子どもを広く対象とし、放課後に小学校の空き教室を活用した学習支援事業を実施。
- 教育委員会が実施主体となり、地域のボランティアや大学生などにも協力を得て、1回2時間、国語・算数などの基礎的な学習内容を教える。

取組実施による変化や、実施にあたっての工夫・留意事項、今後の課題等

- より早期に対応をした方がよいという考えから、小学生から支援を実施（学童保育等の放課後の事業に参加しなくなるタイミングである小学5・6年生からを対象）
- 生活困窮世帯のみを対象としているわけではないため、レッテルを貼られることも避けられる。学校側で学習面で支援が必要だと思われた子どもに声掛け等を行うことができている。
- 地域のボランティアや大学生など、「大人の人」に関わりをもってもらえることが子どもに大きな影響を与えている。（家では経験できない時間を子どもたちは過ごせている）
- 保護者からも好評で、学力が上がったという傾向も見られている。
- 学習支援の場で家庭に福祉的な課題があることが把握された場合には生活支援等につなげられるよう、アウトリーチの方策の一つとして考えている。

⑤神奈川県横浜市(保土ヶ谷区):

中学生・高校生の居場所となるような寄り添い型の学習支援事業

- 2007年から中学生、2013年から高校生も対象とした学習支援事業を実施。
- 地域の大学生がアシスタントとして関わるなかで、高校進学後・大学進学後の話をするなどロールモデルにもなっている。
- 特に高校生にとっては、高校生になってもつながりが生まれる場としての機能も果たしている。

背景・課題認識

- 高校進学後の中退やその後の進路未決定の問題などがあるなかで、高校生になると困ったことがあっても誰にも相談ができない状況であるという課題認識があった。
- 最終的に貧困を抜け出すには様々な経験をする中でいろいろなことを乗り越えていかなければならないが、社会体験が乏しい子どもが多いという課題認識もあった。

取組・アプローチ

- 中学2年生から高校生を対象に、週に3回、1回2時間の学習支援を実施。(事業開始当初から継続的にNPO法人に委託)
- 近隣の大学との連携により、大学生がアシスタントとして参加。大学生がグループワークでの研修会に参加するなど、積極的に関わる。

取組実施による変化や、実施にあたっての工夫・留意事項、今後の課題等

- 高校生は参加の頻度が高い人ばかりではないが、高校生になってもつながりが生まれる場としての機能も果たしている。教室で友だちができるようになった子どももいる。
- アシスタントは近隣の大学生を中心に、アシスタント1人に対して子ども2人のバランスになるように配置。大学では単位認定されるようになっており、学生がグループワークでの研修会に参加し、意見を出し合うこともある。
- 大学がどのようなところなのかの雑談を含めながら、大学生がロールモデルにもなっている。
- 教室では寄付してもらったお米が炊いてあり食べられるようになっているが、自分のことは自分でやるといった生活経験の場にもなっている。
- 市内各区に1名ずつ、教育支援専門員を配置。各学校に教育支援専門員が訪問しており、学校との連携も進んでいる。学校の先生としても学習支援の場をひとつのツールとして認識をしている。

⑥東京都墨田区：

各種のプログラムによる伴走型対応

- 区内で地域格差・学力格差が見られる中で、高校進学への支援や中退防止を目的として、プログラムによる伴走型の支援を展開。
- アセスメントシートを活用した、高校未就学者や、ひきこもりで高校へ行っていない子ども等を対象にした支援プログラムなども実施し、格差の連鎖解消に向けた取組を進めている。

背景・課題認識

- 区内で地域格差があり、それが子どもの学力格差として表出している状況にある。
- 家庭環境に加えて、友人関係の影響があり、同じ地域で似た境遇の友人ができ、連鎖から抜け出し難くなる。
- 高校1年生の2学期のテストで成績が悪く進学できない可能性が高まると、中退を選択することが多い傾向がある。

取組・アプローチ

- 中学3年生全員に就学希望調査を実施し、保護者との情報交換を含め高校進学手続きなどをサポート。
- アセスメントシートを活用し、高校生の定着・中退防止に取り組んでいる。
- 高校未就学者や、ひきこもりで高校へ行っていない子どもを対象としたプログラムを策定し支援を開始した。

取組実施による変化や、実施にあたっての工夫・留意事項、今後の課題等

- 各種のプログラムにより、従来は子ども本人と会う機会がなかなかなかったなかで、現場のケースワーカーとしては子どもたちの通学・進学状況の把握が少しずつできているという感覚を持つようになってきているのではないかと考えられる。
- アセスメントシートにより子どもたちの状況を網羅的に把握していきつつあるが、様々な制度が策定されていることや業務が多様化しているなかでシートの記入自体も負担になることから、できるだけ負担にならないできめ細かい対応ができるのが課題である。
- 保護者の養育能力や金銭管理能力が欠如しているケースが見られ、保護者を介さず子どもに直接支援の手を届かせるためには、子育て支援センターなどの他機関と連携していくことが重要になると考えている。

⑦宮崎県宮崎市：

居場所事業と子ども支援員による子どもに寄り添うきめ細かな支援

- 不登校の子どもなどを対象とし、学校以外のセーフティネットとしての居場所づくり事業『コラッジョ』を実施。
- 不登校や家庭環境が複雑などの理由からコラッジョへ通うことが困難な子どもたちへのアウトリーチ支援を目的として「子ども支援員」を配置。子どものペースに合わせた寄り添い型支援を実施している。

背景・課題認識

- 高校進学率は目標水準を超えているものの、毎年一定数の中退者がおり、中退防止対策の必要があった。
- 高校中退者は、発達障がいや、中学時代から不登校傾向があるなどの課題があった。
- ケースワーカーが知らないうちに中退していたという事例もあり、把握が必要と認識していた。

取組・アプローチ

- 不登校の子ども等を対象とした居場所づくり事業「コラッジョ」を実施。高校進学や中退防止を目的とした学習支援・進路相談等を実施。
- コラッジョの場に来られない子どもたちの把握と支援を目的として、アウトリーチを専門とする「子ども支援員」を2名配置。CW、SSW、コラッジョと連携をしている。

取組実施による変化や、実施にあたっての工夫・留意事項、今後の課題等

- コラッジョの先生は、高校の教員OBなどであり、コラッジョに来る子どもたちの状態やニーズ等に対応できるようにしている。
- 子ども支援員は教員免許や福祉資格を持つ方を対象として募集し、2名の支援員を配置。支援員一人につき10世帯ほどを担当し、週に1回以上家庭訪問を実施している。
- 保護者が精神疾患等を有し子どもたちがひきこもり状態になっている家庭へのアウトリーチにより、家族を医療へつなげることができたケースなど、成果が出てきている。
- 子ども支援員は、SSWの会議に出席したり、担任の先生や校長先生と直接情報交換するなど、教育部門と積極的に連携し情報共有を図っている。
- 子どものペースや気持ちに寄り添った支援をすることが遠回りのようで重要と考え、対応を図っている。

第 4 章

支援のあり方等に関する考察

4-1

保護者(世帯)の状況と子どもの状況との関連性について

【保護者(世帯)の状況と子どもの状況との関連性⁷⁹⁾に関する概要・考察】

<生活習慣・健康>

- 保護者の健康状態やこころの状態は、子どもの健康状態との関連性があり (p.107 図表 4-1-1-1~図表 4-1-1-2)、また、子どもの生活習慣との関連性も見られる (p.108 図表 4-1-1-3~p.109 図表 4-1-1-6)。
- 保護者(世帯)の状況が子どもの生活習慣等に影響を及ぼす可能性があることは自治体(福祉事務所)にも認識されている (p.90 図表 3-2-1-2) が、子どもの生活状況の安定・改善のためには保護者の心身の安定のための支援が重要であることがうかがえる。
- ただし、もし保護者への支援が難しい場合には、より直接的に子どもの生活支援を行うことが必要である。生活支援により、子どもが前向きに生活できるようになるといった変化も把握されている (p.98)。

<学習>

- 生活保護世帯の子どもは一般的な世帯の子どもと比較して学習の面で課題を抱えている子どもが比較的多いことがうかがえた (p.39) が、生活保護世帯の子どもの中なかでも、保護者が勉強することを重視している子どものほうが勉強時間は長い傾向が見られる (p.111 図表 4-1-2-2)。
- また、自宅に勉強する場所があるかどうかによって中学生の勉強時間に差異が見られ (p.110 図表 4-1-2-1)、保護者の「難しいことや新しいことに挑戦すること」に対する考え方によって小学生の学習態度に差異が見られた (p.112 図表 4-1-2-3)。
- これらの結果からは、家庭での環境が整わない場合は学習支援の場に子どもが参加できるようにし、そこで多様な形で大人の人と接する機会を持つ (p.101,102) ことが重要であることがうかがえる。

<自己肯定感・将来展望等>

- 保護者が養育上の困難を抱えている場合には子どもの自己肯定感や対人関係のあり方にも課題が見られる傾向にある (p.113 図表 4-1-3-1~p.114 図表 4-1-3-3)。また、保護者の関わり方と子どもの将来に対する意識の持ち方にも関連性が見られる (p.115 図表 4-1-3-4~p.116 図表 4-1-3-5)。
- 子どもを支援するにあたっては保護者の考え・意識の面にもアプローチしていかなければならないことは自治体(福祉事務所)においても認識されている (p.94 図表 3-2-2-5、p.96 図表 3-2-2-9) が、保護者自身も様々な困難を抱えていると考えられる (p.89 図表 3-2-1-1)。
- 「生活習慣・健康」や「学習」に関しても同様であるが、保護者に対する支援も重要であり、また、保護者の状況の改善が難しい場合には、より早期から支援者が子どもに対して直接的に関わりを持っていくことが重要になるのではないかと考えられる。

⁷⁹⁾ 本報告書で掲載したクロス集計に関しては、多くの場合、「保護者の意識や行動により子どもが影響を受ける」ということと、「子どもの状況により保護者の意識や行動のあり方が影響を受ける」ということの、双方向での関係性が想定される。このように因果の関係性までは明確にはわからないが、いくつかの点について、保護者の状況と子どもの状況の関連性が高いという結果を示した。なお、関連性の有無については、カイ 2 乗検定または平均値差に関する分散分析により、5%水準で有意な差異が見られた点について解釈・コメントをした。有意確率については、図表横等に「p=●●」として示した。

4-1-1 生活習慣・健康

(1) 保護者の健康状態と子どもの健康状態との関連性

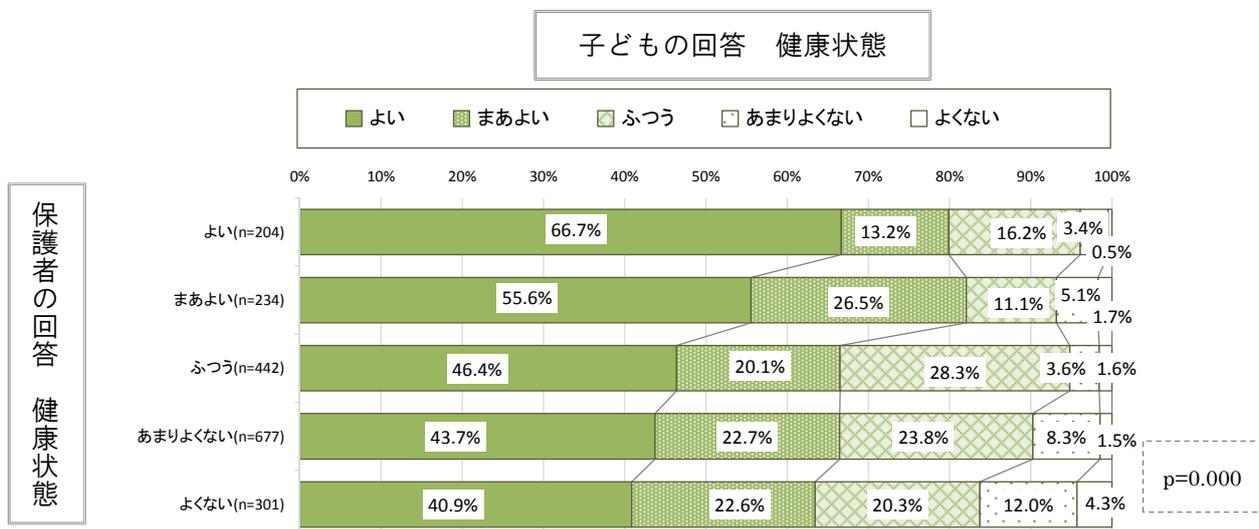
保護者の健康状態と子どもの健康状態との関連性について、健康状態が「よい」と回答した保護者の子どもでは「よい」の回答割合が66.7%であるのに対して、健康状態が「よくない」と回答した保護者の子どもでは「よい」の回答割合は40.9%であり、差異が見られる。

保護者のこころの状態と子どもの健康状態との関連性についても、保護者のK6の得点が「0～4点」の場合に子どもが健康状態を「よい」と回答した割合が57.2%であるのに対して、「15点以上」の場合の子どもでは「よい」の回答割合は38.1%であり、差異が見られる。

保(9) あなたの現在の健康状態はいかがですか。

子(15) あなたのいまの健康状態はいかがですか。

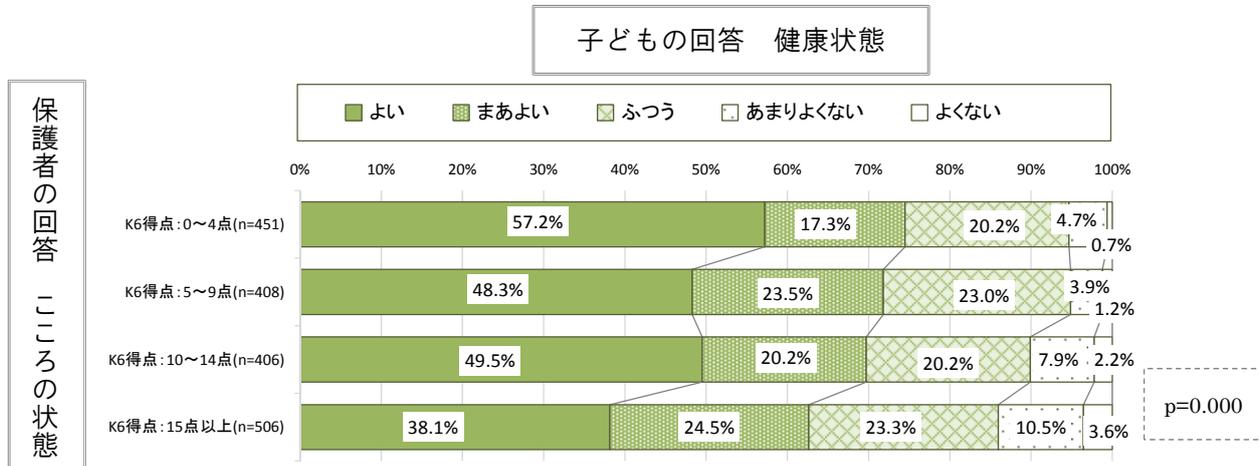
図表 4-1-1-1 保護者の健康状態と子どもの健康状態との関連性



保(14) 次のそれぞれの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。

子(15) あなたのいまの健康状態はいかがですか。

図表 4-1-1-2 保護者のこころの状態 (K6による得点) と子どもの健康状態との関連性



(2) 保護者の健康状態と子どもの生活習慣との関連性

保護者の健康状態と子どもの生活習慣との関連性について、健康状態が「よい」と回答した保護者の子どもでは毎日お風呂に入ることを「している」の回答割合が 81.4%であるのに対して、健康状態が「よくない」と回答した保護者の子どもでは「している」の回答割合は 73.1%であり、差異が見られる。

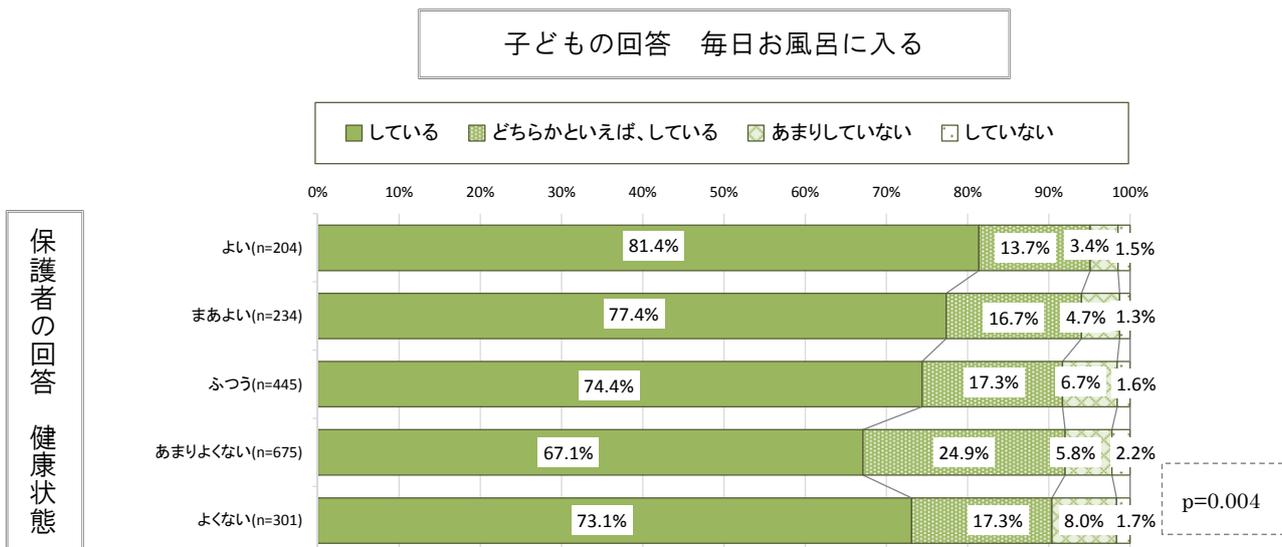
保護者のこころの状態と子どもが毎日お風呂に入ることとの関連性についても、保護者の K6 の得点が「0～4点」の場合に子どもが「している」と回答した割合が 78.7%であるのに対して、「15点以上」の場合の子どもでは「している」の回答割合は 69.2%であり、差異が見られる。

また、保護者のこころの状態と子どもの生活習慣との関連性については、子どもが「毎日朝ごはんを食べる」ことや「毎日歯をみがく」ことに関しても統計的に有意な関係性があり、K6 の得点が高い保護者の子どもではそれぞれ「している」の回答割合が低い傾向が見られる。

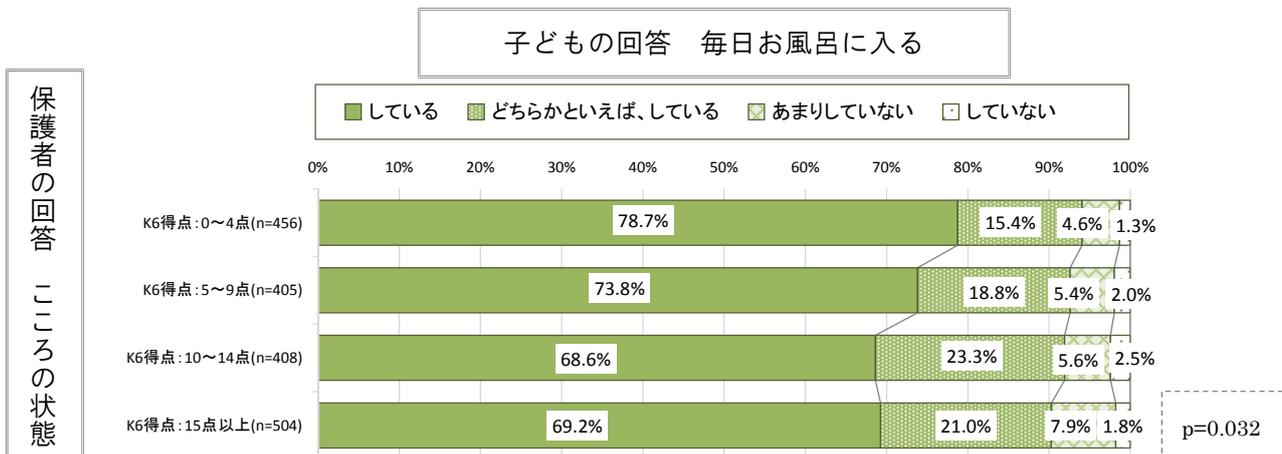
保(9) あなたの現在の健康状態はいかがですか。

子(12) あなたは、次のことをどれくらいしていますか。

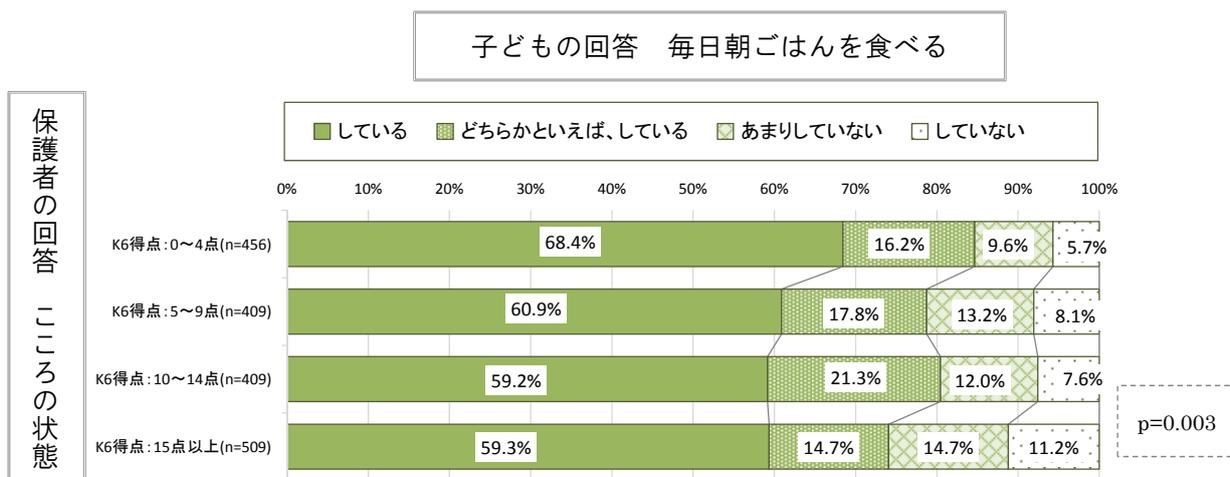
図表 4-1-1-3 保護者の健康状態と子どもの生活習慣（毎日お風呂に入る）との関連性



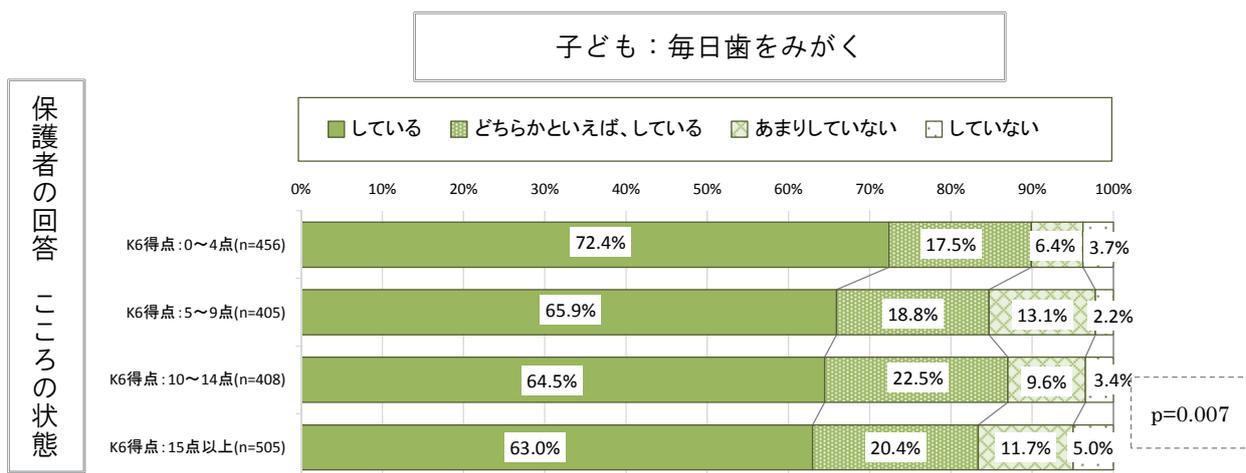
図表 4-1-1-4 保護者のこころの状態 (K6による得点) と子どもの生活習慣（毎日お風呂に入る）との関連性



図表 4-1-1-5 保護者のこころの状態（K6による得点）と子どもの生活習慣（毎日朝ごはんを食べる）との関連性



図表 4-1-1-6 保護者のこころの状態（K6による得点）と子どもの生活習慣（毎日歯をみがく）との関連性



4-1-2 学習時間・学習態度

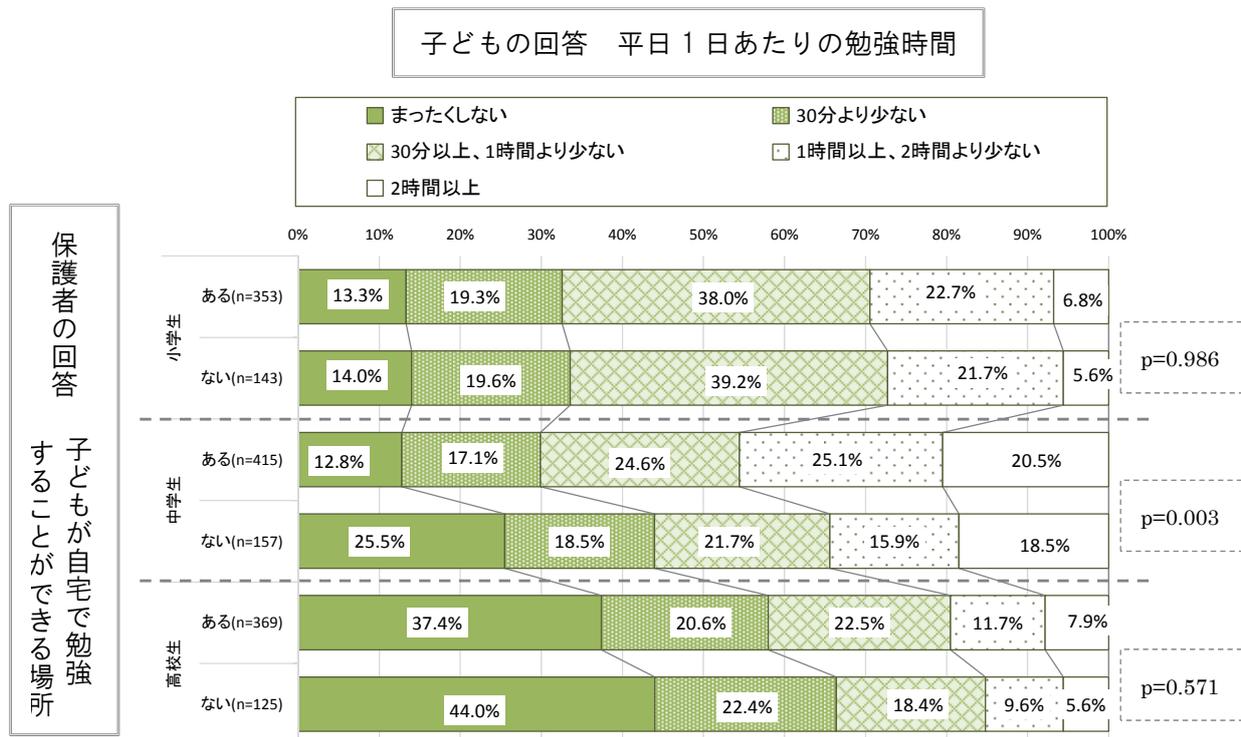
(1) 家庭の学習環境と子どもの学習時間との関連性

家庭の学習環境と子どもの学習時間との関連性について、小学生・高校生では統計的に有意な差異は見られなかったが、中学生では、保護者が「子どもが自宅で勉強をすることができる場所」がないと回答した場合の子どものほうが、勉強時間が短い傾向が見られる。

保(7) 次のもののうち、あなたの世帯にないものはありますか。

子(24) 学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。

図表 4-1-2-1 世帯にないもの（子どもが自宅で勉強をすることができる場所）と教育段階別の子どもの平日1日あたりの学習時間との関連性



(2) 保護者の教育に対する考え方と子どもの学習態度との関連性

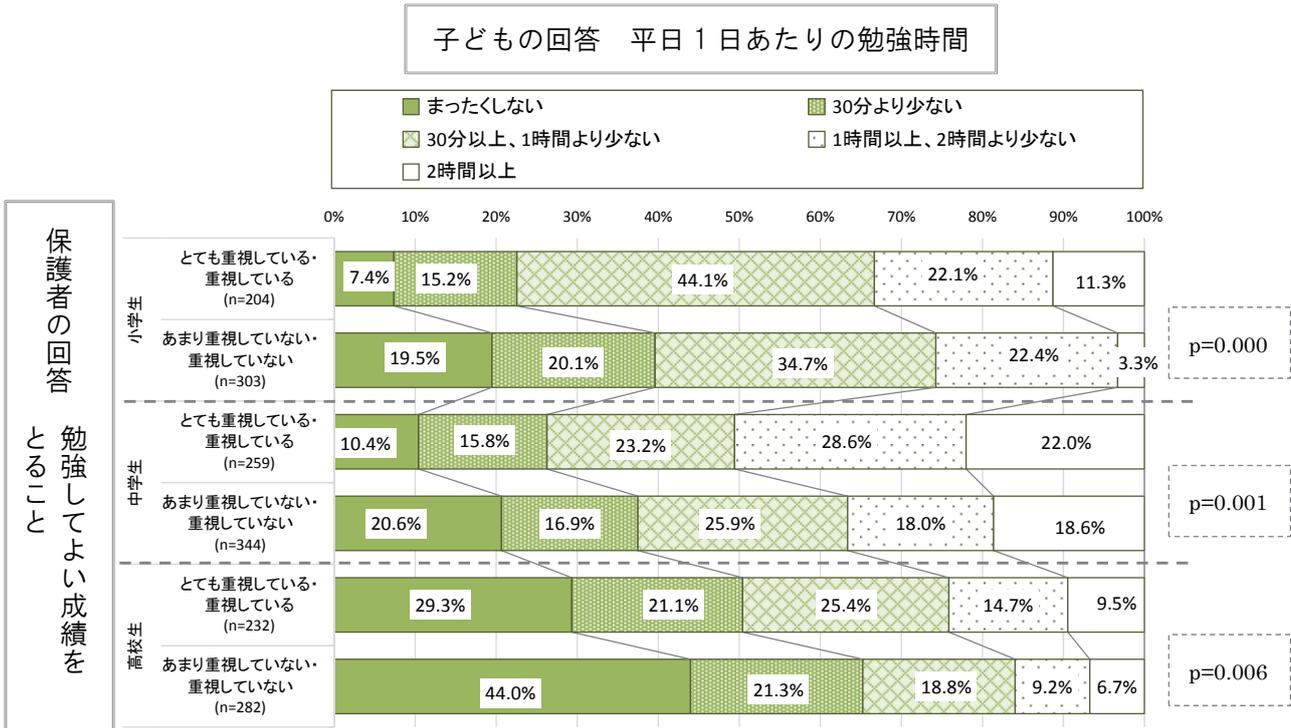
①保護者の「勉強をしてよい成績をとること」に対する考え方と子どもの学習時間

保護者の教育に対する考え方と子どもの学習時間との関連性について、小学生・中学生・高校生のいずれにおいても、保護者が「勉強してよい成績をとること」を「とても重視している」または「重視している」と回答した場合の子どものほうが、勉強時間が長い傾向が見られる。

保(20) あなたのご家庭では、お子さんの教育について、次のことをどれくらい重視していますか。

子(24) 学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。

図表 4-1-2-2 保護者の教育に対する考え方（勉強してよい成績をとること）と教育段階別の子どもの平日1日あたりの学習時間との関連性



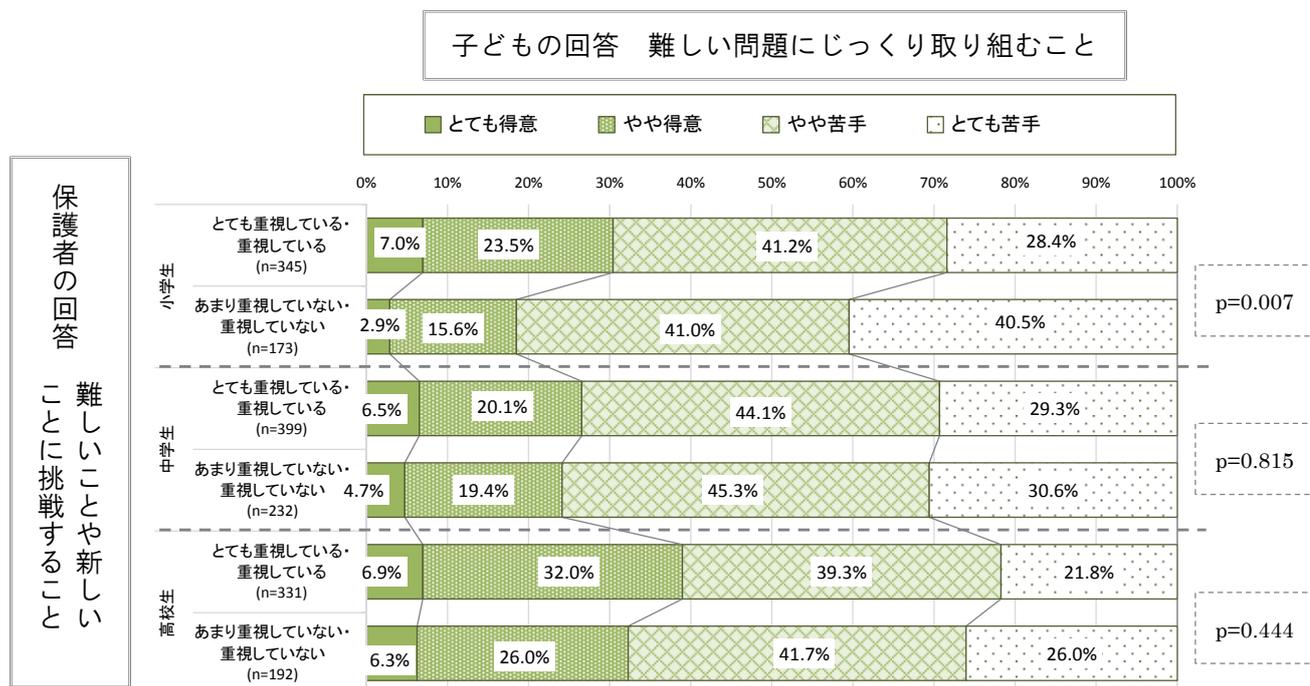
②保護者の「難しいことや新しいことに挑戦すること」に対する考え方と子どもの学習態度

保護者の教育に対する考え方と子どもの学習態度との関連性について、中学生・高校生では統計的に有意な差異は見られなかったが、小学生では、保護者が「難しいことや新しいことに挑戦すること」を「とても重視している」または「重視している」と回答した場合の子どものほうが、「難しい問題にじっくり取り組むこと」を得意と考える割合が高い傾向が見られる。

保(20) あなたのご家庭では、お子さんの教育について、次のことをどれくらい重視していますか。

子(9) あなたは、下に書いてあるようなことは得意ですか。

図表 4-1-2-3 保護者の教育に対する考え方（難しいことや新しいことに挑戦すること）と教育段階別の子どもの学習態度（「難しい問題にじっくり取り組むこと」が得意か）との関連性



4-1-3 自己肯定感・将来展望等

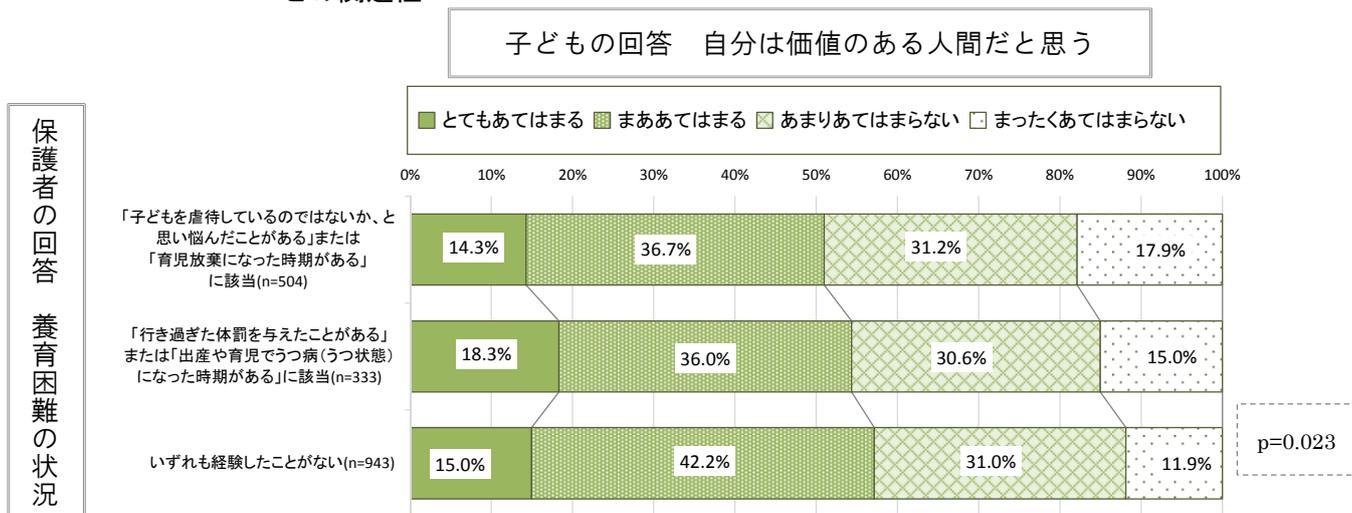
(1) 保護者の養育困難の状況と子どもの自己肯定感との関連性

保護者の養育困難の状況と子どもの自己肯定感との関連性について、「子どもを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」または「育児放棄になった時期がある」と回答した保護者の子どものほうが、「自分は価値のある人間だと思う」と回答する割合が低い傾向が見られる。

保(19) あなたはお子さんのことについて、これまでに以下のような経験をしたことがありますか。

子(10) あなたのすることについて、下に書いてあるようなことがどれくらいあてはまりますか。

図表 4-1-3-1 保護者の養育困難の状況と子どもの自己肯定感（自分は価値のある人間だと思う）との関連性



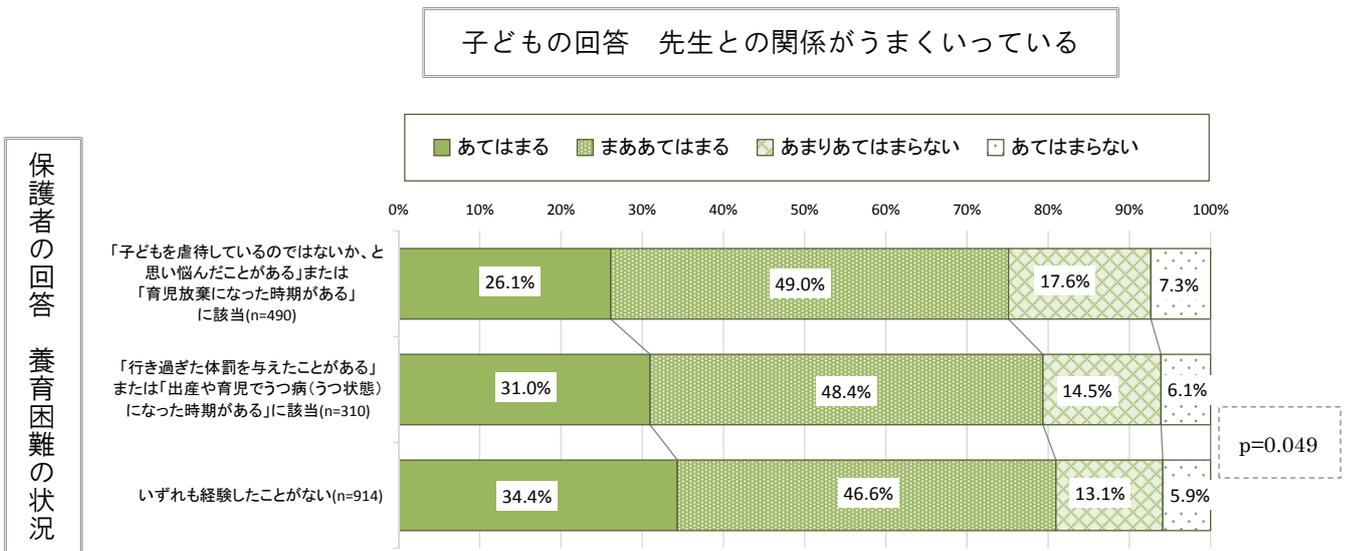
(2) 保護者の養育困難の状況と対人関係との関連性

保護者の養育困難の状況と子どもの対人関係（「先生との関係がうまくいっている」、「友だちとの関係がうまくいっている」）との関連性について、「子どもを虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」または「育児放棄になった時期がある」と回答した保護者の子どものほうが、うまくいっている（「あてはまる」）と回答する割合が低い傾向が見られる。

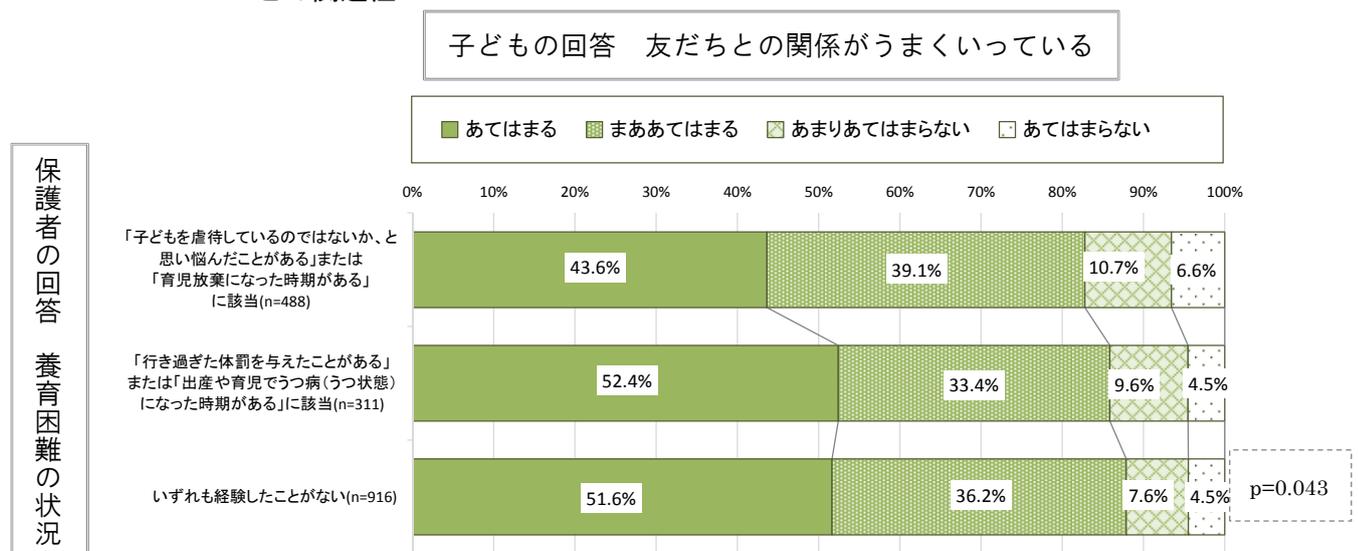
保(19) あなたはお子さんのことについて、これまでに以下のような経験をしたことがありますか。

子(23) あなたは、下に書いてあることがどれくらいあてはまりますか。

図表 4-1-3-2 保護者の養育困難の状況と子どもの対人関係（先生との関係がうまくいっている）との関連性



図表 4-1-3-3 保護者の養育困難の状況と子どもの対人関係(友だちとの関係がうまくいっている)との関連性



(3) 保護者の関わりと子どもの将来展望との関連性

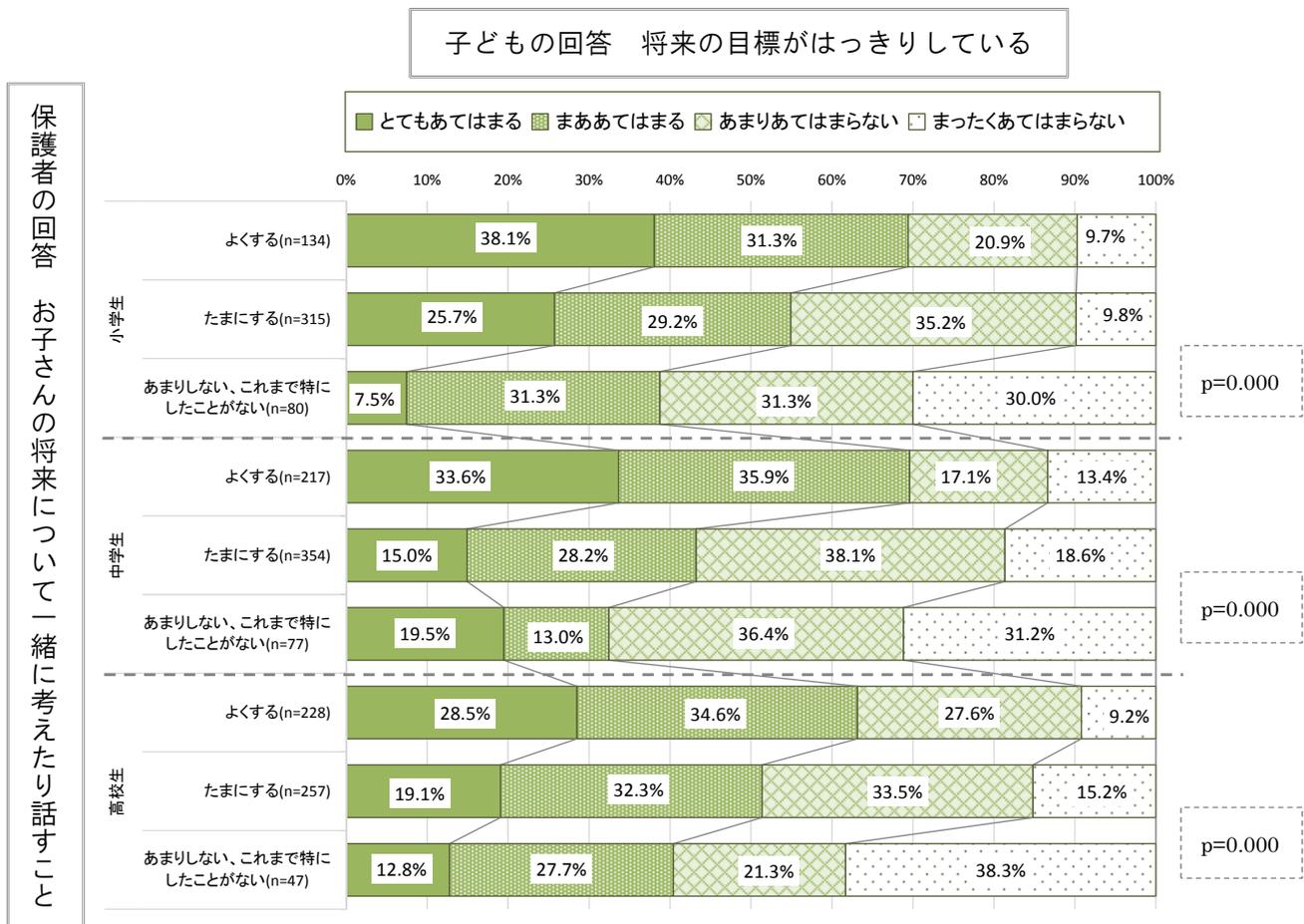
①保護者が将来のことを一緒に考えたり話すことがどの程度あるかと子どもの将来の目標

保護者の子どもの将来のことについての関わり方と、子どもの将来展望との関連性について、小学生・中学生・高校生ともに、子どもの将来のことについて子どもと一緒に考えたり話すことについて「よくする」と回答した保護者の子どものほうが、将来の目標がはっきりしている（あてはまる）と回答する割合が高い傾向が見られる。

保(21) あなたは、お子さんの将来（夢・進路・職業等）について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。

子(10) あなたのことに、下に書いてあるようなことがどれくらいあてはまりますか。

図表 4-1-3-4 保護者が子どもの将来のことについて一緒に考えたり話すことがどの程度あるかと子どもの将来展望（「将来の目標がはっきりしている」）との関連性



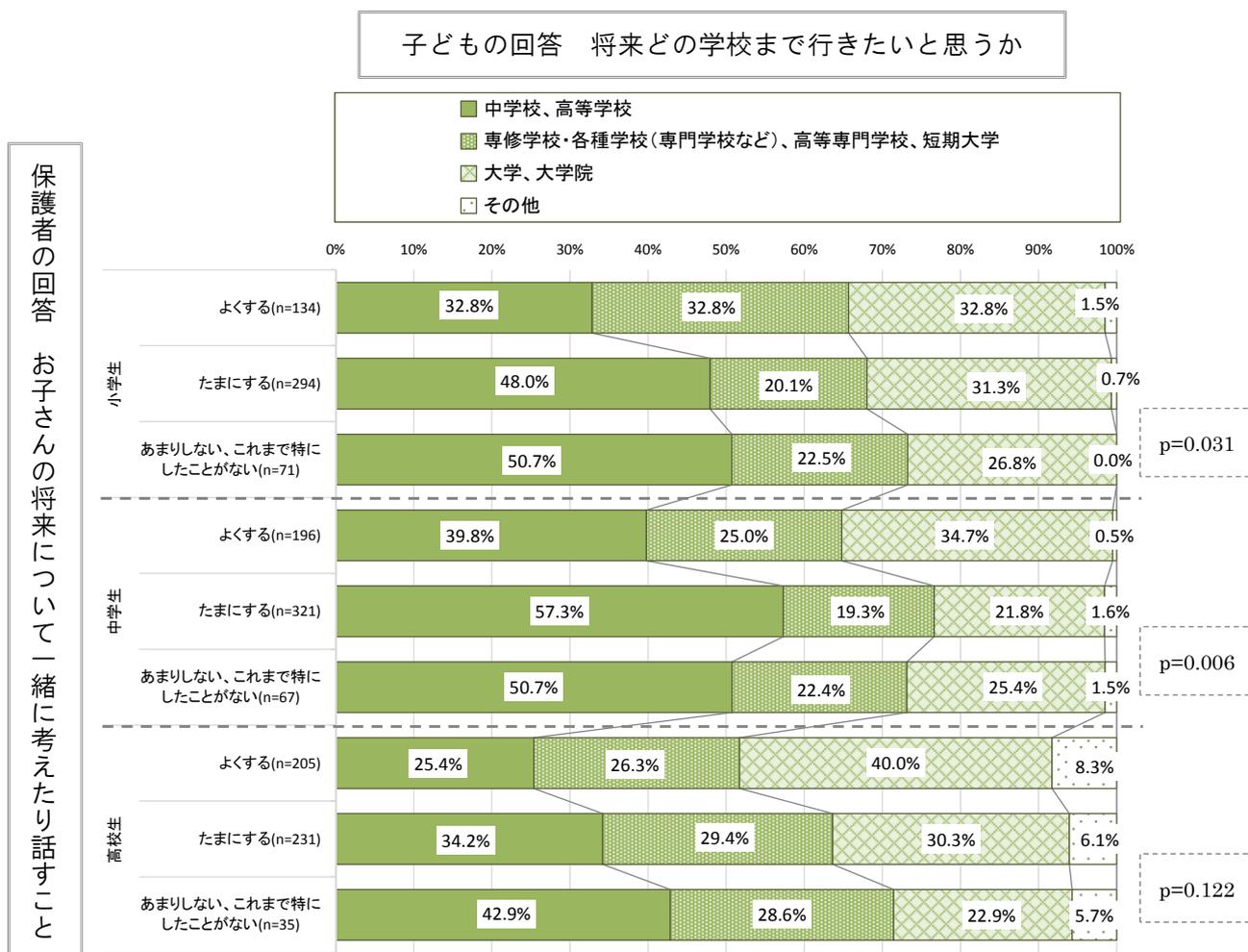
②保護者が将来のことを一緒に考えたり話すことがどの程度あるかと子どもの進学に対する意識

保護者の子どもの将来のことについての関わり方と、子どもの将来展望との関連性について、小学生・中学生では、子どもの将来のことについて子どもと一緒に考えたり話すことについて「よくする」と回答した保護者の子どものほうが、将来どの学校まで行きたいと思うかについて「中学校、高等学校」と回答する割合は低く、「大学、大学院」の回答割合が高い傾向が見られる。

保(21) あなたは、お子さんの将来（夢・進路・職業等）について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。

子(26) あなたは、将来、どの学校まで行きたいと思いますか。

図表 4-1-3-5 保護者が子どもの将来のことについて一緒に考えたり話すことがどの程度あるかと子どもの将来展望（将来どの学校まで行きたいと思うか）との関連性



4-2

自治体(福祉事務所)の取組と保護者・子どもの生活状況等との関連性について

【自治体(福祉事務所)の取組と保護者・子どもの生活状況等との関連性に関する概要・考察】

<自治体(福祉事務所)と保護者の関係>

- 子どもに対する支援を行っていくうえでの課題のひとつとして、保護者と接する機会を持ち、信頼関係を築いていくことが難しいということが挙げられている (p.91 図表 3-2-2-1)。他方で、保護者としては、困ったことや悩んでいることがあったときに福祉事務所の人、ケースワーカーを頼るということも多くあるのではないかと考えられる (p.36 図表 2-1-6-3)。
- このような中で、各種の支援プログラムを実施している自治体(福祉事務所)における保護者の方が、支援の内容別に、相談相手として福祉事務所の人、ケースワーカーを挙げる割合が比較的高くなっていった (p.118 図表 4-2-1-1~p.120 図表 4-2-1-3)。また、自治体(福祉事務所)における支援体制として、実態等把握のための調査を独自に実施しているか、児童福祉に関する研修を実施しているかということによっても、保護者との関わり方に差異が見られている (p.122 図表 4-2-1-5~p.123 図表 4-2-1-6)。また、支援体制がより充実していると考えられる自治体(福祉事務所)の保護者の方が、健康状態が比較的良好という傾向も把握された (p.124 図表 4-2-1-7~p.125 図表 4-2-1-10)。
- ヒアリング調査では、支援プログラムの実施や支援員等の体制整備により家庭への訪問等の機会を増やしたり、家庭の状況に応じた支援を行う事例 (p.99、p.100、p.103、p.104) が見られたが、これらの取組を推進することで、保護者との信頼関係が徐々に構築され、保護者の心身の負担軽減・状況改善等にもつながっていくのではないかと推察される。
- また、全体として生活保護制度の変更に対する保護者からの認識は高くない中で (p.34 図表 2-1-5-11)、情報を得る機会があれば認識は高まる可能性がある (p.126 図表 4-2-1-11~p.127 図表 4-2-1-12)。このことから、ケースワーカー等が保護者との関わりを持っていく中で、子どもの進路・将来のことに関する情報共有・情報提供の機会を増やすということも重要なのではないかと考えられる。

<自治体(福祉事務所)と子どもとの関係>

- ケースワーカー等が直接的に子どもと接することは多いわけではないと考えられる (p.91 図表 3-2-2-1) が、例えば学習支援の機会が増えれば、「勉強がわかるようになった」という感覚を得ることができる子どもが増えると考えられる (p.71 図表 2-2-6-3~図表 2-2-6-4)。また、高校進学を前にして、学習支援により、中学生が実質的に勉強する時間を増やすことができている (p.128 図表 4-2-2-1) と考えられ、今後も事業を推進することが重要であることがうかがえる。
- このほか、「何でも相談できる場所や相談ができる人」があることと子どもの自己肯定感との関連性が見られ (p.129 図表 4-2-2-2)、将来必要となるお金のことや支援制度のことが書いてある本やパンフレットを見たことがあることと将来のことに対する認識・意識と関連性がある (p.130 図表 4-2-2-3~p.131 図表 4-2-2-4) ことが明らかになった。これらのことから、子どもに対し直接的に支援や情報を届けられるようにしていくということが重要な取組の一つなのではないかということがうかがえる。

4-2-1 自治体（福祉事務所）の取組の実施と保護者との関係性

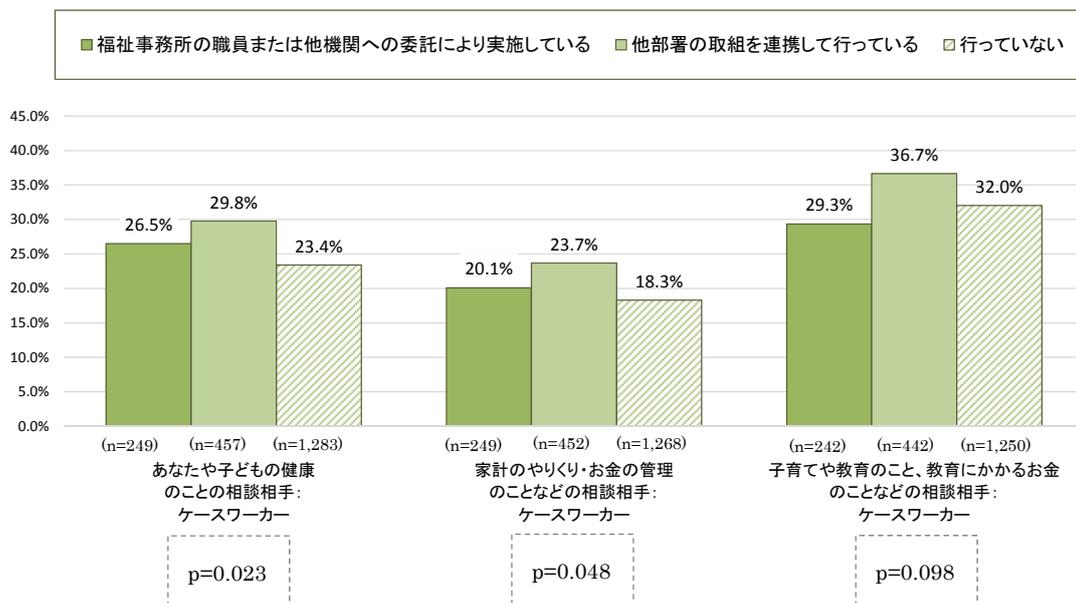
（１）個別のプログラムの実施状況と保護者の相談相手との関連性

①保健衛生・健康管理等の支援と保護者の相談相手

自治体（福祉事務所）の「保健衛生・健康管理等の支援」の実施状況と、保護者の相談相手との関連性について、「保健衛生・健康管理等の支援を、プログラム作成して行っている」と回答した自治体（福祉事務所）における保護者のほうが、健康のことなどについて困っていることや悩んでいることがあったときの相談相手としてケースワーカーを挙げる割合が高い傾向が見られる。

- 福問 7** 貴所では、生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、以下のような取組を行っていますか。
- 保(15)** あなたやお子さんの健康のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。
- 保(18)** 家計のやりくり・お金の管理のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。
- 保(27)** 子育てや教育のこと、教育にかかるお金のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

図表 4-2-1-1 自治体（福祉事務所）の「保健衛生・健康管理等の支援」の実施状況と保護者が困っていることや悩んでいる時の相談相手との関連性（相談相手として「ケースワーカー」を挙げる割合）

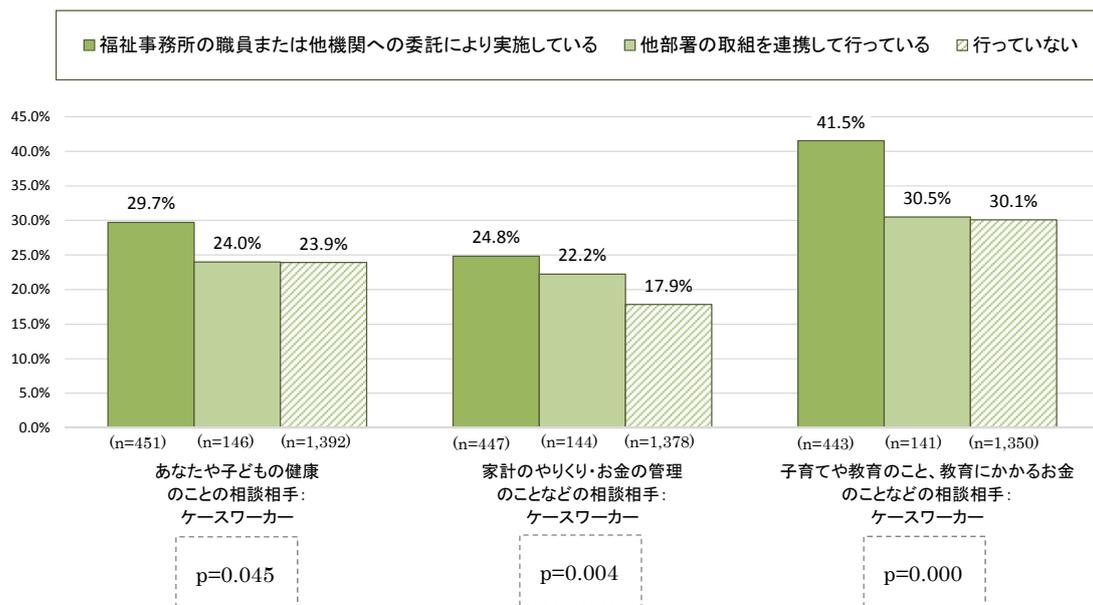


②金銭管理等の支援と保護者の相談相手

自治体（福祉事務所）の「金銭管理等の支援」の実施状況と、保護者の相談相手との関連性について、「金銭管理等の支援を、プログラムを作成して行っている」と回答した自治体（福祉事務所）における保護者のほうが、家計のやりくりのことなどについて困っていることや悩んでいることがあったときの相談相手としてケースワーカーを挙げる割合が高い傾向が見られる。

- 福問 7** 貴所では、生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、以下のような取組を行っていますか。
- 保(15)** あなたやお子さんの健康のことで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。
- 保(18)** 家計のやりくり・お金の管理のことで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。
- 保(27)** 子育てや教育のこと、教育にかかるお金のことで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

図表 4-2-1-2 自治体（福祉事務所）の「金銭管理等の支援」の実施状況と保護者が困っていることや悩んでいる時の相談相手との関連性（相談相手として「ケースワーカー」を挙げる割合）



③高等学校進学のための支援と保護者の相談相手

自治体（福祉事務所）の「高等学校進学のための支援」の実施状況と、保護者の相談相手との関連性について、「高等学校進学のための支援を、プログラムを作成して行っている」と回答した自治体（福祉事務所）における保護者のほうが、子育てや教育のことなどについて困っていることや悩んでいることがあったときの相談相手としてケースワーカーを挙げる割合が高い傾向が見られる。

また、子育てや教育のことなどについて困っていることや悩んでいることがあったときの相談相手に関し、「相談したいが、誰にも相談できていない」または「誰にも相談しない（したくない）」と回答する割合が低い傾向が見られる。

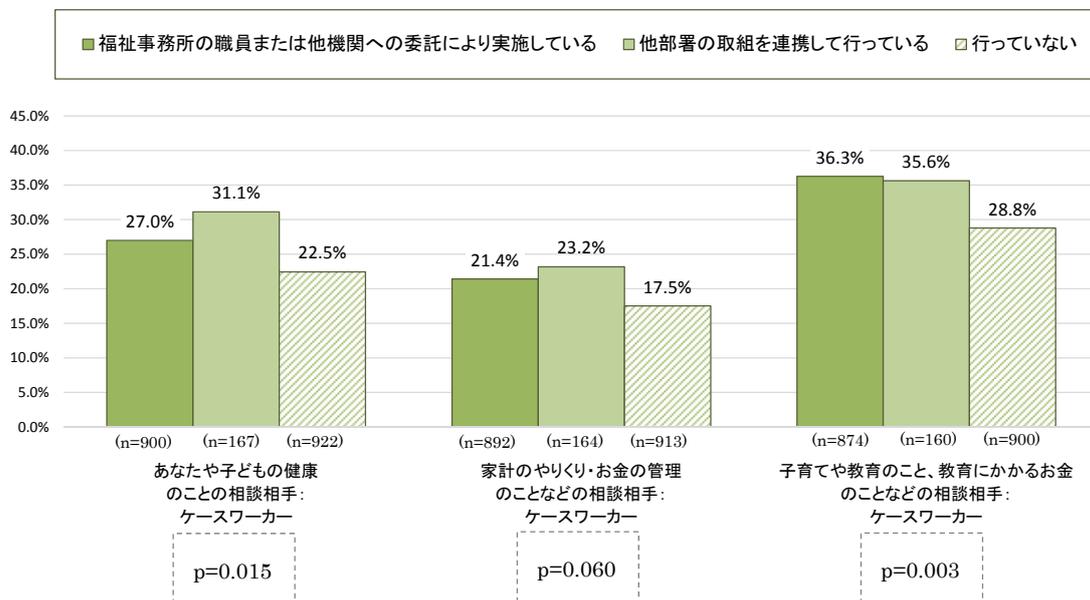
福岡7 貴所では、生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、以下のような取組を行っていますか。

保(15) あなたやお子さんの健康のことで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

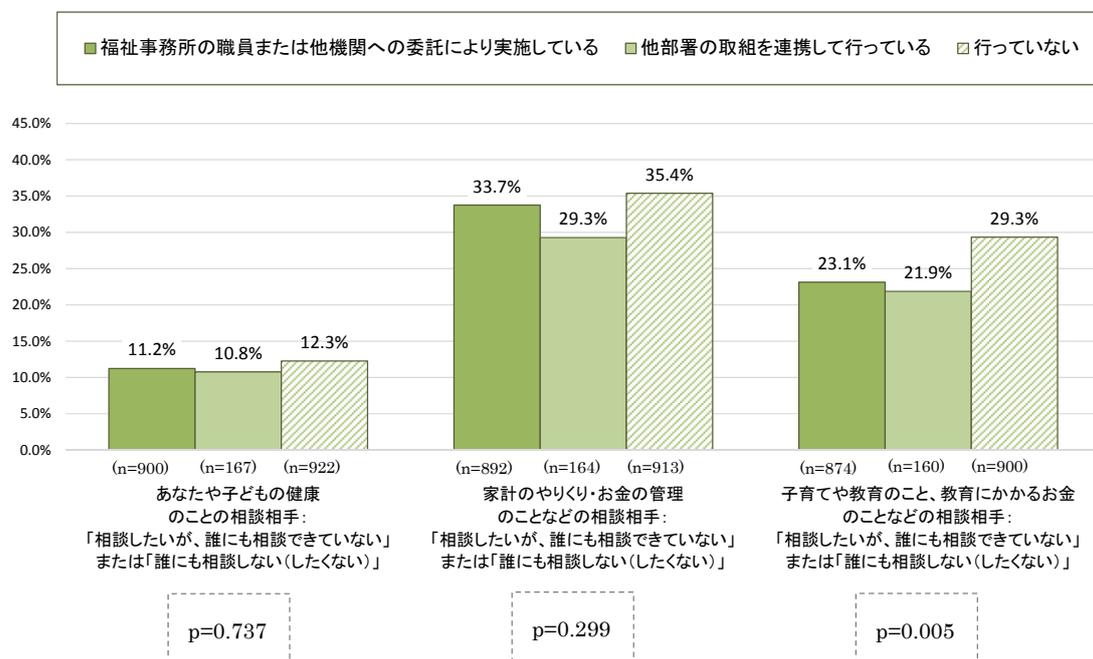
保(18) 家計のやりくり・お金の管理のことで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

保(27) 子育てや教育のこと、教育にかかるお金のことで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

図表 4-2-1-3 自治体（福祉事務所）の「高等学校進学のための支援」の実施状況と保護者が困っていることや悩んでいる時の相談相手との関連性（相談相手として「ケースワーカー」を挙げる割合）



図表 4-2-1-4 自治体（福祉事務所）の「高等学校進学のための支援」の実施状況と保護者が困っていることや悩んでいる時の相談相手との関連性（「相談したいが、誰にも相談できていない」または「誰にも相談しない（したくない）」と回答する割合）



(2) 支援体制と保護者の相談相手との関連性

①実態等把握のための独自のアンケート調査等の実施と保護者の相談相手

自治体（福祉事務所）の「実態等の把握の状況」と、保護者の相談相手との関連性について、「実態等把握のため、生活保護世帯の子どもや保護者を対象に独自のアンケート調査等を実施している」と回答した自治体（福祉事務所）における保護者のほうが、健康のことや家計のやりくりのこと、子育てや教育のことについていずれも、困っていることや悩んでいることがあったときの相談相手としてケースワーカーを挙げる割合が高い傾向が見られる。

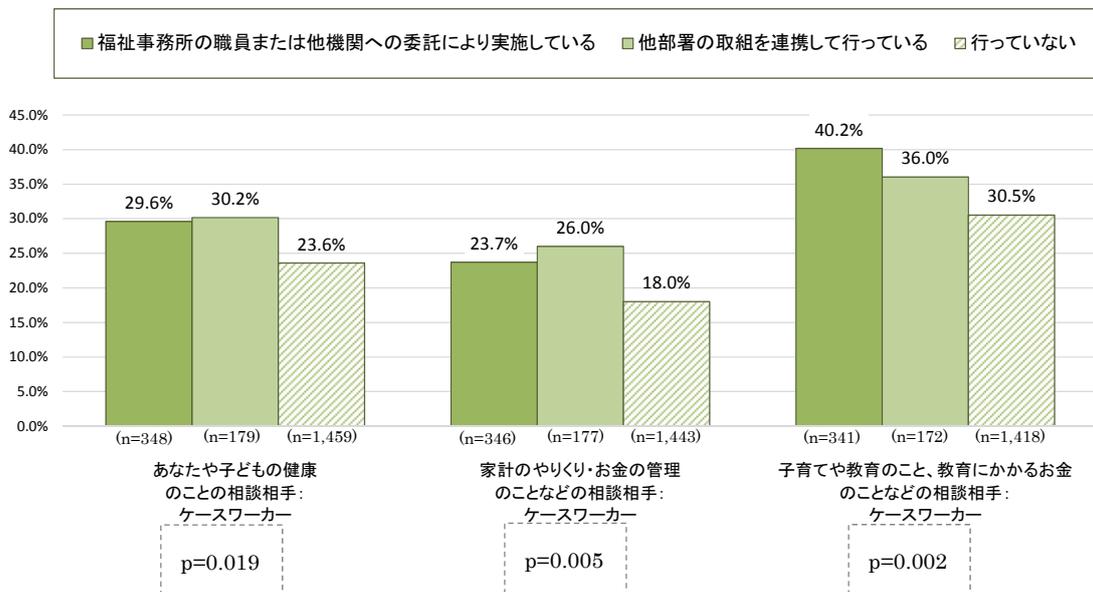
福問 7 貴所では、生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、以下のような取組を行っていますか。

保(15) あなたやお子さんの健康のことや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

保(18) 家計のやりくり・お金の管理のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

保(27) 子育てや教育のこと、教育にかかるお金のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

図表 4-2-1-5 自治体（福祉事務所）の「実態等把握のための独自のアンケート調査等」の実施状況と保護者が困っていることや悩んでいる時の相談相手との関連性（相談相手として「ケースワーカー」を挙げる割合）



②ケースワーカー等の職員に対する研修実施の状況と保護者の相談相手

現在ケースワーカー等の職員に対して実施している研修の状況と、保護者の相談相手との関連性について、「児童福祉に関する研修」を行っていると呼び出した自治体（福祉事務所）における保護者のほうが、健康のことや家計のやりくりのこと、子育てや教育のことについていずれも、困っていることや悩んでいることがあったときの相談相手としてケースワーカーを挙げる割合が高い傾向が見られる。

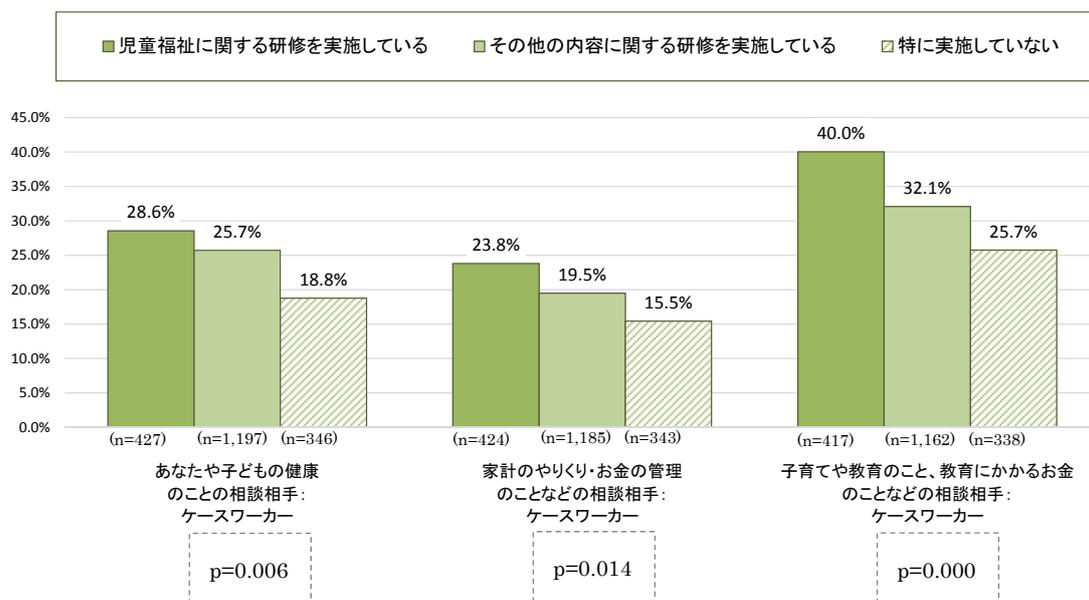
福問 10 生活保護世帯の子どもや保護者に対する支援を行うにあたり、今後ケースワーカー等の職員に対する研修の内容として、より充実させる必要があると考えることはありますか。現在の実施状況とあわせてお教えください。

保 (15) あなたやお子さんの健康のことで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

保 (18) 家計のやりくり・お金の管理のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

保 (27) 子育てや教育のこと、教育にかかるお金のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。

図表 4-2-1-6 自治体（福祉事務所）のケースワーカー等の職員に対する「児童福祉に関する研修」の実施状況と保護者が困っていることや悩んでいる時の相談相手との関連性



(3) 支援体制と保護者の健康状態との関連性

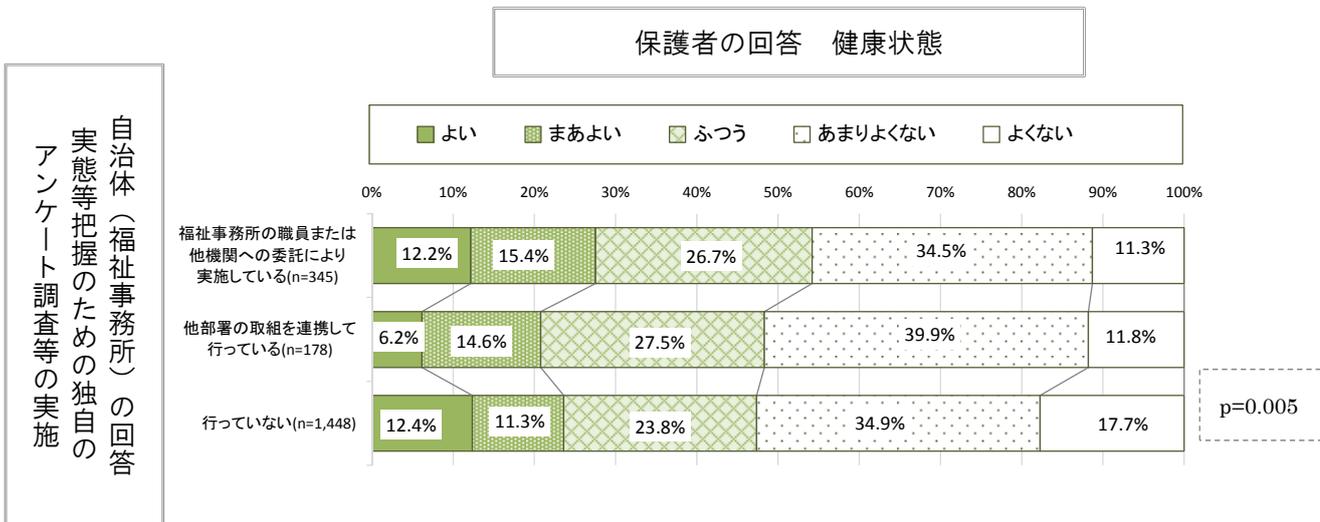
①実態等把握のための独自のアンケート調査等の実施と保護者の健康状態

自治体（福祉事務所）の「実態等の把握の状況」と、保護者の健康状態との関連性について、「実態等把握のため、生活保護世帯の子どもや保護者を対象に独自のアンケート調査等を実施している」と回答した自治体（福祉事務所）における保護者のほうが、健康状態が「よくない」と回答する割合が低い傾向が見られる。

また、保護者のこころの状態との関連性については、「実態等把握のため、生活保護世帯の子どもや保護者を対象に独自のアンケート調査等を実施している」と回答した自治体（福祉事務所）における保護者のほうが K6 の得点が低い傾向が見られる。

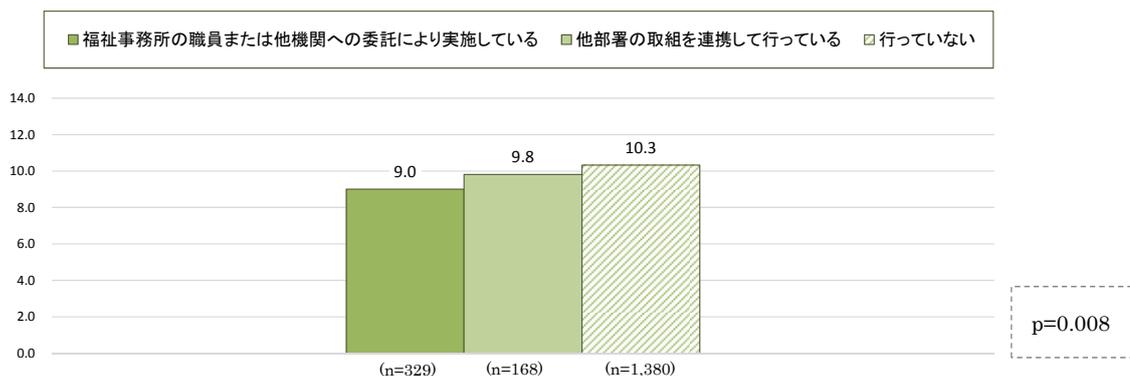
- 福問7 貴所では、生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、以下のような取組を行っていますか。
 保(9) あなたの現在の健康状態はいかがですか。

図表 4-2-1-7 自治体（福祉事務所）の「実態等把握のための独自のアンケート調査等」の実施状況と保護者の健康状態との関連性



- 福問7 貴所では、生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、以下のような取組を行っていますか。
 保(14) 次のそれぞれの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。

図表 4-2-1-8 自治体（福祉事務所）の「実態等把握のための独自のアンケート調査等」の実施状況と保護者のこころの状態（K6による得点）との関連性



②ケースワーカー等の職員に対する研修実施の状況と保護者の健康状態

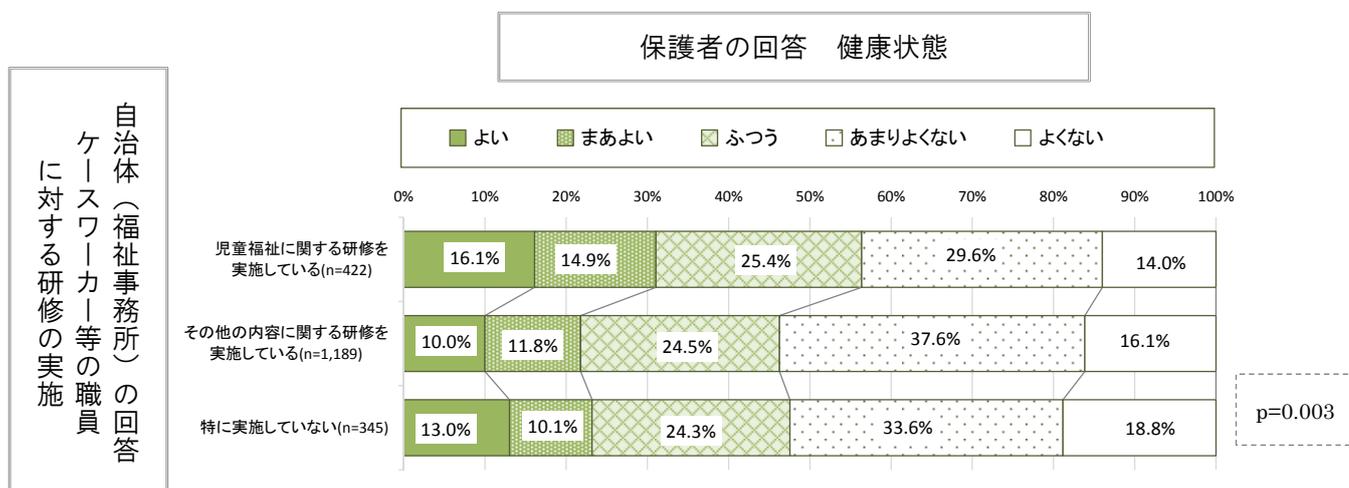
現在ケースワーカー等の職員に対して実施している研修の状況と、保護者の健康状態との関連性について、「児童福祉に関する研修」を行っているとは回答した自治体（福祉事務所）における保護者のほうが、健康状態が「よくない」と回答する割合が低い傾向が見られる。

また、保護者のこころの状態との関連性については、「児童福祉に関する研修」を行っているとは回答した自治体（福祉事務所）における保護者のほうが **K6** の得点が低い傾向が見られる。

福問 10 生活保護世帯の子どもや保護者に対する支援を行うにあたり、今後ケースワーカー等の職員に対する研修の内容として、より充実させる必要があると考えることはありますか。現在の実施状況とあわせてお教えください。

保(9) あなたの現在の健康状態はいかがですか。

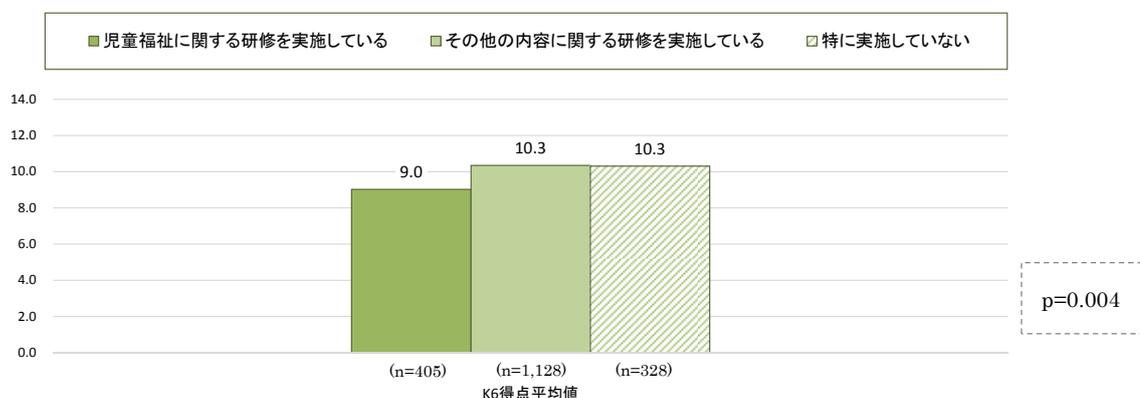
図表 4-2-1-9 自治体（福祉事務所）のケースワーカー等の職員に対する「児童福祉に関する研修」の実施状況と保護者の健康状態との関連性



福問 10 生活保護世帯の子どもや保護者に対する支援を行うにあたり、今後ケースワーカー等の職員に対する研修の内容として、より充実させる必要があると考えることはありますか。現在の実施状況とあわせてお教えください。

保(14) 次のそれぞれの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。

図表 4-2-1-10 自治体（福祉事務所）のケースワーカー等の職員に対する「児童福祉に関する研修」の実施状況と保護者のこころの状態（K6による得点）との関連性



(4) 入学・進学に関する説明の状況と保護者の認識や子どもとの関わり方との関連性

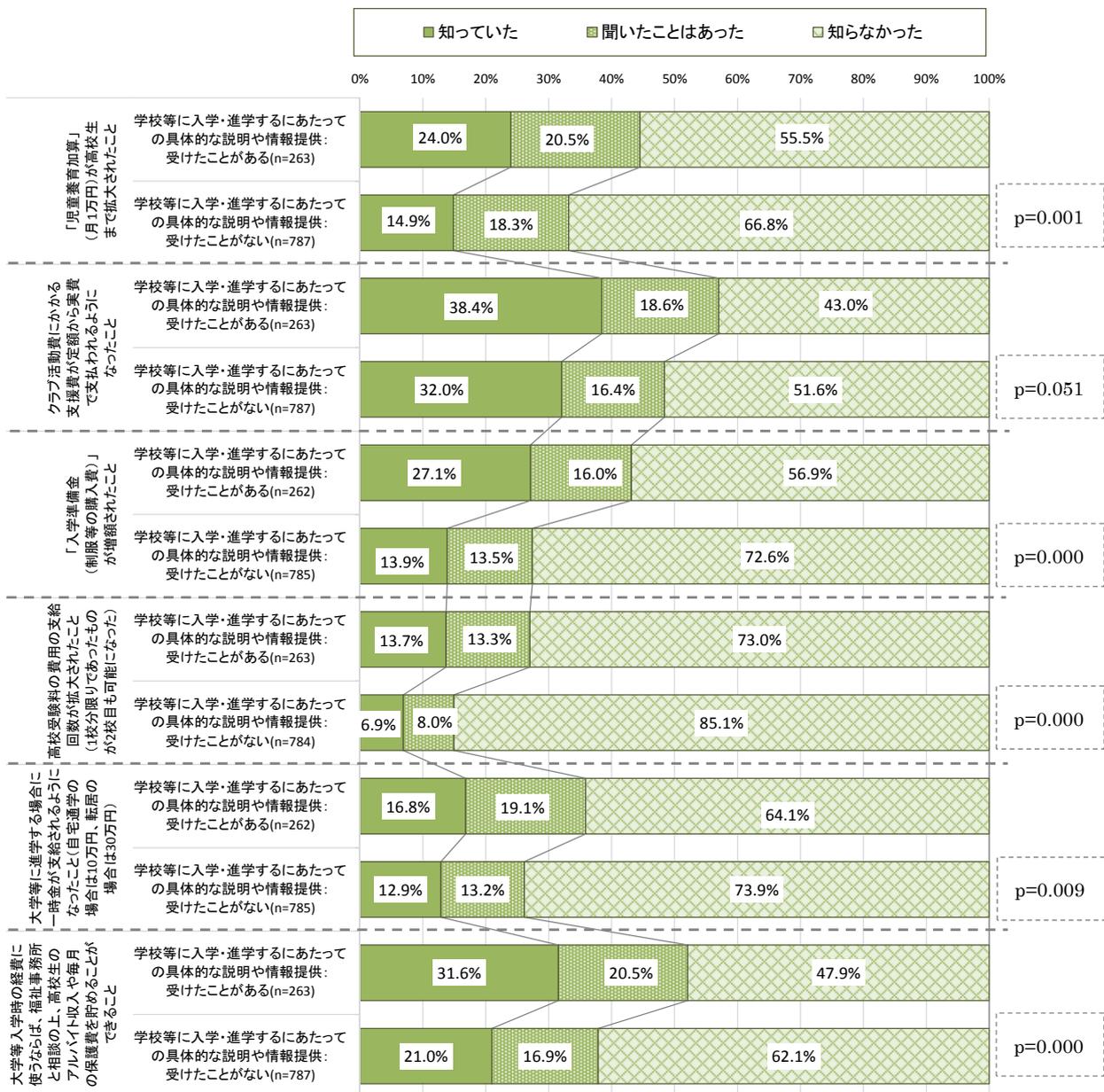
①入学・進学に関する説明の状況と保護者の制度変更に関する認識

保護者が受けたことがある支援の内容と、近年の生活保護制度の変更に関する認識との関連性⁸⁰について、「学校等に入学・進学するにあたっての具体的な説明や情報提供」を「受けたことがある」と回答した保護者では、各種の制度変更に関する認識の度合いが高い傾向が見られる⁸¹。

保(28) あなたがこれまでに受けたことがある（参加したことがある）支援等の内容を教えてください。受けたことがない場合には、その理由に最も近いものを教えてください。

保(22) 生活保護制度においては、お子さんの教育にかかる費用や支援制度等が近年変更になりました。あなたは、次の変更について知っていますか。

図表 4-2-1-11 保護者が「学校等に入学・進学するにあたっての具体的な説明や情報提供」を受けたことがあるかと近年の生活保護制度の変更に関する認識との関連性



⁸⁰ 保護者の回答項目間でのクロス集計である。

⁸¹ 例えば就学前の子どものみの世帯では説明等を受ける機会も少なく制度変更に関する認識の度合いも低いものが多いのではないかと考えられたことから、ここでは、中学生または高校生の子どもがいる世帯に限って集計を行った。

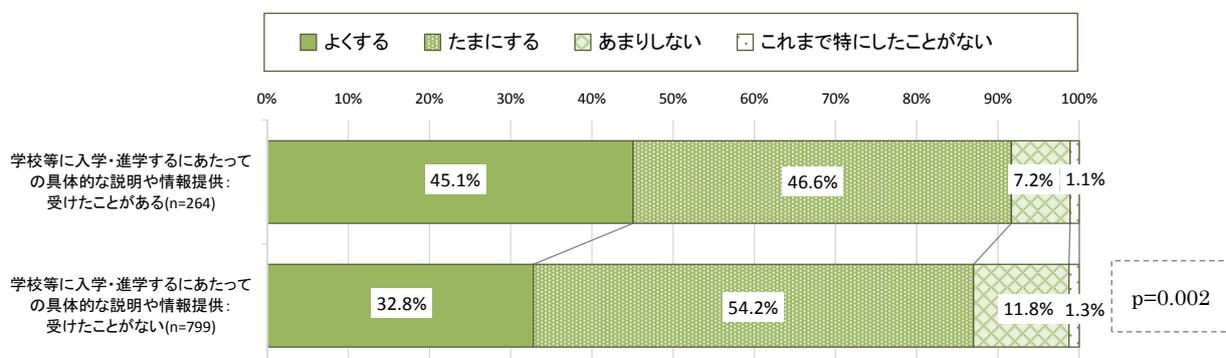
②入学・進学に関する説明の状況と保護者の子どもの将来のことについての関わり方

保護者が受けたことがある支援の内容と、保護者の子供の将来のことについての関わり方との関連性⁸²について、「学校等に入学・進学するにあたっての具体的な説明や情報提供」を「受けたことがある」と回答した保護者では、子どもの将来のことについて子どもと一緒に考えたり話すことについて「よくする」と回答する割合が高い傾向が見られる⁸³。

保(28) あなたがこれまでに受けたことがある（参加したことがある）支援等の内容を教えてください。受けたことがない場合には、その理由に最も近いものを教えてください。

保(21) あなたは、お子さんの将来（夢・進路・職業等）について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。

図表 4-2-1-12 保護者が「学校等に入学・進学するにあたっての具体的な説明や情報提供」を受けたことがあるかと子どもの将来のことについて一緒に考えたり話すことがどの程度あるかとの関連性



⁸² 保護者の回答項目間でのクロス集計である。

⁸³ 例えば就学前の子どものみの世帯では説明等を受ける機会も少なく子どもの将来のことについて考えたり話したりする頻度が低いと考えられたことから、ここでは、中学生または高校生の子どものいる世帯に限って集計を行った。

4-2-2 受けたことがある支援制度の内容と子どもの学習・意識等

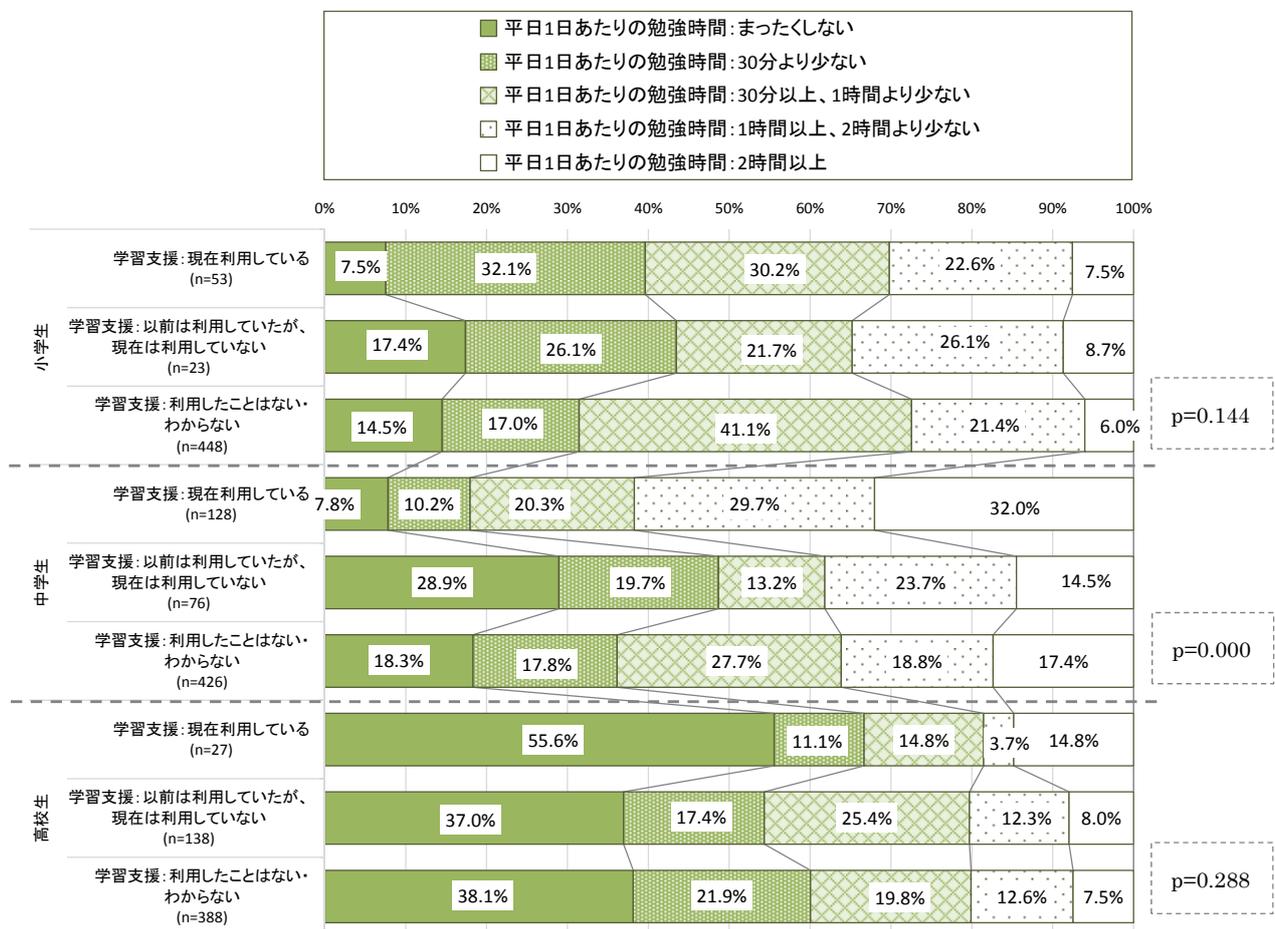
(1) 学習支援の利用経験と学習時間との関連性

学習支援の利用経験の有無と学習時間の関連性⁸⁴について、小学生と高校生では統計的に有意な差異は見られなかったが、中学生では、学習支援を「現在利用している」と回答した子どものほうが勉強時間が長い傾向が見られる。

なお、中学生に関し「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した子どもでは、勉強時間について「まったくしない」または「30分より少ない」の回答割合が比較的高くなっている。

- 子(27) あなたは、学習塾以外で、大学生や大人の人が勉強のことなどを教えてくれる場所（学習支援）を利用したことがありますか。利用したことがない場合は、今後利用したいと思いますか。
- 子(24) 学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。

図表 4-2-2-1 教育段階別、子どもの学習支援の利用経験と学習時間の関連性



⁸⁴ 子どもの回答項目間でのクロス集計である。

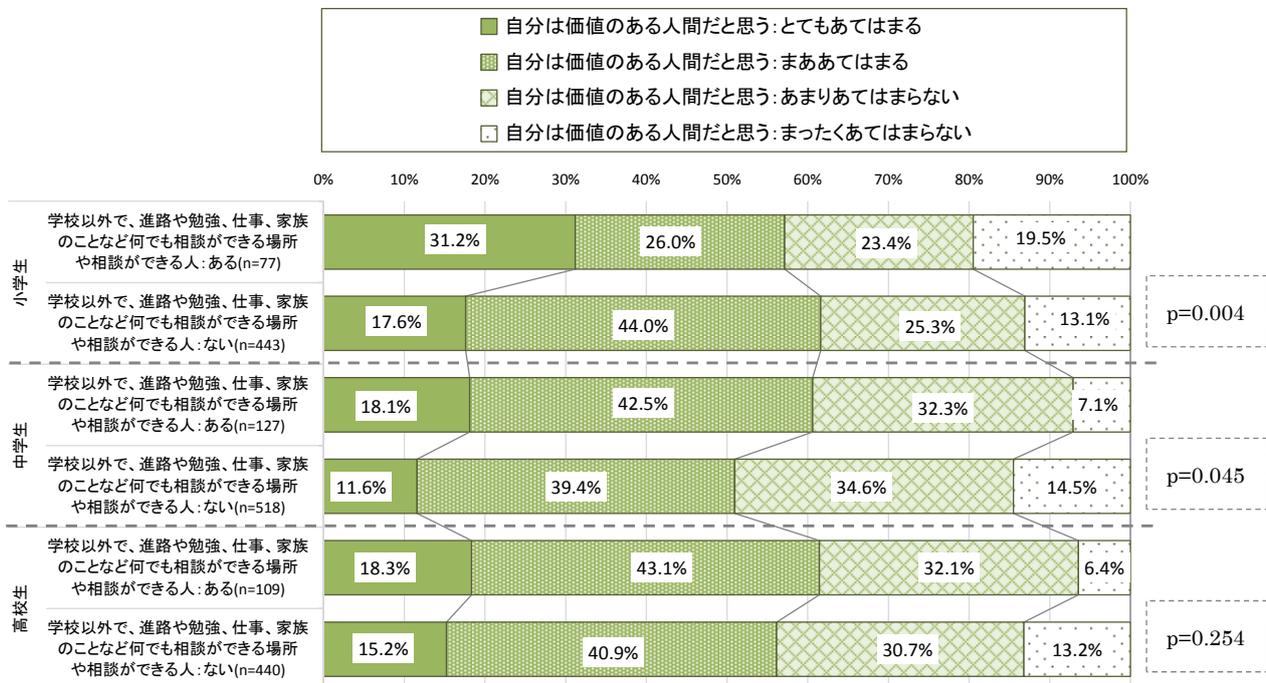
(2) 相談できる場所・人との関わりと自己肯定感との関連性

「学校以外で、進路や勉強、仕事、家族のことなど何でも相談ができる場所や相談できる人」との関わりと自己肯定感との関連性⁸⁵について、高校生では統計的に有意な差異は見られなかったが、小学生では、行ったことや会ったことがあると回答した子どものほうが「自分は価値のある人間だと思う」ということについて「とてもあてはまる」の回答割合が高くなっている。また、中学生についても、行ったことや会ったことがあると回答した子どものほうが自己肯定感が高い傾向が見られる。

子(32) 次のうち、あなたがこれまでに行ったことがある場所や会ったことがある人、見たことがあるものなどがありますか。

子(10) あなたのことについて、下に書いてあるようなことがどれくらいあてはまりますか。

図表 4-2-2 「何でも相談ができる場所や相談できる人」との関わりと自己肯定感（「自分は価値のある人間だと思う」）との関連性



⁸⁵ 子どもの回答項目間でのクロス集計である。

(3) 本やパンフレットなどで情報に触れることと将来に対する意識等との関連性

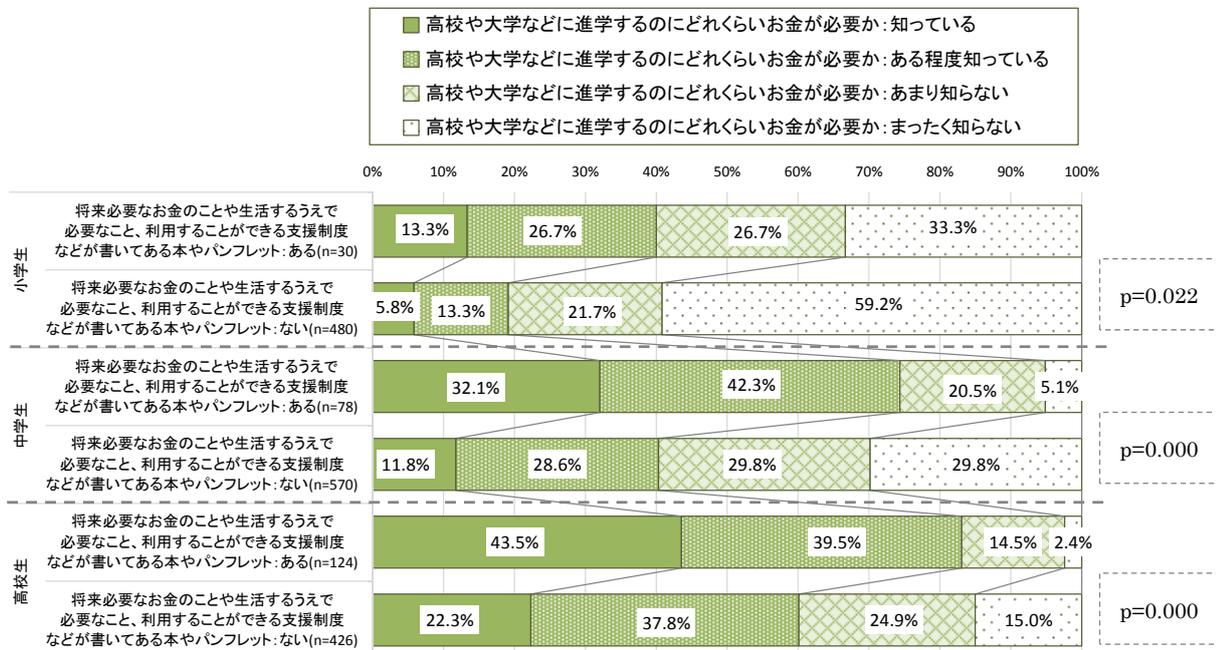
①将来のことなどが書いてある本やパンフレットと子どもの進学費用に関する認識

「将来必要なお金のことや生活するうえで必要なこと、利用することができる支援制度などが書いてある本やパンフレット」を見たことがあるかと進学費用に関する認識との関連性⁸⁶について、小学生・中学生・高校生ともに、見たことがあると回答した子どものほうが高校や大学などに進学するのにどれくらいお金が必要か「知っている」と回答する割合が高い傾向が見られる。

子(32) 次のうち、あなたがこれまでに行ったことがある場所や会ったことがある人、見たことがあるものなどはありますか。

子(31) あなたは、高校や大学などに進学するのにどれくらいお金が必要か知っていますか。

図表 4-2-2-3 将来のことなどが書いてある本やパンフレットを見たことがあるかと進学費用に関する認識（「高校や大学などに進学するのにどれくらいお金が必要か知っている」との関連性



⁸⁶ 子どもの回答項目間でのクロス集計である。

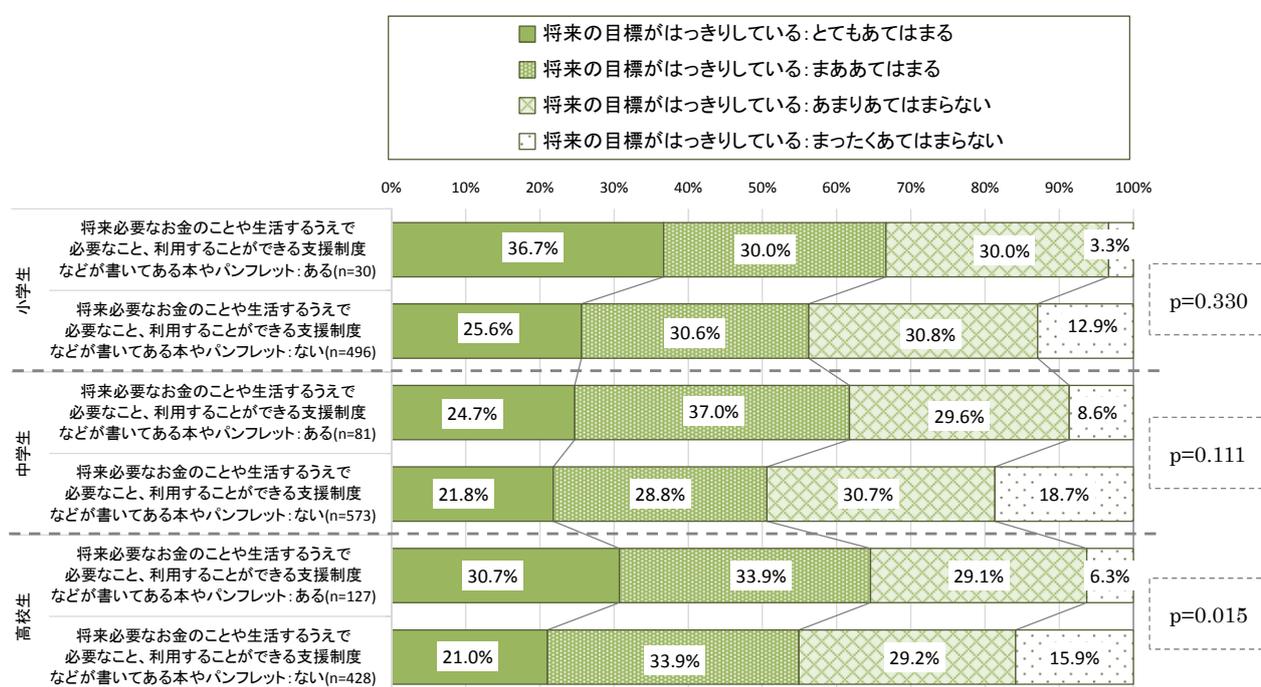
②将来のことなどが書いてある本やパンフレットと子どもの将来展望

「将来必要なお金のことや生活するうえで必要なこと、利用することができる支援制度などが書いてある本やパンフレット」を見たことがあるかと将来展望との関連性⁸⁷について、小学生と中学生では統計的に有意な差異は見られなかったが、高校生では、見たことがあると回答した子どものほうが将来の目標がはっきりしている（あてはまる）と回答する割合が高い傾向が見られる。

子(32) 次のうち、あなたがこれまでに行ったことがある場所や会ったことがある人、見たことがあるものなどはありますか。

子(10) あなたのことについて、下に書いてあるようなことがどれくらいあてはまりますか。

図表 4-2-2-4 将来のことなどが書いてある本やパンフレットを見たことがあるかと将来展望（「将来の目標がはっきりしている」）との関連性



⁸⁷ 子どもの回答項目間でのクロス集計である。

4-3

子どもの自立を助長するための支援のあり方について(まとめ)

- 生活保護世帯の保護者・子どもの生活状況等について、多くの点で一般的な世帯の状況との差異が見られた(第2章)。例えば必要な食料が買えなかった経験がある割合が高い (p.15 図表 2-1-2-6~図表 2-1-2-7) など、生活はより不安定であることがうかがえ、ひとり親世帯(母子世帯)であることや精神疾患等による困難など (p.89 図表 3-2-1-1)、保護者は複合的な課題を抱えているものと考えられる。また、子ども自身としても、日常的な生活や進学のことを考える際に経済的な面での課題を意識することが多い状況にあるのではないかと考えられ (p.79 図表 2-2-8-1~p.80 図表 2-2-8-2)、子どもの学習の状況(p.60 図表 2-2-4-3~図表 2-2-4-4 など)や不登校を経験する割合 (p.64 図表 2-2-4-11~p.65 図表 2-2-4-13) などからも、高等学校に進学し、その後の進学や就職を経て自立に向かっていく過程において課題が大きいことがうかがえた。
- 他方、生活保護世帯であっても、保護者の生活状況が比較的安定していれば、子どもに見られる課題も少なくなるのではないかと考えられる(第4章 4-1)。保護者はこころの状態なども含む健康状態に課題が見られることが多いと考えられるが、例えば保護者の健康状態が比較的良ければ子どもの生活習慣等に課題が見られる割合は低くなっている (p.108 図表 4-1-1-3~図表 4-1-1-4)。保護者の学習に対する意識が高くなれば、子どもの意識も高くなる可能性がある (p.111 図表 4-1-2-2~p.112 図表 4-1-2-3)。これらのことから、子どもを支援するうえでは保護者に対する支援・働きかけ等もあわせて実施していくことが重要と考えられる。ただし、上述のとおり保護者は複合的な課題を抱えていることが多いとも考えられることから、保護者の状況の改善等が難しい場合には、より早期から支援者が子どもに対して関わりを持っていくことが重要になる。
- また、各自治体(福祉事務所)ではケースワーカー等の職員に時間的余裕がないという課題があるとされる (p.91 図表 3-2-2-1) 一方で、各種のプログラムの実施や実態等把握のための独自の調査の実施や職員への研修等の実施が、ケースワーカーと保護者との間の関係性構築や保護者の健康状態の改善・安定等につながる可能性があることが示された (第4章 4-2、p.118 図表 4-2-1-1~p.125 図表 4-2-1-10)。
- このほか、今回の調査により、生活保護世帯の保護者に近年の制度変更に関する情報が十分に届いていないという実態も明らかになっている (p.34 図表 2-1-5-11~図表 2-1-5-12) が、保護者・子どもに情報が伝わることで、学習や進学に対する意識が高まることも考えられる (p.126 図表 4-2-1-11~p.127 図表 4-2-1-12、p.130 図表 4-2-2-3~p.131 図表 4-2-2-4)。今後も、ケースワーカー等を通じて、保護者・子どもに対し、進路・将来のことや支援制度等に関する情報共有・情報提供を行っていくことが重要であることが示されている。
- 取組の事例からは、子どもに対する学習支援・生活支援を行う中で子どもに前向きな変化が見られていることや、支援員等の体制整備や支援プログラムの実施により保護者・子どもとの関わりを持つ機会が増え家庭の状況に応じた支援を行うことができるようになってきていることがうかがえた。子どもに対する学習支援・生活支援の実施や家庭状況の把握等を行ったうえでの情報提供・支援の実施など、各自治体(福祉事務所)でこれらの取組を推進することは、保護者との関係性を深めることや、子どもに対しより直接的に支援・情報等を届けていく上で重要であり、子どもの自立を助長するための支援として、有用なアプローチなのではないかと考えられる。

參考資料

(1) 調査票

①保護者向け調査票

生活の状況等に関するアンケート
保護者向け調査票

回答にあたってのお願い

- このアンケートは、18歳未満のお子さんの保護者の方がお答えください。
- 回答は、えんぴつやボールペンで、回答の番号に○をつけていただくか、文字や数字でご記入ください。お答えになりたくない質問には、回答しなくてもかまいません。
- 「その他」に○をつけた場合は、() に内容を具体的に記入ください。
- 回答がすんだ調査票は、細長い茶色の返信用封筒に入れて平成31年2月4日(月)までに
お送りください。
- 回答から個人が特定されることはありません。(お名前は書かずに
お送りください)

あなたのことについて教えてください。

- (1) あなたは、一緒に住んでいるお子さん(18歳未満)からみてどのようなお立場ですか。
(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|------------|-------|-------|-------|
| 1. 父親 | 2. 母親 | 3. 祖父 | 4. 祖母 |
| 5. おじ | 6. おば | 7. 兄 | 8. 姉 |
| 9. その他 () | | | |

- (2) あなたは現在、働いていますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. 働いている | 2. 働いている(転職活動をしている) |
| 2. 働いていない(求職中) | 4. 働いていない(特に求職はしていない) |

- (2)で「働いている」と回答した人にお聞きします。

- (3) 現在の仕事の形態を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

※ふたつ以上の仕事をしている人は、主なものを選んでください。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 正社員・正職員 | 2. パート・アルバイト |
| 3. 契約社員・派遣社員・嘱託 | 4. 自営業(家族従事者含む) |
| 5. その他の形態 () | |

あなたの世帯のことについて教えてください。

(4) 一緒に住んでいる方は、あなたを含めて何人ですか。(数字で回答)

一緒に住んでいる人の人数 (あなたを含めて)	() 人
------------------------	-------

(5) あなたと一緒に住んでいる方全員について、それぞれ人数を教えてください。(数字で回答)

子どもの人数						
小学校 入学前	小学生	中学生	高校生	大学、短大 専門学校等	就 職	その他
<input type="text"/> 人						

保護者の方などの人数		
子どもの親	子どもの 祖父母	その他
<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人	<input type="text"/> 人

(6) あなたと一緒に住んでいる方の中に、次のような方はいますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. あなた以外で、働いている方	2. 高齢で介護が必要な方
3. 病気等で定期的に通院等が必要な方	4. 障害があり介護が必要な方
5. 学校を休んでいる (不登校の) お子さん	6. 1～5にあてはまる方はいない

(7) 次のもののうち、あなたの世帯にないものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 子どもの年齢に合った本	2. 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ
3. 子どもが自宅で勉強をすることができる場所	4. いずれもある

(8) あなたの子どもが現在かかっている病気について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

※一時的な風邪等は除きます。

1. ぜんそく	2. アトピー	3. アレルギー性鼻炎・結膜炎
4. 食物アレルギー	5. 糖尿病	6. うつ病 その他このころの病気
7. 発達障害	8. その他 (具体的に:)	
9. 特にない		

あなたやお子さんの健康のことについて教えてください。

(9) あなたの現在の健康状態はいかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------|---------|--------|
| 1. よい | 2. まあよい | 3. ふつう |
| 4. あまりよくない | 5. よくない | |

(10) あなたは過去1年間に、健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)を受けたことがありますか。
(あてはまる番号1つに○)

※「がん」のみの検診、妊産婦検診、歯の健康診査、病院や診療所で行う通常の診察は検診等には含まれません。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

(10) で「ない」と回答した人にお聞きします。

(11) 受けなかった理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 知らなかったから | 2. 時間がとれなかったから |
| 3. 場所が遠いから | 4. 費用がかかると思ったから |
| 5. 検査等(採血、胃カメラ等)に不安があるから | 6. 医療機関に入通院していたから |
| 7. 1年以上前に受けたから | 8. 健康状態には自信があるから |
| 9. 必要な時はいつでも医療機関を受診できるから | 10. 結果が不安なため、受けたくないから |
| 11. めんどうだから | 12. その他() |

(12) 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

(12) で「ある」と回答した人にお聞きします。

(13) 受診しなかった理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | |
|---|
| 1. 手続きの方法がわからなかったから |
| 2. 手続きが面倒であったから |
| 3. 医療費の支払いができないと思ったから |
| 4. 子ども本人が受診しなかったから |
| 5. 医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったから |
| 6. 多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったから |
| 7. 最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したから |
| 8. 自分の健康状態が悪かったから |
| 9. その他() |

(14) 次のそれぞれの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。
 (それぞれあてはまる番号1つに○)

	いつも	たいてい	ときどき	すこ しだけ	まった 全くない
A 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
B 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
C そろそろ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
D 気分が沈みこんで、何が起ころしても 気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
E 何をするのも骨折りと感じましたか	1	2	3	4	5
F 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

(15) あなたやお子さんの健康のことで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家族、親族	2. 友人、知人
3. 民生委員・児童委員	4. 社会福祉協議会の人
5. 保育園・幼稚園・学校の先生	6. 医者、病院の人
7. 福祉事務所の人、ケースワーカー	8. 保健所・保健センターなどの人
9. NPO など支援団体の人	10. 新聞・インターネットなどの相談コーナー
11. その他の人 ()	12. 相談したいが、誰にも相談できていない
13. 誰にも相談しない (したくない)	14. 困っていることや悩んでいることはない

あなたの生活の状況について教えてください。

(16) あなたはふだん、次のようなことがどれくらいありますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
A 友人とすごす、話をする	1	2	3	4
B 地域の行事に参加する	1	2	3	4
C 近所の人と話をする	1	2	3	4
D 親族の人と会う、連絡を取る	1	2	3	4

(17) あなたの家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

1. よくあった 2. ときどきあった 3. まれにあった 4. まったくなかった

(18) 家計のやりくり・お金の管理のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家族、親族	2. 友人、知人
3. 民生委員・児童委員	4. 社会福祉協議会の人
5. 保育園・幼稚園・学校の先生	6. 医者、病院の人
7. 福祉事務所の人、ケースワーカー	8. 保健所・保健センターなどの人
9. NPO など支援団体の人	10. 新聞・インターネットなどの相談コーナー
11. その他の人 ()	12. 相談したいが、誰にも相談できていない
13. 誰にも相談しない(したくない)	14. 困っていることや悩んでいることはない

子育てや教育のことについて教えてください。

(19) あなたはお子さんのことについて、これまでに以下のような経験をしたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 行き過ぎた体罰を与えたことがある
 2. 育児放棄になった時期がある
 3. 出産や育児でうつ病(うつ状態)になった時期がある
 4. 子どもを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある
 5. 1～4のいずれも経験したことがない

(20) あなたのご家庭では、お子さんの教育について、次のことをどれくらい重視していますか。
 (それぞれあてはまる番号1つに○)

	とても重視している	重視している	あまり重視していない	重視していない
A 保育園や幼稚園、学校、職場に毎日行くこと	1	2	3	4
B 勉強をしてよい成績をとること	1	2	3	4
C 難しいことや新しいことに挑戦すること	1	2	3	4

(21) あなたは、お子さんの将来(夢・進路・職業等)について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1. よくする	2. たまにする	3. あまりしない	4. これまで特にしたことがない
---------	----------	-----------	------------------

(22) 生活保護制度においては、お子さんの教育にかかる費用や支援制度等が近年変更になりました。あなたは、次の変更について知っていますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった
A 「児童養育加算」(月1万円)が高校生まで拡大されたこと	1	2	3
B クラブ活動費にかかる支援費が定額から実費で支払われるようになったこと	1	2	3
C 「入学準備金(制服等の購入費)」が増額されたこと	1	2	3
D 高校受験料の費用の支給回数が拡大されたこと (1校分限りであったものが2校目も可能になった)	1	2	3
E 大学等に進学する場合に一時金が支給されるようになったこと (自宅通学の場合は10万円、転居の場合は30万円)	1	2	3
F 大学等入学時の経費に使うならば、福祉事務所と相談の上、 高校生のアルバイト収入や毎月の保護費を貯めることができること	1	2	3

※これらの変更についてご存じない場合は、福祉事務所の担当のケースワーカーにご相談ください。

(23) あなたのご家庭のお子さんは、自治体やNPO団体、学生ボランティア等が実施する「学習支援事業」(学習の手助けなど)を利用したことがありますか。利用したことがない場合は、今後利用したいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

※学習支援事業とは、お子さんに大学生のボランティアなどが無料で勉強を教えてくれる制度です。

1. 現在利用している	2. 以前は利用していたが、現在は利用していない
3. 利用したことはないが、今後利用したい	4. 利用したことはなく、利用したいと思わない
5. わからない	

(23) で「利用したことはないが、今後利用したい」または「利用したことはなく、利用したいと思わない」と回答した人にお聞きします。

(24) 学習支援事業を利用していない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 対象の学年・年齢ではないから | 2. そのような事業があることを知らなかったから |
| 3. 近くにそのような事業がないから | 4. 通わせることが困難だから(送り迎えなど) |
| 5. 子どもが行きたがらないから | 6. その他() |

(23) で「現在利用している」または「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した人にお聞きします。

(25) 学習支援事業を利用したお子さんにみられた変化として、あてはまるものはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1. 勉強がわかるようになった | 2. 家で勉強をするようになった |
| 3. 学校を休むことが減った | 4. 将来のことを考えるようになった |
| 5. 礼儀やマナーが身についた | 6. 色々なことに前向きに取り組むようになった |
| 7. 友だちが増えた | 8. 人とよく話すようになった |
| 9. その他() | 10. 特に変化がみられたことはない |

(23) で「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した人にお聞きします。

(26) 現在利用していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 対象の学年・年齢ではなくなったから | 2. 部活や習い事などをするようになったから |
| 3. 自分で勉強するようになったから | 4. あまり意味がなかったから |
| 5. 場所が遠く行きづらかったから | 6. 教えてくれる人との相性がよくなかったから |
| 7. 苦手な友だちがいたから | 8. その他() |
| 9. わからない | |

(27) 子育てや教育のこと、教育にかかるお金のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 家族、親族 | 2. 友人、知人 |
| 3. 民生委員・児童委員 | 4. 社会福祉協議会の人 |
| 5. 保育園・幼稚園・学校の先生 | 6. 医者、病院の人 |
| 7. 福祉事務所の人、ケースワーカー | 8. 保健所・保健センターなどの人 |
| 9. NPO など支援団体の人 | 10. 新聞・インターネットなどの相談コーナー |
| 11. その他の人() | 12. 相談したいが、誰にも相談できていない |
| 13. 誰にも相談しない(したくない) | 14. 困っていることや悩んでいることはない |

必要な支援のことなどについて教えてください。

(28) あなたがこれまでに受けたことがある（参加したことがある）支援等の内容を教えてください。
 受けたことがない場合には、その理由に最も近いものを教えてください。
 （それぞれあてはまる番号1つに○）

	受けたことがある	受けたことがない		
		今後受けた たい	抵抗感がある 受けた たいが	受ける必要がない
A 子どもがいろいろな遊びや体験などを行う教室やイベント	1	2	3	4
B 家計のやりくりやお金の管理に関する説明・教室	1	2	3	4
C 食事のことや栄養・健康のことに関する説明・教室	1	2	3	4
D 子どもが保育園・幼稚園等に通うにあたっての支援	1	2	3	4
E 学校等に入学・進学するにあたっての具体的な説明や情報提供	1	2	3	4
F 子どもが高等学校等を中退しないようにするための支援	1	2	3	4
G 不登校や引きこもりの子どものための支援	1	2	3	4
H 子どもの就職のための支援や情報提供	1	2	3	4

(29) あなたが今、困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

あなたのことについて教えてください。

(1) あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 男子 | 2. 女子 | 3. 答えたくない |
|-------|-------|-----------|

(2) あなたのいまの年齢、身長、体重を教えてください。(数字で回答)

年齢	歳、身長	cm、	体重	kg
----	------	-----	----	----

(3) あなたと一緒に住んでいる人を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | | |
|--------------|---------|----------|----------|
| 1. お母さん | 2. お父さん | 3. おばあさん | 4. おじいさん |
| 5. お兄さん | 6. お姉さん | 7. 弟 | 8. 妹 |
| 9. その他の人 () | | | |

(4) あなたは、学校に行っていますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 行っている | 2. 行っているが、休むことが多い |
| 3. 行っていない(中退した) | 4. 行っていない(卒業した) |

(4) で「行っている」または「行っているが、休むことが多い」と回答した人にお聞きします。

(5) 行っている学校の種類と学年を教えてください。

(学校の種類はあてはまる番号1つに○、学年は数字で回答)

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1. 小学校 (年生) | 2. 中学校 (年生) |
| 3. 高等学校 (年生) | 4. 専修学校・各種学校(専門学校など) |
| 5. 高等専門学校 | 6. 短期大学 |
| 7. 大学 | 8. その他 () |

(4) で「行っていない(中退した)」または「行っていない(卒業した)」と回答した人にお聞きします。

(6) 最後に通った学校の種類を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1. 中学校 | 2. 高等学校 |
| 3. 専修学校・各種学校(専門学校など) | 4. 高等専門学校 |
| 5. 短期大学 | 6. 大学 |
| 7. その他 () | |

(4) で「行っていない(中退した)」または「行っていない(卒業した)」と回答した人にお聞きします。

(7) 現在、働いていますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 働いている	2. 働いている(転職活動をしている)
2. 働いていない(求職中)	4. 働いていない(特に求職はしていない)

現在働いている方、及び学校に通いながらアルバイトをしている方にお聞きします。

(8) 現在の就労による1か月あたりの収入額をお答えください。(数字で回答)

円

(9) あなたは、下に書いてあるようなことは得意ですか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

	とても得意	やや得意	やや苦手	とても苦手
A 難しい問題にじっくり取り組むこと	1	2	3	4
B 自分の考えをみんなの前で発表すること	1	2	3	4
C わからないことや知らないことを調べる	1	2	3	4

(10) あなたのことに、下に書いてあるようなことがどれくらいあてはまりますか。

(それぞれあてはまる番号1つに○)

	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
A 自分でできることは自分です	1	2	3	4
B 将来の目標がはっきりしている	1	2	3	4
C 自分は価値のある人間だと思う	1	2	3	4

(11) あなたは、これまでに、病気やケガ以外の理由で、学校を1年の間に30日以上休んだこと(不登校であったこと)はありますか。ある場合には、どの学校・学年の時にそうであったかについても教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. ない	2. 小学校の1・2年生のとき
3. 小学校の3・4年生のとき	4. 小学校の5・6年生のとき
5. 中学校の1年生のとき	6. 中学校の2年生のとき
7. 中学校の3年生のとき	8. 高等学校のとき
9. その他 ()	

あなたのふだんの食事のことや生活習慣、健康のことについて教えてください。

(12) あなたは、次のことをどれくらいしていますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

	している	どちらかといえば、 している	あまり していない	していない
A 毎日朝ごはんを食べる	1	2	3	4
B 毎日歯をみがく	1	2	3	4
C 毎日お風呂に入る	1	2	3	4

(13) あなたは、毎日の生活のなかで、下に書いてあることがどれくらいありますか。

(それぞれあてはまる番号1つに○)

	よくある	ときどき ある	あまりない	まったく ない
A 夕食をひとりで食べる	1	2	3	4
B 夕食を食べない	1	2	3	4

(14) あなたは、給食以外で、次の食べ物をふだんどれくらい食べますか。

(それぞれあてはまる番号1つに○)

	ほぼ毎日 食べる	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日以下	食べない
A 野菜	1	2	3	4	5
B 肉か魚	1	2	3	4	5
C コンビニのおにぎり・お弁当	1	2	3	4	5

(15) あなたのいまの健康状態はいかがですか。(あてはまる番号1つに○)

1. よい	2. まあよい	3. ふつう
4. あまりよくない	5. よくない	

(16) あなたはいま、虫菌がおおよそ何本くらいありますか。(数字で回答)

※治療中のものは数えて、治療が終わっているものは数えないでください。

※ない場合は、「0本」と書いてください。

ほん 本

あなたのふだんの生活の状況について教えてください。

(17) あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。ある場合は「1ある」に○をつけてください。ない場合には、それがほしいものであれば「2ほしい」、いらなと思うものであれば「3ほしくない」に○をつけてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

	ある	ない	
		ほしい	ほしくない
A 自分だけの本 (学校の教科書やマンガはのぞく)	1	2	3
B 子ども部屋 (きょうだいと使っている場合もふくむ)	1	2	3
C 自宅で勉強をすることができる場所	1	2	3
D 自分専用の勉強机	1	2	3

(18) 保護者の方 (お母さんやお父さん、おばあさんやおじいさんなど) について、下に書いてあることはどれくらいあてはまりますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
A やりたいことを応援してくれる	1	2	3	4
B 失敗した時にはげましてくれる	1	2	3	4
C 勉強のやり方を教えてくれる	1	2	3	4

(19) あなたのまわりには、家族以外で、次のような大人はいますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 気軽に相談できる人	2. 尊敬できる人
3. 自分のことを大切にしてくれる人	4. 勉強をわかりやすく教えてくれる人
5. 将来のことを一緒に考えてくれる人	6. 特にいない

(20) あなたが最もほっとできる場所は次の中のどこですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 家	2. 学校
3. 職場、アルバイト先	4. 塾や習い事
5. 図書館や児童館など	6. その他 ()
7. ほっとできる場所はない	

(21) あなたが普段起きる時間と寝る時間を教えてください。(数字で回答)

A. 起きる時間 平日 () 時 () 分	B. 寝る時間 平日 () 時 () 分
休日 () 時 () 分	休日 () 時 () 分

あなたの学校生活や勉強のことについて教えてください。

※働いているなど、現在学校に行っていない方は、(27)にお進みください。

(22) あなたは勉強がどのくらい好きですか。(あてはまる番号1つに○)

1. とても好き	2. まあ好き
3. あまり好きではない	4. まったく好きではない

(23) あなたは、下に書いてあることがどれくらいあてはまりますか。

(それぞれあてはまる番号1つに○)

	あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
A 学校の授業がよくわかっている	1	2	3	4
B 先生との関係がうまくいっている	1	2	3	4
C 友だちとの関係がうまくいっている	1	2	3	4

(24) 学校の授業時間以外に、ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(あてはまる番号1つに○)

※塾等での勉強時間も含めてください。

1. まったくしない	2. 30分より少ない
3. 30分以上、1時間より少ない	4. 1時間以上、2時間より少ない
5. 2時間以上、3時間より少ない	6. 3時間以上

(25) あなたは、クラブ活動・部活動等をしてしていますか。(あてはまる番号1つに○)

1. している(ずっと続けている)	2. している(最近するようになった)
3. していたが、最近やめた	4. していない
5. その他()	

(26) あなたは、将来、どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 中学校	2. 高等学校
3. 専修学校・各種学校(専門学校など)	4. 高等専門学校
5. 短期大学	6. 大学
7. 大学院	8. その他()

悩みごとや必要な支援等について教えてください。

(27) あなたは、学習塾以外で、大学生や大人の人が勉強のことなどを教えてくれる場所(学習支援)を利用したことがありますか。利用したことがない場合は、今後利用したいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 現在利用している | 2. 以前は利用していたが、現在は利用していない |
| 3. 利用したことはないが、今後利用したい | 4. 利用したことはなく、利用したいと思わない |
| 5. わからない | |

(27) で「利用したことはないが、今後利用したい」または「利用したことはなく、利用したいと思わない」と回答した人にお聞きします。

(28) 学習支援を利用していない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 対象の学年・年齢ではないから | 2. そのような事業があることを知らなかったから |
| 3. 近くにそのような事業がないから | 4. 場所が遠く行きづらいから |
| 5. 利用する必要がないから | 6. その他() |

(27) で「現在利用している」または「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した人にお聞きします。

(29) その場所(学習支援)を利用し始めたことで、何か変わったことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1. 勉強がわかるようになった | 2. 家で勉強をするようになった |
| 3. 学校を休むことが減った | 4. 将来のことを考えるようになった |
| 5. 楽しいと思うことが増えた | 6. 色々なことに前向きに取り組むようになった |
| 7. 友だちが増えた | 8. 人とよく話すようになった |
| 9. その他() | 10. 特に変わったことはない |

(27) で「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した人にお聞きします。

(30) 現在利用していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 対象の学年・年齢ではなくなったから | 2. 部活や習い事などをするようになったから |
| 3. 自分で勉強するようになったから | 4. あまり意味がなかったから |
| 5. 場所が遠く行きづらかったから | 6. 教えてくれる人が苦手だったから |
| 7. 苦手な友だちがいたから | 8. その他() |

(31) あなたは、高校や大学などに進学するのにどれくらいお金が必要か知っていますか。(あてはまる番号1つに○)

※すでに卒業・進学等をしている人もお答えください。

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 知っている | 2. ある程度知っている |
| 3. あまり知らない | 4. まったく知らない |

(32) 次のうち、あなたがこれまでに行ったことがある場所や会ったことがある人、見たことがあるものなどがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家の人がない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所(子ども食堂など)
2. 学校以外で、進路や勉強、仕事、家族のことなど何でも相談ができる場所や相談ができる人
3. 学校以外で、将来必要なお金のことや生活するうえで必要なこと、利用することができる支援制度などを教えてくれる場所や教えてくれる人
4. 将来必要なお金のことや生活するうえで必要なこと、利用することができる支援制度などが書いてある本やパンフレット
5. 特にない

(33) あなたは、いまの生活のことや学校・勉強のこと、仕事のことなどについて、何か望んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 勉強をもっとわかりやすく教えてほしい
2. 将来のことや進路のことについてわかりやすく教えてほしい
3. 就職に関する支援を充実してほしい
4. 悩みごとなどを相談できるようにしてほしい
5. いじめをなくしてほしい
6. 学校のことでお金がかからないようにしてほしい
7. 将来必要なお金のことなどについてもっと教えてほしい
8. その他 ()
9. 特に望んでいることはない

(34) あなたが困っていることや悩んでいることがあるときに、相談できる人は誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 家族 | 2. 親戚(おじさん、おばさん、いとこなど) |
| 3. 学校の先生 | 4. 塾や習い事の先生 |
| 5. 学校の友だち | 6. その他の友だち |
| 7. その他の人 () | 8. 誰にも相談できない |

(35) あなたが今、困っていることや悩んでいること、相談したいこと、要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

福祉事務所における取組や課題認識等に関する調査

この調査について

- 本調査は、貧困の連鎖を断ち切り、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための総合的な支援のあり方等について検討を行うことを目的として、全国の福祉事務所を対象に実施をさせていただくものです。
- ご回答いただく内容は、生活保護世帯の子ども・保護者が置かれている現状等を把握し、必要な施策の検討を行っていくための重要な基礎情報となります。何卒本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。
- なお、本調査では「子ども」について18歳未満の者を意味する言葉として用いますが、18歳以降の段階における現状や今後の支援の必要性・課題等についてご回答いただくことを妨げるものではありません。
- 本調査は、平成30年度厚生労働省社会福祉推進事業として、株式会社浜銀総合研究所が実施・依頼しております。お手数ですが、不明な点等がございましたら下記担当までお問い合わせください。

<本調査に関する問い合わせ先>

株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 担当：有海、野口、石川、加藤^{ありかい}

電話番号：045-225-2372 Mail：kodomoshakai2018@yokohama-ri.co.jp

ご記入にあたってのご注意

- 回答は、鉛筆やボールペン等で、回答の番号に○をつけていただくか、文字や数字で具体的に記入ください。
- 回答は統計的に処理され、事務所名や個人名等が特定される形で集計・公表等をすることはありません。
- 最後に生活保護世帯対象の調査実施の可否についてお尋ねしているページがございます。そちらもご回答ください。
- お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて平成30年10月3日（水）までにご投函ください（郵便代を負担いただく必要はありません）。
- なお、本調査結果については、報告書として取りまとめ、平成30年度末に貴所にご送付させていただきます。ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

貴所のことについておうかがいします

問1 貴所に関する情報をお教えてください。

福祉事務所名	
本調査のご担当者氏名	
御連絡先	TEL :
	MAIL :

※本アンケート調査の回答内容に基づき、後日ヒアリング調査へのご協力をお願いする場合がございます。

※本アンケート調査結果について、事務所名・担当者名等が特定される形で集計・公表等することはございません。

問2 平成30年8月末時点での、貴所の管内における被保護世帯数・被保護人員の情報をお教えてください。

被保護世帯数	全体	母子世帯数
	世帯	世帯
		18歳未満の子どもがいる世帯数
		世帯
被保護人員	全体	0歳～6歳の人数
	人	人
		7歳～9歳の人数
		人
		10歳～12歳の人数
		人
		13歳～15歳の人数
		人
		16歳～18歳の人数
		人

問3 貴所と保健所・保健センターとの関係性について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

<p>1. 福祉事務所と保健所・保健センターとが統合されて設置されている</p> <p>2. 同じ建物・フロアに設置されているが組織としては別である</p> <p>3. 別に設置されている</p> <p>4. その他 ()</p>
--

支援体制、支援の内容についておうかがいします

問4 貴所には、現業を行う所員（ケースワーカー）のほかに、生活保護世帯の子どもの支援にかかる専門的な役割を担う職員などが配置されていますか。（あてはまる番号1つに○）

※生活保護世帯以外の子どもを支援対象に含んでいても構いません。

- | |
|--|
| 1. 配置されている（役職名等： _____） |
| 2. 配置されているわけではないがケースワーカーの中に子どもの支援を専門的に行う者がいる |
| 3. その他（ _____） |
| 4. 特段配置されていない |

問5 生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、どのような組織・機関等と連携をしていますか。（あてはまる番号すべてに○）

※ここでの「連携」とは、子どもや保護者に関する情報のやりとりを綿密にしたり、協働したり役割分担したりして支援を行うこととしてお考えください。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 保育所 | 2. 幼稚園 |
| 3. 小学校 | 4. 中学校 |
| 5. 高等学校 | 6. 大学等高等教育機関 |
| 7. 教育委員会 | 8. 児童家庭支援センター |
| 9. 児童相談所 | 10. 乳児院・児童養護施設 |
| 11. 保健所・保健センター | 12. 精神保健福祉センター |
| 13. 障害者更生相談所 | 14. 発達障害者支援センター |
| 15. ハローワーク | 16. 医療機関 |
| 17. 司法・警察関係機関 | 18. 民生・児童委員、主任児童委員 |
| 19. 社会福祉協議会 | 20. ボランティア団体・民間団体 |
| 21. 民間企業 | 22. その他（ _____） |
| 23. 特に連携はしていない | |

問6 貴所における生活保護世帯の子どもに対する支援体制等について、以下のようなことがどの程度当てはまりますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
A ケースワーカーに対する子どもの発達等に関する研修を定期的に行っている	1	2	3	4
B 子どもの成長段階に合わせた支援項目等の情報を整理している	1	2	3	4
C 進学・入試や就職等に関する最新の情報を職員間で共有している	1	2	3	4
D 世帯に課題等が生じた場合に、査察指導員への相談やケース診断会議開催等、組織的に対応している	1	2	3	4
E ケース診断会議のほか、関係機関も参加する事例検討会等を定期的に行っている(または、参加している)	1	2	3	4
F その他、関係機関との連携を強化しようとしている	1	2	3	4

問7 貴所では、生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、以下のような取組を行っていますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

※マニュアルを作成したり、定期的に機会を設けたりするなど、組織的に対応している場合に「(プログラムを作成して)行っている」としてお考えください。

※ひとつの事業が、以下のA～Sの項目のうち複数の要素を満たす場合には、いずれの項目にも「行っている」と回答してください。

※生活保護世帯以外の子どもを支援対象に含んでいても構いません。

	① 貴所が企画・運営主体であり、貴所の職員が行っている	② 貴所が企画・運営主体となり、他機関に委託している	③ 他部署が企画・運営している取組を、連携して行っている	④ 行っていないが、実施に向けた検討・準備等が進められている	⑤ 組織的な取組としては行っていない
A 子どもや保護者向けに特化した、各制度の説明資料(しおり)等を作成している	1	2	3	4	5
B 実態等把握のため、生活保護世帯の子どもや保護者を対象に独自のアンケート調査等を実施している	1	2	3	4	5
C 栄養・食に関する支援を、プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5

問7 (続き)

	①貴所が企画・運営主体であり、 貴所の職員が行っている	②貴所が企画・運営主体となり、 他機関に委託している	③他部署が企画・運営している取組 を、連携して行っている	④行っていないが、実施に向けた 検討・準備等が進められている	⑤組織的な取組としては 行っていない
D 保健衛生・健康管理等の支援を、 プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
E 虐待・ネグレクト防止のための支援を、 プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
F 福祉事務所として親子教室等の開催を 行っている	1	2	3	4	5
G 保育所・幼稚園等への入園・通園に関する 支援を、プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
H 子どもの基本的な生活習慣の形成等に関する 支援を、プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
I 福祉事務所として子どもの遊びや体験活 動等の機会を提供する事業を行っている	1	2	3	4	5
J 小・中学校に入学するときの支援を、 プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
K 福祉事務所として学習支援・居場所づく りの事業を行っている	1	2	3	4	5
L 不登校の子どもに対する支援を、 プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
M 高等学校進学のための支援を、 プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
N 高等学校等中退防止のための支援を、 プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
O 高等学校等を中退した者に対する支援 を、プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
P 大学等の高等教育機関進学のための支援 を、プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
Q 引きこもりの状態にある者に対する支援 を、プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5
R 金銭管理等の支援を、プログラムを作成 して行っている	1	2	3	4	5
S 非行防止や更生のための支援を、 プログラムを作成して行っている	1	2	3	4	5

問8 4ページ・5ページに掲載した問7のA～Sの取組について、またはそれ以外で、貴所において、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための支援として、特に工夫していることや独自の取組などで行っているものがあれば、その内容をお教えてください。

課題認識等についておうかがいします

問9 生活保護世帯の子どもに対する支援を行う上で、特に課題になっていることはありますか。
(あてはまる番号上位3つまで○)

1. 保護者との接触、信頼関係づくりが難しい
2. 保護者に障がいや疾患等があり対応が難しい
3. 子どもとの接触が難しい(訪問しても会うことができない、など)
4. 子どもとの信頼関係づくりが難しい
5. 子どもに障がいや疾患等があり対応が難しい
6. 子どもは生活保護を受けていることを知らないことが多く支援がしづらい
7. ケースワーカー等の職員の子どもの発達についての知識や技術が不足している
8. ケースワーカー等の職員に時間的余裕がない
9. 支援に用いることができる制度が少ない
10. 個人情報取り扱いの問題から、支援に必要な情報が得られない
11. 関係機関との連携・協力が難しい
12. その他()
13. 特にない

問 10 生活保護世帯の子どもや保護者に対する支援を行うにあたり、今後ケースワーカー等の職員に対する研修の内容として、より充実させる必要があると考えることはありますか。現在の実施状況とあわせて教えてください。(それぞれ、あてはまる番号すべてに○)

<現在実施している研修の内容>

1. 障がいや疾患等に関する研修	2. 対人援助に関する研修
3. 児童福祉に関する研修	4. 支援制度に関する研修
5. ケースワーカー同士の勉強会・情報交換	6. 他の福祉事務所との勉強会・情報交換
7. 具体のケースについて検討する研修	8. 他機関との連携方法に関する研修
9. その他の内容の研修 ()	
10. 特にない	

<今後より充実させる必要があると考える研修の内容>

1. 障がいや疾患等に関する研修	2. 対人援助に関する研修
3. 児童福祉に関する研修	4. 支援制度に関する研修
5. ケースワーカー同士の勉強会・情報交換	6. 他の福祉事務所との勉強会・情報交換
7. 具体のケースについて検討する研修	8. 他機関との連携方法に関する研修
9. その他の内容の研修 ()	
10. 特にない	

問 11 貧困の連鎖を断ち切り、生活保護世帯の子どもの自立を助長するための総合的な支援を推進していくにあたり、今後特に重要と考えられることはどのようなことですか。お考えがあればお教えてください。

※支援体制の充実や関係機関同士の連携の推進、支援制度・プログラムの充実など、貴所が実施したり関与したりしないものも含めて、重要と考えることについてお教えてください。

--

(2) 集計表

①保護者向け調査

あなたのことについて教えてください。

(1) あなたは、一緒に住んでいるお子さん(18歳未満)からみてどのようなお立場ですか。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,983
父親	204	10.1%	10.3%
母親	1,685	83.6%	85.0%
祖父	14	0.7%	0.7%
祖母	67	3.3%	3.4%
おじ	2	0.1%	0.1%
おば	2	0.1%	0.1%
兄	2	0.1%	0.1%
姉	4	0.2%	0.2%
その他	3	0.1%	0.2%
無回答	32	1.6%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(2) あなたは現在、働いていますか。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,989
働いている	830	41.2%	41.7%
働いている(転職活動をしている)	54	2.7%	2.7%
働いていない(求職中)	356	17.7%	17.9%
働いていない(特に求職はしていない)	749	37.2%	37.7%
無回答	26	1.3%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(2)で「働いている」と回答した人にお聞きします。

(3)現在の仕事の形態を教えてください。(あてはまる番号1つに○)※ふたつ以上の仕事をしている人は、主なものを選んでください。

	件数	割合 n=884	割合 (除無回答) n=858
正社員・正職員	51	5.8%	5.9%
パート・アルバイト	692	78.3%	80.7%
契約社員・派遣社員・嘱託	46	5.2%	5.4%
自営業(家族従事者含む)	25	2.8%	2.9%
その他の形態	44	5.0%	5.1%
無回答	26	2.9%	—
全 体	884	100.0%	100.0%

あなたの世帯のことについて教えてください。

(4)ふだん一緒に住んでいる方は、あなたを含めて何人ですか。(数字で回答)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,983
1人	3	0.1%	0.2%
2人	771	38.3%	38.9%
3人	652	32.4%	32.9%
4人	333	16.5%	16.8%
5人	136	6.7%	6.9%
6人	56	2.8%	2.8%
7人	21	1.0%	1.1%
8人	6	0.3%	0.3%
9人	3	0.1%	0.2%
10人	1	0.0%	0.1%
11人	1	0.0%	0.1%
無回答	32	1.6%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

	n=1,983
平均値	3.07人
中央値	3人
最頻値	2人
標準偏差	1.20
最小値	1人
最大値	11人

(5) あなたとふだん一緒に住んでいる方全員について、それぞれ人数を教えてください。(数字で回答)

	件数	割合	割合
		n=2,015	(除無回答) n=1,967
小学校入学前	477	23.7%	24.3%
小学生	917	45.5%	46.6%
中学生	701	34.8%	35.6%
高校生	647	32.1%	32.9%
大学、短大、専門学校等	55	2.7%	2.8%
就職	84	4.2%	4.3%
その他	118	5.9%	6.0%
子どもの親	1,892	93.9%	96.2%
子どもの祖父母	138	6.8%	7.0%
その他	31	1.5%	1.6%
無回答	48	2.4%	—
全 体	2,015	—	—

	子どもの人数						
	小学校 入学前 n=1,908	小学生 n=1,914	中学生 n=1,918	高校生 n=1,906	大学、短大 専門学校等 n=1,885	就職 n=1,888	その他 n=1,887
平均値	0.32	0.63	0.40	0.38	0.03	0.05	0.08
中央値	0	0	0	0	0	0	0
最頻値	0	0	0	0	0	0	0
標準偏差	0.62	0.77	0.56	0.57	0.19	0.24	0.32
最小値	0	0	0	0	0	0	0
最大値	4	4	3	3	3	2	5

	保護者の方などの人数		
	子どもの 親 n=1,948	子どもの 祖父母 n=1,885	その他 n=1,884
平均値	1.10	0.08	0.02
中央値	1	0	0
最頻値	1	0	0
標準偏差	0.38	0.32	0.18
最小値	0	0	0
最大値	2	2	4

(6) あなたとふだん一緒に住んでいる方の中に、次のような方はいますか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合	割合
		n=2,015	(除無回答) n=1,833
あなた以外で、働いている方	228	11.3%	12.4%
高齢で介護が必要な方	18	0.9%	1.0%
病気等で定期的に通院等が必要な方	594	29.5%	32.4%
障害があり介護が必要な方	132	6.6%	7.2%
学校を休んでいる(不登校の)お子さん	193	9.6%	10.5%
上記にあてはまる方はいない	932	46.3%	50.8%
無回答	182	9.0%	—

(7) 次のもののうち、あなたの世帯にないものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,846
子どもの年齢に合った本	504	25.0%	27.5%
子ども用のスポーツ用品・おもちゃ	373	18.5%	20.3%
子どもが自宅で勉強をすることができる場所	518	25.7%	28.3%
いずれもある	880	43.7%	48.0%
無回答	169	8.4%	—

(8) あなたの子どもが現在かかっている病気について教えてください。(あてはまる番号すべてに○) ※一時的な風邪等は除きます。

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,901
ぜんそく	340	16.9%	17.9%
アトピー	291	14.4%	15.3%
アレルギー性鼻炎・結膜炎	561	27.8%	29.5%
食物アレルギー	152	7.5%	8.0%
糖尿病	18	0.9%	0.9%
うつ病その他こころの病気	203	10.1%	10.7%
発達障害	387	19.2%	20.4%
その他	211	10.5%	11.1%
特になし	676	33.5%	35.6%
無回答	114	5.7%	—

あなたやお子さんの健康のことに教えてください。

(9) あなたの現在の健康状態はいかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,978
よい	232	11.5%	11.7%
まあよい	242	12.0%	12.2%
ふつう	486	24.1%	24.6%
あまりよくない	700	34.7%	35.4%
よくない	318	15.8%	16.1%
無回答	37	1.8%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(10) あなたは過去1年間に、健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)を受けたことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

※「がん」のみの検診、妊産婦検診、歯の健康診査、病院や診療所で行う通常の診察は検診等には含まれません。

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,977
ある	682	33.8%	34.5%
なし	1,295	64.3%	65.5%
無回答	38	1.9%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(10) で「ない」と回答した人にお聞きします。

(11) 受けなかった理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=1,295	割合 (除無回答) n=1,271
知らなかったから	145	11.2%	11.4%
時間がとれなかったから	264	20.4%	20.8%
場所が遠いから	102	7.9%	8.0%
費用がかかると思ったから	459	35.4%	36.1%
検査等(採血、胃カメラ等)に不安があるから	121	9.3%	9.5%
医療機関に入通院していたから	166	12.8%	13.1%
1年以上前に受けたから	93	7.2%	7.3%
健康状態には自信があるから	27	2.1%	2.1%
必要な時はいつでも医療機関を受診できるから	242	18.7%	19.0%
結果が不安なため、受けたくないから	190	14.7%	14.9%
めんどうだから	161	12.4%	12.7%
その他	77	5.9%	6.1%
無回答	24	1.9%	—

(12) 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,966
ある	431	21.4%	21.9%
ない	1,535	76.2%	78.1%
無回答	49	2.4%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(12) で「ある」と回答した人にお聞きします。

(13) 受診しなかった理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=431	割合 (除無回答) n=420
手続きの方法がわからなかったから	14	3.2%	3.3%
手続きが面倒であったから	58	13.5%	13.8%
医療費の支払いができないと思ったから	41	9.5%	9.8%
子ども本人が受診しなかったから	132	30.6%	31.4%
医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったから	113	26.2%	26.9%
多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったから	78	18.1%	18.6%
最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したから	178	41.3%	42.4%
自分の健康状態が悪かったから	98	22.7%	23.3%
その他	44	10.2%	10.5%
無回答	11	2.6%	—

(14) 次のそれぞれの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

A 神経過敏に感じましたか

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,934
いつも	336	16.7%	17.4%
たいてい	328	16.3%	17.0%
ときどき	518	25.7%	26.8%
少しだけ	323	16.0%	16.7%
全くない	429	21.3%	22.2%
無回答	81	4.0%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

B 絶望的だと感じましたか

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,952
いつも	222	11.0%	11.4%
たいてい	240	11.9%	12.3%
どきどき	512	25.4%	26.2%
少しだけ	382	19.0%	19.6%
全くない	596	29.6%	30.5%
無回答	63	3.1%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

C そわそわ、落ち着かなく感じましたか

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,942
いつも	201	10.0%	10.4%
たいてい	253	12.6%	13.0%
どきどき	498	24.7%	25.6%
少しだけ	445	22.1%	22.9%
全くない	545	27.0%	28.1%
無回答	73	3.6%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

D 気分が沈みこんで、何が起っても気が晴れないように感じましたか

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,956
いつも	300	14.9%	15.3%
たいてい	340	16.9%	17.4%
どきどき	519	25.8%	26.5%
少しだけ	408	20.2%	20.9%
全くない	389	19.3%	19.9%
無回答	59	2.9%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

E 何をするのも骨折りと感じましたか

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,934
いつも	241	12.0%	12.5%
たいてい	238	11.8%	12.3%
どきどき	459	22.8%	23.7%
少しだけ	471	23.4%	24.4%
全くない	525	26.1%	27.1%
無回答	81	4.0%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

F 自分は価値のない人間だと感じましたか

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,951
いつも	367	18.2%	18.8%
たいてい	220	10.9%	11.3%
どきどき	362	18.0%	18.6%
少しだけ	373	18.5%	19.1%
全くない	629	31.2%	32.2%
無回答	64	3.2%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(15) あなたやお子さんの健康のことで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,993
家族、親族	1,051	52.2%	52.7%
友人、知人	808	40.1%	40.5%
民生委員・児童委員	71	3.5%	3.6%
社会福祉協議会の人	45	2.2%	2.3%
保育園・幼稚園・学校の先生	326	16.2%	16.4%
医者、病院の人	729	36.2%	36.6%
福祉事務所の人、ケースワーカー	502	24.9%	25.2%
保健所・保健センターなどの人	105	5.2%	5.3%
NPOなど支援団体の人	60	3.0%	3.0%
新聞・インターネットなどの相談コーナー	49	2.4%	2.5%
その他の人	75	3.7%	3.8%
相談したいが、誰にも相談できていない	122	6.1%	6.1%
誰にも相談しない(したくない)	110	5.5%	5.5%
困っていることや悩んでいることはない	21	1.0%	1.1%
無回答	22	1.1%	—

あなたの生活の状況について教えてください。

(16) あなたはふだん、次のようなことがどれくらいありますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

A 友人とすこず、話をする

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,965
よくある	308	15.3%	15.7%
ときどきある	657	32.6%	33.4%
あまりない	521	25.9%	26.5%
まったくない	479	23.8%	24.4%
無回答	50	2.5%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

B 地域の行事に参加する

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,949
よくある	79	3.9%	4.1%
ときどきある	323	16.0%	16.6%
あまりない	513	25.5%	26.3%
まったくない	1,034	51.3%	53.1%
無回答	66	3.3%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

C 近所の人と話をする

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,957
よくある	136	6.7%	6.9%
ときどきある	583	28.9%	29.8%
あまりない	591	29.3%	30.2%
まったくない	647	32.1%	33.1%
無回答	58	2.9%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

D 親族の人と会う、連絡を取る

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,975
よくある	564	28.0%	28.6%
ときどきある	638	31.7%	32.3%
あまりない	418	20.7%	21.2%
まったくない	355	17.6%	18.0%
無回答	40	2.0%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(17) あなたの家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,970
よくあった	330	16.4%	16.8%
ときどきあった	503	25.0%	25.5%
まれにあった	518	25.7%	26.3%
まったくなかった	619	30.7%	31.4%
無回答	45	2.2%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(18) 家計のやりくり・お金の管理のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,973
家族、親族	840	41.7%	42.6%
友人、知人	351	17.4%	17.8%
民生委員・児童委員	21	1.0%	1.1%
社会福祉協議会の人	50	2.5%	2.5%
保育園・幼稚園・学校の先生	11	0.5%	0.6%
医者、病院の人	36	1.8%	1.8%
福祉事務所の人、ケースワーカー	389	19.3%	19.7%
保健所・保健センターなどの人	14	0.7%	0.7%
NPOなど支援団体の人	17	0.8%	0.9%
新聞・インターネットなどの相談コーナー	12	0.6%	0.6%
その他の人	32	1.6%	1.6%
相談したいが、誰にも相談できていない	294	14.6%	14.9%
誰にも相談しない(したくない)	379	18.8%	19.2%
困っていることや悩んでいることはない	59	2.9%	3.0%
無回答	42	2.1%	—

子育てや教育のことについて教えてください。

(19) あなたはお子さんのことについて、これまでに以下のような経験をしたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,942
行き過ぎた体罰を与えたことがある	273	13.5%	14.1%
育児放棄になった時期がある	180	8.9%	9.3%
出産や育児でうつ病(うつ状態)になった時期がある	508	25.2%	26.2%
子どもを虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある	495	24.6%	25.5%
上記のいずれも経験したことがない	1,017	50.5%	52.4%
無回答	73	3.6%	—

(20) あなたのご家庭では、お子さんの教育について、次のことをどれくらい重視していますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

A 保育園や幼稚園、学校、職場に毎日行くこと

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,912
とても重視している	745	37.0%	39.0%
重視している	812	40.3%	42.5%
あまり重視していない	277	13.7%	14.5%
重視していない	78	3.9%	4.1%
無回答	103	5.1%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

B 勉強をしてよい成績をとること

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,906
とても重視している	146	7.2%	7.7%
重視している	605	30.0%	31.7%
あまり重視していない	907	45.0%	47.6%
重視していない	248	12.3%	13.0%
無回答	109	5.4%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

C 難しいことや新しいことに挑戦すること

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,912
とても重視している	324	16.1%	16.9%
重視している	925	45.9%	48.4%
あまり重視していない	561	27.8%	29.3%
重視していない	102	5.1%	5.3%
無回答	103	5.1%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(21) あなたは、お子さんの将来(夢・進路・職業等)について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,943
よくする	545	27.0%	28.0%
たまにする	1,026	50.9%	52.8%
あまりしない	239	11.9%	12.3%
これまで特にしたことがない	133	6.6%	6.8%
無回答	72	3.6%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(22) 生活保護制度においては、お子さんの教育にかかる費用や支援制度等が近年変更になりました。あなたは、次の変更について知っていますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

A 「児童養育加算」(月1万円)が高校生まで拡大されたこと

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,927
知っていた	284	14.1%	14.7%
聞いたことはあった	332	16.5%	17.2%
知らなかった	1,311	65.1%	68.0%
無回答	88	4.4%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

B クラブ活動費にかかる支援費が定額から実費で支払われるようになったこと

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,928
知っていた	525	26.1%	27.2%
聞いたことはあった	331	16.4%	17.2%
知らなかった	1,072	53.2%	55.6%
無回答	87	4.3%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

C 「入学準備金（制服等の購入費）」が増額されたこと

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,922
知っていた	280	13.9%	14.6%
聞いたことはあった	254	12.6%	13.2%
知らなかった	1,388	68.9%	72.2%
無回答	93	4.6%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

D 高校受験料の費用の支給回数が拡大されたこと（1校分限りであったものが2校目も可能になった）

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,920
知っていた	125	6.2%	6.5%
聞いたことはあった	153	7.6%	8.0%
知らなかった	1,642	81.5%	85.5%
無回答	95	4.7%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

E 大学等に進学する場合に一時金が支給されるようになったこと（自宅通学の場合は10万円、転居の場合は30万円）

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,922
知っていた	195	9.7%	10.1%
聞いたことはあった	238	11.8%	12.4%
知らなかった	1,489	73.9%	77.5%
無回答	93	4.6%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

F 大学等入学時の経費に使うならば、福祉事務所と相談の上、高校生のアルバイト収入や毎月の保護費を貯めることができること

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,926
知っていた	325	16.1%	16.9%
聞いたことはあった	279	13.8%	14.5%
知らなかった	1,322	65.6%	68.8%
無回答	89	4.4%	—
全 体	2,015	100.0%	100.2%

(23) あなたのご家庭のお子さんは、自治体やNPO団体、学生ボランティア等が実施する「学習支援事業」（学習の手助けなど）を利用したことがありますか。利用したことがない場合は、今後利用したいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,943
現在利用している	199	9.9%	10.2%
以前は利用していたが、現在は利用していない	188	9.3%	9.7%
利用したことはないが、今後利用したい	510	25.3%	26.2%
利用したことはなく、利用したいと思わない	364	18.1%	18.7%
わからない	682	33.8%	35.1%
無回答	72	3.6%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

(23) で「利用したことはないが、今後利用したい」または「利用したことはなく、利用したいと思わない」と回答した人にお聞きします。

(24) 学習支援事業を利用していない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=874	割合 (除無回答) n=812
対象の学年・年齢ではないから	141	16.1%	17.4%
そのような事業があることを知らなかったから	332	38.0%	40.9%
近くにそのような事業がないから	124	14.2%	15.3%
通わせることが困難だから(送り迎えなど)	230	26.3%	28.3%
子どもが行きたがらないから	195	22.3%	24.0%
その他	71	8.1%	8.7%
無回答	62	7.1%	—

(23) で「現在利用している」または「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した人にお聞きします。

(25) 学習支援事業を利用したお子さんにみられた変化として、あてはまるものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=387	割合 (除無回答) n=356
勉強がわかるようになった	126	32.6%	35.4%
家で勉強をするようになった	58	15.0%	16.3%
学校を休むことが減った	26	6.7%	7.3%
将来のことを考えるようになった	76	19.6%	21.3%
礼儀やマナーが身についた	32	8.3%	9.0%
色々なことに前向きに取り組むようになった	69	17.8%	19.4%
友だちが増えた	65	16.8%	18.3%
人とよく話すようになった	66	17.1%	18.5%
その他	14	3.6%	3.9%
特に変化が見られたことはない	119	30.7%	33.4%
無回答	31	8.0%	—

(23) で「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した人にお聞きします。

(26) 現在利用していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=188	割合 (除無回答) n=171
対象の学年・年齢ではなくなったから	57	30.3%	33.3%
部活や習い事などをするようになったから	21	11.2%	12.3%
自分で勉強するようになったから	16	8.5%	9.4%
あまり意味がなかったから	30	16.0%	17.5%
場所が遠く行きづらかったから	32	17.0%	18.7%
教えてくれる人との相性がよくなかったから	27	14.4%	15.8%
苦手な友だちがいたから	6	3.2%	3.5%
その他	34	18.1%	19.9%
わからない	10	5.3%	5.8%
無回答	17	9.0%	—

(27) 子育てや教育のこと、教育にかかるお金のことなどで困っていることや悩んでいることがあったときに、相談する相手は誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,938
家族、親族	890	44.2%	45.9%
友人、知人	468	23.2%	24.1%
民生委員・児童委員	43	2.1%	2.2%
社会福祉協議会の人	73	3.6%	3.8%
保育園・幼稚園・学校の先生	123	6.1%	6.3%
医者、病院の人	87	4.3%	4.5%
福祉事務所の人、ケースワーカー	633	31.4%	32.7%
保健所・保健センターなどの人	43	2.1%	2.2%
NPOなど支援団体の人	32	1.6%	1.7%
新聞・インターネットなどの相談コーナー	27	1.3%	1.4%
その他の人	38	1.9%	2.0%
相談したいが、誰にも相談できていない	276	13.7%	14.2%
誰にも相談しない(したくない)	227	11.3%	11.7%
困っていることや悩んでいることはない	24	1.2%	1.2%
無回答	77	3.8%	—

必要な支援のことなどについて教えてください。

(28) あなたがこれまでに受けたことがある(参加したことがある)支援等の内容を教えてください。受けたことがない場合には、その理由に最も近いものを教えてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

A 子どもがいろいろな遊びや体験などを行う教室やイベント

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,901
受けたことがある	571	28.3%	30.0%
受けたことがない(今後受けたい)	384	19.1%	20.2%
受けたことがない(受けたいが抵抗感がある)	480	23.8%	25.2%
受けたことがない(受ける必要がない)	466	23.1%	24.5%
無回答	114	5.7%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

B 家計のやりくりやお金の管理に関する説明・教室

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,896
受けたことがある	52	2.6%	2.7%
受けたことがない(今後受けたい)	368	18.3%	19.4%
受けたことがない(受けたいが抵抗感がある)	701	34.8%	37.0%
受けたことがない(受ける必要がない)	775	38.5%	40.9%
無回答	119	5.9%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

C 食事のことや栄養・健康のことに関する説明・教室

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,889
受けたことがある	163	8.1%	8.6%
受けたことがない(今後受けたい)	516	25.6%	27.3%
受けたことがない(受けたいが抵抗感がある)	448	22.2%	23.7%
受けたことがない(受ける必要がない)	762	37.8%	40.3%
無回答	126	6.3%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

D 子どもが保育園・幼稚園等に通うにあたっての支援

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,805
受けたことがある	289	14.3%	16.0%
受けたことがない (今後受けたい)	246	12.2%	13.6%
受けたことがない (受けたいが抵抗感がある)	167	8.3%	9.3%
受けたことがない (受ける必要がない)	1,103	54.7%	61.1%
無回答	210	10.4%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

E 学校等に入学・進学するにあたっての具体的な説明や情報提供

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,896
受けたことがある	431	21.4%	22.7%
受けたことがない (今後受けたい)	850	42.2%	44.8%
受けたことがない (受けたいが抵抗感がある)	261	13.0%	13.8%
受けたことがない (受ける必要がない)	354	17.6%	18.7%
無回答	119	5.9%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

F 子どもが高等学校等の中退しないようにするための支援

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,856
受けたことがある	37	1.8%	2.0%
受けたことがない (今後受けたい)	719	35.7%	38.7%
受けたことがない (受けたいが抵抗感がある)	299	14.8%	16.1%
受けたことがない (受ける必要がない)	801	39.8%	43.2%
無回答	159	7.9%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

G 不登校や引きこもりの子どものための支援

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,864
受けたことがある	121	6.0%	6.5%
受けたことがない (今後受けたい)	430	21.3%	23.1%
受けたことがない (受けたいが抵抗感がある)	252	12.5%	13.5%
受けたことがない (受ける必要がない)	1,061	52.7%	56.9%
無回答	151	7.5%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

H 子どもの就職のための支援や情報提供

	件数	割合 n=2,015	割合 (除無回答) n=1,888
受けたことがある	96	4.8%	5.1%
受けたことがない (今後受けたい)	1,015	50.4%	53.8%
受けたことがない (受けたいが抵抗感がある)	267	13.3%	14.1%
受けたことがない (受ける必要がない)	510	25.3%	27.0%
無回答	127	6.3%	—
全 体	2,015	100.0%	100.0%

②子ども向け調査

あなたのことについて教えてください。

(1) あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,928
男子	923	46.8%	47.9%
女子	964	48.9%	50.0%
答えたくない	41	2.1%	2.1%
無回答	44	2.2%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(2) あなたのいまの年齢、身長、体重を教えてください。(数字で回答)

①年齢

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,864
10歳	194	9.8%	10.4%
11歳	194	9.8%	10.4%
12歳	203	10.3%	10.9%
13歳	186	9.4%	10.0%
14歳	232	11.8%	12.4%
15歳	266	13.5%	14.3%
16歳	196	9.9%	10.5%
17歳	238	12.1%	12.8%
18歳	155	7.9%	8.3%
無回答	108	5.5%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

	身長 n=1,725	体重 n=1,641
平均値	156.1cm	50.1kg
中央値	156.0cm	49.0kg
最頻値	150.0cm	50.0kg
標準偏差	11.74	14.09
最小値	110.0cm	16.6kg
最大値	187.0cm	120.0kg

(3) あなたと一緒に住んでいる人を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,933
お母さん	1,776	90.1%	91.9%
お父さん	368	18.7%	19.0%
おばあさん	117	5.9%	6.1%
おじいさん	24	1.2%	1.2%
お兄さん	346	17.5%	17.9%
お姉さん	339	17.2%	17.5%
弟	512	26.0%	26.5%
妹	481	24.4%	24.9%
その他の人	40	2.0%	2.1%
無回答	39	2.0%	—

(4) あなたは、学校に行っていますか。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,964
行っている	1,626	82.5%	82.8%
行っているが、休むことが多い	287	14.6%	14.6%
行っていない(中退した)	27	1.4%	1.4%
行っていない(卒業した)	24	1.2%	1.2%
無回答	8	0.4%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(4)で「行っている」または「行っているが、休むことが多い」と回答した人にお聞きします。

(5) 行っている学校の種類と学年を教えてください。(学校の種類はあてはまる番号1つに○、学年は数字で回答)

	件数	割合 n=1,913	割合 (除無回答) n=1,868
小学校	561	29.3%	30.0%
うち小学校4年生	157	8.2%	8.4%
うち小学校5年生	183	9.6%	9.8%
うち小学校6年生	198	10.4%	10.6%
うち無回答	23	1.2%	1.2%
中学校	686	35.9%	36.7%
うち中学校1年生	189	9.9%	10.1%
うち中学校2年生	202	10.6%	10.8%
うち中学校3年生	261	13.6%	14.0%
うち無回答	34	1.8%	1.8%
高等学校	579	30.3%	31.0%
うち高校1年生	203	10.6%	10.9%
うち高校2年生	194	10.1%	10.4%
うち高校3年生	145	7.6%	7.8%
うち無回答	37	1.9%	2.0%
専修学校・各種学校(専門学校など)	2	0.1%	0.1%
高等専門学校	12	0.6%	0.6%
短期大学	0	0.0%	0.0%
大学	1	0.1%	0.1%
その他	27	1.4%	1.4%
無回答	45	2.4%	—
全 体	1,913	100.0%	100.0%

(4)で「行っていない(中退した)」または「行っていない(卒業した)」と回答した人にお聞きします。

(6) 最後に通った学校の種類を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=51	割合 (除無回答) n=50
中学校	23	45.1%	46.0%
高等学校	26	51.0%	52.0%
専修学校・各種学校(専門学校など)	0	0.0%	0.0%
高等専門学校	0	0.0%	0.0%
短期大学	0	0.0%	0.0%
大学	0	0.0%	0.0%
その他	1	2.0%	2.0%
無回答	1	2.0%	—
全 体	51	100.0%	100.0%

(4)で「行っていない(中退した)」または「行っていない(卒業した)」と回答した人にお聞きします。

(7) 現在、働いていますか。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=51	割合 (除無回答) n=48
働いている	12	23.5%	25.0%
働いている(転職活動をしている)	2	3.9%	4.2%
働いていない(求職中)	10	19.6%	20.8%
働いていない(特に求職はしていない)	24	47.1%	50.0%
無回答	3	5.9%	—
全 体	51	100.0%	100.0%

現在働いている方、及び学校に通いながらアルバイトをしている方にお聞きします。

(8) 現在の就労による1か月あたりの収入額をお答えください。(数字で回答)

	n=164
平均値	38,191円
中央値	30,000円
最頻値	30,000円
標準偏差	24,382.18
最小値	1,000円
最大値	190,000円

(9) あなたは、下を書いてあるようなことは得意ですか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

A 難しい問題にじっくり取り組むこと

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,909
とても得意	121	6.1%	6.3%
やや得意	452	22.9%	23.7%
やや苦手	772	39.1%	40.4%
とても苦手	564	28.6%	29.5%
無回答	63	3.2%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

B 自分の考えをみんなの前で発表すること

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,910
とても得意	203	10.3%	10.6%
やや得意	449	22.8%	23.5%
やや苦手	701	35.5%	36.7%
とても苦手	557	28.2%	29.2%
無回答	62	3.1%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

C わからないことや知らないことを調べること

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,913
とても得意	351	17.8%	18.3%
やや得意	779	39.5%	40.7%
やや苦手	537	27.2%	28.1%
とても苦手	246	12.5%	12.9%
無回答	59	3.0%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(10) あなたのことについて、下を書いてあるようなことがどれくらいあてはまりますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

A 自分でできることは自分でする

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,917
とてもあてはまる	564	28.6%	29.5%
まああてはまる	977	49.5%	51.2%
あまりあてはまらない	303	15.4%	15.9%
まったくあてはまらない	73	3.7%	3.8%
無回答	55	2.8%	—
全 体	1,972	100.0%	100.4%

B 将来の目標がはっきりしている

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,920
とてもあてはまる	450	22.8%	23.6%
まああてはまる	582	29.5%	30.5%
あまりあてはまらない	581	29.5%	30.4%
まったくあてはまらない	307	15.6%	16.1%
無回答	52	2.6%	—
全 体	1,972	100.0%	100.5%

C 自分は価値のある人間だと思う

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,886
とてもあてはまる	293	14.9%	15.3%
まああてはまる	742	37.6%	38.8%
あまりあてはまらない	589	29.9%	30.8%
まったくあてはまらない	262	13.3%	13.7%
無回答	86	4.4%	—
全 体	1,972	100.0%	98.6%

(11) あなたは、これまでに、病気やケガ以外の理由で、学校を1年の間に30日以上休んだこと（不登校であったこと）はありますか。ある場合には、どの学校・学年の時にそうであったかについても教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,797
ない	1,285	65.2%	71.5%
小学校の1・2年生のとき	88	4.5%	4.9%
小学校の3・4年生のとき	147	7.5%	8.2%
小学校の5・6年生のとき	193	9.8%	10.7%
中学校の1年生のとき	185	9.4%	10.3%
中学校の2年生のとき	211	10.7%	11.7%
中学校の3年生のとき	160	8.1%	8.9%
高等学校のとき	66	3.3%	3.7%
その他	0	0.0%	0.0%
無回答	175	8.9%	—

あなたのふだんの食事のことや生活習慣、健康のことについて教えてください。

(12) あなたは、次のことをどれくらいしていますか。（それぞれあてはまる番号1つに○）

A 毎日朝ごはんを食べる

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,952
している	1,210	61.4%	62.0%
どちらかといえば、している	334	16.9%	17.1%
あまりしていない	248	12.6%	12.7%
していない	160	8.1%	8.2%
無回答	20	1.0%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

B 毎日歯をみがく

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,942
している	1,300	65.9%	66.9%
どちらかといえば、している	376	19.1%	19.4%
あまりしていない	197	10.0%	10.1%
していない	69	3.5%	3.6%
無回答	30	1.5%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

C 毎日お風呂に入る

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,941
している	1,407	71.3%	72.5%
どちらかといえば、している	379	19.2%	19.5%
あまりしていない	118	6.0%	6.1%
していない	37	1.9%	1.9%
無回答	31	1.6%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(13) あなたは、毎日の生活のなかで、下を書いてあることがどれくらいありますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

A 夕食をひとりで食べる

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,944
よくある	142	7.2%	7.3%
ときどきある	299	15.2%	15.4%
あまりない	392	19.9%	20.2%
まったくない	1,111	56.3%	57.2%
無回答	28	1.4%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

B 夕食を食べない

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,860
よくある	27	1.4%	1.5%
ときどきある	127	6.4%	6.8%
あまりない	217	11.0%	11.7%
まったくない	1,489	75.5%	80.1%
無回答	112	5.7%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(14) あなたは、給食以外で、次の食べ物をふだんどれくらい食べますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

A 野菜

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,927
ほぼ毎日食べる	943	47.8%	48.9%
1週間に4～5日	426	21.6%	22.1%
1週間に2～3日	412	20.9%	21.4%
1週間に1日以下	99	5.0%	5.1%
食べない	47	2.4%	2.4%
無回答	45	2.3%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

B 肉か魚

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,933
ほぼ毎日食べる	1,130	57.3%	58.5%
1週間に4～5日	473	24.0%	24.5%
1週間に2～3日	276	14.0%	14.3%
1週間に1日以下	47	2.4%	2.4%
食べない	7	0.4%	0.4%
無回答	39	2.0%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

C コンビニのおにぎり・お弁当

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,926
ほぼ毎日食べる	77	3.9%	4.0%
1週間に4～5日	95	4.8%	4.9%
1週間に2～3日	298	15.1%	15.5%
1週間に1日以下	955	48.4%	49.6%
食べない	501	25.4%	26.0%
無回答	46	2.3%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(15) あなたのいまの健康状態はいかがですか。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,938
よい	927	47.0%	47.8%
まあよい	419	21.2%	21.6%
ふつう	423	21.5%	21.8%
あまりよくない	134	6.8%	6.9%
よくない	35	1.8%	1.8%
無回答	34	1.7%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(16) あなたはいま、虫歯がおおよそ何本くらいありますか。(数字で回答) ※治療中のものは数えて、治療が終わっているものは数えないでください。※ない場合は「0本」と書いてください。

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,767
0本	1,254	63.6%	71.0%
1本	133	6.7%	7.5%
2本	165	8.4%	9.3%
3本	97	4.9%	5.5%
4本以上	118	6.0%	6.7%
無回答	205	10.4%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

	n=1,767
平均値	0.8本
中央値	0本
最頻値	0本
標準偏差	1.65
最小値	0本
最大値	12本

あなたのふだんの生活の状況について教えてください。

(17) あなたには、自分が使うことができる、以下のものがありますか。ある場合は「1ある」に○をつけてください。ない場合には、それがほしいものであれば「2ほしい」、いらなと思うものであれば「3ほしくない」に○をつけてください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

A 自分だけの本(学校の教科書やマンガはのぞく)

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,916
ある	1,224	62.1%	63.2%
ない(ほしい)	287	14.6%	14.8%
ない(ほしくない)	405	20.5%	20.9%
無回答	56	2.8%	—
全 体	1,972	100.0%	98.9%

B 子ども部屋（きょうだいと使っている場合を含む）

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,924
ある	1,147	58.2%	59.6%
ない（ほしい）	620	31.4%	32.2%
ない（ほしくない）	157	8.0%	8.2%
無回答	48	2.4%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

C 自宅で勉強をすることができる場所

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,925
ある	1,413	71.7%	73.4%
ない（ほしい）	371	18.8%	19.3%
ない（ほしくない）	141	7.2%	7.3%
無回答	47	2.4%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

D 自分専用の勉強机

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,927
ある	1,073	54.4%	55.7%
ない（ほしい）	505	25.6%	26.2%
ない（ほしくない）	349	17.7%	18.1%
無回答	45	2.3%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(18) 保護者の方（お母さんやお父さん、おばあさんやおじいさんなど）について、下に書いてあることはどれくらいあてはまりますか。（それぞれあてはまる番号1つに○）

A やりたいことを応援してくれる

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,930
とてもあてはまる	982	49.8%	50.9%
まああてはまる	793	40.2%	41.1%
あまりあてはまらない	108	5.5%	5.6%
まったくあてはまらない	47	2.4%	2.4%
無回答	42	2.1%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

B 失敗した時にはげましてくれる

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,927
とてもあてはまる	845	42.8%	43.9%
まああてはまる	785	39.8%	40.7%
あまりあてはまらない	215	10.9%	11.2%
まったくあてはまらない	82	4.2%	4.3%
無回答	45	2.3%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

C 勉強のやり方を教えてくれる

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,926
とてもあてはまる	459	23.3%	23.8%
まああてはまる	607	30.8%	31.5%
あまりあてはまらない	492	24.9%	25.5%
まったくあてはまらない	368	18.7%	19.1%
無回答	46	2.3%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(19) あなたのまわりには、家族以外で、次のような大人はいますか。（あてはまる番号にすべて○）

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,926
気軽に相談できる人	809	41.0%	42.0%
尊敬できる人	571	29.0%	29.6%
自分のことを大切にしてくれる人	870	44.1%	45.2%
勉強をわかりやすく教えてくれる人	648	32.9%	33.6%
将来のことを一緒に考えてくれる人	541	27.4%	28.1%
特にいない	564	28.6%	29.3%
無回答	46	2.3%	—

(20) あなたが最もほっとできる場所は次の中のどこですか。（あてはまる番号1つに○）

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,750
家	1,497	75.9%	85.5%
学校	92	4.7%	5.3%
職場、アルバイト先	3	0.2%	0.2%
塾や習い事	6	0.3%	0.3%
図書館や児童館など	30	1.5%	1.7%
その他	30	1.5%	1.7%
ほっとできる場所はない	92	4.7%	5.3%
無回答	222	11.3%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(21) あなたが普段起きる時間と寝る時間を教えてください。（数字で回答）

A 起きる時間（平日）

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,866
0時台	0	0.0%	0.0%
1時台	0	0.0%	0.0%
2時台	0	0.0%	0.0%
3時台	1	0.1%	0.1%
4時台	10	0.5%	0.5%
5時台	122	6.2%	6.5%
6時台	841	42.6%	45.1%
7時台	713	36.2%	38.2%
8時台	86	4.4%	4.6%
9時台	34	1.7%	1.8%
10時台	21	1.1%	1.1%
11時台	15	0.8%	0.8%
12時台	8	0.4%	0.4%
13時台	3	0.2%	0.2%
14時台	5	0.3%	0.3%
15時台	1	0.1%	0.1%
16時台	3	0.2%	0.2%
17時台	0	0.0%	0.0%
18時台	1	0.1%	0.1%
19時台	0	0.0%	0.0%
20時台	1	0.1%	0.1%
21時台	0	0.0%	0.0%
22時台	0	0.0%	0.0%
23時台	1	0.1%	0.1%
無回答	106	5.4%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

B 起きる時間（休日）

	件数	割合	割合
		n=1,972	(除無回答) n=1,835
0時台	0	0.0%	0.0%
1時台	0	0.0%	0.0%
2時台	0	0.0%	0.0%
3時台	2	0.1%	0.1%
4時台	5	0.3%	0.3%
5時台	29	1.5%	1.6%
6時台	136	6.9%	7.4%
7時台	295	15.0%	16.1%
8時台	446	22.6%	24.3%
9時台	378	19.2%	20.6%
10時台	290	14.7%	15.8%
11時台	111	5.6%	6.0%
12時台	98	5.0%	5.3%
13時台	23	1.2%	1.3%
14時台	7	0.4%	0.4%
15時台	8	0.4%	0.4%
16時台	2	0.1%	0.1%
17時台	0	0.0%	0.0%
18時台	2	0.1%	0.1%
19時台	2	0.1%	0.1%
20時台	1	0.1%	0.1%
21時台	0	0.0%	0.0%
22時台	0	0.0%	0.0%
23時台	0	0.0%	0.0%
無回答	137	6.9%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

C 寝る時間（平日）

	件数	割合	割合
		n=1,972	(除無回答) n=1,854
0時台	357	18.1%	19.3%
1時台	94	4.8%	5.1%
2時台	39	2.0%	2.1%
3時台	20	1.0%	1.1%
4時台	2	0.1%	0.1%
5時台	3	0.2%	0.2%
6時台	2	0.1%	0.1%
7時台	2	0.1%	0.1%
8時台	2	0.1%	0.1%
9時台	1	0.1%	0.1%
10時台	0	0.0%	0.0%
11時台	1	0.1%	0.1%
12時台	0	0.0%	0.0%
13時台	0	0.0%	0.0%
14時台	0	0.0%	0.0%
15時台	0	0.0%	0.0%
16時台	0	0.0%	0.0%
17時台	0	0.0%	0.0%
18時台	3	0.2%	0.2%
19時台	4	0.2%	0.2%
20時台	56	2.8%	3.0%
21時台	273	13.8%	14.7%
22時台	492	24.9%	26.5%
23時台	503	25.5%	27.1%
無回答	118	6.0%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

D 寝る時間（休日）

	件数	割合	割合
		n=1,972	(除無回答) n=1,828
0時台	454	23.0%	24.8%
1時台	177	9.0%	9.7%
2時台	118	6.0%	6.5%
3時台	60	3.0%	3.3%
4時台	17	0.9%	0.9%
5時台	9	0.5%	0.5%
6時台	3	0.2%	0.2%
7時台	2	0.1%	0.1%
8時台	4	0.2%	0.2%
9時台	0	0.0%	0.0%
10時台	1	0.1%	0.1%
11時台	0	0.0%	0.0%
12時台	0	0.0%	0.0%
13時台	0	0.0%	0.0%
14時台	0	0.0%	0.0%
15時台	0	0.0%	0.0%
16時台	0	0.0%	0.0%
17時台	0	0.0%	0.0%
18時台	1	0.1%	0.1%
19時台	1	0.1%	0.1%
20時台	21	1.1%	1.1%
21時台	114	5.8%	6.2%
22時台	337	17.1%	18.4%
23時台	509	25.8%	27.8%
無回答	144	7.3%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

あなたの学校生活や勉強のことにについて教えてください。

※働いているなど、現在学校に行っていない方は、(27)にお進みください。

(22) あなたは勉強がどのくらい好きですか。（あてはまる番号1つに○）

	件数	割合	割合
		n=1,913	(除無回答) n=1,746
とても好き	100	5.2%	5.7%
まあ好き	582	30.4%	33.3%
あまり好きではない	692	36.2%	39.6%
まったく好きではない	372	19.4%	21.3%
無回答	167	8.7%	—
全 体	1,913	100.0%	100.0%

(23) あなたは、下を書いてあることがどれくらいあてはまりますか。（それぞれあてはまる番号1つに○）

A 学校の授業がよくわかっている

	件数	割合	割合
		n=1,913	(除無回答) n=1,806
あてはまる	299	15.6%	16.6%
まああてはまる	868	45.4%	48.1%
あまりあてはまらない	458	23.9%	25.4%
まったくあてはまらない	181	9.5%	10.0%
無回答	107	5.6%	—
全 体	1,913	100.0%	100.0%

B 先生との関係がうまくいっている

	件数	割合 n=1,913	割合 (除無回答) n=1,810
あてはまる	571	29.8%	31.5%
まああてはまる	864	45.2%	47.7%
あまりあてはまらない	263	13.7%	14.5%
まったくあてはまらない	112	5.9%	6.2%
無回答	103	5.4%	—
全 体	1,913	100.0%	100.0%

C 友だちとの関係がうまくいっている

	件数	割合 n=1,913	割合 (除無回答) n=1,812
とてもあてはまる	886	46.3%	48.9%
まああてはまる	669	35.0%	36.9%
あまりあてはまらない	166	8.7%	9.2%
まったくあてはまらない	91	4.8%	5.0%
無回答	101	5.3%	—
全 体	1,913	100.0%	100.0%

(24) 学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（あてはまる番号1つに○）※塾等での勉強時間も含めてください。

	件数	割合 n=1,913	割合 (除無回答) n=1,818
まったくしない	425	22.2%	23.4%
30分より少ない	340	17.8%	18.7%
30分以上、1時間より少ない	500	26.1%	27.5%
1時間以上、2時間より少ない	339	17.7%	18.6%
2時間以上、3時間より少ない	134	7.0%	7.4%
3時間以上	80	4.2%	4.4%
無回答	95	5.0%	—
全 体	1,913	100.0%	100.0%

(25) あなたは、クラブ活動・部活動等をしていますか。（あてはまる番号1つに○）

	件数	割合 n=1,913	割合 (除無回答) n=1,796
している（ずっと続けている）	842	44.0%	46.9%
している（最近するようになった）	97	5.1%	5.4%
していたが、最近やめた	163	8.5%	9.1%
していない	626	32.7%	34.9%
その他	68	3.6%	3.8%
無回答	117	6.1%	—
全 体	1,913	100.0%	100.0%

(26) あなたは、将来、どの学校まで行きたいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

	件数	割合 n=1,913	割合 (除無回答) n=1,695
中学校	47	2.5%	2.8%
高等学校	661	34.6%	39.0%
専修学校・各種学校（専門学校など）	299	15.6%	17.6%
高等専門学校	69	3.6%	4.1%
短期大学	53	2.8%	3.1%
大学	491	25.7%	29.0%
大学院	26	1.4%	1.5%
その他	49	2.6%	2.9%
無回答	218	11.4%	—
全 体	1,913	100.0%	100.0%

悩みごとや必要な支援等について教えてください。

(27) あなたは、学習塾以外で、大学生や大人の人が勉強のことなどを教えてくれる場所（学習支援）を利用したことがありますか。利用したことがない場合は、今後利用したいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,895
現在利用している	225	11.4%	11.9%
以前は利用していたが、現在は利用していない	260	13.2%	13.7%
利用したことはないが、今後利用したい	205	10.4%	10.8%
利用したことはなく、利用したいと思わない	649	32.9%	34.2%
わからない	556	28.2%	29.3%
無回答	77	3.9%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(27) で「利用したことはないが、今後利用したい」または「利用したことはなく、利用したいと思わない」と回答した人にお聞きします。

(28) 学習支援を利用していない理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

	件数	割合 n=854	割合 (除無回答) n=747
対象の学年・年齢ではないから	41	4.8%	5.5%
そのような事業があることを知らなかったから	199	23.3%	26.6%
近くにそのような事業がないから	127	14.9%	17.0%
場所が遠く行きづらいから	91	10.7%	12.2%
利用する必要がないから	322	37.7%	43.1%
その他	83	9.7%	11.1%
無回答	107	12.5%	—

(27) で「現在利用している」または「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した人にお聞きします。

(29) その場所（学習支援）を利用し始めたことで、何か変わったことはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

	件数	割合 n=485	割合 (除無回答) n=450
勉強がわかるようになった	196	40.4%	43.6%
家で勉強するようになった	66	13.6%	14.7%
学校を休むことが減った	16	3.3%	3.6%
将来のことを考えるようになった	70	14.4%	15.6%
楽しいと思うことが増えた	79	16.3%	17.6%
色々なことに前向きに取り組むようになった	65	13.4%	14.4%
友だちが増えた	80	16.5%	17.8%
人とよく話すようになった	78	16.1%	17.3%
その他	10	2.1%	2.2%
特に変わったことはない	139	28.7%	30.9%
無回答	35	7.2%	—

(27) で「以前は利用していたが、現在は利用していない」と回答した人にお聞きします。

(30) 現在利用していない理由を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

	件数	割合 n=260	割合 (除無回答) n=222
対象の学年・年齢ではなくなったから	58	22.3%	26.1%
部活や習い事などをするようになったから	42	16.2%	18.9%
自分で勉強するようになったから	30	11.5%	13.5%
あまり意味がなかったから	66	25.4%	29.7%
場所が遠く行きづらかったから	25	9.6%	11.3%
教えてくれる人が苦手だったから	21	8.1%	9.5%
苦手な友だちがいたから	8	3.1%	3.6%
その他	42	16.2%	18.9%
無回答	38	14.6%	—

(31) あなたは、高校や大学などに進学するのにどれくらいお金が必要か知っていますか。(あてはまる番号1つに○) ※すでに卒業・進学等をしている人もお答えください。

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,897
知っている	307	15.6%	16.2%
ある程度知っている	523	26.5%	27.6%
あまり知らない	463	23.5%	24.4%
まったく知らない	604	30.6%	31.8%
無回答	75	3.8%	—
全 体	1,972	100.0%	100.0%

(32) 次のうち、あなたがこれまでに行ったことがある場所や会ったことがある人、見たことがあるものなどはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,883
家の人がいない時、夕ごはんをみんなで食べることができる場所(子ども食堂など)	170	8.6%	9.0%
学校以外で、進路や勉強、仕事、家族のことなど何でも相談ができる場所や相談ができる人	350	17.7%	18.6%
<small>学校以外で、将来必要なお金のことや生活するうえで必要なこと、利用することができる支援制度などを教えてくれる場所や教えてくれる人</small>	217	11.0%	11.5%
<small>将来必要なお金のことや生活するうえで必要なこと、利用することができる支援制度などが書いてある本やパンフレット</small>	253	12.8%	13.4%
特にない	1,223	62.0%	64.9%
無回答	89	4.5%	—

(33) あなたは、いまの生活のことや学校・勉強のこと、仕事のことなどについて、何か望んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,890
勉強をもっとわかりやすく教えてほしい	672	34.1%	35.6%
将来のことや進路のことについてわかりやすく教えてほしい	504	25.6%	26.7%
就職に関する支援を充実してほしい	384	19.5%	20.3%
悩みごとなどを相談できるようにしてほしい	287	14.6%	15.2%
いじめをなくしてほしい	477	24.2%	25.2%
学校のことでお金がかからないようにしてほしい	904	45.8%	47.8%
将来必要なお金のことなどについてもっと教えてほしい	489	24.8%	25.9%
その他	44	2.2%	2.3%
特に望んでいることはない	429	21.8%	22.7%
無回答	82	4.2%	—

(34) あなたが困っていることや悩んでいることがあるときに、相談できる人は誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合 n=1,972	割合 (除無回答) n=1,917
家族	1,492	75.7%	77.8%
親戚(おじさん、おばさん、いとこなど)	247	12.5%	12.9%
学校の先生	488	24.7%	25.5%
塾や習い事の先生	69	3.5%	3.6%
学校の友だち	888	45.0%	46.3%
その他の友だち	271	13.7%	14.1%
その他の人	69	3.5%	3.6%
誰にも相談できない	129	6.5%	6.7%
無回答	55	2.8%	—

③福祉事務所対象のアンケート調査

貴所の事についておうかがいします。

問2 平成30年8月末時点(※北海道は10月末時点)での、貴所の管内における被保護世帯数・被保護人員の情報をお教えください。

①被保護世帯数

	件数	平均値	中央値	最頻値	標準偏差	最小値	最大値
被保護世帯数：全体	996	1,400.20	525	163	2,404.55	1	23,894
被保護世帯数：母子世帯数	997	75.61	19	2	146.54	0	1,933
被保護世帯数：18歳未満の子どもがいる世帯数	946	90.62	27	2	166.52	0	1,791

②被保護人員

	件数	平均値	中央値	最頻値	標準偏差	最小値	最大値
被保護人員：全体	989	1,747.32	652	369	2,825.90	1	25,914
被保護人員：0歳～6歳の人数	959	38.96	11	0	75.42	0	908
被保護人員：7歳～9歳の人数	957	28.32	8	0	60.95	0	888
被保護人員：10歳～12歳の人数	959	33.59	10	0	67.36	0	901
被保護人員：13歳～15歳の人数	961	37.81	12	0	71.83	0	914
被保護人員：16歳～18歳の人数	961	35.99	10	0	76.25	0	1,119

問3 貴所と保健所・保健センターとの関係性について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=1,009	割合 (除無回答) n=1,001
福祉事務所と保健所・保健センターとが統合されて設置されている	171	16.9%	17.1%
同じ建物・フロアに設置されているが組織としては別である	116	11.5%	11.6%
別に設置されている	664	65.8%	66.3%
その他	50	5.0%	5.0%
無回答	8	0.8%	—
全 体	1,009	100.0%	100.0%

支援体制、支援の内容についておうかがいします

問4 貴所には、現業を行う所員(ケースワーカー)のほかに、生活保護世帯の子どもの支援にかかる専門的な役割を担う職員などが配置されていますか。(あてはまる番号1つに○)

	件数	割合 n=1,009	割合 (除無回答) n=1,005
配置されている	235	23.3%	23.4%
配置されているわけではないがケースワーカーの中に子どもの支援を専門的に行う者がいる	5	0.5%	0.5%
その他	60	5.9%	6.0%
特段配置されていない	705	69.9%	70.1%
無回答	4	0.4%	—
全 体	1,009	100.0%	100.0%

問5 生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、どのような組織・機関等と連携をしていますか。(あてはまる番号すべてに○)

	件数	割合	割合
		n=1,009	(除無回答) n=1,000
保育所	438	43.4%	43.8%
幼稚園	248	24.6%	24.8%
小学校	671	66.5%	67.1%
中学校	661	65.5%	66.1%
高等学校	428	42.4%	42.8%
大学等高等教育機関	21	2.1%	2.1%
教育委員会	645	63.9%	64.5%
児童家庭支援センター	241	23.9%	24.1%
児童相談所	703	69.7%	70.3%
乳児院・児童養護施設	148	14.7%	14.8%
保健所・保健センター	541	53.6%	54.1%
精神保健福祉センター	83	8.2%	8.3%
障害者更生相談所	62	6.1%	6.2%
発達障害者支援センター	115	11.4%	11.5%
ハローワーク	206	20.4%	20.6%
医療機関	439	43.5%	43.9%
司法・警察関係機関	185	18.3%	18.5%
民生・児童委員、主任児童委員	498	49.4%	49.8%
社会福祉協議会	375	37.2%	37.5%
ボランティア団体・民間団体	86	8.5%	8.6%
民間企業	17	1.7%	1.7%
その他	168	16.7%	16.8%
特に連携はしていない	53	5.3%	5.3%
無回答	9	0.9%	—

問6 貴所における生活保護世帯の子どもに対する支援体制等について、以下のようなことがどの程度当てはまりますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

【件数】

	あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	合計
ケースワーカーに対する子どもの発達等に関する研修を定期的に行っている	11	53	259	679	7	1,009
子どもの成長段階に合わせた支援項目等の情報を整理している	59	232	335	377	6	1,009
進学・入試や就職等に関する最新の情報を職員間で共有している	198	433	244	127	7	1,009
世帯に課題等が生じた場合に、査察指導員への相談やケース診断会議開催等、組織的に対応している	722	258	13	10	6	1,009
ケース診断会議のほか、関係機関も参加する事例検討会等を定期的に行っている（または、参加している）	273	342	229	157	8	1,009
その他、関係機関との連携を強化しようとしている	199	523	205	67	15	1,009

【割合】

	あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	合計
ケースワーカーに対する子どもの発達等に関する研修を定期的に行っている	1.1%	5.3%	25.7%	67.3%	0.7%	100.0%
子どもの成長段階に合わせた支援項目等の情報を整理している	5.8%	23.0%	33.2%	37.4%	0.6%	100.0%
進学・入試や就職等に関する最新の情報を職員間で共有している	19.6%	42.9%	24.2%	12.6%	0.7%	100.0%
世帯に課題等が生じた場合に、査察指導員への相談やケース診断会議開催等、組織的に対応している	71.6%	25.6%	1.3%	1.0%	0.6%	100.0%
ケース診断会議のほか、関係機関も参加する事例検討会等を定期的に行っている（または、参加している）	27.1%	33.9%	22.7%	15.6%	0.8%	100.0%
その他、関係機関との連携を強化しようとしている	19.7%	51.8%	20.3%	6.6%	1.5%	100.0%

【割合（除無回答）】

	あてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	合計	n
ケースワーカーに対する子どもの発達等に関する研修を定期的に行っている	1.1%	5.3%	25.8%	67.8%	100.0%	1,002
子どもの成長段階に合わせた支援項目等の情報を整理している	5.9%	23.1%	33.4%	37.6%	100.0%	1,003
進学・入試や就職等に関する最新の情報を職員間で共有している	19.8%	43.2%	24.4%	12.7%	100.0%	1,002
世帯に課題等が生じた場合に、査察指導員への相談やケース診断会議開催等、組織的に対応している	72.0%	25.7%	1.3%	1.0%	100.0%	1,003
ケース診断会議のほか、関係機関も参加する事例検討会等を定期的に行っている（または、参加している）	27.3%	34.2%	22.9%	15.7%	100.0%	1,001
その他、関係機関との連携を強化しようとしている	20.0%	52.6%	20.6%	6.7%	100.0%	994

問7 貴所では、生活保護世帯の子どもに対する支援を行うにあたり、以下のような取組を行っていますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

【件数】

	貴所が企画・運営主体であり、貴所の職員が行っている	貴所が企画・運営主体となり、他機関に委託している	他部署が企画・運営している取組を、連携して行っている	行っていないが、実施に向けた検討・準備等が進められている	組織的な取組としては行っていない	無回答	合計
子どもや保護者向けに特化した、各制度の説明資料（しおり）等を作成している	142	12	220	38	580	17	1,009
実態等把握のため、生活保護世帯の子どもや保護者を対象に独自のアンケート調査等を実施している	46	7	52	9	878	17	1,009
栄養・食に関する支援を、プログラムを作成して行っている	28	18	105	8	833	17	1,009
保健衛生・健康管理等の支援を、プログラムを作成して行っている	78	9	157	21	729	15	1,009
虐待・ネグレクト防止のための支援を、プログラムを作成して行っている	70	3	270	15	635	16	1,009
福祉事務所として親子教室等の開催を行っている	51	8	93	6	835	16	1,009
保育所・幼稚園等への入園・通園に関する支援を、プログラムを作成して行っている	54	1	135	11	791	17	1,009
子どもの基本的な生活習慣の形成に関する支援を、プログラムを作成して行っている	39	17	102	15	818	18	1,009
福祉事務所として子どもの遊びや体験活動等の機会を提供する事業を行っている	50	44	90	8	795	22	1,009
小・中学校に入学するときの支援を、プログラムを作成して行っている	47	3	111	11	819	18	1,009
福祉事務所として学習支援・居場所づくりの事業を行っている	138	256	213	39	348	15	1,009
不登校の子どもに対する支援を、プログラムを作成して行っている	52	40	217	16	666	18	1,009
高等学校進学のための支援を、プログラムを作成して行っている	177	62	94	23	636	17	1,009
高等学校等中退防止のための支援を、プログラムを作成して行っている	65	50	60	17	802	15	1,009
高等学校等を中退した者に対する支援を、プログラムを作成して行っている	57	42	40	26	829	15	1,009
大学等の高等教育機関進学のための支援を、プログラムを作成して行っている	57	23	38	28	848	15	1,009
引きこもりの状態にある者に対する支援を、プログラムを作成して行っている	54	60	152	30	695	18	1,009
金銭管理等の支援を、プログラムを作成して行っている	53	55	192	31	663	15	1,009
非行防止や更生のための支援を、プログラムを作成して行っている	14	1	92	8	879	15	1,009

【割合】

	貴所が企画・運営主体であり、貴所の職員が行っている	貴所が企画・運営主体となり、他機関に委託している	他部署が企画・運営している取組を、連携して行っている	行っていないが、実施に向けた検討・準備等が進められている	組織的な取組としては行っていない	無回答	合計
子どもや保護者向けに特化した、各制度の説明資料（しおり）等を作成している	14.1%	1.2%	21.8%	3.8%	57.5%	1.7%	100.0%
実態等把握のため、生活保護世帯の子どもや保護者を対象に独自のアンケート調査等を実施している	4.6%	0.7%	5.2%	0.9%	87.0%	1.7%	100.0%
栄養・食に関する支援を、プログラムを作成して行っている	2.8%	1.8%	10.4%	0.8%	82.6%	1.7%	100.0%
保健衛生・健康管理等の支援を、プログラムを作成して行っている	7.7%	0.9%	15.6%	2.1%	72.2%	1.5%	100.0%
虐待・ネグレクト防止のための支援を、プログラムを作成して行っている	6.9%	0.3%	26.8%	1.5%	62.9%	1.6%	100.0%
福祉事務所として親子教室等の開催を行っている	5.1%	0.8%	9.2%	0.6%	82.8%	1.6%	100.0%
保育所・幼稚園等への入園・通園に関する支援を、プログラムを作成して行っている	5.4%	0.1%	13.4%	1.1%	78.4%	1.7%	100.0%
子どもの基本的生活習慣の形成等に関する支援を、プログラムを作成して行っている	3.9%	1.7%	10.1%	1.5%	81.1%	1.8%	100.0%
福祉事務所として子どもの遊びや体験活動等の機会を提供する事業を行っている	5.0%	4.4%	8.9%	0.8%	78.8%	2.2%	100.0%
小・中学校に入学するときの支援を、プログラムを作成して行っている	4.7%	0.3%	11.0%	1.1%	81.2%	1.8%	100.0%
福祉事務所として学習支援・居場所づくりの事業を行っている	13.7%	25.4%	21.1%	3.9%	34.5%	1.5%	100.0%
不登校の子どもに対する支援を、プログラムを作成して行っている	5.2%	4.0%	21.5%	1.6%	66.0%	1.8%	100.0%
高等学校進学のための支援を、プログラムを作成して行っている	17.5%	6.1%	9.3%	2.3%	63.0%	1.7%	100.0%
高等学校等中退防止のための支援を、プログラムを作成して行っている	6.4%	5.0%	5.9%	1.7%	79.5%	1.5%	100.0%
高等学校等を中退した者に対する支援を、プログラムを作成して行っている	5.6%	4.2%	4.0%	2.6%	82.2%	1.5%	100.0%
大学等の高等教育機関進学のための支援を、プログラムを作成して行っている	5.6%	2.3%	3.8%	2.8%	84.0%	1.5%	100.0%
引きこもりの状態にある者に対する支援を、プログラムを作成して行っている	5.4%	5.9%	15.1%	3.0%	68.9%	1.8%	100.0%
金銭管理等の支援を、プログラムを作成して行っている	5.3%	5.5%	19.0%	3.1%	65.7%	1.5%	100.0%
非行防止や更生のための支援を、プログラムを作成して行っている	1.4%	0.1%	9.1%	0.8%	87.1%	1.5%	100.0%

【割合（除無回答）】

	貴所が企画・運営主体であり、貴所の職員が行っている	貴所が企画・運営主体となり、他機関に委託している	他部署が企画・運営している取組を、連携して行っている	行っていないが、実施に向けた検討・準備等が進められている	組織的な取組としては行っていない	合計	n
子どもや保護者向けに特化した、各制度の説明資料（しおり）等を作成している	14.3%	1.2%	22.2%	3.8%	58.5%	100.0%	992
実態等把握のため、生活保護世帯の子どもや保護者を対象に独自のアンケート調査等を実施している	4.6%	0.7%	5.2%	0.9%	88.5%	100.0%	992
栄養・食に関する支援を、プログラムを作成して行っている	2.8%	1.8%	10.6%	0.8%	84.0%	100.0%	992
保健衛生・健康管理等の支援を、プログラムを作成して行っている	7.8%	0.9%	15.8%	2.1%	73.3%	100.0%	994
虐待・ネグレクト防止のための支援を、プログラムを作成して行っている	7.0%	0.3%	27.2%	1.5%	63.9%	100.0%	993
福祉事務所として親子教室等の開催を行っている	5.1%	0.8%	9.4%	0.6%	84.1%	100.0%	993
保育所・幼稚園等への入園・通園に関する支援を、プログラムを作成して行っている	5.4%	0.1%	13.6%	1.1%	79.7%	100.0%	992
子どもの基本的生活習慣の形成等に関する支援を、プログラムを作成して行っている	3.9%	1.7%	10.3%	1.5%	82.5%	100.0%	991
福祉事務所として子どもの遊びや体験活動等の機会を提供する事業を行っている	5.1%	4.5%	9.1%	0.8%	80.5%	100.0%	987
小・中学校に入学するときの支援を、プログラムを作成して行っている	4.7%	0.3%	11.2%	1.1%	82.6%	100.0%	991
福祉事務所として学習支援・居場所づくりの事業を行っている	13.9%	25.8%	21.4%	3.9%	35.0%	100.0%	994
不登校の子どもに対する支援を、プログラムを作成して行っている	5.2%	4.0%	21.9%	1.6%	67.2%	100.0%	991
高等学校進学のための支援を、プログラムを作成して行っている	17.8%	6.3%	9.5%	2.3%	64.1%	100.0%	992
高等学校等中退防止のための支援を、プログラムを作成して行っている	6.5%	5.0%	6.0%	1.7%	80.7%	100.0%	994
高等学校等中退した者に対する支援を、プログラムを作成して行っている	5.7%	4.2%	4.0%	2.6%	83.4%	100.0%	994
大学等の高等教育機関進学のための支援を、プログラムを作成して行っている	5.7%	2.3%	3.8%	2.8%	85.3%	100.0%	994
引きこもりの状態にある者に対する支援を、プログラムを作成して行っている	5.4%	6.1%	15.3%	3.0%	70.1%	100.0%	991
金銭管理等の支援を、プログラムを作成して行っている	5.3%	5.5%	19.3%	3.1%	66.7%	100.0%	994
非行防止や更生のための支援を、プログラムを作成して行っている	1.4%	0.1%	9.3%	0.8%	88.4%	100.0%	994

課題認識等についておうかがいします

問9 生活保護世帯の子どもに対する支援を行う上で、特に課題になっていることはありますか。(あてはまる番号上位3つまで○)

	件数		割合	
			n=1,009	割合 (除無回答) n=964
保護者との接触、信頼関係づくりが難しい	322		31.9%	33.4%
保護者に障がいや疾患等があり対応が難しい	397		39.3%	41.2%
子どもとの接触が難しい(訪問しても会うことができない、など)	535		53.0%	55.5%
子どもとの信頼関係づくりが難しい	238		23.6%	24.7%
子どもに障がいや疾患等があり対応が難しい	124		12.3%	12.9%
子どもは生活保護を受けていることを知らないことが多く支援がしづらい	157		15.6%	16.3%
ケースワーカー等の職員の子どもの発達についての知識や技術が不足している	183		18.1%	19.0%
ケースワーカー等の職員に時間的余裕がない	416		41.2%	43.2%
支援に用いることができる制度が少ない	69		6.8%	7.2%
個人情報取り扱いの問題から、支援に必要な情報が得られない	17		1.7%	1.8%
関係機関との連携・協力が難しい	90		8.9%	9.3%
その他	31		3.1%	3.2%
特にない	32		3.2%	3.3%
無回答	45		4.5%	—

問10 生活保護世帯の子どもや保護者に対する支援を行うにあたり、今後ケースワーカー等の職員に対する研修の内容として、より充実させる必要があると考えることはありますか。現在の実施状況とあわせてお教えてください。(それぞれ、あてはまる番号すべてに○)

	件数		割合		割合(除無回答)	
	現在実施	今後充実させる必要がある	現在実施	今後充実させる必要がある	現在実施	今後充実させる必要がある
			n=1,009	n=1,009	n=977	n=990
障がいや疾患等に関する研修	199	406	19.7%	40.2%	20.4%	41.0%
対人援助に関する研修	134	317	13.3%	31.4%	13.7%	32.0%
児童福祉に関する研修	143	458	14.2%	45.4%	14.6%	46.3%
支援制度に関する研修	205	472	20.3%	46.8%	21.0%	47.7%
ケースワーカー同士の勉強会・情報交換	417	218	41.3%	21.6%	42.7%	22.0%
他の福祉事務所との勉強会・情報交換	255	196	25.3%	19.4%	26.1%	19.8%
具体のケースについて検討する研修	250	308	24.8%	30.5%	25.6%	31.1%
他機関との連携方法に関する研修	98	298	9.7%	29.5%	10.0%	30.1%
その他の内容の研修	34	16	3.4%	1.6%	3.5%	1.6%
特にない	263	45	26.1%	4.5%	26.9%	4.5%
無回答	32	19	3.2%	1.9%	—	—

(3) ヒアリングノート

自治体名	埼玉県
1. 取組内容	
<p>① 取組事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 学習の支援だけではなく、生活支援、体験活動、食育等もセットにした学習・生活支援事業である「ジュニア・アスポート事業」を実施。 <p>② 取組実施の経緯</p> <ul style="list-style-type: none">・ 平成 22 年度、生活保護世帯の高校進学率が一般世帯よりも低いことを受け、貧困の連鎖を断ち切るために、まずは中学生に対する高校進学支援を開始。平成 25 年度から高校中退防止のため、高校生の学習支援を開始。・ 平成 27 年度から生活困窮者自立支援制度内で学習支援事業が始まったことを受け、福祉事務所を設置している市については市が事業を実施。町村については県事業として実施。・ 平成 30 年度から、生活保護世帯を含む困窮世帯の小学校 3 年生から 6 年生を対象とした学習・生活支援事業を開始。モデル事業として、県内 6 か所（7 市町対象）で実施。・ 開催日数は週 3 回、内 2 日は平日の学校がある日の夕方、もう 1 日は土曜日の午後に設定し、特に土曜日は体験活動をメインで実施。 <p>③ 実施体制</p> <ul style="list-style-type: none">・ 事業実施は一般社団法人に委託。受託団体の職員のほか、大学生ボランティアや社会人ボランティアが事業に関わっており、ボランティアの年間登録者数は 800 名近くになる。・ その他、こうした活動に関心を持っている教員 OB、民生委員を初めとした地域の方々との連携等を図っている。 <p>④ 対象者</p> <ul style="list-style-type: none">・ 原則として小学校 3 年生～小学校 6 年生、定員は教室 1 か所につき 30 名。生活保護世帯と困窮世帯を対象としている。 <p>⑤ 対象者の募集方法</p> <ul style="list-style-type: none">・ 生活保護世帯の子どもについては、福祉事務所のケースワーカーが対象世帯に事業説明と声掛けを行い、保護者から了承を得て教室に来てもらっている。・ 教育委員会や児童福祉担当課と連携し、就学援助世帯、児童扶養手当受給世帯などでも支援が必要な世帯にアプローチできるようにしている。	
2. 取組の工夫	
<p>① 取組の内容に関する工夫</p> <ul style="list-style-type: none">・ ジュニア・アスポート事業においては、学習だけではなく「非認知能力」を伸ばすことに着目し、社会で生き抜く力や頑張る力や協調性を高めることに力を入れている。具体的には、生活支援、体験活動、食育等もセットにした授業としている。・ 教室へ週 3 回同じ時間に来て、宿題をし、体験活動をする、といったリズムを作ることも一つの生活支援になっていると考えられる。・ 体験活動では、家庭ではなかなか余力がないために実施できないイベントや季節のお祝いごと等を行っている。昔あそび体験、芋ほり体験、博物館の見学、防災センターの見学、手づくり楽器での演奏、体力づくり、工作、などを実施している。・ 食育では、家庭できちんとした食事をとれていない場合もあるので、バランスのとれた食事をみんなで食べるということが第一である。また、みんなで配膳の準備やお皿洗い、調理の手伝いをするといった経験をしている。・ 学習面の工夫として、前の学年の教材を使うことで、自信をつけてもらっている。また、苦手分野を集中的に学習できるよう、オリジナル教材を支援員が作成し、マンツーマンで指導している。	

② 連携の工夫

- ・ 様々なメニューを実施するため、民生委員をはじめ、農家、子ども食堂、大学生ボランティア（福祉、教育系の学生や栄養系の大学）などと連携している。
- ・ 連携に当たって、受託団体の支援員がコーディネーター役を担っており、県担当者とは、ほぼ毎日、メールや電話にて情報交換を行っている。

③ 食育活動の工夫

- ・ 食材費の予算の確保が難しく、食材を提供してもらう必要があった。報道発表や地域での地道な説明によって、口コミ等で事業の認知度が上がり、支援体制が整いつつある。
- ・ アレルギーについて、保護者へ聞き取り調査を実施し、スタッフで情報共有している。
- ・ 衛生管理については、各教室の責任者に食品衛生責任者養成講習会を受けてもらっている。

3. 取組による変化、取組の課題

① 送迎に関する課題や送迎を行うことの効果

- ・ 人員、予算の制約など、送迎の実施は非常に難しいが、現在受託団体のスタッフが対応している。
- ・ 生活保護世帯は原則として車を持っていないため、小学生対象の事業では送迎が重要になる。また、送迎を行うことの効果として、送迎の際に保護者の方と必ず顔を合わせるようになるため、自然とアウトリーチを実施することができるということが挙げられる。
- ・ 送迎で関わりを持つ中で保護者の生活状況が改善され、子どもにも良い影響を与えた、というケースがあった。

② 子どもに見られた変化

- ・ 参加した子どもの表情が変わってきたり、リーダーシップを発揮するようになったり、野菜が好きになったり、お金の使い方や切符の買い方を学んだり、少しずつコミュニケーション能力が育ったり、と子どもたちの変化が確認されている。

4. 今後の展望や望ましい支援策

① 箇所数の増加

- ・ 教室は市町に1か所ずつ設置しているが、小学生が安全に通えるようにするためには、送迎を充実させる必要がある。この点については、例えば運送業やタクシー業界、社会福祉法人等との連携を模索していきたい。

② 補助金メニューの充実

- ・ 現在学習支援については生活困窮者自立支援制度の中で国庫補助が設定されているが、今後、生活支援の部分がどのようになるか注視している。取り組みやすくなるように補助率や対象経費のあり方も検討していただきたい。

③ 担い手の育成

- ・ 事業を外部の団体に委託して実施することになるが、必ずしも事業を実施できる団体が多くあるわけではない。今後事業を担う人材の育成や事業に協力いただける企業の開拓も視野に入れていく必要がある。

④ 事業の周知

- ・ 一般的には、子どもの貧困の認知度は高くない。相対的貧困の状態にある子どもの存在自体、知らないというのが現状である。地域の子どもの地域社会で支えるという意識を高めていくことが必要と考えている。

1. 取組内容

① 取組事業

- ・ 年間スケジュールを定めた計画的な家庭訪問と現認を実施している。
- ・ 4～6月：年度1回目の全世帯を対象とした家庭訪問を実施。この段階で対象世帯に対し90%近い訪問をしている。
- ・ 6月：就学継続支援プログラムに基づく就学状況の確認と、中学3年生と高校3年生の進路希望調査を実施。
- ・ 夏季休業前：小学校1～4年生のうち、学校が学力と家庭環境に課題があると判断した一部の子どもについて、福祉事務所と学校で情報共有を行う。
- ・ 夏季休業中：塾代支援などのカラーチラシを作成し、子どもに直接説明しながら配付するとともに現認を実施。夏季休業中の家庭訪問の目的は、世帯支援に加えて虐待の早期発見・防止も含んでいる。この段階で、80%近くの子どもの現認している。
- ・ 夏季休業後：夏の訪問状況を受け、学校へ情報のフィードバックを行う。
- ・ 12月：中学3年生と高校3年生の進路希望調査を実施
- ・ 3月：就学継続支援プログラムに基づく就学状況の確認。

② 取組実施の経緯

- ・ 過去に足立区で、虐待により子どもが死亡した事件が発生した。この事件をうけて、子どもに早めに会うようにしなければならないという議論が起こった。
- ・ 「子どもの貧困」が注目を集めるようになり、また、平成28年には児童虐待防止法に基づいて死亡事故に関する報告書が出され、東京都からは「生活困窮世帯については、虐待リスクがあることを前提として、子どもを現認すること」という通知がなされ、現在の現認体制へとつながった。

③ 実施体制

- ・ ケースワーカーは全体で約200名。地域別の編成ではなく、高齢者世帯を対象としたケースワーカーと、それ以外の世帯を対象としたケースワーカーで分けている。高齢者世帯を対象としたケースワーカーは1名あたり120～140世帯を担当し、それ以外の世帯については、ケースワーカー1名あたり60～70世帯を担当している。
- ・ 学校・教育委員会と連携することで、学力と家庭環境の両方に課題があると思われる一部の子どもの情報共有を強化している。

④ 対象者

- ・ 被保護世帯約18,000世帯の約2,500人の子どもを対象として現認に取り組んでいる。
- ・ 小学校1年生～4年生は、学力と家庭環境の両方について、学校と連携して情報共有を図っている。

2. 取組の工夫

① 共通コミュニケーションツールとしてのカラーチラシ

- ・ チラシが職員と子どもの共通のコミュニケーションツールとなり、子どもの支援に不慣れな職員でも子どもと会話をする障壁を下げることにもなっている。
- ・ カラーチラシの内容は、学習支援と高校生の収入認定除外、子どもの支援などであるが、ケースワーカーの名前と係と直通番号を書いたカードも付属している。
- ・ チラシに基づいて、高校生が直接事務所へ訪問して来て、塾代の支援申請をするなどの反応も起きている。

② 36項目のチェックシートによるデータ収集と分析

- ・ チェックシートを活用して世帯の状況把握を行っている。目的として、データを収集して分析をすることを通じて新しいプログラム作成に生かすこと、職員間の引継ぎや情報共有を円滑にすること、子ども台帳のような形で情報を整理し、ケースワーカーが変わっても継続的に支援ができるような仕組みづく

りをする事、などが挙げられる。

- ・ 学校との連携の結果、課題があるとされた子と、そうではない子に分けて比較を行うと、課題があるとされた子どもは、ネガティブな項目にチェックが多い傾向が把握できる。

③ 学校との双方向型コミュニケーション

- ・ 教育委員会から、学校と福祉事務所が連携して情報共有することが効果的であるとの提案を受けた。
- ・ 夏の訪問前には、校長・SSWなどと情報共有を図った上で訪問を実施している。
- ・ 学校で見せる顔と福祉へ見せる顔とは異なることがある。こちらは課題があると思っていたが学校では認識がされていないなど、立場で得ている情報が違うところを共有できる。

3. 取組による変化、取組の課題

① 組織的な対応を進めたことによる効果

- ・ 保護者や子どもと関係が作りたければやり方がわからないケースワーカーがすごく多かった中で、少しずつこうやったらいいんだよというのを示し、その実績によりデータを検証していくという作業が進められるようになってきている。
- ・ ケースワーカーも今までは長くいた方、知識だけでどうにかやってきた方がすごく多かったが、組織として全体をカバーしていくという作業が少しずつ根付いてきている。

② データに基づく効果の見える化に関する課題

- ・ ひとり親家庭が支援の対象として多いが、多くの場合、お子さんが子どもから大人になるまで、生保・福祉事務所としてずっと関わることができる。そのため、チェックリストの項目を基に長期分析が可能であると考えられるが、長期間見ないと結果がわからないこともあり、活用の仕方は今後課題となっている。
- ・ 36項目のチェックリストのうち、滞納がなくなったなどの客観的に把握可能な項目であればよいが、ケースワーカーの見立てによりチェックをする項目もあるので、そのような点でも評価に結び付けていくのが難しいこともある。

4. 今後の展望や望ましい支援策

① 世帯を丸ごと早い段階から支援する

- ・ 子どもだけをどう支援するか、子どもの学力をどうするのかというのでは、貧困の連鎖に対する解決策としては限度があるということが、現場の福祉事務所の職員としては見えてきており、保護者も含めた世帯を丸ごと支援するためのプログラムが必要になってきている。
- ・ より継続した支援が家庭で行われるように、中学・高校前の小さい時であったり、課題が小さい時、親御さんもまだ理解がある内に、支援に入って行く必要がある。

② セグメント別の支援の展開

- ・ 階層的に分けて、子ども全部ではなくて、子どもの内でもこういう子どもにはこういう事業、こういう子どもにはこういう事業と重層的にやっていく必要がある。塾代は全世帯・全子ども向けのマスの政策が必要だが、その塾に行けない子どもの学習支援は次の層として必要になる。そして、そもそも家を出られない子どもの学習整備も必要になる。
- ・ 重層的にいろいろな子どもが漏れなく網目で救えるようにするべきである。既に実施されているマスの政策に加えて、小さい層や少ないボリュームのところ、10人とか5人とかでもターゲットにして、網羅的な事業を展開して漏れなく実施する。そこへどう資源とリソース、人と金をどう分配していくかというところが課題となってくる。

③ ケースワーカーの量と質の確保

- ・ 個々の世帯に密着して、課題の把握・解決策の検討や実施、というきめ細かな支援が必要であるが、ケースワーカーの量・質の両面が必要である。

1. 取組内容

【支援員による実態調査】

① 取組事業

- 生活保護世帯の子どもの実態把握を目的として支援員を配置。
- 生活保護世帯の子ども全員のリストを学校別に作成し、小中学校の協力のもとで、11 項目のチェックリストに基づき学校訪問調査を行う。チェック項目には、例えば、登校状況、不登校の有無、発達障がいの有無、などがある。
- 次に家庭訪問による調査を実施。家庭からの同意書をもらったうえで、子どもの置かれている環境について確認。調査の際は、聞き取り票を基に、例えば、親子間の関係はどうなっているのか、ネグレクト等虐待の可能性はあるのか、子どもの生活リズム等を中心に聞き取りを行っている。
- 学校訪問と家庭訪問で得た情報を基に、検討票を作成し、検討会議にて課題の整理・原因の分析・支援方針などを協議している。その際、子どもたちをA（要支援）、B（見守り）、C（必要時のみ支援）、支援対象外の4段階で評価。

② 取組実施の経緯

- 生活保護世帯の高校進学率が低いという状況の中、子どもたちが健全に育成され、能力に応じた適切な進路にむかえるよう、現在の支援員による取組はスタートした。

③ 実施体制

- 那覇市保護管理課に8名の子ども自立支援員、5名の児童自立支援員、計13名を配置している。
- 支援員の採用にあたっては、心理系、教育系、福祉系いずれかの資格を有していることという条件を設けている。
- 準要保護世帯や将来貧困に陥る可能性のある子どもたちの支援について、教育委員会・教育相談課に在籍している寄添支援員が対応を行っており、支援員同士も連携を行っている。

④ 対象者

- 主に生活保護世帯の小学生、中学生、高校生（概ね18歳まで）を対象としている。

【子どもの居場所事業】

① 取組事業

- 1つ目は、学習支援と居場所を必要としている生活困窮世帯（生活保護世帯を含む）の中学生を対象とした「居場所型学習支援事業」。
- 2つ目は学習以前のひきこもりや不登校の生活困窮世帯（生活保護世帯を含む）の子ども（概ね18歳まで）を対象とした「子どもの包括的自立促進支援事業」を実施。
- 3つ目は、「公共施設管理団体等が実施する子どもの居場所運営事業」。児童館や母子自立支援施設等でひとり親世帯の子どもを預かり、居場所・養育支援等を提供。
- 4つ目は、NPO法人などの支援団体が独自に実施している居場所づくりへの補助事業。
- 5つ目は、教育委員会で実施されている生活困窮世帯の不登校の小中学生を対象に、様々な体験活動や学習支援を行っている。

② 取組実施の経緯

- 学習以前の課題を抱えており「居場所型学習支援事業」だけでは、定着やつなぎきれない子どもたちがいる現状がある。そのため「子どもの包括的自立促進支援事業」を立ち上げたという経緯がある。

③ 実施体制

- 教育委員会では直営で居場所づくり事業を実施。保護管理課における4つの居場所事業は、いずれも外部事業者へ委託又は補助事業で実施。

2. 取組の工夫

【支援員による実態把握】

- 支援員同士の情報共有
- 13名の支援員全員が集まる定例会議を週1回実施している。支援員同士の交流を活発化させるとともに、支援員の心身の負荷は大きいため、支援員のメンタル面のケアにもなっている。
- 支援員の多様性の確保
 - ・ 性格や得意なもの、それまでの経験などの観点から、多様な支援員がいると、子どもとのコミュニケーションが円滑になる。例えば、ゲーム依存の子どもに対してはゲーム用語に詳しい支援員がいると話がしやすいし、ファッションに興味がある女の子に対してはネイルが得意な支援員がいることにより話のきっかけを作りやすくなる。
- 特定の支援員が信頼を獲得するのではなく「大人」が信頼されることを目指す
- 担当者は2～3年で交代。交代により問題が生じることは無い。特定の支援員が信頼を得るのではなく「大人」が信頼されることが重要であり、それを目指している。

【子どもの居場所事業】

- 対人関係、不登校、養護の問題など複雑に課題を抱えていることが多いため、「子どもの包括的自立支援事業」では子どもが安心して過ごせる場所を提供。また、社会福祉士や精神保健福祉士などの専門性をもつスタッフを配置している。
- 「子どもの包括的自立支援事業」では、子どもたちの「つぶやき」を拾うことを重視している。例えば、テレビゲームでボウリングの対決をやっていた時、ある子どもが「ボウリング場に行ったことがない」とつぶやいたことがあったので、聞いてみると子どもたち全員がボウリング場に行ったことがないことがわかった。それを受けて、皆でボウリング場に遊びに行く企画をつくったという具合である。このように子どもたち自身が、自ら発信し、企画・実行を行う機会を大切にしている。
- 「子どもの包括的自立支援事業」では、アウトリーチも実施している。そもそも家から出られない子どももいるので、そのような子達の送迎も実施している。
- 「居場所型学習支援事業」は月曜日から金曜日まで毎日実施しており、学習支援と食事の提供はもとより、キャリア教育、仲間作り、生活改善支援などにも力を入れている。
- この取組で元気な子どもたちは、いろいろな方とつながりができ、社会に対して関心をもつようになり、勉強に意欲が出て、学習面も伸びていく。将来の夢を持つことにつながるなどということが見えてきている。

3. 取組による変化・取組の課題

① 情報提供による高校進学率の上昇

- 保護者の中には、高校に進学するとお金がかかるというイメージを抱いており、高校の情報をよく確認しないまま、子どもたちには早く働いて欲しいと考えている方々がいる。そのため支援員が情報を伝えただけで一緒に考えてきたことが、進学率の向上につながっている。

② 多様な団体がもたらす相乗効果

- 子ども食堂ということで立ち上げられた組織も、今ではほとんどが学習支援も実施している。逆に、学習支援ということで立ち上がった組織が、食事の提供をするようになった。お互いに関わりネットワークを作っていく中で、相互に進化をしている。

③ つなぐことが難しい子どもたちへの対応

- 非行傾向のある子どもや精神面での問題を持っている子どもに比べて、「無気力な子ども」をつなげるのが難しい。彼らは特に困っているという意識を持っておらず、何かをしたいわけでもない。話もできるし、関係も築けるのだが、その後どこかをつながりを作って次のステップに進むことが難しい。
- 療育手帳を持ってはいないものの、発達障がいやADHDなどの程度が重い「中間層」の子どもたちが、

現状では制度の隙間にある。福祉の側面が強い学習支援所があると望ましい。

- ・ また、非行系の子どもたちが、居場所へ定着することが難しい。他に興味・関心を引く場所や仲間がいるためなのだが、彼らが定着できるような仕組みづくりが必要だと感じている。沖縄県内に、非行系の子どもたちを支援している NPO 法人もある。そういった取組も参考になる。

4. 今後の展望や望ましい支援策

① 子どもの夜の居場所づくりの拡充

- ・ 「公共施設管理団体等が実施する子どもの居場所運営事業」には、まず子どもたちが落ち着くことができるという効果がある。ちゃんとお風呂に入り、ご飯を食べる、宿題ができるので学校で叱られない。お母さんに対しても仕事が終わった後に子どもがいない中で家事をじっくりできるため、心にゆとりが持てる。その結果、母子ともに落ち着き、余裕をもって互いに向き合えるようになるのが見えてきている。可能であればこういった事業を広げられないかと議論している。

② 小学校区単位での居場所数の確保

- ・ 小学生に関しては、徒歩で行かれる範囲内に居場所が必要だと思っている。そのため、地域運営委員会を立ち上げて小学校区単位で地域をつなぐべく、子どもの居場所を増やしていこうと取り組んでいる。

1. 取組内容

① 取組事業

- ・ 放課後の教室を利用した生活困窮者への学習支援

② 取組実施の経緯

- ・ 困窮世帯への学習支援が広がりつつある中で、平成 28 年度から学習支援事業の実施について検討を行ってきた。当初は、他の自治体でも実施されているように、公民館などの 1 箇所に、子どもたちに集まってもらう形で開催することを想定していた。
- ・ しかし、検討を進める過程で、困窮世帯以外にも学習支援を必要とする子どもたちがおり、等しく学習機会を与えるべきとの考えに至った。その結果、子どもたちの利便性を考え、放課後の教室を使い教育委員会が主体となって平成 29 年度から実施することとなった。
- ・ 希望者全員を対象とすると、少数のボランティアだけでは対応できなくなるほか学習塾等の民業圧迫につながることから、生活困窮世帯含め塾に通っていない家庭かつ学習習慣が身に付いていない子どもを対象とすることにした。

③ 実施体制

- ・ 放課後の教室を利用しており、平成 29 年度に市内全小学校で 20 校のうち、4 校からスタートした。平成 30 年度は市内 12 校で実施している。
- ・ 基本的な運営は教育委員会が行っている。現場で学習支援を実施するのはボランティアスタッフであり、ボランティアスタッフとの連携は福祉部門が担っている。ボランティアスタッフは、60 代以上の方と大学生などから構成されている。
- ・ 60 代以上のスタッフについては、民生委員や人権擁護委員、ボランティア団体などに周知し募集した。また、各小学校の自治会長の方でご興味のある方がいればご紹介をいただきたいという形で依頼をした。
- ・ 大学生ボランティアについては、近隣の 3 つの大学いずれにも声を掛け、全大学からそれぞれ参加してもらっている。

④ 対象者

- ・ 小学校 5・6 年生を対象としている。小学生低中学年は学童保育の対象になるため、それ以降の学年を対象とした。また、中学生については、学習支援のスタッフをボランティアで対応していることから、専門的な部分を教えることが難しいのではないかと考え、小学生を対象とした。
- ・ 各学校で 20 名程度の規模で、週 1 回、2 時間程度で実施している。

⑤ 対象者の募集方法

- ・ 声掛けは学校に協力をしてもらっている。5 月に家庭訪問があるため、その際に担任の先生が学習の遅れが見られる子どもの家庭など、必要な方にチラシを渡し参加者を募っている。

2. 取組の工夫

① 学習支援事業に対するマイナスイメージの回避

- ・ 学校で実施していることから、「生活困窮世帯への学習支援」を前面に出してはいない。学習習慣が身に付いていない子どもを対象としており、経済的な面での困難があるから、ということにはしていない。学校側の方で声掛けを行ったことから、子どもたちの集まりは非常に良かった。
- ・ 不参加になりがちな子どもの情報を担任の先生、学年主任の先生、教頭先生と共有することで、子どもに対してすばやくフォローをすることもできる。

② 保護者に対するアプローチ

- ・ 教室が終わるのが遅い時間になるため、親が子どもを迎えに来てもらうようにしている。
- ・ そのことが理由で参加できない子どももいるかもしれないが、共働き家庭などでは本当に子どもと接する機会がないので、学習支援に参加する日だけは早く帰って来てもらい、子どもたちとの触れ合いの機

会をつくってもらいたい、という意図もある。

3. 取組による変化・取組の課題

① 学力向上の成果

- ・ 何回か学習支援教室へやってくるうちに、テストでも点数が取れるようになり、子どもとしてはそれがすごく嬉しい。「親にほめられた」、「楽しくやっている」、という声を聞いている。最初は嫌々であったとしても、継続するなかで成果がでるようになっていく。
- ・ 保護者からも学習支援への評価が高かった。参加している子どもたちの学力が上がったという成果があったことでより多くの学校からの協力が得られるという、好循環が見られている。

② 勉強習慣の定着、大人との関わり合い

- ・ ボランティアスタッフからは、「最初はちょっと大変だったけど、この時間は（勉強を）やるんだということがわかってきたよね」、という声を聞いている。
- ・ 家でなかなか持てない時間を過ごせているというのは、その子達にとってはすごく大事、貴重な体験・時間なんだろうと思っている。
- ・ ボランティアに関わってもらえることが、子どもにとっては嬉しいようだ。大人に関わってもらえることが、子どもたちの心に響いている。

③ ボランティアとして参加した学生への好影響

- ・ ボランティアスタッフとして協力いただいた学校関係者から、「(学習支援にボランティアとして) 参加することによって、進路が定まってきた、考え方が変わってきた、など良い影響がありました」という報告を受けた。ボランティアを通じて、先生になりたいと考えるようになった学生もいる。

4. 今後の展望や望ましい支援策

① 学習支援開催の量的増加の課題

- ・ ボランティアの協力によって成り立っているため、開催頻度を増やすことは難しい。また、複数の学校を掛け持ちしているボランティアがいる中、量的な増加を図ることが難しくなっている。

② 子どもから親の問題へ

- ・ 学習支援事業で子どもたちの状況を把握したうえで、そこから家庭における福祉的な課題に対応していくことについては今後の課題となっている。

③ 低学年・未就学段階からの支援

- ・ 低学年からの支援を実施することが望ましいと考えている。学習支援の形では難しい。5年生、6年生では、すでに生活習慣ができ上がっていると感じている。

自治体名	横浜市保土ケ谷区
1. 取組内容	
<p>① 取組事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生・高校生を対象とした学習支援事業を実施。 <p>② 取組実施の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> 10年前に学習支援の事業を保土ケ谷区のケースワーカーが中心となって立ち上げた。 きっかけとして、生活保護を受けている世帯の子どもがなかなか高校に進学していなかったり、進学してもゴールデンウィークを境に通えなくなったりという状況の中、そういった子どもへの支援をしたいという、ケースワーカーの意見を踏まえたものでもあった。 開始当初は中学生のみ、平成 25 年度からは高校生にも対象者を拡大した。また、生活困窮者自立支援制度を契機にして、困窮世帯とひとり親世帯にも拡大した。 <p>③ 実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> NPO 法人に業務委託している。区は連絡会を通して実施状況を把握したり、実際の事業イベントをサポートしている。週に 3 回（水・金・土）、区内に部屋を借りて実施している。 毎年、大学生アシスタントの募集をかけている。教室ではアシスタント 1 人に対して生徒 2 人のバランスで対応している。 <p>④ 対象者の募集方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活保護世帯の子どもについては、年度末に対象の新中 2・中 3 生に向けて教室の案内と申込用紙の手紙を送付する。ケースワーカーが訪問する際にも勧奨し、利用の希望があればつなげるという形をとっている。強制ではないので子ども本人の気持ちや家庭の事情を踏まえながらアプローチする。また要望があれば教育支援専門員などと連携して見学をすることもできるようにしている。 生活困窮世帯については、支援窓口や支援員を通してつなげるようにしている。ひとり親世帯の場合は、こども家庭支援課と連携し、毎年 8 月の児童扶養手当の現況届提出の際に、窓口パンフレットを置いて案内をしている。 	
2. 取組の工夫	
<p>① 取組の内容に関する工夫</p> <p>ア 週 3 回、土曜日にも実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 水・金曜日は夕方 6 時から 8 時で実施。平日は部活で忙しい生徒がいたり、また夜遅くなることが心配だという声があったりしたため、土曜日の 15 時から 17 時にも実施。 <p>イ アシスタント間の情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが帰った後に「今日はこういう感じでした」ということを全体で共有しながら、記録を作成し、子どもに対して統一した対応がとれるようにしている。 アシスタントの学生の入替わりがある中、研修会が実施され、グループワークで先輩・後輩間で意見交換するなどしている。 <p>ウ 多様なニーズに対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学 2・3 年生でも中学 1 年生の問題をやっていたり、子どもによっては宿題をやる時間になっていたりする。学習する習慣を身に付けることを目標にしている子どももいる。また、受験に焦点を当てて、進路相談に乗ったり、模擬面接をやりたいという要望に応えたりしている。 教室が 2 フロアに分かれているが、勉強に集中している階とそうではない階とに自然と雰囲気がかかれていて、子どもの気分に合わせて臨機応変に場所を変えてやっている。 <p>エ 定期的な情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月 1 回、事業を受託している NPO 法人との間で連絡会をしている。メンバーは区の担当者と教育支援専門員で、2 か月に 1 回は事業担当のケースワーカーとこども家庭支援課の担当者も参加し、現場レベルの情報交換をしている。 	

<p>オ 進学支援制度の説明会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月下旬に高校入試説明会を独自に開催している。私立の費用や貸付などについて説明をしている。 <p>カ アシスタントとして関わることを大学で単位認定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アシスタントとして活動することは、大学で単位認定されるようになっている。大学へは毎年度初めに履修ガイダンスで説明に行っている。
<p>3. 取組による変化、取組の課題</p>
<p>① 高校進学・中退防止についての効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来は定時制や通信制に進む子どもが多かったが、最近は全日制に行く子どもが若干増えている。 ・ 高校進学後の子どもに関しては、誰にも相談できないとか行き場がない状況であったことを考えると、区側が何らかのアクションが起こせたり、教室を通して継続して繋がったりできているという点で、少なからず効果がある。 ・ 学校にはなかなか行くことができている子どももいるが、何らかのつながりを求めて来ている子がいて、教室でいろいろな大人と接したり、話をしたりすることで、彼らにとっての居場所としての役割や課題の早期発見につながる役割も果たしている実感がある。 <p>② ロールモデルとしての大学生、多様な機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生を近くで見たことがない子どもが大学生と接して、その人たちが将来こうなっていくんだというモデルを、身近なところで具体的なものをみることができる機会になっている。 ・ 大学生だけでなく、いろいろな子どもがいる中でも同学年や同じような状況にいる子どもをみて、勉強をどういう風に進めればよいのか、将来どう進んでいきたいのかを考える場になっている。 ・ 寄付していただいたお米を教室で炊いてあり、子どもが自分でおにぎりを作ったりして食べている。子ども食堂のような機能も果たしている。 <p>③ 学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の先生が、ケースワーカーに学習支援の教室での子どもの様子を尋ねてきたりする。 ・ 教育支援員が毎年学校を訪問し、毎回事業のアナウンスや聞き取りをしている。区として学校と連携をとっている。 <p>④ 効果測定についての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終的な目的は、生活保護から脱却し将来的に保護を受けなくて済むようにするという、連鎖を断ち切るところにあるため、高校進学という短期的な効果に限らず、長いレンジでみないといけない。 ・ この視点を踏まえて事業を評価する方法を考えなければいけない、という課題がある。
<p>4. 今後の展望や望ましい支援策</p>
<p>① 生活習慣の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習以前の生活を支援しないといけないという意見がある。 ・ 世帯によってバラつきはあるが、学校への送り出しができなかったり、子どもが自分で身だしなみを整えられなかったりすることがある。 <p>② 学習支援へ来られていない子どもへのアウトリーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来られている人はまだ良いが、来られない人にどうアプローチしていくか、課題として残っている。 ・ お金があってもうまく使えなくて困窮したりするパターンもあり、その中に子どもの教育や不登校の問題が潜んでいる場合がある。支援を望めばそのネットワークで支援が可能な状態になっているが、その延長線上にアウトリーチが位置付けられれば、支援の幅が広げられる。 <p>③ 開催場所の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保土ヶ谷区は地理的な特性として南北の移動が難しい。現状区で1か所なので、これを南北それぞれ1か所に増やせれば、生徒たちは通いやすくなると思う。 ・ ただ、場所を増やすとなると人員や実施場所の確保という課題があり、対応が難しい。

1. 取組内容

① 取組事業

ア 高校進学支援プログラム

- ・ 中学 3 年生の子ども全員にケースワーカーが進路希望や状況等についてしっかりと確認をとるというもの。どこの高校に行きたいのかなどから始まり、高校受験に向けてのきめ細かい支援プログラムとなっている。1 年間に 3～4 回、保護者などと情報交換をし、学校の先生との三者面談はどういう状況になっているのかといったことも把握しながら助言し、漏れなく高校に結びつけられるようにしている。

イ 高校生支援プログラム

- ・ 高校生とその保護者に対して、就学評価やアセスメントシートを作成し、高校入学後から卒業までの間、必要な支援を漏れなく確認できるように作成したプログラム。高校生活の定着、中退防止、進学・就職活動の支援等を行うことにより、子どもの社会的自立を促すことを目的としている。

ウ 高校未就学者の支援プログラム

- ・ 中学を卒業した後、高校に進学しなかった子どもの状況を把握したり、高校に進学したはずなのにずっと家にいるというお子さんが中退に向かうのを予防したりすることを目的としたプログラム。

エ 学習支援

- ・ 生活困窮者自立支援制度の中で学習支援事業を実施。低所得者と生活保護世帯を対象にして、委託により実施している。
- ・ 目的は高校進学であり、受験勉強のための学習支援になっている。

オ 小学生向けのプログラム

- ・ 小学校 4 年生以上を対象として学習支援プログラムを作成し、なぜ塾が必要なのか確認をしてから塾代を給付している。塾に通う目的としては、学校の勉強に追いつくというようなものが多い。

② 取組実施の経緯

- ・ 子どもの貧困連鎖問題について、20 年位前に、墨田区で独自に調査を実施した。親の学歴等も調べたところ、生活に困窮する親の多くが最終学歴が中学校であることがわかった。また、経済的に苦しい子どもでは中退が比較的多いことや、進学先が定時制や通信制であったり、経済的に苦しい中で私立に行かざるを得ないケースがあったりすることがあることが明らかになった。
- ・ 日本では、高校を卒業していないとリカバリーが難しくなる。そこで、高校に何とか全員行かせましようというプログラムを作成したのが、現在の高校進学支援プログラムの発端となっている。

③ 実施体制（高校進学支援プログラム）

ア CWの動き方

- ・ 中学 3 年生の子ども全員に高校進学支援プログラムを実施。
- ・ ケースワーカーには、節目・節目に主に保護者に会い、お子さんの状況がどうなのかということを確認するというサイクルがある。
- ・ 4 月～9 月頃の初期段階で希望を聞き、10～11 月の夏休みが終わった時期により具体的な進路の話をし、3 月最後に奨学金や母子福祉資金などの話をする必要があるため、進学先を確認する。

イ 学校の先生との（イン）フォーマルな連携

- ・ 個別に問題があるお子さんについて、学校の先生が困っている状況もあるので、ケースワーカーや子育て支援センター、保健師が一緒になって協働体制をとることについては、学校の先生達も好意的に受け入れてくれている。業務で実施しているのでインフォーマルとまでは言えないが、フォーマルとインフォーマルの中間位のつながりで協働している。

2. 取組の工夫
<p>支援に漏れがないようにプログラムにより対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活保護のケースワーカーは、異動が多く、ノウハウなどが蓄積されにくいという状況にある。 特に若い新人のケースワーカーは、経験を積まないと支援の勘どころが分からないことが多い。ベテランの知識や対応をマニュアル的に学ぶという目的もあり、プログラムによる対応を行い、できるだけ支援に漏れがないようにしている。
3. 取組による変化・取組の課題
<p>① 子どもの状況把握</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム自体は始めたばかりのものもあるため評価はまだ難しいが、従来は子ども本人と会う機会がなかなかなかったなかで、現場のケースワーカーとしては子どもたちの通学・進学状況の把握が少しずつできているという感覚を持つようになってきているのではないかと。 ただ、子どもは昼間学校に行っていることや、生活保護を受けていることを親から聞かされていないこともあるなど、多くの場合子ども本人と会うことは難しい。 <p>② プログラムの改定</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容の見直しや生活保護法の改訂に併せて、プログラムの改定作業が必要になる。現在は、高校生支援プログラムをプロジェクトチームにより改訂を行っている。 運用面の見直しとして、できるだけ高校生自身とケースワーカーが会える機会を見つけて、親からの情報以外のところで、いろいろな制度が使えるんだとか、奨学金の対応とかも含めて話をしていくということを計画的にやろうと動き始めている。 <p>③ アセスメントシートの活用方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> アセスメントシートにより高校未就学者等の把握を網羅的には行いつつあるが、アセスメントシートの記録を作成する作業は、他の様々な業務がある中でケースワーカーの負担になるので、あまり負担にならないできめ細かい対応ができるように検討をしていく必要がある。
4. 今後の展望や望ましい支援策
<p>① 親の養育能力や金銭能力の欠如への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活保護のような金銭給付という選択肢とは別に、バウチャーを使うなどして直接支援を受けられる仕組みがあると望ましい。金銭給付とバウチャーの二段構えで支援することによって、必要な世帯に必要な支援が行き渡るような仕組みがあると良いと考えている。 <p>② 子どもへ直接支援を届けるための他機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活保護は、親にお金を渡す仕組みのため、子どもを直接支援するためには、子育て支援センターなどのような子どもを主軸とした施策とのかかわりを別に作っていく必要性を感じている。

1. 取組内容

【子どもの居場所づくり事業コラッジョ】

① 取組事業

- ・ 高校生活の支援、高校進学の見路相談などを行うことを通じて、中退防止や高校進学を支えることを目的とし、居場所の提供と学習支援事業を実施。
- ・ 不登校によって不足しがちな経験をつむための体験や交流イベントなどを実施している。

② 実施の経緯

- ・ 過去に、ケースワーカーが知らない間に子どもが高校を中退していたというケースがあった。保護者もケースワーカーに子どもの中退を言わないままになっており、事後報告のような形となった。子どもの考えを聞くと、全日制が嫌でクラスで授業を受けるのが苦痛なのだが、勉強は好きだという子だった。
- ・ 事前に子どもの意向を把握できていれば、通信制高校へ転籍できることなどの情報提供も可能であるが、それができず子どもの選択肢を狭めることになった。
- ・ このようなケースを受けて、平成 27 年度から、高校の中退防止を目的として、拠点型の学習支援「子どもの居場所づくり事業コラッジョ」を委託事業として開始した。
- ・ 当初は、中退防止を目的として高校生のみを対象としていたが、より下の学年から支援を開始した方が望ましいという理由から、中学生にも対象を広げていき、現在に至っている。

③ 実施体制

- ・ NPO 法人に委託して実施。県立高校の OB、公立小学校の特別支援学級を担当していた先生、私立高校の先生の計 4 名が対応し、週 3 回で実施している。

④ 対象者

- ・ 生活保護受給世帯と生活困窮世帯の中学生、高校生、若年層の無就学・無就労者。年間で中学生・高校生を合わせて 50 名前後の参加者がいる。

⑤ 対象者の募集方法

- ・ 当初は、ケースワーカーが個別にコラッジョにつなげた方がよいという子どもにチラシを渡していた。
- ・ その後、生活保護世帯の全中学生に一斉にチラシを送ると同時に、年度初めの校長会でもチラシ・案内を配って事業を紹介し、学校側で必要と思う子どもに個別に案内をしていただくことにした。

【子ども支援員によるアウトリーチ機能の強化】

① 取組事業

- ・ 子ども支援員は、中学生で不登校であれば学校への復帰や高校への進学、高校生であればアルバイトや、高校の単位をちゃんと取ること、卒業することなど、子どもたちがそれぞれの自立につながるようなかたちで目標を持ってもらい、それを手助けする、支える、といったことを全体目標としている。
- ・ 子ども一人ひとりに応じた社会資源をコーディネートすることで、子どもが地域から孤立することを防ぐことを目的とし、子どもの話を聞き、様々な人・機関へつなげることをしている。
- ・ 支援内容は基本的に家庭訪問で、通常のケースワーカーだと月 1 回とか 2 か月に 1 回の訪問のところ、子ども支援員は週に少なくとも 1 回訪問する。必要な場合は、週に 3 回訪問するなど、密度を上げて子どもたちに関わっている。
- ・ 子どもだけでなく、保護者の課題にも関わっている。例えば精神的な治療が必要であれば、保護者にも病院を案内するなど、世帯全体を支援している。

② 実施の経緯

- ・ コラッジョに継続して来られない子どもがおり、アウトリーチ機能を持たせないと社会資源に充分につながらないまま離れてしまい、支援が果たせない状態となっていたことに対応しようとしたもの。

③ 実施体制

- ・ 2名体制で、子ども支援員は市の各課・窓口や保健所、児童相談所などと連携して支援している。他にも、学校やスクールソーシャルワーカー、各団体とも積極的につながっている。子ども支援員だけで支援を実施するのではなく、既存の支援体制の輪に加わり、連携をして子どもたちを支えていくという位置付けにある。
- ・ 子ども支援員は1人につき10世帯ほどを対応している。

④ 対象者の募集方法（子ども支援員につながるまでの主な情報の流れ）

<コラッジョから子ども支援員へ>

- ・ コラッジョ側と子ども支援員とでは月1回定例会議があり、子どもの出席状況を共有している。アウトリーチについてはコラッジョの先生方も家庭訪問や電話などの対応をしている。それだけだと来られない子については、子ども支援員に対応を引き継ぐ。

<ケースワーカーから子ども支援員へ>

- ・ ケースワーカーが困っている世帯については、その世帯のケースファイルを子ども支援員と共有し、状況の引継ぎや、関わり方について意見交換を行う。初回の家庭訪問時に子ども支援員がケースワーカーに同行し、今後子ども支援員が関わるという同意を受け取った上でプログラムを開始する。
- ・ その後1か月位かけて子ども支援員が子どもや保護者の話を聞きながら、どういう状態かアセスメントを行う。1か月後位に会議を開き、支援の方向性をすり合わせる支援会議を開催する。その後は、毎週家庭訪問をした報告を书面でもらいながら、状況が変わる際に会議を開くというかたちで、随時必要に応じて情報共有を行いながら進めている。

<スクールソーシャルワーカーから子ども支援員へ>

- ・ 子ども支援員はスクールソーシャルワーカーの会議に参加し、気になっているケースの情報交換をしている。また、学校訪問の際に、スクールソーシャルワーカーの協力のもと、担任の先生や校長から学校の様子を聞いている。
- ・ 宮崎市内に中学校の不登校生徒が約400名弱いるとされており、スクールソーシャルワーカーだけで対応するのは難しいと考えられている。そのため、スクールソーシャルワーカーから、対応して欲しい世帯や子どもの依頼を受けることがある。

2. 取組の工夫

① 様々な連携

- ・ **教育委員会との連携**
 - ・ 「福祉と教育の連携」を大事にしている。相互に持っている情報が伝わりづらい状況があったが、情報共有をすることが大事だということを教育委員会と協議を重ねる中で共通理解を持つことができた。
 - ・ 中学校に行けない子は、適応指導教室に通うことができるが、適応指導教室にも行けない子がいるという問題を教育委員会としても持っていたため、そういう子たちが家から出るための場所として理解を得て、コラッジョを案内してもらうことができています。
- ・ **学校の先生との連携**
 - ・ 学校の先生方は不登校の子どもたちが実際どういうことができるのかを把握する機会が少ない。そこで、コラッジョの先生と市職員とで、コラッジョに来ている子どもたちの学校を訪問し、先生方へ、コラッジョのイベント等を通じて子どもたちがどのような役割を担っているかなど、様子などをお伝えしている。
- ・ **自立相談支援センターとの連携**
 - ・ 生活困窮者相談窓口である「自立相談支援センター」と連携している。塾に行けないけれど勉強したいという子がいればコラッジョを紹介してもらうなどしている。
- ・ **就労準備支援事業の公認心理師との連携**
 - ・ コラッジョと就労準備支援事業は同じ場所で事業を実施しているため、就労準備支援事業の公認心理師

のカウンセラーが常駐している。必要に応じてこの事業につないだり、またカウンセラーから助言を貰ったりしている。

• **その他の連携**

- 子ども支援員はコラッジョを含めて他の学習支援の団体ともつながっている。例えば、大学進学を支援する団体が他にあるが、学力は高いが学校になじめず不登校になった子どもをその団体につなぐなどしている。
- いろいろな団体が主催している研修や、県主催・地域主催の会議に参加し、ネットワークを構築している。

② **子ども支援員の採用について**

- 採用基準は、児童福祉に理解がある方で、福祉関係の資格または教員免許所持者を条件にしている。

3. 取組による変化、取組の課題

① **子ども支援員によるアウトリーチの効果**

- 母子世帯で母親が精神疾患を患っており、子どもは発達障がいを抱え、不登校でコラッジョへ通っていたケースがあった。しかし、生活保護の受給開始を機に、コラッジョへの送迎に利用していた車を手離す必要が生じ、移動手段がなくなり、子どもがコラッジョにも来られなくなった。
- そのため子ども支援員に週2回家庭訪問をしてもらうことになったが、その結果母親が精神科に通院を始めたり、子どもの精神科受診について同意が得られ病院につなぐことができたりと、支援が進展するケースもあった。子ども支援員がいなければここまではいかなかったと感じている。

② **アウトリーチ後の展開**

- 子どもたちや世帯に一定の改善や変化が見られれば、子ども支援員の手を離れてケースワーカーの担当に戻ったり、次の段階につないだりすることになっているが、今現在、子ども支援員が担当している子どもたちは、課題が大きいケースが多いため、全員「要支援」という評価のまま変化がない。
- ずっと子ども支援員が寄り添えるわけではないので、支援をどう引いていくか、次につないでいくかについては今後考えていかなければならない課題となっている。

4. 今後の展望や望ましい支援策

① **子ども支援員の増員について**

- 男性の子ども支援員も必要と考えている。年頃の男子は男性でないと対応が難しいこともある。
- 現在、子ども支援員はケースワーカーも困っているような状況が重いケースを優先して支援しているため、かかる負担が大きく担当世帯数を増やすことは難しい。支援員の数を増やす必要性は感じている。

② **早めから介入し継続的に支援する必要性**

- 一時的な支援ではなく長期的な視点での義務教育段階からの支援が必要。早い内に対応したほうが、解決するまでの期間も短くなると思う。
- 中学生ならば、高校に入るのがゴールではなくて、高校に行きながらアルバイトをしながら社会経験を積んで卒業して社会に出る、社会に貢献していくというところまでを見据えて、進学などによっても関係が切れない継続的な支援が必要と感じている。

③ **将来設計を描くきっかけ作り**

- 親が日々の生活で手一杯というケースが多く見受けられるので、小学校高学年や中学校で、一貫したライフプランを教えてもらえる仕組みがあるとよい。長期的な人生という括りでのプランを、早い段階で持つことができれば、子どもたちの視点が変わり、連鎖を断ち切ることができるのではないかと思う。
- 色々な大人から経験談を聞いて、自分で将来設計を描いていくようなきっかけがあるとよい。

④ **全国規模の事例共有**

- 全国の困難ケースでの具体的な対応法や解決策を共有してもらえる手引書などがあると望ましい。

平成 30 年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金
社会福祉推進事業

生活保護世帯の保護者・子どもの生活状況等の実態や支援のあり方等に関する調査研究事業 報告書

平成 31 年（2019 年）3 月発行

発行・編集：株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部

〒220-8616 神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-1-1 横浜銀行本店ビル 4F

TEL : 045-225-2372

FAX : 045-225-2197

WEB : <http://www.yokohama-ri.co.jp>
